

# 市原市海保地区遺跡群Ⅲ

かい ほ おおつか  
海保大塚遺跡（第2地点）

2018

大成建設株式会社  
国際文化財株式会社



## 例 言

1. 本書は、宅地造成事業に先行して実施した埋蔵文化財発掘調査の調査報告書である。
2. 発掘調査は、大成建設株式会社の委託を受け、千葉県教育委員会・市原市教育委員会の指導のもと、国際文化財株式会社が主体となって以下のとおりに行った。

本 調 査 1,764㎡

調査期間 平成29年1月30日～平成29年5月8日

担 当 大山祐喜

調 査 員 加世田悠仁 北森友梨 新平直彦 安村健

3. 市原市教育委員会の調査コードはP005である。
4. 整理作業は平成29年5月9日～平成30年5月まで、国際文化財株式会社で実施した。担当は大山祐喜である。
5. 本書の執筆分担は以下のとおりである。
  - 第1章 第1節 市原市教育委員会ふるさと文化課
  - 第2節～4節 大山
  - 第2章 第1節～5節 北森（遺構）・大山（遺物）
  - 第3章 大山
6. 本書の編集は大山が行った。
7. 遺構番号は本報告に際し、新規に振りなおした。旧番号との対照は一覧表に示している。
8. 本書に収録した調査記録や出土遺物等は、市原市埋蔵文化財調査センター（市原市能満1489）で収蔵・保管している。

## 凡 例

1. 本書で示す北は座標北である。また、水準は海拔からの高さを示す。
2. 本書で使用した地図は、国土地理院発行の数値地図50,000（地図画像）姉崎（2008年9月1日発行）、同 千葉（2000年9月1日発行）および1：2,500 市原市基本図 F-3、G-3（平成16年度測量）である。
3. 本書掲載の遺構縮尺は、古墳1：150、竪穴建物・溝等1：80、土坑等1：60を原則とした。ただし遺物出土状況等、更に詳細図が必要と判断された遺構については、適宜縮尺を変更して掲載した。遺物は、土器1：4、土器断面図・拓影図・ミニチュア土器1：3、土製品2：3、石器・石製品1：3、金属製品2：3を原則とした。
4. 本地点は第1地点に隣接するため、遺構番号はこれを踏襲した連番を付与した。
5. 第1地点からの延長が確認された遺構の規模は合計値を報告している。
6. 遺構挿図中の「K」は攪乱を表している。
7. 土層断面図および土器器面の色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖 2007年度版』日本色研事業株式会社発行による。
8. 土層注記にある「固結火山灰土塊」は 関東第四紀研究会 2011『関東の四紀』31を参考とした。
9. 遺物の赤彩、遺構の炉や焼土などは下記の表示による。  
遺物  赤彩・磨痕  須恵器断面  
遺構  硬化範囲  炉  焼土  炭化物・炭化材
10. 弥生時代後期から終末期の時期区分は、大村直 2004『市原市山田橋大山台遺跡』（財）市原市文化財センター調査報告書第88集、2009『市原市南中台・荒久遺跡A地点』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第10集により行った。対応する型式名は以下のとおりである。  
弥生時代後期 中葉：山田橋1式 後葉：山田橋2式  
弥生時代終末期 前半：中台1式 後半：中台2式
11. 古墳時代中期および終末期の時期区分は以下の文献を参考とし、遺構出土の一括遺物や遺構の新旧関係を基に、古墳時代中期0～3段階とした。  
田辺昭三 1981『須恵器大成』角川書店  
木對和紀 1992『市原市椎津茶ノ木遺跡』（財）市原市文化財センター調査報告書第49集  
小沢 洋 2008『房総古墳文化の研究』六一書房  
木對和紀 2008『市原市御林跡遺跡Ⅱ』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第5集  
各段階の年代観は以下のとおりである。  
古墳時代中期0段階（4世紀代）  
古墳時代中期1段階（5世紀初頭）  
古墳時代中期2段階（5世紀前葉）  
古墳時代中期3段階（5世紀中葉）

# 目 次

例 言	
凡 例	
目 次	
第1章 序 説	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 遺跡の立地と歴史的環境	1
第3節 調査の方法	5
第4節 基本層序	6
第2章 検出遺構と出土遺物	7
第1節 弥生時代	8
1. 竪穴建物	8
2. 溝	53
3. 土 坑	54
4. 性格不明遺構	59
第2節 古墳時代	61
1. 古 墳	61
2. 竪穴建物	66
3. 土 坑	86
第3節 奈良・平安時代	89
1. 溝	89
第4節 中 世	96
1. 土 坑	96
第5節 時期不明の遺構	97
第6節 遺構外出土遺物	98
第3章 まとめ	101
第1節 弥生時代	101
第2節 古墳時代	103

## 挿図目次

第 1 図	遺跡の位置図	2	第 54 図	SI104	38
第 2 図	周辺の主要遺跡分布図	3	第 55 図	SI104 炉	39
第 3 図	海保地区遺跡群 調査位置図	4	第 56 図	SI104 出土遺物	39
第 4 図	グリッド設定図	6	第 57 図	SI105	40
第 5 図	遺構配置図	7	第 58 図	SI105 出土遺物	40
第 6 図	SI064	8	第 59 図	SI106	41
第 7 図	SI064 炉	9	第 60 図	SI106 炉	42
第 8 図	SI082・SI083	10	第 61 図	SI106 遺物出土状況(1)	42
第 9 図	SI082 炉	10	第 62 図	SI106 遺物出土状況(2)	43
第 10 図	SI083 炉	10	第 63 図	SI106 遺物出土状況(3)	43
第 11 図	SI083 出土遺物	10	第 64 図	SI106 出土遺物	44
第 12 図	SI084・炉	11	第 65 図	SI107	46
第 13 図	SI084 出土遺物	11	第 66 図	SI107 炉	47
第 14 図	SI085・炉	12	第 67 図	SI107 出土遺物	47
第 15 図	SI086・炉	13	第 68 図	SI108	48
第 16 図	SI086 出土遺物	14	第 69 図	SI108 炉	48
第 17 図	SI087	14	第 70 図	SI108SK1	48
第 18 図	SI087 炉	15	第 71 図	SI109	49
第 19 図	SI087 出土遺物	15	第 72 図	SI109 炉 1・2	49
第 20 図	SI088	16	第 73 図	SI110	50
第 21 図	SI088 炉	17	第 74 図	SI110SK1	50
第 22 図	SI088 出土遺物	17	第 75 図	SI111	51
第 23 図	SI089	18	第 76 図	SI111 炉	51
第 24 図	SI089 炉 1～4	19	第 77 図	SI112	52
第 25 図	SI089 出土遺物	19	第 78 図	SI112 炉	52
第 26 図	SI090・炉	20	第 79 図	SD010・SD011	53
第 27 図	SI090 出土遺物	21	第 80 図	SK074～SK077	55
第 28 図	SI091・SK1	22	第 81 図	SK078	56
第 29 図	SI091 出土遺物	22	第 82 図	SK078 出土遺物	56
第 30 図	SI092・炉	23	第 83 図	SK079～SK084	58
第 31 図	SI092 出土遺物	23	第 84 図	SZ001	59
第 32 図	SI093・炉	24	第 85 図	SZ001 出土遺物	59
第 33 図	SI093 出土遺物	25	第 86 図	SZ002	60
第 34 図	SI094	25	第 87 図	SM015(1)	61
第 35 図	SI095	26	第 88 図	SM015(2)	62
第 36 図	SI095 炉	26	第 89 図	SM015SK1	63
第 37 図	SI095 出土遺物	27	第 90 図	SM015 遺物出土状況	64
第 38 図	SI096・炉	28	第 91 図	SM015 出土遺物	65
第 39 図	SI096 出土遺物	28	第 92 図	SI113	66
第 40 図	SI097	29	第 93 図	SI113 炉	67
第 41 図	SI098・炉	30	第 94 図	SI113SK1	67
第 42 図	SI098 出土遺物	30	第 95 図	SI113 出土遺物	67
第 43 図	SI099・炉	31	第 96 図	SI114	68
第 44 図	SI099 出土遺物	31	第 97 図	SI114 炉	69
第 45 図	SI100	32	第 98 図	SI114SK1	70
第 46 図	SI100 炉	33	第 99 図	SI114 出土遺物	71
第 47 図	SI100 出土遺物	33	第 100 図	SI115	72
第 48 図	SI101	34	第 101 図	SI115 出土遺物	72
第 49 図	SI101 出土遺物	34	第 102 図	SI116	73
第 50 図	SI102	35	第 103 図	SI116 出土遺物	73
第 51 図	SI103	36	第 104 図	SI117・炉・SK1	74
第 52 図	SI103 遺物出土状況	36	第 105 図	SI117 遺物出土状況	75
第 53 図	SI103 出土遺物	37	第 106 図	SI117 出土遺物	75

第107図	SI118	76	第129図	SD009b	91
第108図	SI119	77	第130図	SD009c	92
第109図	SI119出土遺物	77	第131図	SD012	93
第110図	SI120a・SK1	78	第132図	SD013	94
第111図	SI120a出土遺物	78	第133図	SD013出土遺物	95
第112図	SI120b	79	第134図	SK091	96
第113図	SI120b出土遺物	79	第135図	遺構外出土遺物(1)	98
第114図	SI121	80	第136図	遺構外出土遺物(2)	99
第115図	SI121出土遺物	80	第137図	時期別遺構分布図(弥生時代)	102
第116図	SI122・SK1	81	第138図	海保地区遺跡群 中期の土器変遷図(甕)	105
第117図	SI122出土遺物	81	第139図	海保地区遺跡群 中期の土器変遷図 (壺・広口壺・甗)	106
第118図	SI123	82	第140図	海保地区遺跡群 中期の土器変遷図(広口壺)	107
第119図	SI123SK1	83	第141図	海保地区遺跡群 中期の土器変遷図(鉢・埴)	108
第120図	SI123出土遺物	83	第142図	海保地区遺跡群 中期の土器変遷図(高坏)	109
第121図	SI124	84	第143図	海保地区遺跡群 中期の土器変遷図 (坏・平底鉢・その他)	110
第122図	SI125・SI126	85	第144図	海保地区遺跡群 中期の土器変遷図(須恵器)	111
第123図	SI125炉	85	第145図	時期別遺構分布図(古墳時代中期0段階)	116
第124図	SI125出土遺物	85	第146図	時期別遺構分布図(古墳時代中期1段階)	117
第125図	SK085	86	第147図	時期別遺構分布図(古墳時代中期2段階)	118
第126図	SK085出土遺物	86	第148図	時期別遺構分布図(古墳時代中期3段階)	119
第127図	SK086～SK090	88			
第128図	SD009a・出土遺物	90			

## 挿表目次

第1表	SI083出土土器観察表	10	第28表	SI107出土土器観察表	47
第2表	SI084出土土器観察表	11	第29表	SK078出土土器観察表	56
第3表	SI086出土石製品観察表	14	第30表	SZ001出土土器観察表	59
第4表	SI087出土土器観察表	15	第31表	SM015出土土器観察表	65
第5表	SI088出土土器観察表	17	第32表	SM015出土土製品観察表	65
第6表	SI088出土土製品観察表	17	第33表	SI113出土土器観察表	67
第7表	SI088出土石製品観察表	17	第34表	SI114出土土器観察表	71
第8表	SI089出土土器観察表	19	第35表	SI114出土石製品観察表	71
第9表	SI090出土土器観察表	21	第36表	SI114出土金属製品観察表	71
第10表	SI090出土土製品観察表	21	第37表	SI115出土石製品観察表	72
第11表	SI091出土土器観察表	22	第38表	SI116出土土器観察表	73
第12表	SI092出土土器観察表	24	第39表	SI117出土土器観察表	75
第13表	SI093出土土器観察表	25	第40表	SI119出土土製品観察表	77
第14表	SI093出土土製品観察表	25	第41表	SI120a出土土器観察表	78
第15表	SI095出土土器観察表	27	第42表	SI120b出土土製品観察表	79
第16表	SI095出土土製品観察表	27	第43表	SI121出土石製品観察表	80
第17表	SI096出土土器観察表	29	第44表	SI122出土土器観察表	82
第18表	SI098出土土器観察表	30	第45表	SI123出土土器観察表	83
第19表	SI099出土土器観察表	31	第46表	SI125出土土器観察表	85
第20表	SI100出土土器観察表	33	第47表	SK085出土石製品観察表	86
第21表	SI100出土土製品観察表	33	第48表	SD009a出土土器観察表	91
第22表	SI101出土土器観察表	34	第49表	SD013出土石製品観察表	95
第23表	SI103出土土器観察表	37	第50表	ピット計測表	97
第24表	SI104出土土器観察表	39	第51表	遺構外出土土器観察表	100
第25表	SI104出土石製品観察表	39	第52表	遺構外出土石製品観察表	100
第26表	SI105出土土器観察表	40	第53表	遺構外出土金属製品観察表	100
第27表	SI106出土土器観察表	45	第54表	海保地区遺跡群 古墳一覧表	113

海保大塚遺跡第2地点 遺構名対照表

掲載番号	遺構種別	調査時番号
SM015	古墳	SM014
SI064	竪穴建物	SI007
SI082	竪穴建物	SI023
SI083	竪穴建物	SI015
SI084	竪穴建物	SI046
SI085	竪穴建物	SI045
SI086	竪穴建物	SI043
SI087	竪穴建物	SI086
SI088	竪穴建物	SI096
SI089	竪穴建物	SI091
SI090	竪穴建物	SI088
SI091	竪穴建物	SI089
SI092	竪穴建物	SI087
SI093	竪穴建物	SI097
SI094	竪穴建物	SI083
SI095	竪穴建物	SI084
SI096	竪穴建物	SI092
SI097	竪穴建物	SI090
SI098	竪穴建物	SI093
SI099	竪穴建物	SI098
SI100	竪穴建物	SI101
SI101	竪穴建物	SI085
SI102	竪穴建物	SI094
SI103	竪穴建物	SI112
SI104	竪穴建物	SI104
SI105	竪穴建物	SI106b
SI106	竪穴建物	SI107
SI107	竪穴建物	SI122
SI108	竪穴建物	SI121
SI109	竪穴建物	SI108
SI110	竪穴建物	SI115
SI111	竪穴建物	SI123
SI112	竪穴建物	SI118
SI113	竪穴建物	SI100
SI114	竪穴建物	SI105
SI115	竪穴建物	SI111
SI116	竪穴建物	SI106a
SI117	竪穴建物	SI102
SI118	竪穴建物	SI124

掲載番号	遺構種別	調査時番号
SI119	竪穴建物	SI110
SI120a	竪穴建物	SI116a
SI120b	竪穴建物	SI116b
SI121	竪穴建物	SI113
SI122	竪穴建物	SI114
SI123	竪穴建物	SI109
SI124	竪穴建物	SI117
SI125	竪穴建物	SI119
SI126	竪穴建物	SI120
SD009a	溝	SD001a
SD009b	溝	SD001b
SD009c	溝	SD001c
SD010	溝	SD012
SD011	溝	SD011
SD012	溝	SD009
SD013	溝	SD010
SK074	土坑	SK077
SK075	土坑	SK076
SK076	土坑	SK078
SK077	土坑	SK074
SK078	土坑	SK079
SK079	土坑	SK073
SK080	土坑	SK075
SK081	土坑	SK080
SK082	土坑	SK081
SK083	土坑	SK083
SK084	土坑	SK082
SK085	土坑	SZ010
SK086	土坑	SK087
SK087	土坑	SK088
SK088	土坑	SK084
SK089	土坑	SK085
SK090	土坑	SK086
SK091	土坑	SK089
SZ001	性格不明遺構	SZ009
SZ002	性格不明遺構	SI099
-	遺構とせず	SZ011
-	遺構とせず	SI103
-	遺構とせず	SI095

# 第1章 序 説

## 第1節 調査に至る経緯

大成建設株式会社は、市原市海保字小谷作1545-1他で宅地造成を計画した。計画の策定にあたり、平成9年3月10日付けで、千葉県教育委員会教育長宛に「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会を提出した。照会を受け、千葉県教育庁文化財課、市原市教育委員会ふるさと文化課は、現地踏査、試掘を行い、その結果に基づき、千葉県教育委員会教育長は、平成9年11月28日付けで、照会地内に「縄文時代等遺物包蔵地7箇所、古墳時代等遺物包蔵地1箇所、古墳群8箇所、近世塚1箇所」が所在する旨を回答した。

平成18年度になって大成建設株式会社による事業計画が本格化し、大成建設株式会社、千葉県教育庁文化財課、市原市教育委員会ふるさと文化課の三者による協議の結果、事業計画地の遺跡は現状保存が困難であることから、確認調査を行い、その結果について記録保存の措置を講ずることとなった。確認調査は平成19年度から平成30年度の間に市原市教育委員会が行い、本調査は海保西竹谷遺跡、海保大塚遺跡、海保小谷作遺跡を国際文化財株式会社が行い、『市原市海保地区遺跡群Ⅰ』として報告書を刊行し、海保広作遺跡は市原市教育委員会が本調査を行い、『市原市海保地区遺跡群Ⅱ』として報告書を刊行している。

大成建設株式会社は、事業地の変更に伴い、平成28年6月21日付けで、文化財保護法第93条に基づく「埋蔵文化財発掘の届出」を届け出た。大成建設株式会社、千葉県教育庁文化財課、市原市教育委員会ふるさと文化課の三者による協議の結果、事業計画地の遺跡は現状保存が困難であることから、確認調査を行い、その結果について記録保存の措置を講ずることとなった。海保大塚遺跡第2地点の確認調査は、平成28年10月5日から平成28年10月31日までの間に、市原市教育委員会が行った。本調査は大成建設株式会社の申し出に基づく大成建設株式会社、千葉県教育庁文化財課、市原市教育委員会の三者による協議の結果、国際文化財株式会社が実施することとなり、整理・報告書刊行も、国際文化財株式会社が行った。

## 第2節 遺跡の立地と歴史的環境

海保大塚遺跡(1)は海保小谷作遺跡(2)、海保西竹谷遺跡(3)とともに海保地区遺跡群を構成し、千葉県市原市海保に所在する。「海保」とは古代の上総国海上郡が中世に海北郡、佐是郡に分割されたうちの海北郡の遺称地名とも言われている。古代の海上郡は房総半島南部の清澄山系を源流として市原市域から東京湾に流れる養老川の左岸に位置する。養老川流域は『先代旧事本紀』に記された上海上国造の領域と言われており、複数の大型前方後円墳を有する姉崎古墳群や式内社「姉崎神社」が所在する。対岸は市原郡で上総国府、僧寺・尼寺があり古代上総国の中心域であった。

本遺跡は養老川と同じ清澄山系を源流として木更津市域から東京湾へ流れる小櫃川に挟まれた袖ヶ浦台地の北端に位置する。周辺の台地は養老川左岸の平野から侵刻された支谷や、南は椎津川の支流である片又木川により東西方向に開析された支谷が樹枝状に入り込む。本遺跡は標高38～46m程の

尾根上にあり、北面する沖積平野との比高差は約30mである。

今回の調査では弥生時代後期～終末期の竪穴建物や古墳時代中期の円墳などが確認された。以下では、本報告の中心となる弥生時代後期～終末期における周辺地域の歴史的環境を概観したい。

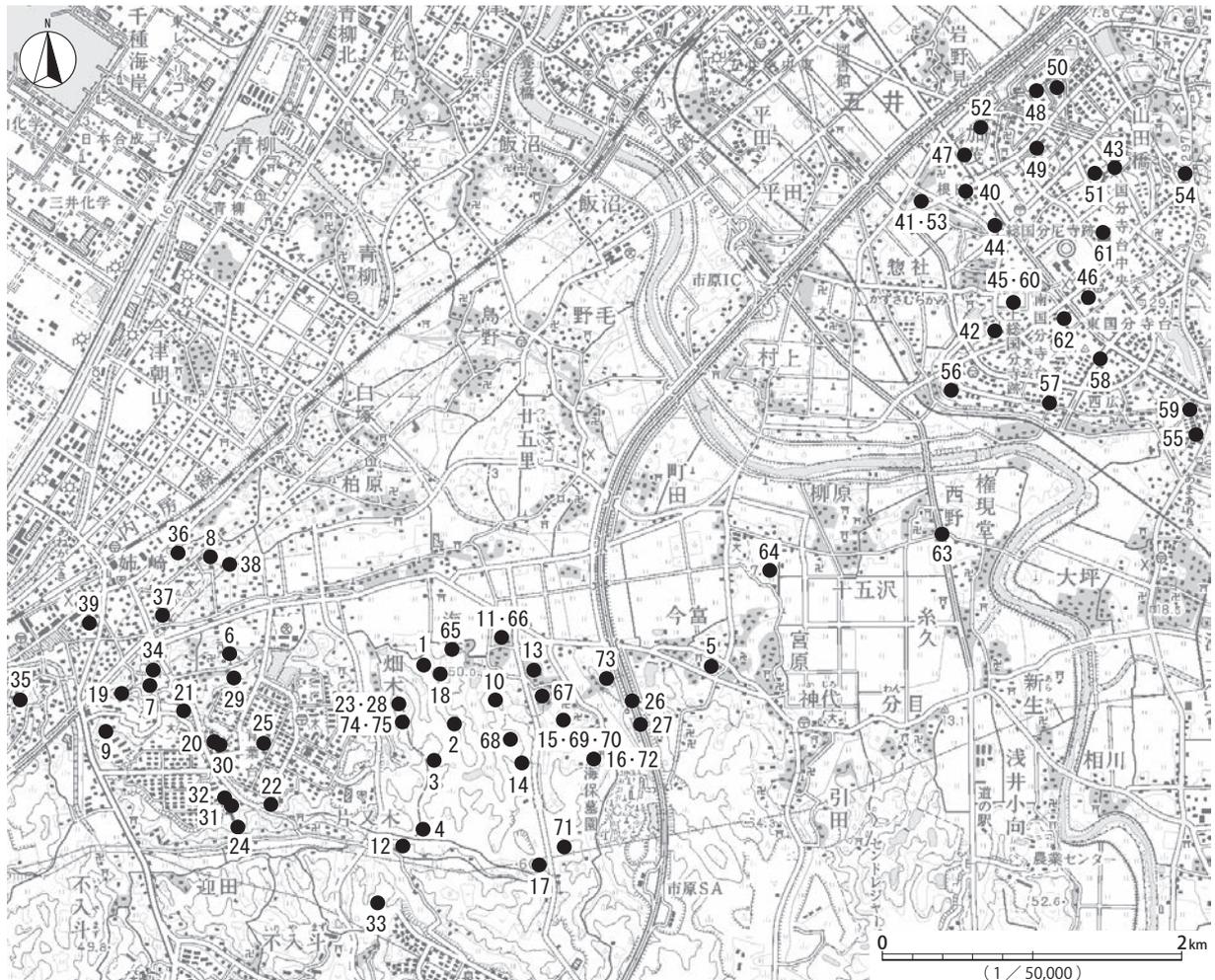
海保地区遺跡群のうち海保大塚遺跡(1)ではこれまでに第1～第3までの3地点が調査されている。第1地点では縄文時代早期の炉穴などのほか、弥生時代後期から終末期の竪穴建物85棟が検出されている。第2地点が本報告である。第3地点は重要遺跡確認調査としてトレンチ調査が実施され、弥生時代後期の竪穴建物6棟が検出され、この他に近世に塚へと改変された古墳2基が調査されている。本遺跡に南接する海保小谷作遺跡(2)は南北方向に伸びる痩せ尾根の平坦面から斜面にかけて展開する集落であり、弥生時代後期～終末期の竪穴建物78棟、溝1条が検出されている。南西約300mの支谷を隔てた台地上には畑木小谷遺跡(28)があり、弥生時代後期～古墳時代前期初頭の竪穴建物17棟が検出されている。古墳時代後期になると畑木向古墳群の墓域となる。



第1図 遺跡の位置図

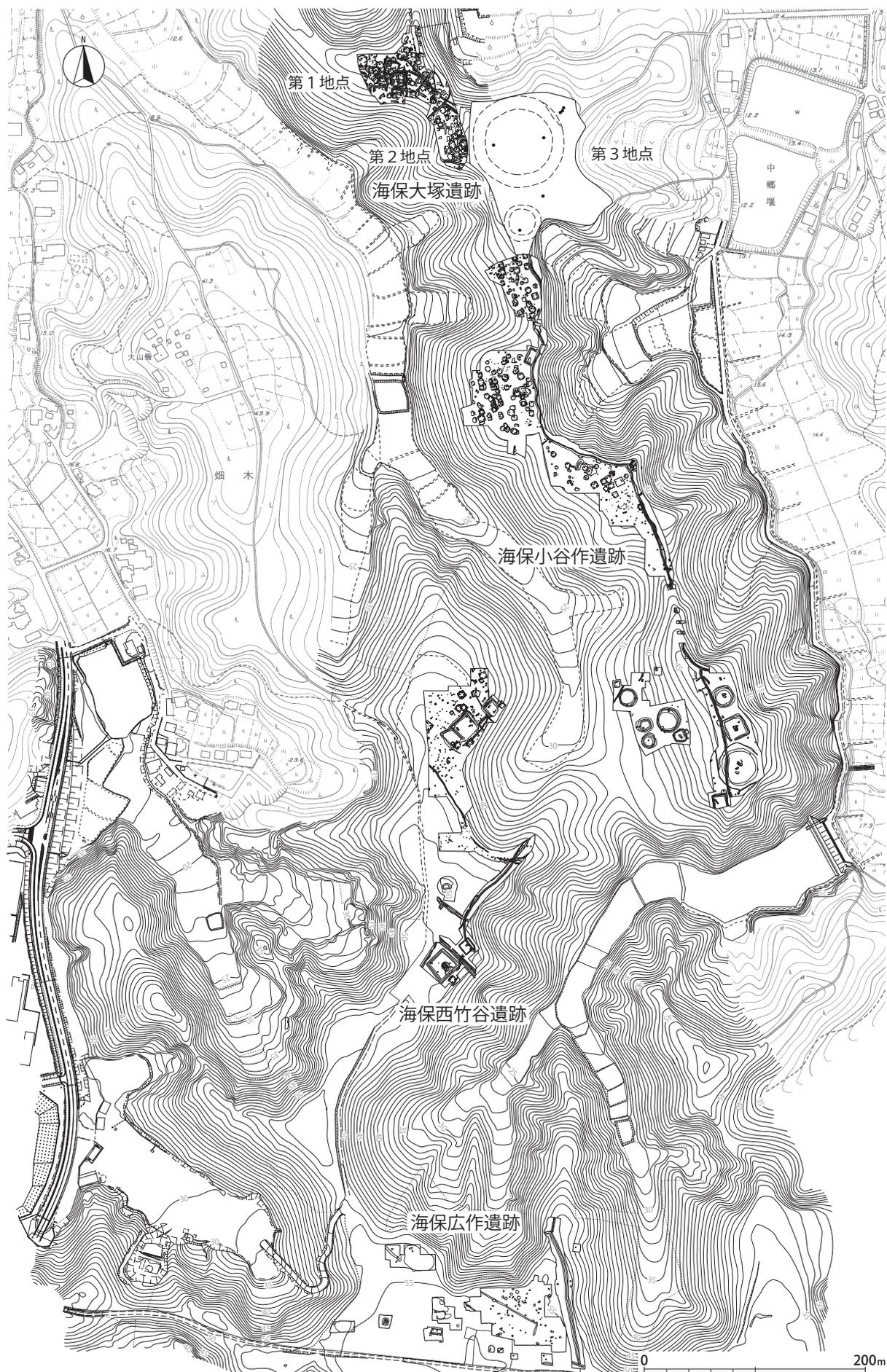
今富新山遺跡(27)では弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴建物38棟が検出されている。姉崎東原遺跡(29)は弥生時代中期、宮ノ台式期以降から遺物がまとまって見られるようになることからこの時期から集落の形成が始まったと考えられる。B地点では弥生時代中期～後期にかけての竪穴建物24棟が検出されている。

原遺跡(30)では弥生時代後期の竪穴建物22棟が検出されている。六孫王原遺跡(31)は北西に毛尻遺跡(32)が隣接し南は片又木川に面する。毛尻遺跡と合わせて弥生時代中期末～古墳時代前期を中心とする竪穴建物120棟が検出されている。また墓域も確認され、集落の南に広がる20基の方形



- 1.海保大塚遺跡 2.海保小谷作遺跡 3.海保西竹谷遺跡 4.海保広作遺跡 5.今富塚山古墳 6.姉崎天神山古墳
- 7.釈迦山古墳 8.姉崎二子塚古墳 9.富士見塚古墳 10.海保吉谷前古墳群 11.内出古墳 12.海保広作古墳
- 13.小路前遺跡 14.海保山王古墳群 15.公家台古墳群 16.海保八幡台古墳群 17.祢宜台古墳群 18.海保供養塚群(海保大塚)
- 19.姉崎山王山古墳 20.原1号墳 21.鶴窪古墳 22.堰頭古墳 23.畑木向古墳群 24.六孫王原古墳 25.徳部台古墳
- 26.今富遺跡 27.今富新山遺跡 28.畑木小谷遺跡 29.姉崎東原遺跡 30.原遺跡 31.六孫王原遺跡 32.毛尻遺跡
- 33.片又木遺跡 34.姉崎宮山遺跡 35.椎津茶ノ木遺跡 36.姉崎上野合遺跡 37.藁塚遺跡 38.山新遺跡 39.姉崎妙経寺遺跡
- 40.台遺跡 41.根田代遺跡 42.加茂遺跡 43.坊作遺跡 44.長平台遺跡 45.中台遺跡 46.南中台遺跡 47.御林跡遺跡
- 48.向原台遺跡 49.神門古墳群 50.向原台古墳群 51.南向原台古墳群 52.西谷古墳群 53.根田古墳群 54.稲荷台古墳群
- 55.山倉古墳群 56.諏訪台古墳群 57.東間部多古墳群 58.持塚古墳群 59.東古墳群 60.上総国分僧寺跡 61.上総国分尼寺跡
- 62.荒久遺跡 63.西野遺跡 64.今富廃寺 65.船子遺跡 66.北古谷遺跡 67.辺田小路遺跡 68.海保山王下遺跡
- 69.公家台遺跡 70.海保城跡 71.祢宜台遺跡 72.海保八幡台遺跡 73.今富遺跡群 74.小明供養塚 75.畑木三山塚

第2図 周辺の主要遺跡分布図



第3図 海保地区遺跡群 調査位置図

(1/5,000)

周溝墓が検出されている。片又木遺跡(33)は弥生時代後期～終末期の竪穴建物17棟が検出されている。姉崎宮山遺跡(34)は姉崎神社本殿下にあたり、竪穴建物13棟のうち弥生時代後期のものが2棟ある。椎津茶ノ木遺跡(35)は椎津川の左岸、西に東京湾を臨む台地上に位置する。検出された竪穴建物193棟のうち、弥生時代後期のものが10棟ある。

以上は養老川左岸の様相であるが、右岸を特徴付ける遺跡として国分寺台遺跡群がある。380ヘクタールにおよぶ土地区画整理事業に伴い、昭和47年～昭和63年に縄文時代から古代・中世までの43遺跡、537,270㎡の発掘調査が行われた。著名な遺跡では出現期の古墳である神門古墳群(49)、「王賜」銘鉄剣出土の稲荷台1号墳(54)、上総国分僧寺・尼寺跡(60・61)などがある。

弥生時代では中期後半(宮ノ台式期)に台遺跡(40)、根田代遺跡(41)など、東京湾岸平野部に面する台地縁辺で環濠集落が成立する。後期、特に後半以降は遺跡数も増加し、加茂遺跡(42)、坊作遺跡(43)、長平台遺跡(44)などに集落が展開する。

終末期になると中台遺跡(45)、南中台遺跡(46)、長平台遺跡などで外来系土器の集中が見られ、遠距離交流の拠点地域となっている。特に中台遺跡では弥生時代後期中葉～古墳時代前期の竪穴建物350棟が検出されており、中核集落として神門古墳群の成立基盤となる。御林跡遺跡(47)は弥生時代中期末葉～古墳時代中期後半まで継続する集落である。

### 第3節 調査の方法

発掘調査は『千葉県埋蔵文化財発掘調査基準－1－発掘調査標準』に基づき行った。また、市原市教育委員会ふるさと文化課により、遺構検出時および完掘時に検査を受け、調査の過程においても適宜指導、助言を受けた。具体的な調査手順は以下のとおりである。

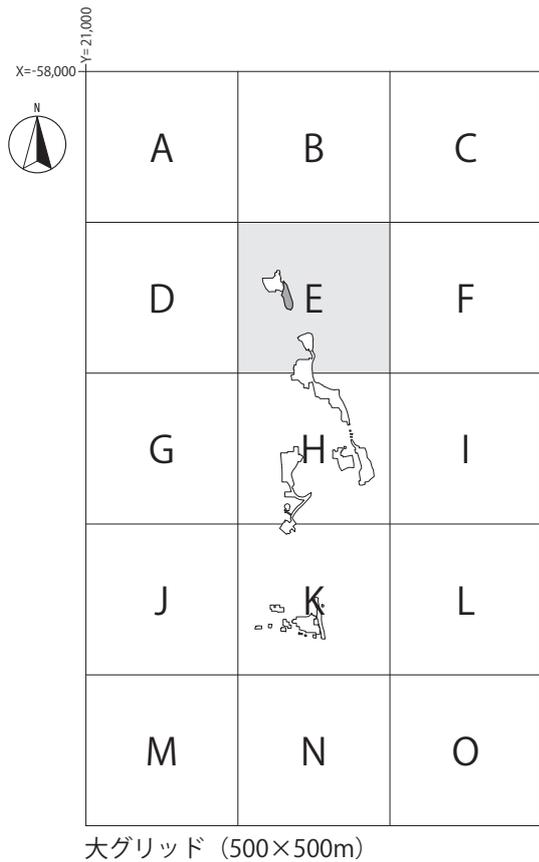
表土除去は各遺跡における確認調査の結果に基づき、重機により行った。遺構の確認作業は全て人力で行い、遺構番号は古墳や竪穴建物などの遺構種別毎に、第1地点(平成24年度調査)から引き継いだ通し番号で、調査にとりかかった段階で随時付していった。

グリッドは海保広作遺跡の調査で設定したものを踏襲し、日本測地系「平面直角座標系第IX系」に基づき、500mメッシュの大グリッド(X=-58,000、Y=21,000を北西隅とする一角をA区とし、東へB区、C区…)、20mメッシュの中グリッド(大グリッド北西隅を1Aとし、X軸は北から南にA～Y、Y軸は西から東に1～25)、2mメッシュの小グリッド(中グリッド北西隅を原点00とし東へ01、02、03…)とした(第4図)。本文および挿図中のグリッド表記は「E区9M-54」等である。なお、遺構配置図の括弧内の数値は、世界測地系の座標値を示す。

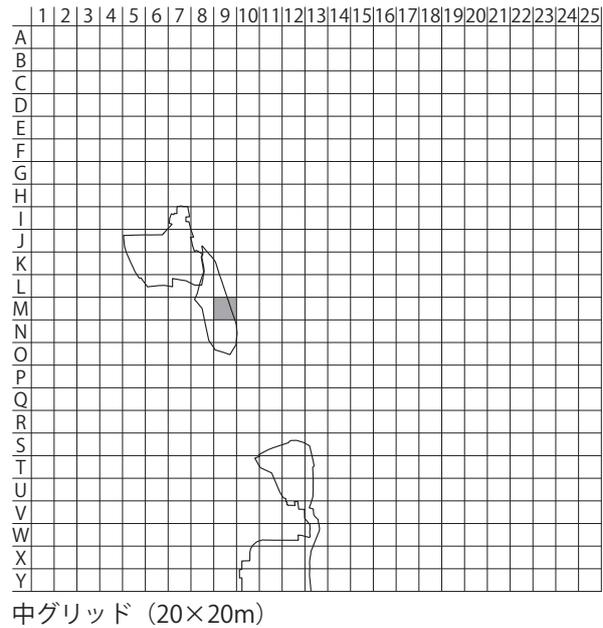
遺構の調査は、基本的に各遺構とも平面プランの確認後、土層や重複の確認のため十文字、一文字のベルト、もしくは半裁により土層観察を行い、写真撮影、断面図作成後に取り除いた。

遺構平面図はトータルステーションを使用して計測し、遺物出土状況図や断面図は手実測による図化を行った。

記録写真はデジタルカメラおよび中型カメラ2台(モノクロ・リバーサル用)を用いて撮影した。なお、本報告に際し整理作業時に遺構番号の付け替えを行っている。遺物の注記や図面の遺構名などは旧番号のままであり、その対照表を本文末尾に示しておく。



■ E区9M-54グリッド



00	01	02	03	04	05	06	07	08	09
10	11								
20		22							
30			33						
40				44					
50					55				
60						66			
70							77		
80								88	
90									99

小グリッド (2×2m)

第4図 グリッド設定図

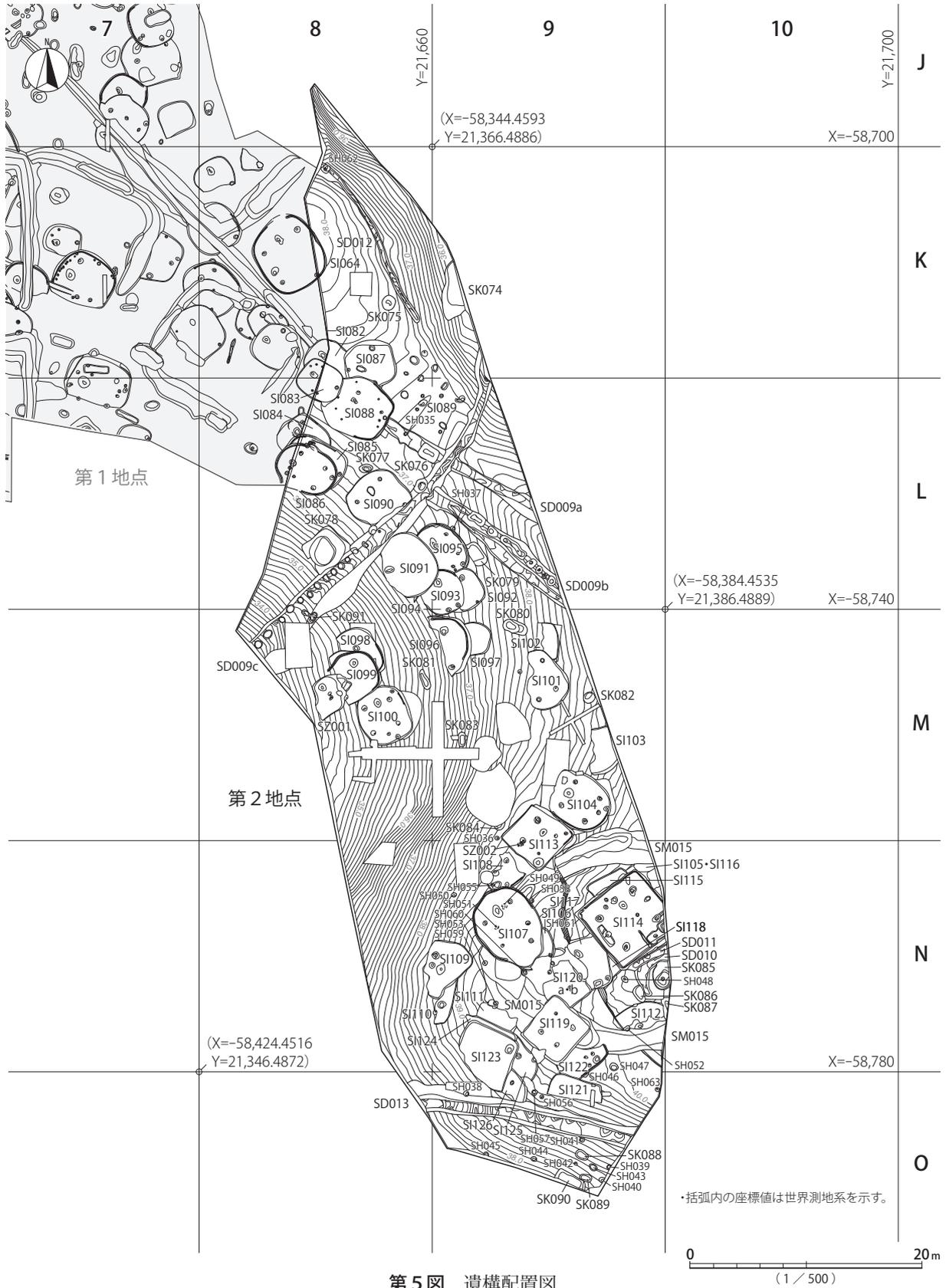
## 第4節 基本層序

表土層上面からⅢ層（遺構確認面、黄褐色ソフトローム層）上面までの深度は地点によって異なり、約0.1mから0.8mである。

I層（灰褐色土層）は現表土、耕作土および森林土壌である。本文および挿図では「表土」と表記している。Ⅱ層は縄文時代以降の堆積層と考えられ、混入物の差異からⅡa～Ⅱg層に大別される。このうちⅡf層（黒褐色土層）は上面に古墳の盛土が積み上げられていることから古墳時代の旧地表面と考えられる。その下位のⅡg層（暗褐色土）はローム漸移層である。Ⅲ層は黄褐色ソフトローム層、Ⅳ層は赤褐色ハードローム層となり、以下、武蔵野台地の標準土層と同様である。

今回の調査における遺構確認面はⅢ層としたが、斜面などソフトローム層の流失している箇所ではⅣ層での遺構確認となった。

## 第2章 検出遺構と出土遺物



第5図 遺構配置図

# 第1節 弥生時代

## 1. 竪穴建物

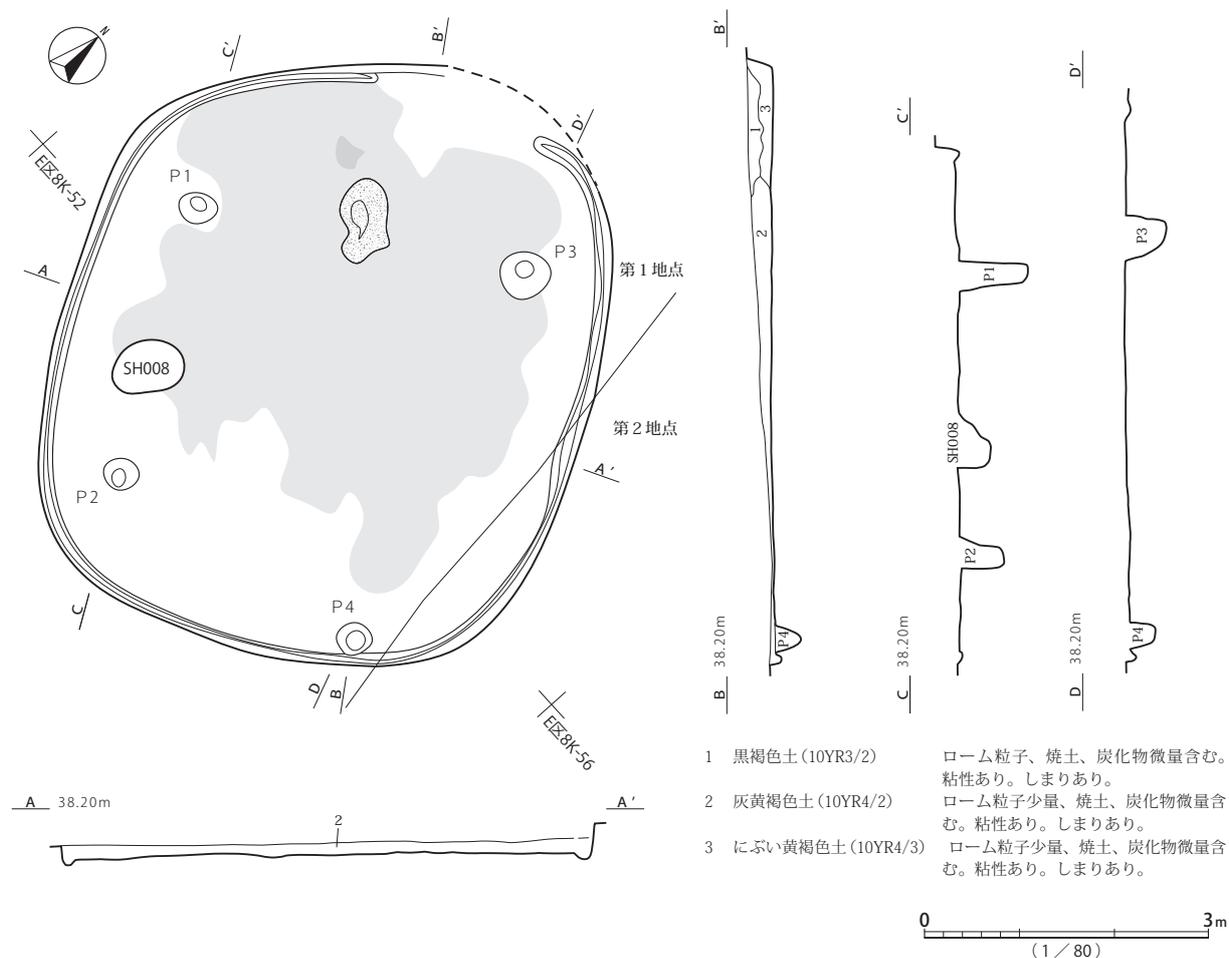
SI064 (第6・7図、図版1)

**位置：**E区8K-43グリッドを中心とする台地の東向き緩斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。西側は第1地点と接続する。**規模：**主軸6.48m、副軸5.76m、確認面からの深度0.32m。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**N-48°-W。**覆土：**3層に分けられ、灰黄褐色土が主体である。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。長軸0.90m、短軸0.50mで浅く窪む。**施設：**ピット4基が検出された。主柱穴はP1～3で、柱間は主軸方向3.12m、副軸方向3.60m。P4は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入口施設に伴うと考えられる。周溝は北西壁で一部途切れるが、ほぼ全周する。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、炉の周辺から南東側にかけて広く硬化している。

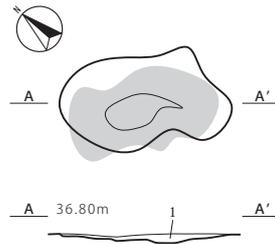
**時期：**出土遺物から弥生時代後期中葉～後葉と考えられる。

**所見：**炉、主柱穴、周溝が検出された。前回調査から4基の主柱穴を想定していたが、今回の調査では残りの1基は検出されなかった。

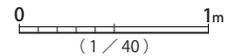
**遺物：**土器49.4g、縄文土器7.3gが出土したが、小破片のため図示していない。



第6図 SI064



1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒子中量、焼土少量含む。  
粘性あり。しまりあり。



第7図 SI064 炉

### SI082 (第8・9図、図版1)

**位置：**E区8K-95グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI083・SD009aに切られ、SI087と切り合うが新旧関係は不明である。西側は第1地点と接続する。**規模：**主軸(4.00)m、副軸(3.26)m、確認面からの深度0.38m。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**N-30°-E。**覆土：**3層に分けられる。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。長軸0.80m、短軸0.48mで浅く窪む。**施設：**ピット1基が検出された。P1は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。周溝は検出されなかった。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、残存部分の全面が硬化している。

**時期：**重複および出土遺物から、弥生時代後期前葉以前と考えられる。

**所見：**炉が検出されたが、支柱穴、周溝は検出されなかった。

**遺物：**土器1339.9gが出土したが、小破片のため図示していない。

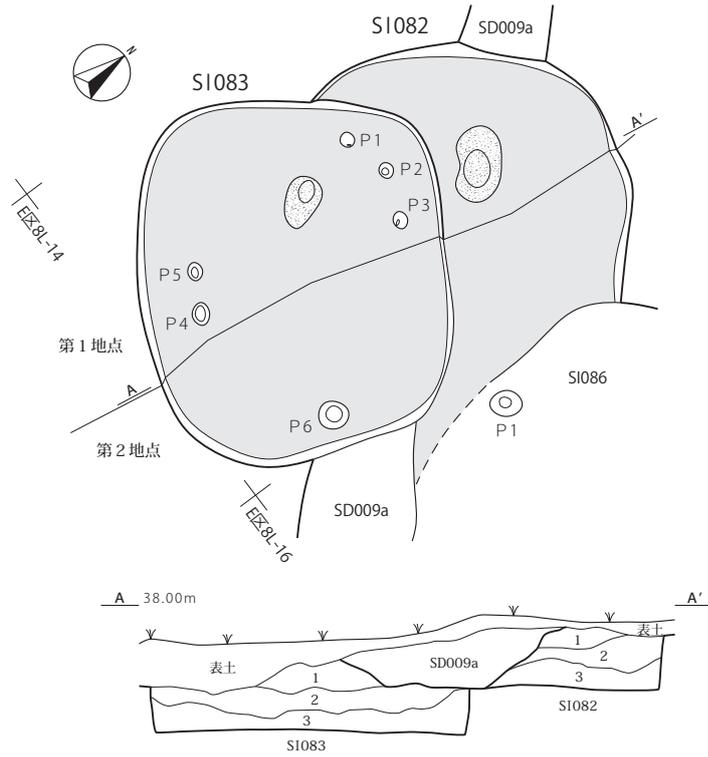
### SI083 (第8・10・11図、第1表、図版1・17)

**位置：**E区8L-05グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI082を切る。西側は第1地点と接続する。**規模：**主軸3.92m、副軸3.26m、確認面からの深度0.54m。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**N-29°-E。**覆土：**3層に分けられる。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。長軸0.52m、短軸0.40mで浅く窪む。**施設：**ピット6基が検出された。P1～P5は壁から0.40～0.60m離れて配置されているが、規則性はみられない。P6は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。P6は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。周溝は検出されなかった。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、全面が硬化している。

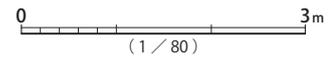
**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期前葉と考えられる。

**所見：**炉が検出されたが、支柱穴、周溝は検出されなかった。覆土はレンズ状に堆積し、自然埋没した状況を示す。

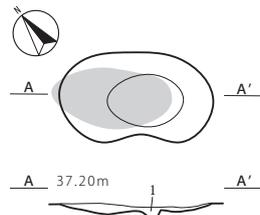
**遺物：**土器64.1gが出土した。1は壺、2は高坏である。2は坏部と脚部の接合部に突帯が巡る。



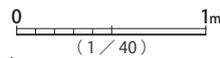
- SI082**
- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
  - 2 灰黄褐色土(10YR4/2) ローム粒子少量含む。粘性あり。しまりあり。
  - 3 褐灰色土(10YR4/1) ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。
- SI083**
- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
  - 2 黒褐色土(7.5YR3/1) ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。
  - 3 灰褐色土(7.5YR4/2) ローム粒子、焼土微量含む。粘性あり。しまりあり。



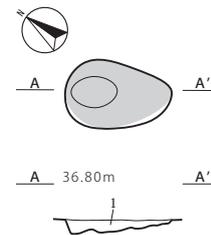
第8図 SI082・SI083



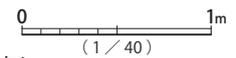
- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土、炭化物微量含む。粘性あり。しまり強い。



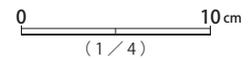
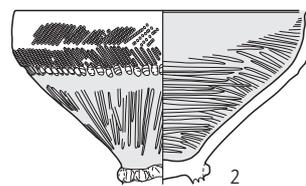
第9図 SI082 炉



- 1 暗褐色土(10YR3/4) 焼土少量、ローム粒子微量含む。粘性あり。しまりあり。



第10図 SI083 炉



第11図 SI083 出土遺物

第1表 SI083 出土土器観察表

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器壺	床面	口径：- 底径：7.8 器高：[3.8] 最大径：(16.0)	外面：胴部下半～底部ヘラケズリ 内面：胴部下半～底部ヘラナデ	胎土：黒雲母・石英・黒色粒・白色粒 焼成：良好 色調：橙 残存度：胴部下半～底部	
2	弥生土器高坏	床面	口径：(15.5) 脚径：- 器高：[9.2] 最大径：(15.9)	外面：口縁部単節縄文(LR・RL)、ヘラキザミ、体部ナデ後ヘラミガキ縦位、赤彩、接合部ナデ・突帯貼付 内面：口縁部ナデ、赤彩、体部ヘラミガキ横位、赤彩、接合部ナデ	胎土：金雲母・黒雲母・石英・黒色粒・赤色粒 焼成：良好 色調：橙 残存度：口縁部～接合部3/4	

単位：cm

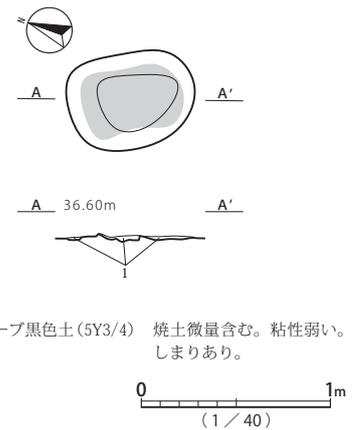
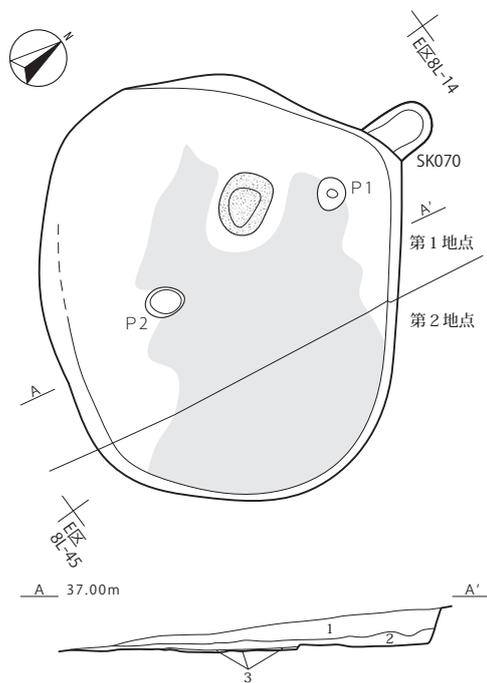
SI084 (第12・13図、第2表、図版1・17)

**位置：**E区8L-24グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI085・SI086を切り、SK049・SK050に切られる。西側は第1地点と接続する。**規模：**主軸4.50m、副軸3.78m、確認面からの深度0.38m。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**N-54°-W。**覆土：**3層に分けられ、にぶい黄褐色土が主体である。**炉：**竪穴中央やや北西寄りに位置する。長軸0.68m、短軸0.48mで浅く窪む。**施設：**ピット2基が検出された。周溝は検出されなかった。床面は掘り方を持たずソフトローム層とSI101覆土を直接使用しており、炉の両脇から南東壁際にかけて硬化している。

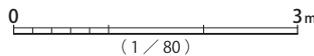
**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期と考えられる。

**所見：**炉が検出されたが、支柱穴、周溝は検出されなかった。

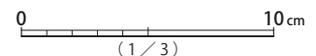
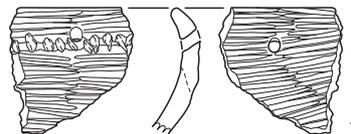
**遺物：**土器18.9gが出土した。1は埴で、内外面にミガキが施され、口縁部には穿孔がある。



- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒子、焼土少量含む。粘性弱い。しまりあり。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒子中量含む。粘性弱い。しまりあり。
- 3 褐色土(10YR4/4) 粘性あり。しまり強い。硬化面。



第12図 SI084・炉



第13図 SI084出土遺物

第2表 SI084出土土器観察表

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 埴	覆土	口径： - 底径： - 器高： [5.0] 最大径： -	特徴：口縁部1箇所穿孔 外面：口唇部ヘラミガキ横位、口縁部ヘラミガキ後キザミ、ヘラミガキ 内面：口縁部ヘラミガキ横位	胎土：黒色粒・赤色粒 焼成：良好 色調：橙 残存度：口縁部の破片	

単位：cm

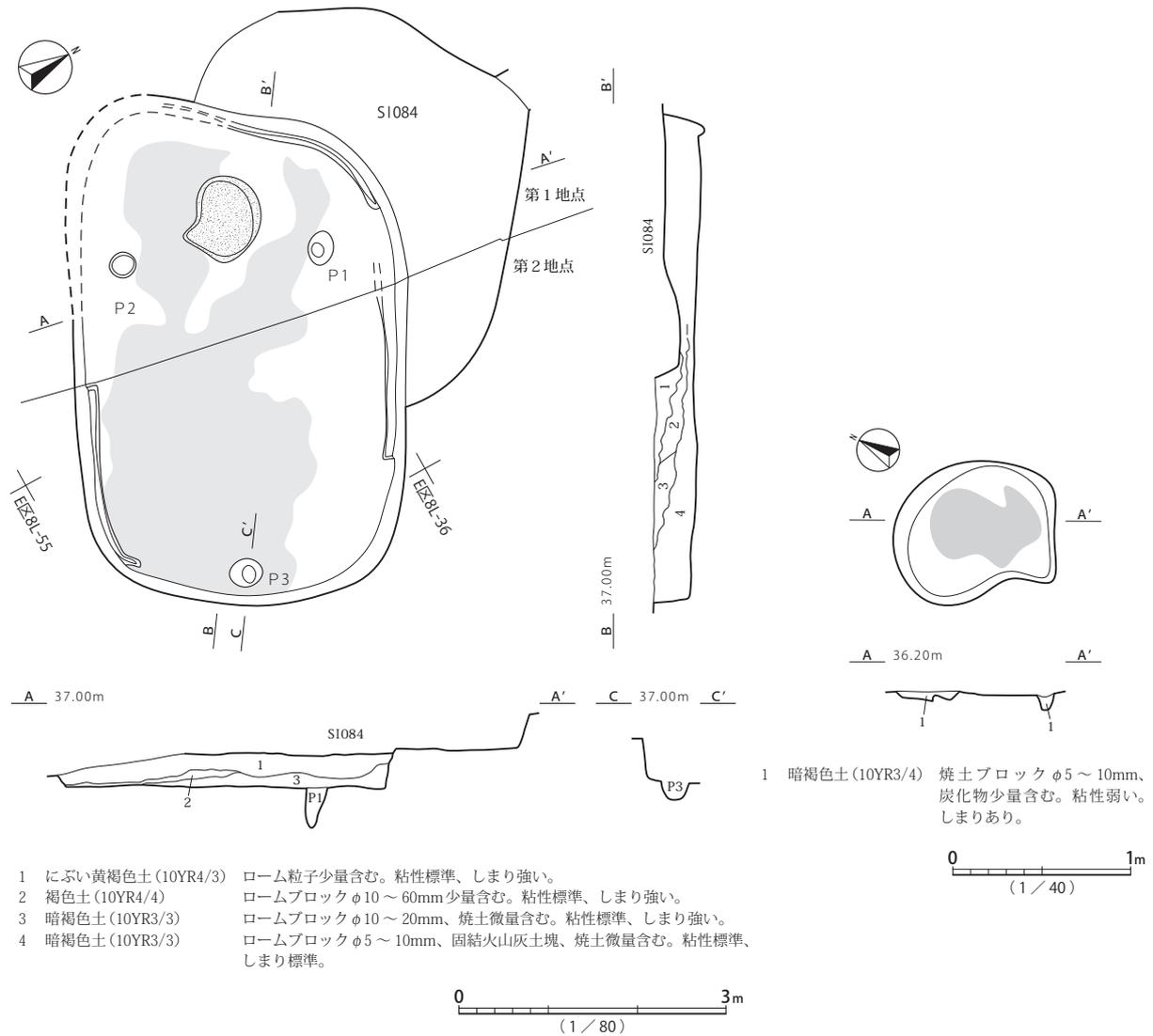
SI085 (第14図、図版1)

**位置：**E区8L-34グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI086・SK063を切り、SI084に切られる。西側は第1地点と接続する。**規模：**主軸5.76m、副軸3.72m、確認面からの深度0.62m。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**N -61°-W。**覆土：**4層に分けられ、暗褐色土が主体である。**炉：**竪穴西寄りに位置する。長軸0.88m、短軸0.80mで浅く窪む。**施設：**ピット3基が検出された。P1・P2は支柱穴の可能性があるが、P2の深度は0.12mと非常に浅いことから断定はできない。P3は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入口施設に伴うと考えられる。周溝は北西・北東・南壁にかけて断続的に検出された。床面は掘り方を持たずソフトローム層とSI086覆土を直接使用しており、炉の両脇から南東壁際にかけてU字状に硬化している。

**時期：**SI084との重複から、弥生時代終末期以前と考えられる。

**所見：**炉、周溝が検出された。覆土は尾根方向から斜堆積し、自然埋没した状況を示す。

**遺物：**土器560.3g、石器・石製品2.8g、縄文土器117.5gが出土したが、小破片のため図示しなかった。



第14図 SI085・炉

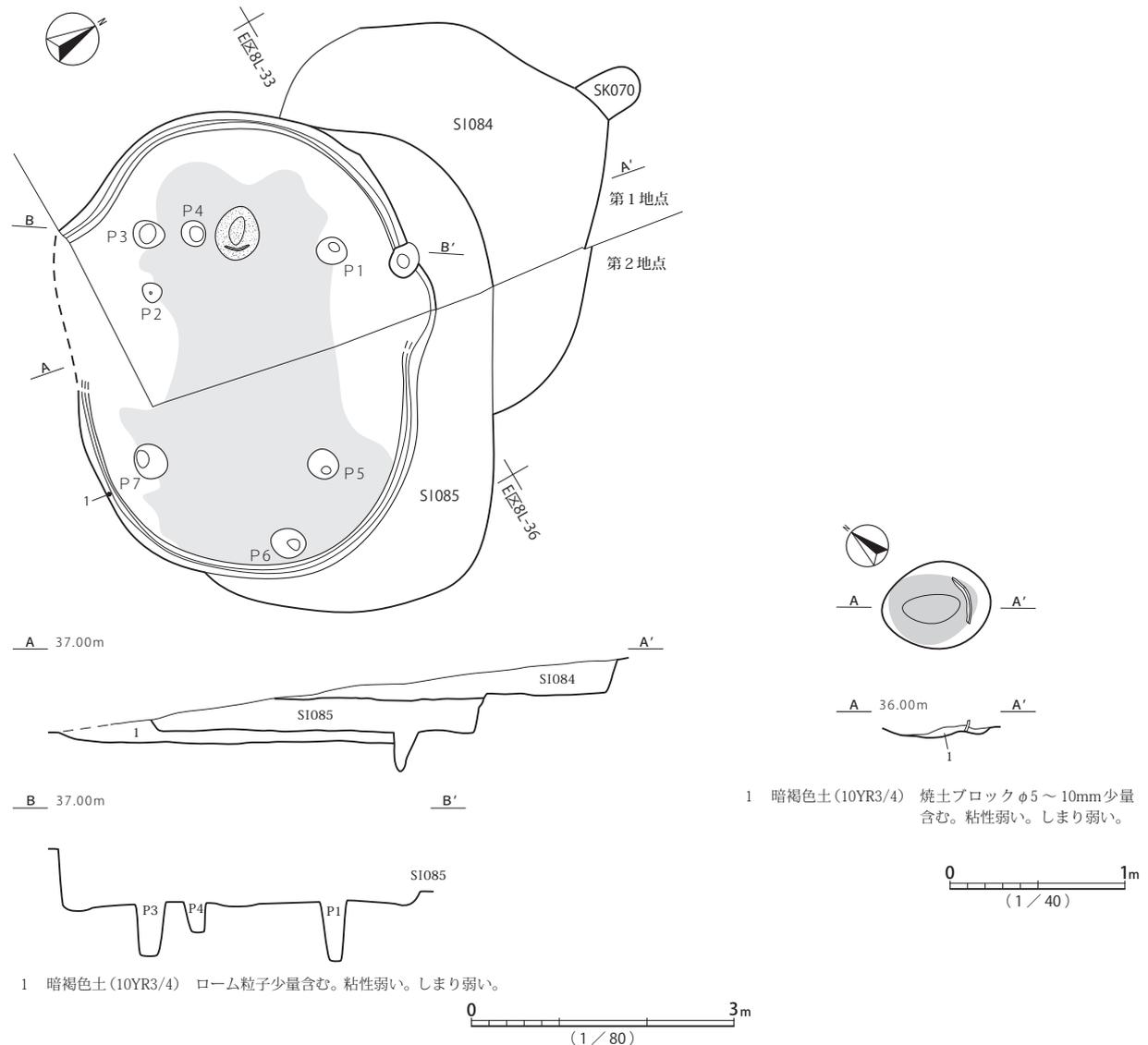
SI086 (第15・16図、第3表、図版1・20)

**位置：**E区8L-34グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SK063を切り、SI084・SI085に切られる。西側は第1地点と接続する。**規模：**主軸5.36m、副軸(4.52)m、確認面からの深度0.11m。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**N-60°-W。**覆土：**暗褐色土が主体の単層である。**炉：**竪穴中央やや西寄りに位置する。長軸0.60m、短軸0.44mで浅く窪む。壺の破片が逆位に埋設され、土器囲いとなっている。**施設：**ピット7基が検出された。主柱穴はP1・3・5・7で、柱間は主軸方向2.60m、副軸方向2.12m。P6は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入口施設に伴うと考えられる。周溝は北・南壁で一部途切れるが、ほぼ全周する。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、炉の周辺から南東壁際にかけて硬化している。

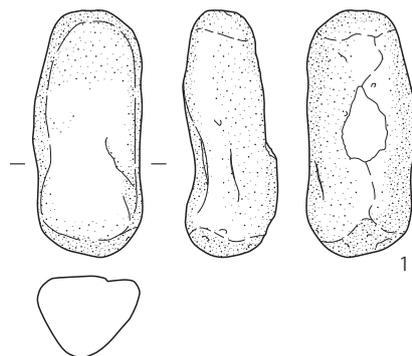
**時期：**出土遺物から弥生時代後期中葉～後葉と考えられる。

**所見：**炉、主柱穴、周溝が検出された。覆土は、単層で比較的厚みがあることから短期間で人為的な埋め戻しが行われたと推測される。覆土下層から編物石(1)が出土している。

**遺物：**土器86.9g、石器・石製品209.9g、縄文土器54.0gが出土した。1は編物石と考えられる。



第15図 SI086・炉



第16図 SI086出土遺物

0 10cm  
(1/3)

第3表 SI086出土石製品観察表

単位: cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	備考
1	編物石		覆土下層	9.8	4.3	3.2	209.0	

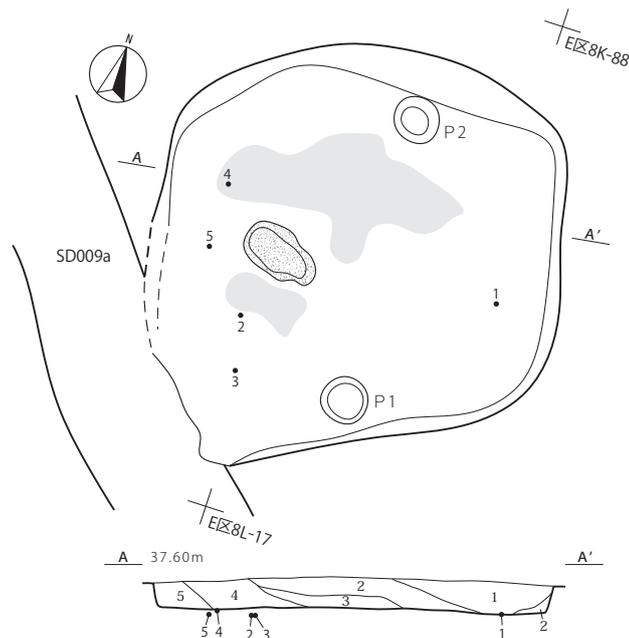
SI087 (第17～19図、第4表、図版1・2・17)

**位置:** E区8K-97グリッドを中心とする台地の南向き緩斜面に位置する。**重複:** SI088を切り、SI089・SD009aに切られ、SI082と切り合うが新旧関係は不明である。**規模:** 主軸4.44m、副軸(4.46)m、確認面からの深度0.42m。**形態:** 隅丸方形。**主軸方位:** N-18°-W。**覆土:** 5層に分けられる。**炉:** 竪穴中央やや西寄りに位置する。長軸0.84m、短軸0.50mで浅く窪む。**施設:** ピット2基が検出された。主柱穴はP1・2で、柱間は主軸方向1m、副軸方向3.04m。周溝は検出されなかった。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の長軸方向両脇が硬化している。

**時期:** 出土遺物から弥生時代後期前葉と考えられる。

**所見:** 炉が検出されたが、周溝は検出されなかった。床面から甕(1)、壺(2・3)、ミニチュア土器(4・5)が出土している。

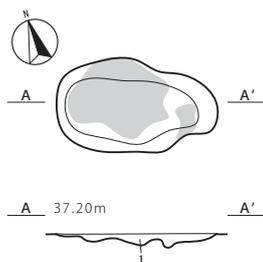
**遺物:** 土器1648.4gが出土した。1は甕、2・3は壺、4はミニチュア土器の高坏、5はミニチュア土器の甕である。2は内外面が赤彩される。3は頸部に円形浮文が全周する。



- 1 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロックφ10mm、焼土φ5mm微量含む。粘性標準、しまり弱い。
- 2 褐色土(10YR4/4) ローム粒子φ1～3mm少量、炭化物φ5mm微量含む。粘性標準、しまり弱い。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) ローム粒子φ1～3mm少量、焼土ブロックφ3mm微量含む。粘性標準、しまり弱い。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子φ5～10mm少量、炭化物φ1mm微量含む。粘性標準、しまり弱い。
- 5 褐色土(10YR4/6) ロームブロックφ5～10mm少量、焼土ブロックφ1mm微量含む。粘性標準、しまり弱い。

0 3m  
(1/80)

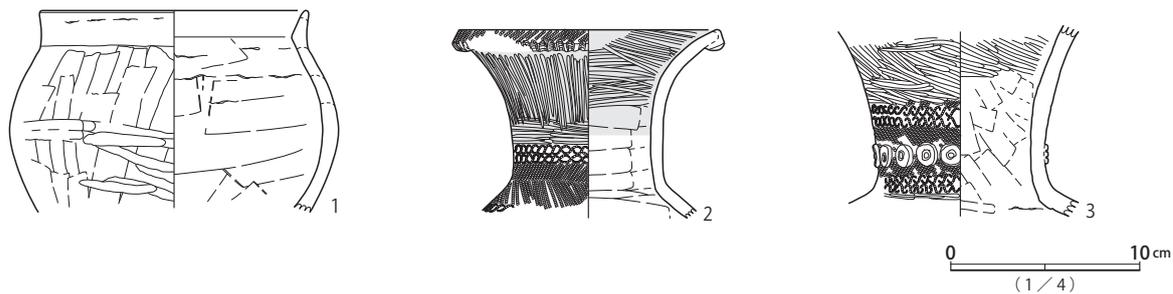
第17図 SI087



1 暗褐色土(10YR3/4) 焼土ブロックφ1~5mm少量、炭化物φ1mm微量含む。粘性標準、しまり強い。



第18図 SI087 炉



第19図 SI087 出土遺物

第4表 SI087 出土土器観察表

単位: cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	床面	口径: (13.8) 底径: - 器高: [10.7] 最大径: (17.2)	外面: 口縁部ヨコナデ、胴部上半ヘラケズリ・ヘラナデ後ヘラミガキ 内面: 口縁部ヨコナデ、胴部上半ヘラナデ	胎土: 石英・黒色粒・白色粒 焼成: 普通 色調: 橙 残存度: 口縁部~胴部上半の破片	
2	弥生土器 壺	床面	口径: (13.7) 底径: - 器高: [10.0] 最大径: 14.2	特徴: 折返し口縁 外面: 口縁部単節縄文(LR)、折返し部ハケキザミ、頸部ヘラミガキ縦位、ヘラミガキ横位、赤彩、結節縄(S2段)・単節羽状縄文(LR・RL)・結節縄(S1段) 内面: 口縁部ヘラミガキ、赤彩、頸部ヘラナデ	胎土: 石英・黒色粒・白色粒 焼成: 良好 色調: 明褐 残存度: 口縁部~頸部	
3	弥生土器 壺	床面	口径: - 底径: - 器高: [10.1] 最大径: 12.6	外面: 頸部ヘラミガキ、単節縄文(LR)、結節文(S1段、Z1段)・単節羽状縄文(RL・LR)・竹管状工具押捺による円形浮文・結節文(S1段、Z1段)、ヘラミガキ 内面: 頸部ヘラミガキ、ヘラナデ	胎土: 石英・長石・黒色粒・白色粒 焼成: 良好 色調: 明褐 残存度: 頸部のみほぼ完存	
4	弥生土器 ミニチュア 高坏	床面	口径: - 脚径: 5.2 器高: [3.4] 最大径: (5.2)	外面: 体部下半ヘラナデ、接合部突帯に竹管状工具による刺突、脚部~裾部ヘラナデ 内面: 体部下半ナデ、脚部~裾部ヘラナデ・指頭圧痕	胎土: 長石・黒色粒・白色粒 焼成: 普通 色調: 橙 残存度: 体部下半~裾部	
5	弥生土器 ミニチュア 甕	床面	口径: (6.8) 底径: 3.2 器高: 3.5 最大径: 6.0	外面: 胴部下半ヘラナデ・指頭圧痕、ナデ、底部ヘラナデ 内面: 胴部下半ヘラナデ、底部ナデ	胎土: 石英・黒色粒・白色粒 焼成: 普通 色調: 橙 残存度: 胴部下半~底部	

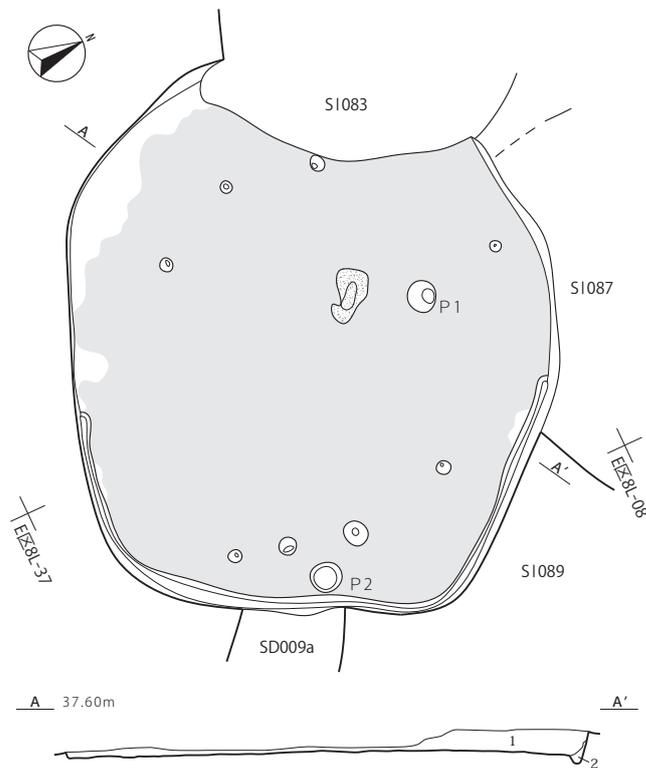
SI088 (第20～22図、第5～7表、図版2・17・20)

**位置：**E区8L-16グリッドを中心とする台地の南西向き斜面に位置する。**重複：**SI083・SI087・SI089・SD009aに切られる。**規模：**主軸(5.96)m、副軸5.16m、確認面からの深度0.25m。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**N-65°-W。**覆土：**2層に分けられ、褐色土が主体である。**炉：**竪穴中央やや北寄りに位置する。長軸0.58m、短軸0.32mで浅く窪む。**施設：**ピット2基が検出された。P2は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。周溝は東壁から南壁にかけて検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、床面のほぼ全面が硬化している。

**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期前葉以前と考えられる。

**所見：**炉、周溝が検出されたが、支柱穴は検出されなかった。

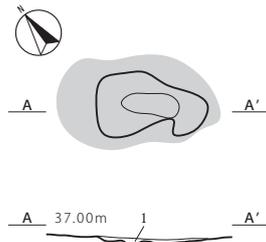
**遺物：**土器3714.5g、土製品19.5g、石器・石製品127.5g、縄文土器410.0gが出土した。1は壺、2は鉢もしくは高坏、3は土製紡錘車、4は石錘、5は軽石の浮子である。



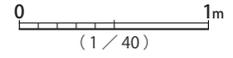
- 1 褐色土(10YR4/4) ローム粒子、焼土微量含む。粘性標準、しまり強い。  
 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ローム粒子少量含む。粘性標準、しまり標準。

0 3m  
 (1/80)

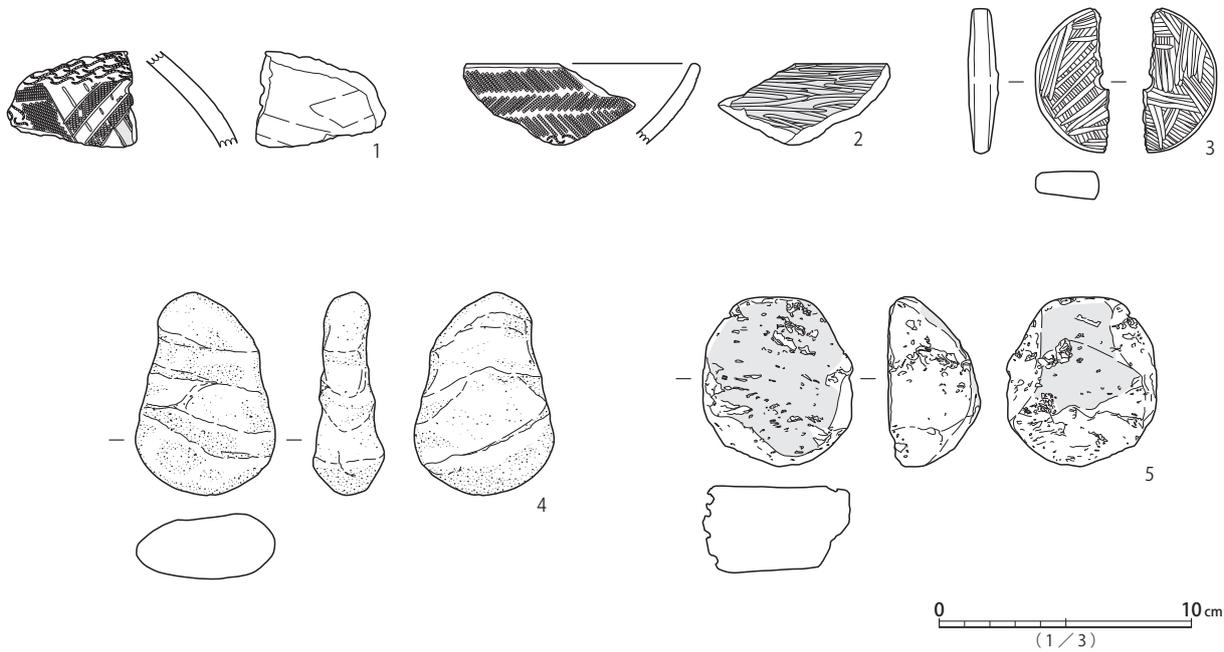
第20図 SI088



1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 焼土少量含む。粘性標準、しまり標準。



第21図 SI088炉



第22図 SI088出土遺物

第5表 SI088出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器壺	覆土	口径：- 底径：- 器高：[3.8] 最大径：-	外面：肩部結節文(S6段)・単節羽状縄文(LR・RL)後沈線による山形文、一部赤彩 内面：肩部ヘラナデ・ナデ	胎土：石英・黒色粒・白色粒 焼成：良好 色調：橙 残存度：肩部の破片	
2	弥生土器鉢・高坏	覆土	口径：- 底径：- 器高：[3.2] 最大径：-	外面：口縁部単節羽状縄文(RL・LR・RL)・結節文(Z1段) 内面：口縁部ヘラミガキ、赤彩	胎土：黒色粒・白色粒 焼成：良好 色調：橙 残存度：口縁部の破片	

第6表 SI088出土土製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	重量(g)	備考
3	紡錘車	覆土上層	長さ：5.9 厚さ：1.15 孔径：-	19.1	

第7表 SI088出土石製品観察表

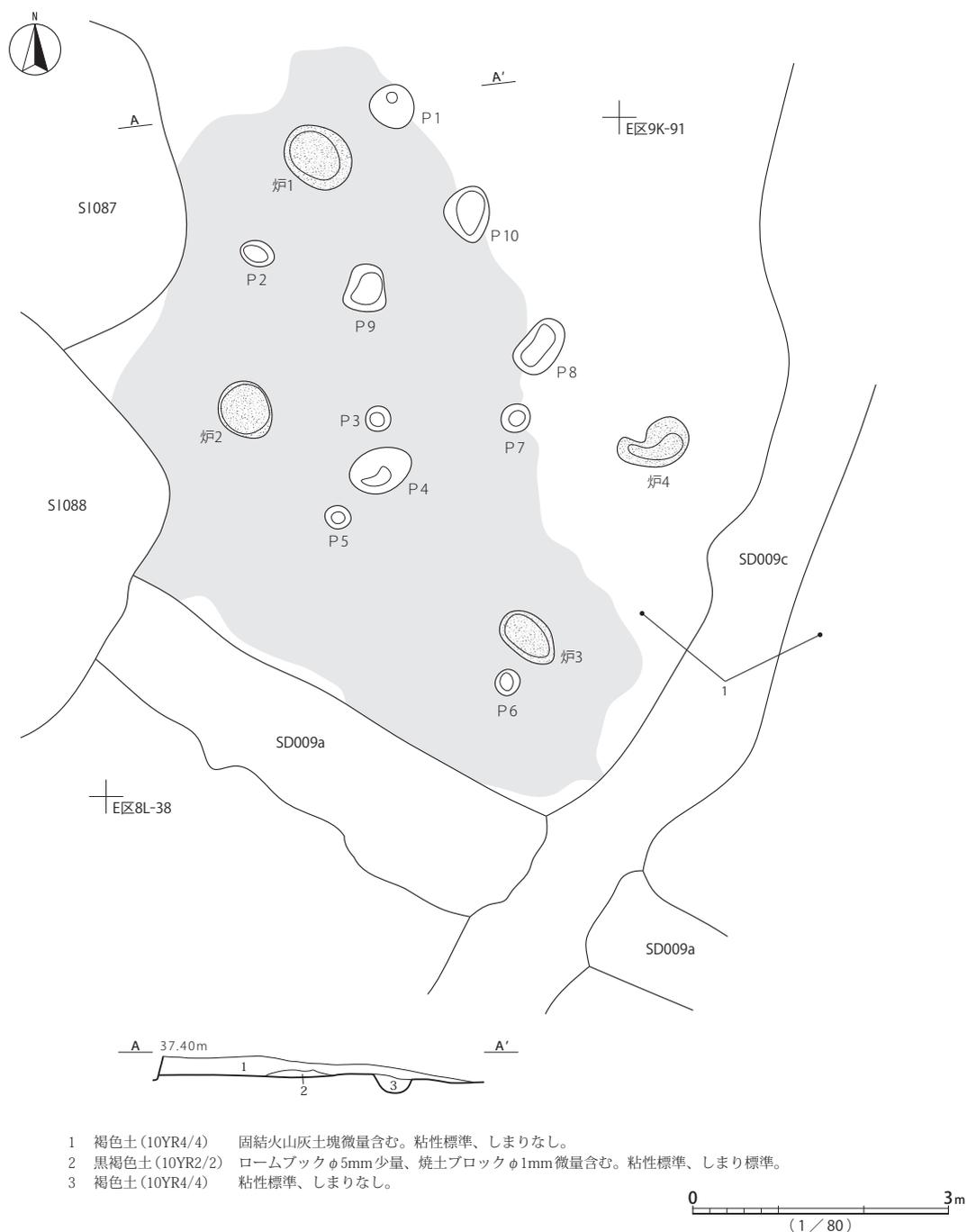
単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量(g)	備考
4	石錘	砂岩	覆土上層	8.1	5.5	2.6	124.0	
5	浮子	軽石	覆土	6.75	5.9	3.6	24.0	磨：表、右、裏各1面

SI089 (第23～25図、第8表、図版2・17)

**位置：**E区9L-00グリッドを中心とする台地の南向き緩斜面に位置する。**重複：**SI087・SI088を切り、SD009a・SD009cに切られる。**規模：**長軸1m、短軸1m、確認面からの深度1m。**形態：**不明。**主軸方位：**不明。**覆土：**3層に分けられ、褐色土が主体である。**炉：**4基が検出された。炉1は長軸0.84m、短軸0.68m。炉2は長軸0.70m、短軸0.60m。炉3は長軸0.66m、短軸0.48m。炉4は長軸0.86m、短軸0.44m。いずれも浅く窪む。**施設：**ピット10基が検出された。周溝は検出されなかった。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期後葉と考えられる。

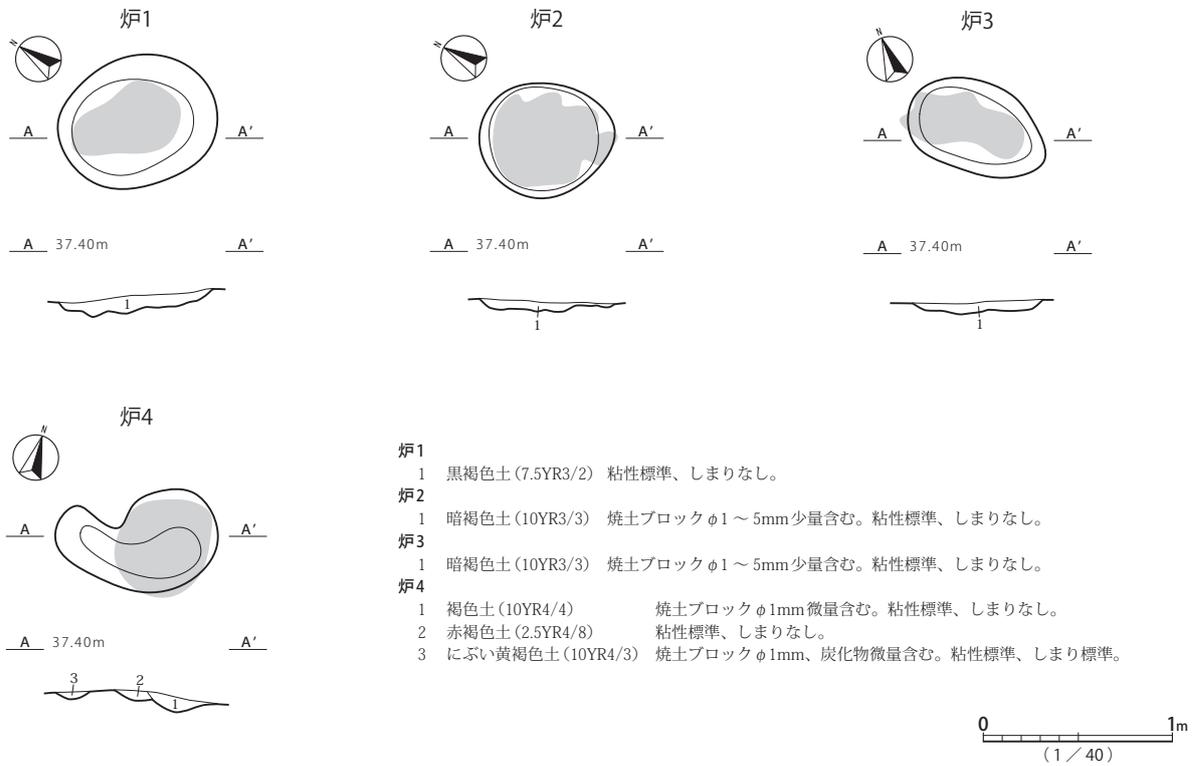


- 1 褐色土(10YR4/4) 固結火山灰土塊微量含む。粘性標準、しまりなし。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) ロームブロックφ5mm少量、焼土ブロックφ1mm微量含む。粘性標準、しまり標準。
- 3 褐色土(10YR4/4) 粘性標準、しまりなし。

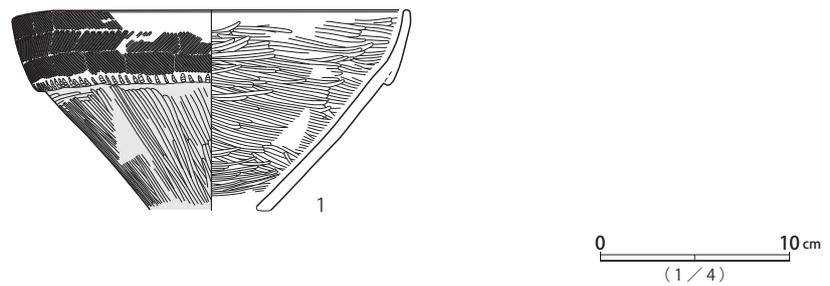
第23図 SI089

所見：複数の竪穴建物重複していると考えられるが、壁の立ち上がりは消滅し、周溝も確認されなかった。また床面も同一レベルであることから区分はできず1棟の竪穴建物として報告する。

遺物：土器1155.0g、石器・石製品0.9g、縄文土器148.2gが出土した。1は高坏で、体部外面が赤彩される。



第24図 SI089 炉1～4



第25図 SI089 出土遺物

第8表 SI089 出土土器観察表

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 高坏	床面	口径：20.4 脚径：- 器高：[10.6] 最大径：(21.0)	特徴：折返し口縁 外面：口唇部単節縄文(RL)口縁部単節縄文(RL・LR・RL)、端部キサミ、頸部ヘラミガキ、赤彩 内面：口縁部～体部ヘラミガキ	胎土：石英・長石・黒色粒・白色粒 焼成：良好 色調：橙 残存度：口縁部～体部	

単位：cm

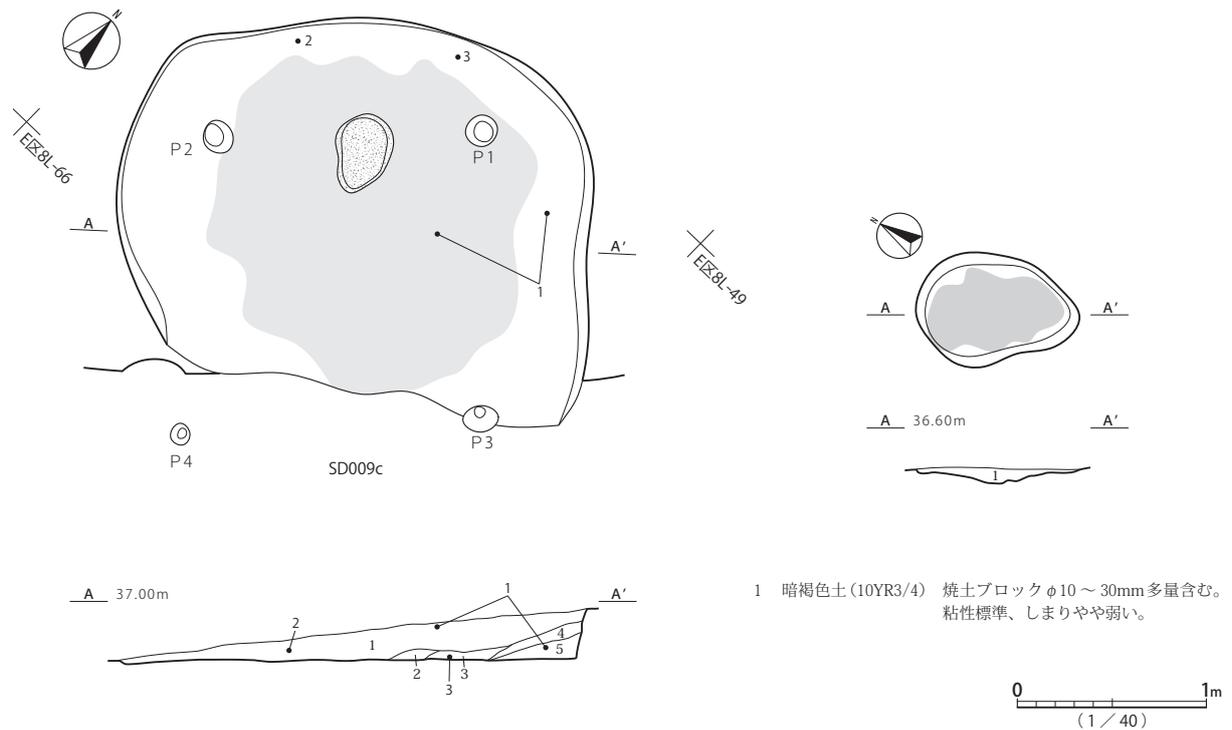
SI090 (第26・27図、第9・10表、図版3・17・20)

**位置：**E区8L-47グリッドを中心とする台地の南西向き斜面に位置する。**重複：**SD009cに切られる。**規模：**主軸(4.36)m、副軸5.00m、確認面からの深度0.52m。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**N-44°-W。**覆土：**5層に分けられ、暗褐色土が主体である。**炉：**竪穴中央やや北東寄りに位置する。長軸0.86m、短軸0.62mで浅く窪む。**施設：**ピット4基が検出された。主柱穴はP1～4で、柱間は主軸方向2.96m、副軸方向2.84m。周溝は検出されなかった。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、竪穴のほぼ中央が硬化している。

**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期前葉と考えられる。

**所見：**炉、主柱穴が検出されたが、周溝は検出されなかった。P4は床面残存範囲外だが、配置から主柱穴とした。床面から甕(1)、壺(2)、鉢(3)が出土している。

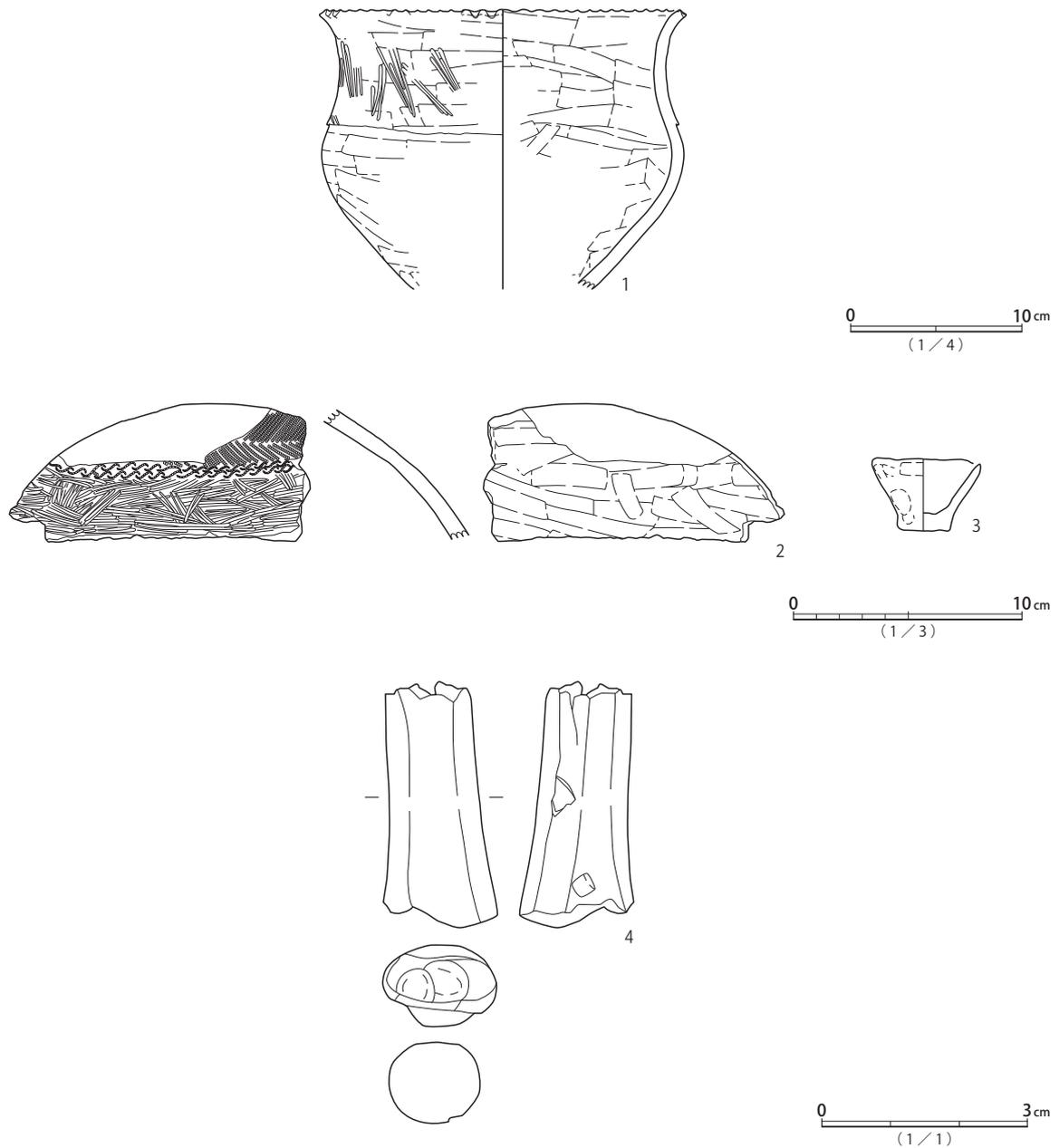
**遺物：**土器1963.2g、土製品7.0g、石製品2.2g、縄文土器219.2gが出土した。1は甕、2は壺、3はミニチュア土器である。4は不明土製品とした。1は胴部上位に段を残し、頸部にはわずかにミガキが施される。4は棒状の土製品で用途は不明。



- 1 暗褐色土(10YR3/4) 焼土ブロックφ1mm、固結火山灰土塊、炭化物少量含む。粘性標準、しまりなし。
- 2 褐色土(10YR4/4) 焼土ブロックφ1mm、炭化物微量含む。粘性標準、しまりなし。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 焼土ブロックφ1～3mm、炭化物φ1～5mm多量含む。粘性標準、しまりなし。
- 4 褐色土(10YR4/6) ロームブロックφ1～10mm多量含む。粘性標準、しまりなし。
- 5 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロックφ1～5mm少量、炭化物φ1mm微量含む。

0 3m  
(1/80)

第26図 SI090・炉



第27図 SI090出土遺物

第9表 SI090出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	覆土下層	口径：(20.6) 底径：- 器高：[16.3] 最大径：(21.2)	特徴：輪積み痕1段残す 外面：口唇部上から押圧、口縁部ヘラナデ 後ヘラミガキ、胴部ヘラナデ 内面：口縁部～胴部ヘラナデ	胎土：長石・黒色粒・白色粒 焼成：普通 色調：橙 残存度：口縁部～胴部1/3	
2	弥生土器 壺	覆土下層	口径：- 底径：- 器高：[5.8] 最大径：-	外面：肩部単節羽状縄文(LR・RL)・結節縄 (S2段)、ヘラミガキ 内面：肩部ヘラナデ	胎土：石英 焼成：良好 色調：橙 残存度：肩部の破片	
3	弥生土器 ミニチュア	床面	口径：4.7 底径：2.3 器高：3.0 最大径：4.75	外面：口縁部～胴部ヘラナデ・ナデ、底部 ナデ・指頭圧痕 内面：口縁部～底部ナデ・指頭圧痕	胎土：赤色粒・白色粒 焼成：良好 色調：黄褐 残存度：ほぼ完存	

第10表 SI090出土土製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	重量(g)	備考
4	不明土製品	覆土下層	長さ：(3.6) 幅：1.7 厚さ：1.2	6.7	全面ナデ

SI091 (第28・29図、第11表、図版3・17)

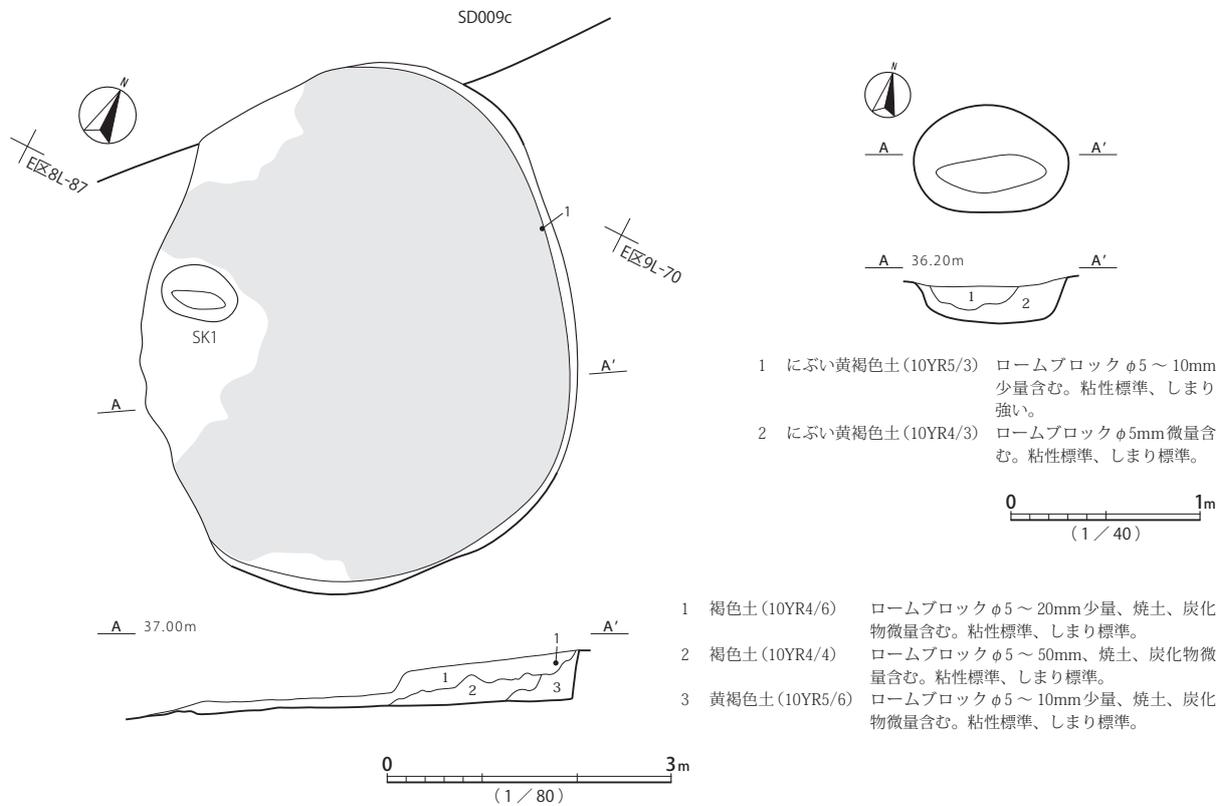
**位置：**E区8L-88グリッドを中心とする台地の南西向き斜面に位置する。**重複：**SI093・SI094・SI095を切り、SD009cに切られる。**規模：**主軸5.68m、副軸4.60m、確認面からの深度0.51m。

**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**N-27°-W。**覆土：**3層に分けられる。**炉：**検出されなかった。**施設：**土坑1基が検出された。SK1は長軸0.80m、短軸0.56m、深さ0.23mである。周溝は検出されなかった。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、竪穴の西半分が硬化している。

**時期：**周囲で検出された同形態の竪穴建物から、弥生時代後期～終末期と考えられる。

**所見：**竪穴の西側は斜面による流失により消滅している。炉、支柱穴、周溝のいずれも検出されなかった。

**遺物：**土器1759.8g、石器・石製品2.2g、縄文土器112.2gが出土した。1は壺で、口縁部に棒状浮文が3条付される。赤彩はみられない。



第28図 SI091・SK1



第29図 SI091出土遺物

第11表 SI091出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 壺	覆土上層	口径： - 底径： - 器高： [4.3] 最大径： -	特徴：複合口縁 外面：複合部単節羽状縄文(LR・RL)・キザミのある棒状貼付文、端部下からヘラキザミ、頸部ヘラミガキ縦位 内面：口縁部～頸部ナデ	胎土：石英・長石・黒色粒・白色粒・橙色粒 焼成：普通 色調：明赤褐 残存度：口縁部～頸部の破片	

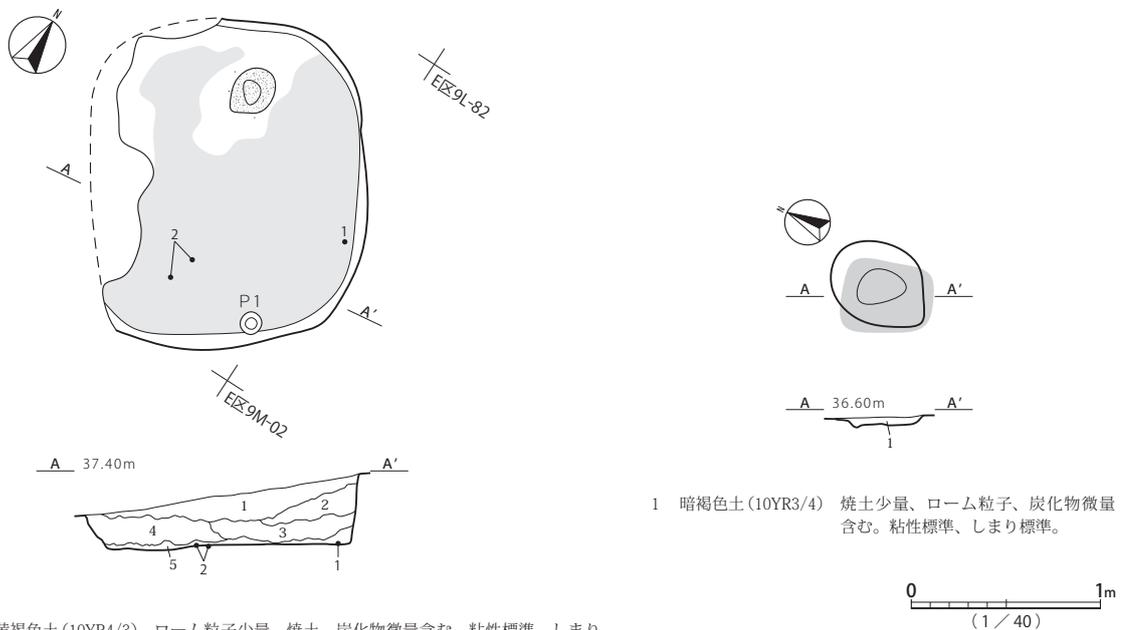
SI092 (第30・31図、第12表、図版3・17)

**位置：**E区9L-91グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複：**SI093・SI095を切る。**規模：**主軸3.48m、副軸2.76m、確認面からの深度0.73m。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**N-33°-W。**覆土：**5層に分けられる。**炉：**竪穴中央やや北東寄りに位置する。長軸0.56m、短軸0.44mで浅く窪む。**施設：**ピット1基が検出された。P1は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。周溝は検出されなかった。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉周辺を除きほぼ全面が硬化している。

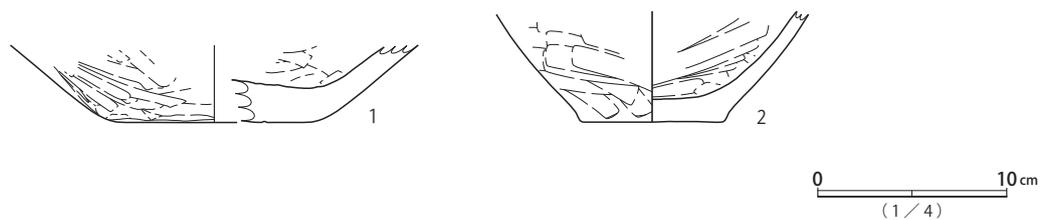
**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期～終末期と考えられる。

**所見：**西側に重複するSI093と同時に掘削・調査を行ったため西壁は断面図の記録にとどまる。炉が検出されたが、支柱穴、周溝は検出されなかった。床面から壺(1・2)が出土している。

**遺物：**土器2997.0g、縄文土器107.2gが出土した。1・2は壺である。いずれも底部のみである。



第30図 SI092・炉



第31図 SI092出土遺物

第12表 SI092出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器壺	床面	口径： - 底径：(11.4) 器高：[4.1] 最大径：(21.5)	外面：胴部下半ヘラナデ、底部ナデ 内面：胴部下半～底部ヘラナデ・ナデ、ナデ	胎土：黒雲母・石英・長石・ 黒色粒・白色粒 焼成：良好 色調：橙 残存度：胴部下半～底部1/2	
2	弥生土器壺	床面	口径： - 底径：(7.2) 器高：[5.9] 最大径：16.4	外面：胴部下半ヘラナデ、底部ナデ 内面：胴部下半～底部ヘラナデ	胎土：石英・長石・黒色粒・ 白色粒 焼成：良好 色調：橙 残存度：胴部下半～底部1/2	

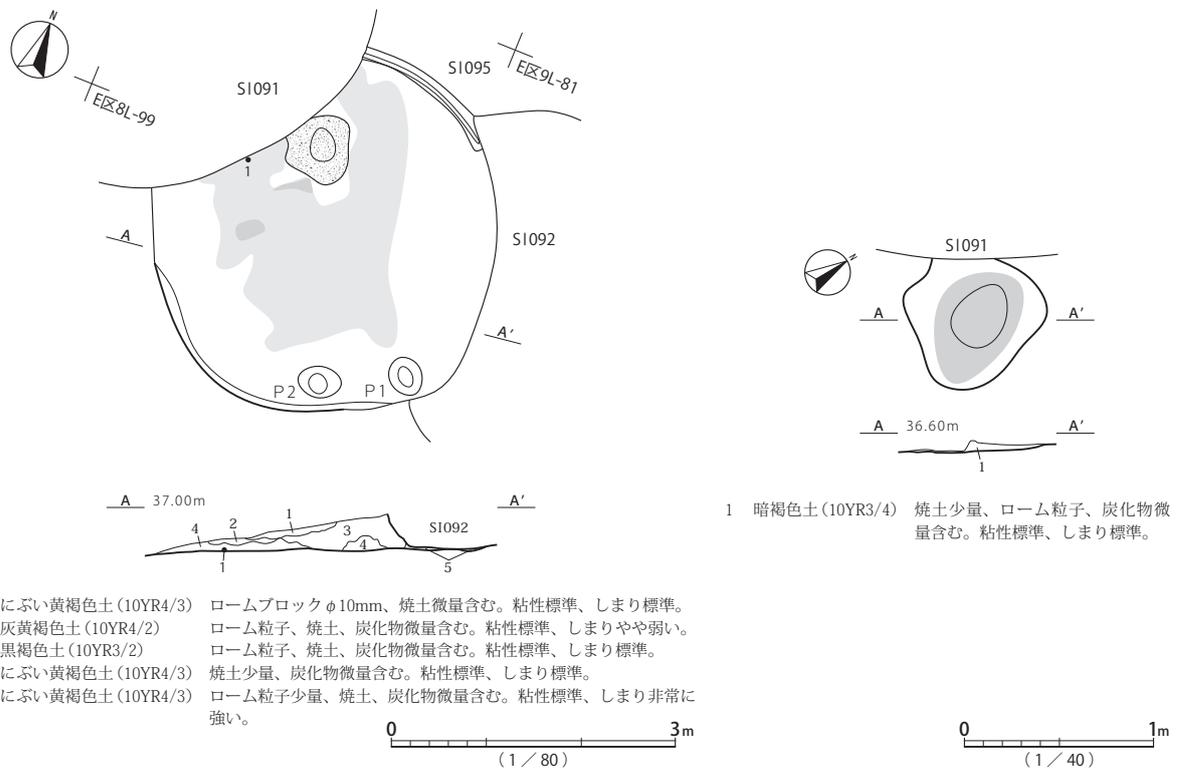
SI093 (第32・33図、第13・14表、図版3・17・20)

**位置：**E区9L-90グリッドを中心とする台地の南西向き斜面に位置する。**重複：**SI092に切られ、SI094・SI095を切る。**規模：**主軸(3.88)m、副軸3.64m、確認面からの深度0.21m。**形態：**楕円形もしくは隅丸方形。**主軸方位：**N-22°-W。**覆土：**5層に分けられる。**炉：**竪穴中央北寄りに位置する。長軸0.74m、短軸0.70mで浅く窪む。**施設：**ピット2基が検出された。P2は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。周溝は北壁沿いの一部で検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の周囲から床面中央南側にかけて硬化している。

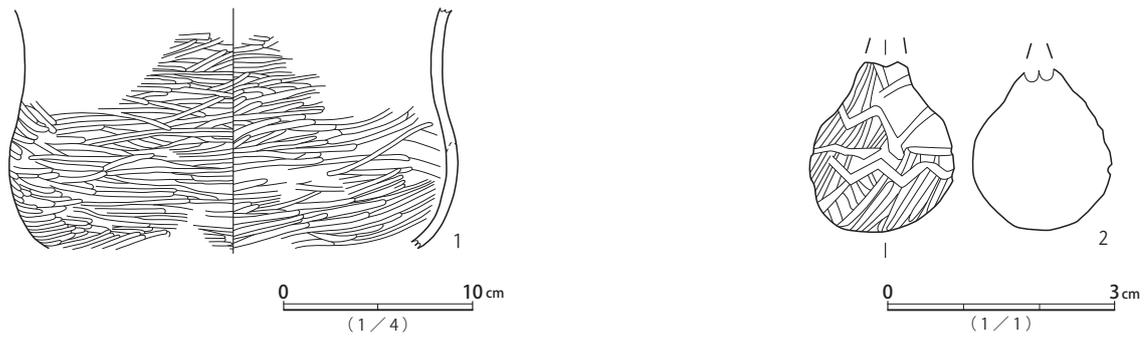
**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期～終末期と考えられる。

**所見：**炉、周溝は検出されたが、支柱穴は検出されなかった。床面から甕(1)が出土している。

**遺物：**土器753.1g、土製品6.8gが出土した。1は甕、2は土玉とした。表面にはミガキおよび幾何学文が施されている。



第32図 SI093・炉



第33図 SI093出土遺物

第13表 SI093出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	SI092床 面	口 径： - 底 径： - 器 高： [13.0] 最大径： (23.6)	外面：胴部上半ヘラミガキ 内面：胴部上半ヘラミガキ	胎 土：長石・白色粒 焼 成：良好 色 調：橙 残存度：胴部上半1/2	

第14表 SI093出土土製品観察表

単位：cm

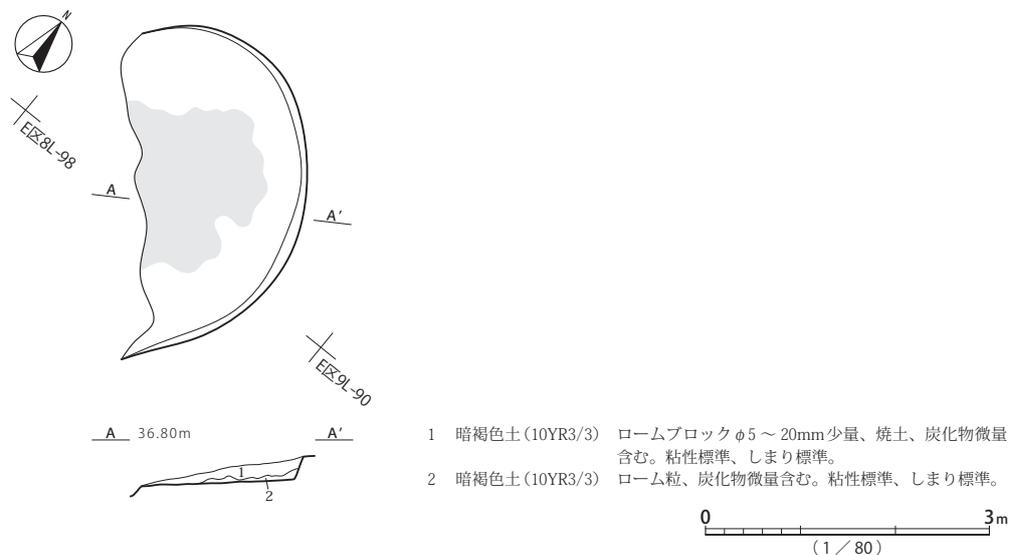
番号	種別	出土位置	計測値	重量 (g)	備考
2	土玉	覆土上層	長さ：2.2 厚さ：1.8 孔径：-	6.7	幾何学文様

### SI094 (第34図、図版3)

**位置**：E区8L-88グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複**：SI091・SI093に切られる。**規模**：長軸 (3.52) m、短軸 (1.96) m、確認面からの深度0.24 m。**形態**：隅丸方形と推測される。**主軸方位**：不明。**覆土**：2層に分けられ、暗褐色土である。**炉**：検出されなかった。**施設**：周溝は検出されなかった。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、竪穴残存範囲の中央が硬化している。

**時期**：出土遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期～終末期と考えられる。

**遺物**：土器164.5gが出土したが、小破片のため図示しなかった。



第34図 SI094

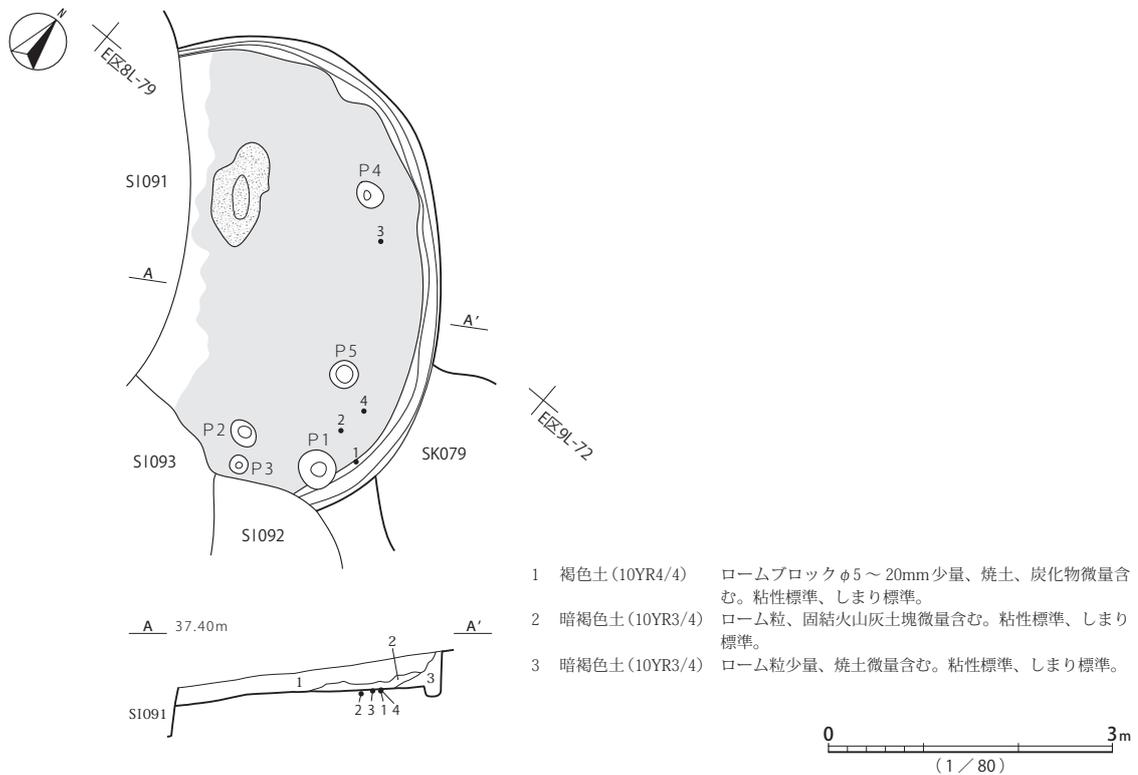
SI095 (第35～37図、第15・16表、図版4・18)

**位置**：E区9L-70グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複**：SI091・SI092・SI093・SK079に切られる。**規模**：主軸(5.04)m、副軸(3.24)m、確認面からの深度0.40m。**形態**：隅丸方形。**主軸方位**：N-40°-W。**覆土**：3層に分けられ、褐色土が主体である。**炉**：竪穴中央やや北西寄りに位置する。長軸1.12m、短軸0.58mで浅く窪む。**施設**：ピット5基が検出された。支柱穴はP4・5で、柱間は主軸方向1.92m、副軸方向1m。周溝は床面残存範囲で全周する。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、残存部分のほぼ全面が硬化している。

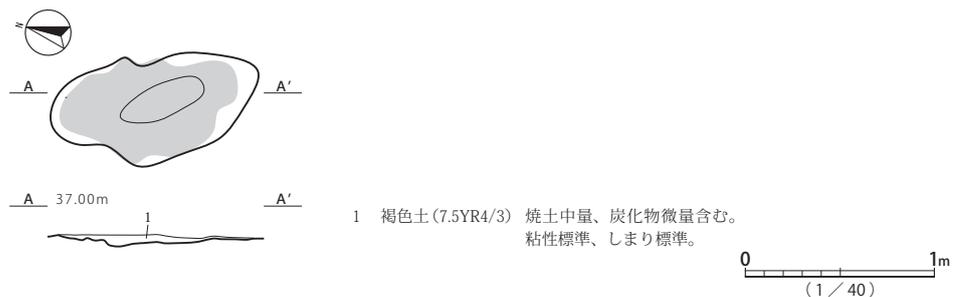
**時期**：出土遺物から弥生時代後期中葉～後葉と考えられる。

**所見**：炉、支柱穴、周溝が検出された。東壁沿いの床面で高坏(3)が、南東隅の床面から壺(1)、台付無形壺(2)、埴(4)が出土している。

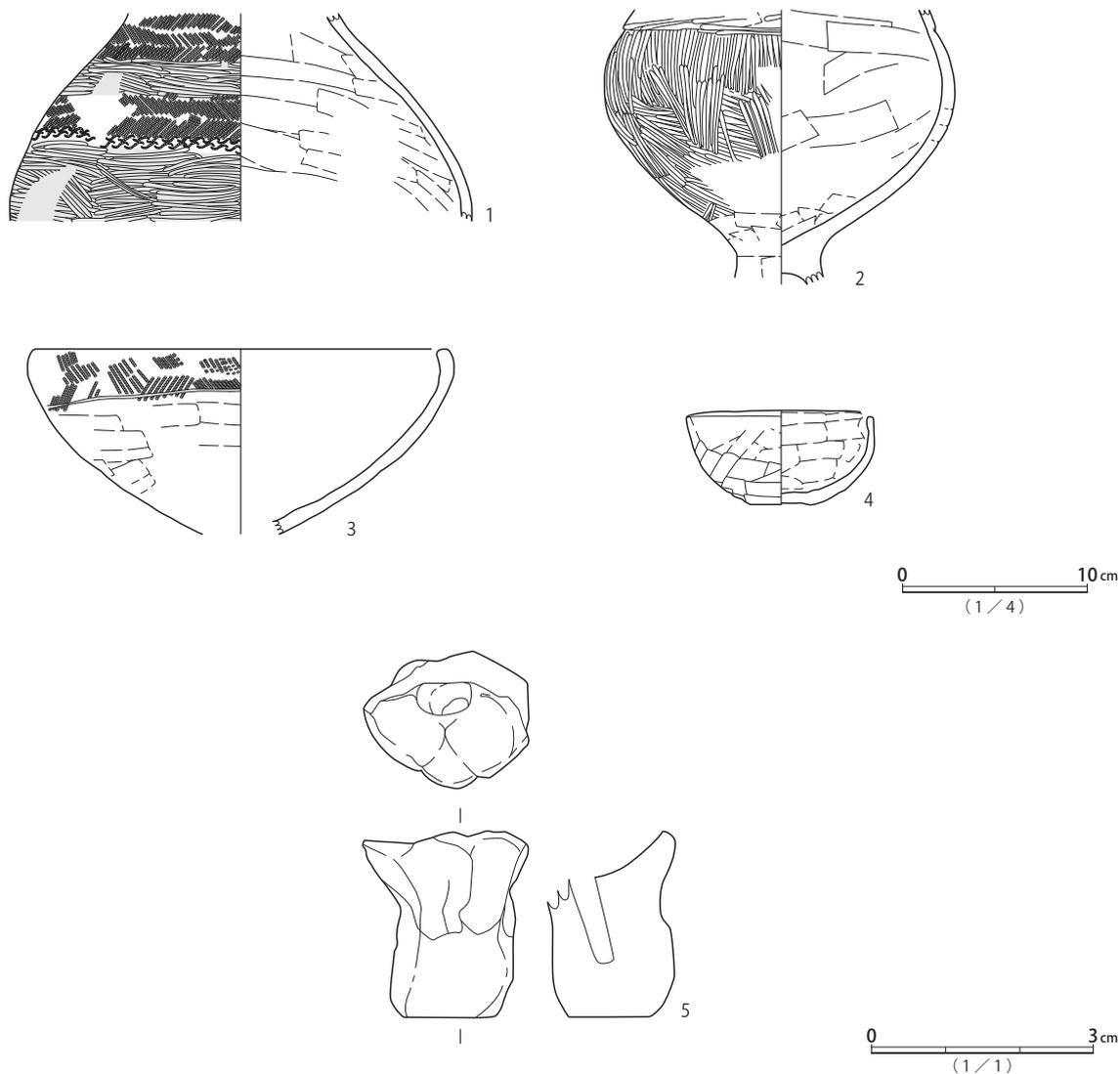
**遺物**：土器2794.9g、土製品7.1g、縄文土器50.5gが出土した。1は壺、2は台付無頸壺、3は高坏、4は埴、5は不明土製品とした。2は胴部上位に段を持ち、外面にはミガキが密に施されている。5は1箇所穿孔がある。



第35図 SI095



第36図 SI095 炉



第37図 SI095 出土遺物

第15表 SI095 出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器壺	床面	口径：- 底径：- 器高：11.3 最大径：12.5	外面：胴部上半単節羽状縄文(LR・RL)・単節縄文(LR)、ヘラミガキ横位、単節羽状縄文(RL・LR)・結節文(S2段)、ヘラミガキ横位、ヘラミガキ部赤彩 内面：胴部上半ヘラナデ	胎土：金雲母・黒雲母・石英・赤色粒・白色粒 焼成：良好 色調：橙 残存度：胴部上半	
2	弥生土器台付無頸壺	床面	口径：- 底径：- 器高：[14.9] 最大径：18.8	外面：口縁部～胴部ヘラミガキ、脚台部ヘラナデ 内面：口縁部～胴部ヘラナデ、脚台部ナデ	胎土：石英・長石・白色粒 焼成：普通 色調：明黄褐 残存度：口縁部～脚台部	
3	弥生土器高坏	床面	口径：(22.2) 脚径：- 器高：[10.1] 最大径：(23.0)	外面：口縁部羽状縄文(RL・LR)、沈線、体部ナデ・ヘラナデ 内面：口唇部ナデ、口縁部ヨコナデ、体部ナデ	胎土：黒雲母・石英・黒色粒・赤色粒・白色粒 焼成：普通 色調：橙 残存度：口縁部～体部3/4	
4	弥生土器碗	床面	口径：9.6 底径：3.4 器高：5.1 最大径：-	外面：口縁部ナデ・ヘラナデ、体部ヘラケズリ、底部ナデ 内面：口縁部～体部ヘラナデ、底部ナデ	胎土：黒雲母・石英・黒色粒・赤色粒 焼成：普通 色調：橙 残存度：ほぼ完存	

第16表 SI095 出土土製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	重量(g)	備考
5	不明土製品	覆土上層	長さ：2.5 幅：2.2 厚さ：1.7 孔径：0.35	6.9	

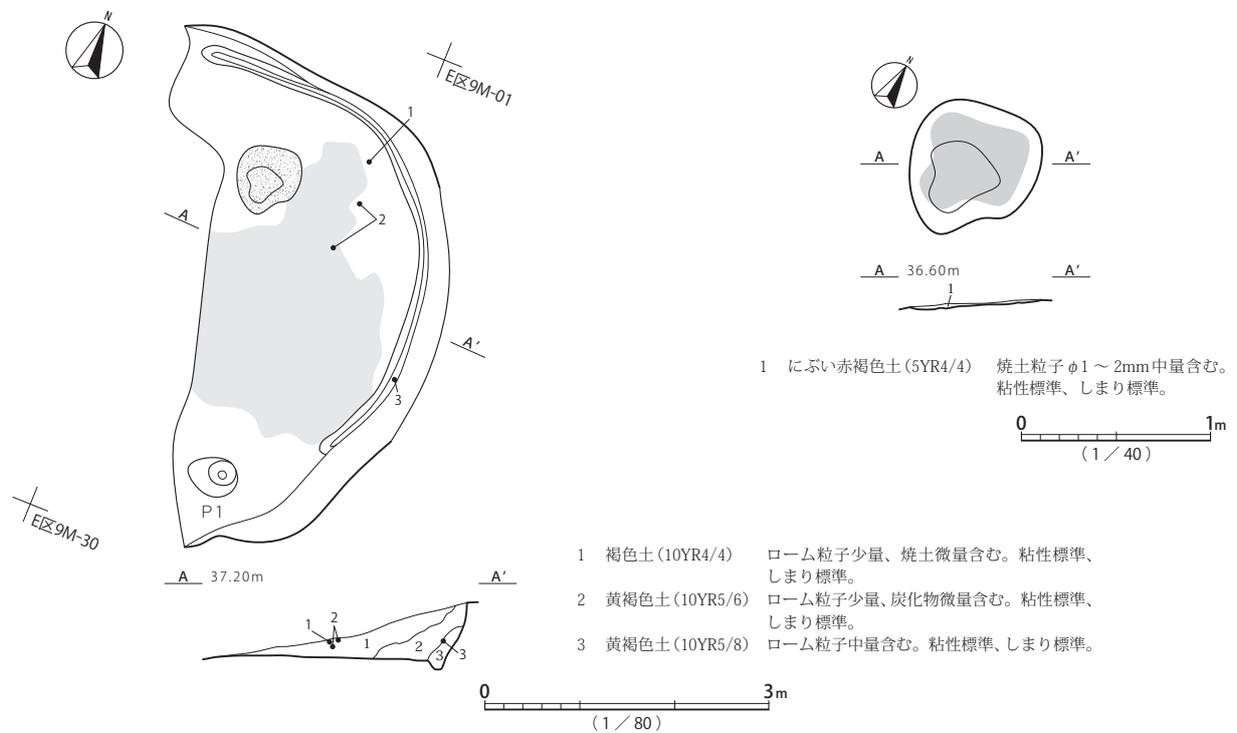
SI096 (第38・39図、第17表、図版4・18)

**位置：**E区9M-10グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複：**SI097を切る。  
**規模：**主軸(5.56)m、副軸(2.92)m、確認面からの深度0.55m。**形態：**隅丸方形と推測される。  
**主軸方位：**N-22°-W。**覆土：**3層に分けられ、褐色土が主体である。**炉：**竪穴中央北寄りに位置する。長軸0.70m、短軸0.68mで浅く窪む。**施設：**ピット1基が検出された。周溝は北壁から東壁にかけて検出された。両端に立ち上がりがあることから全周せず途切れていたと考えられる。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、竪穴中央から東壁にかけて硬化している。

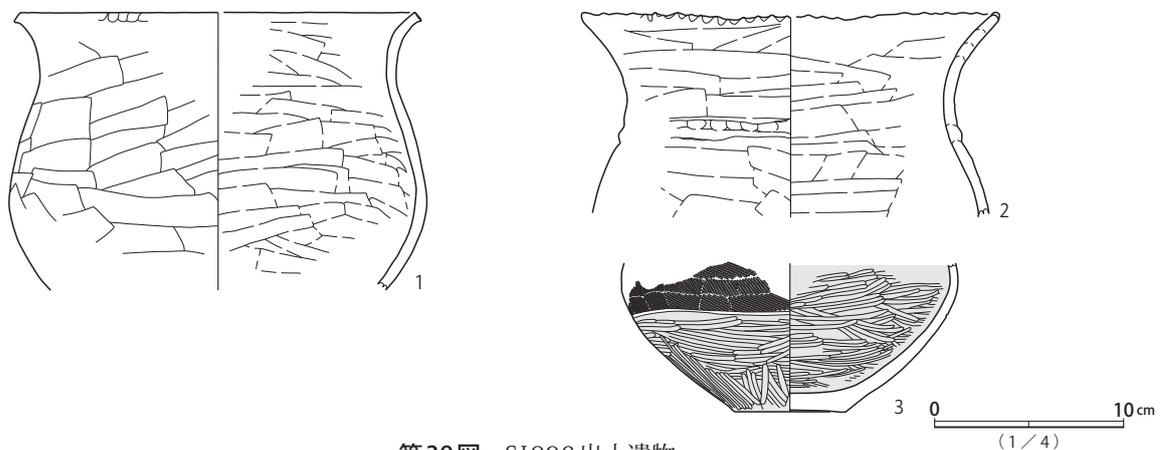
**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期中葉と考えられる。

**所見：**炉、周溝が検出されたが、支柱穴は検出されなかった。覆土は斜堆積し、自然埋没を示す。

**遺物：**土器1818.0g、縄文土器107.1gが出土した。1・2は甕、3は鉢である。2は頸部に輪積み痕を残す。3は胴部上半の縄文が沈線により区画される。



第38図 SI096・炉



第39図 SI096出土遺物

第17表 SI096出土土器観察表

単位：cm

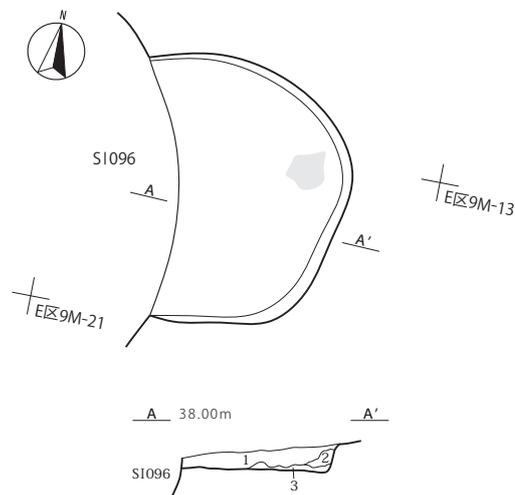
番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	床面	口 径：(20.8) 底 径： - 器 高：[24.7] 最大径：(22.0)	外面：口唇部指による押圧、口縁部～胴部 上半ヘラケズリ 内面：口縁部～胴部上半ヘラナデ	胎 土：長石・赤色粒・白色粒 焼 成：普通 色 調：橙 残存度：口縁部～胴部上半1/4	
2	弥生土器 甕	床面	口 径：(21.7) 底 径： - 器 高：[10.8] 最大径：(22.0)	特徴：輪積み痕2段残す 外面：口唇部上からの押圧、口縁部～胴部 上半ヘラナデ・指頭圧痕 内面：口縁部ナデ、頸部～胴部上半ヘラナ デ	胎 土：黒色粒・白色粒・橙色 粒 焼 成：普通 色 調：橙 残存度：口縁部～胴部上半1/4	
3	弥生土器 鉢	覆土下層	口 径： - 底 径： 5.9 器 高： [7.9] 最大径：(17.7)	外面：胴部上半単節縄文(RL)、ヘラミガキ、 赤彩、底部ヘラナデ 内面：胴部ヘラミガキ、赤彩、底部ナデ、 赤彩	胎 土：石英・長石・黒色粒・ 白色粒 焼 成：良好 色 調：橙 残存度：胴部下半～底部	

SI097 (第40図、図版4)

**位置：**E区9 M-12グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複：**SI096に切られる。  
**規模：**主軸2.88 m、副軸2.12 m、確認面からの深度0.31 m。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸  
 方位：**N-11°-W。**覆土：**3層に分けられ、暗褐色土が主体である。**炉：**検出されなかった。  
**施設：**周溝は検出されなかった。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用しており、竪穴  
 東側の一部が硬化している。

**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期中葉以前と考えられる。

**遺物：**土器108.2g、縄文土器29.4gが出土したが、小破片のため図示していない。



- 1 暗褐色土(10YR3/3) ローム粒子、固結火山灰土塊微量含む。粘性標準、しまり標準。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒子少量含む。粘性標準、しまり標準。
- 3 褐色土(10YR4/6) ローム粒子少量、ロームブツクφ10mm微量含む。粘性標準、しまり標準。

0 3m  
(1/80)

第40図 SI097

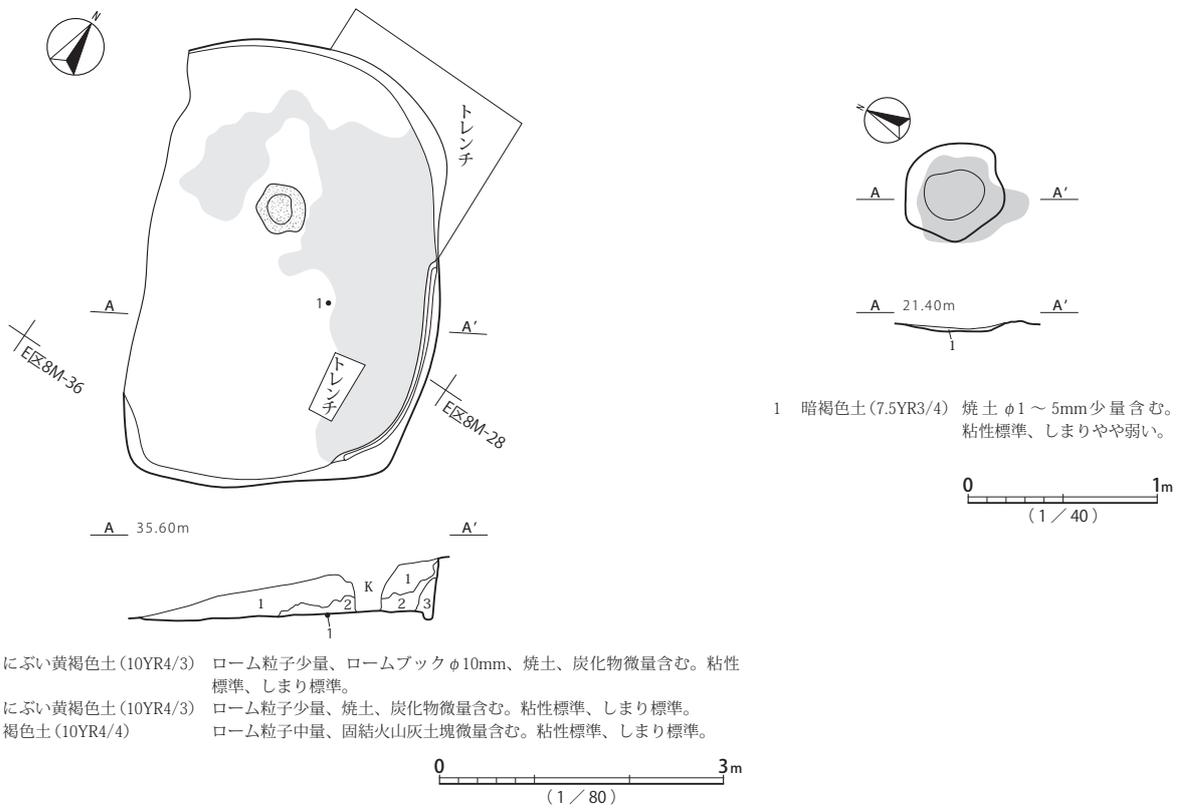
SI098 (第41・42図、第18表、図版4・18)

**位置：**E区8M-16グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複：**SI099を切る。  
**規模：**主軸(4.78)m、副軸(3.44)m、確認面からの深度0.36m。**形態：**隅丸方形と推測される。  
**主軸方位：**N-34°-W。**覆土：**3層に分けられ、にぶい黄褐色土が主体である。**炉：**竪穴中央やや北寄りに位置する。長軸0.52m、短軸0.52mで浅く窪む。**施設：**周溝は南東隅から北東壁中央にかけて検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の周囲から北東壁にかけて硬化している。

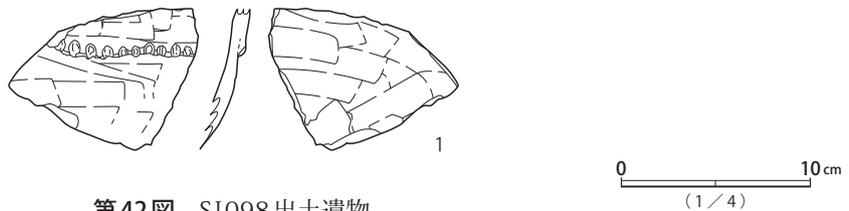
**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期中葉～後葉と考えられる。

**所見：**炉が検出されたが、支柱穴、周溝は検出されなかった。床面から甕(1)が出土している。

**遺物：**土器1813.9g、土製品1.8g、石器・石製品0.7g、縄文土器211.0gが出土した。1は甕とした。



第41図 SI098・炉



第42図 SI098出土遺物

第18表 SI098出土土器観察表

単位: cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	床面	口径: - 底径: - 器高: [5.5] 最大径: -	特徴: 輪積み痕1段残す 外面: 胴部ヘラナデ、輪積み部ヘラキザミ 内面: 胴部ヘラナデ	胎土: 石英・赤色粒・白色粒 焼成: 良好 色調: 橙 残存度: 胴部の破片	

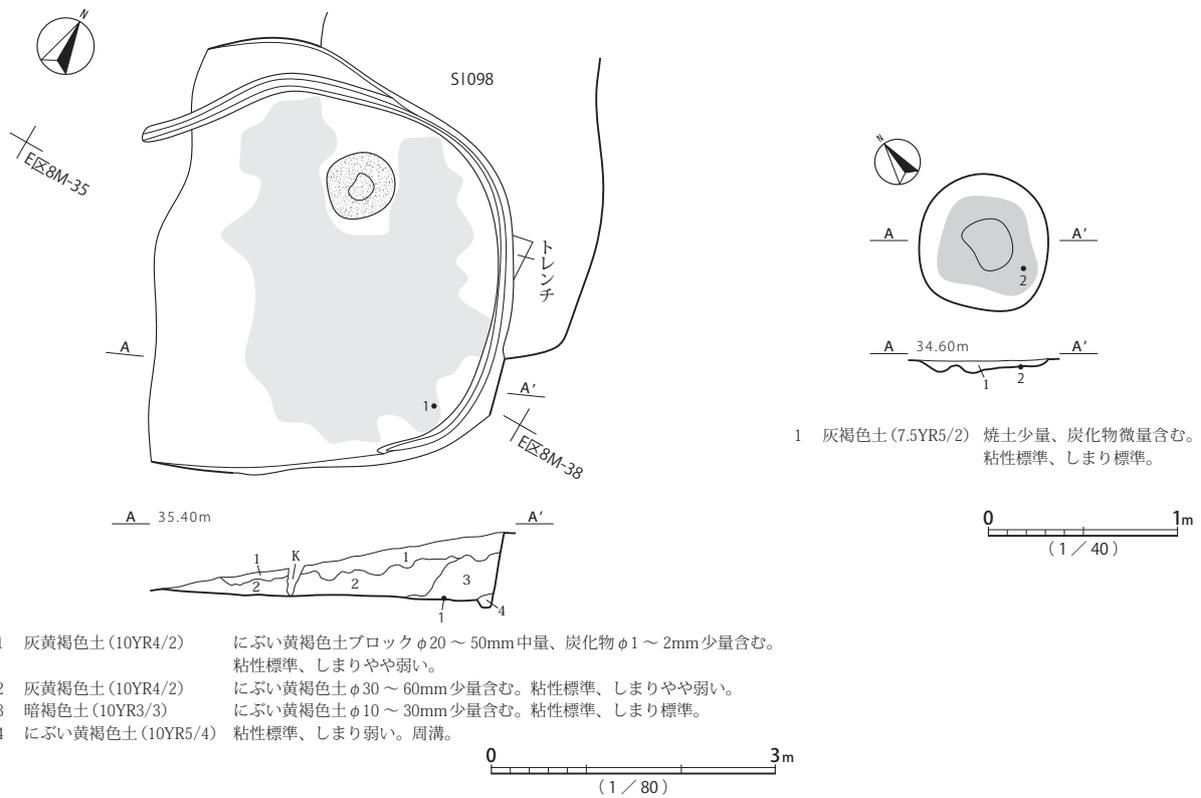
SI099 (第43・44図、第19表、図版4・18)

**位置：**E区8M-26グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複：**SI100・SZ001を切り、SI098に切られる。**規模：**主軸4.64m、副軸3.88m、確認面からの深度0.73m。**形態：**不定形。**主軸方位：**N-30°-W。**覆土：**4層に分けられる。**炉：**竪穴中央北寄りに位置する。長軸0.70m、短軸0.68mで浅く窪む。**施設：**周溝は南西壁沿いから西壁にかけて検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の周囲から床面南西側にかけて硬化している。

**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期中葉～後葉と考えられる。

**所見：**竪穴の西側は斜面による流失により消滅している。炉、周溝は検出されたが、支柱穴は検出されなかった。床面から甕(1)、炉の底面から壺(2)が出土している。

**遺物：**土器1749.6g、石器・石製品55.2g、縄文土器136.8gが出土した。1は甕、2は壺である。



第43図 SI099・炉



第44図 SI099出土遺物

第19表 SI099出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	床面	口径：(21.8) 底径：- 器高：[4.9] 最大径：(22.0)	外面：口唇部外から押圧、口縁部ヘラナデ、 頸部ヘラミガキ 内面：口縁部～頸部ヘラミガキ	胎土：長石・白色粒・橙色粒 焼成：良好 色調：橙 残存度：口縁部～頸部1/3	
2	弥生土器 壺	炉	口径：(17.6) 底径：- 器高：[3.4] 最大径：-	特徴：折返し口縁 外面：口唇部ナデ、折返し部単節縄文(RL)、 端部ヘラキザミ、頸部ナデ 内面：口縁部～頸部ヘラミガキ	胎土：石英・長石・黒色粒・ 白色粒 焼成：良好 色調：明赤褐 残存度：口縁部の破片	

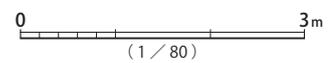
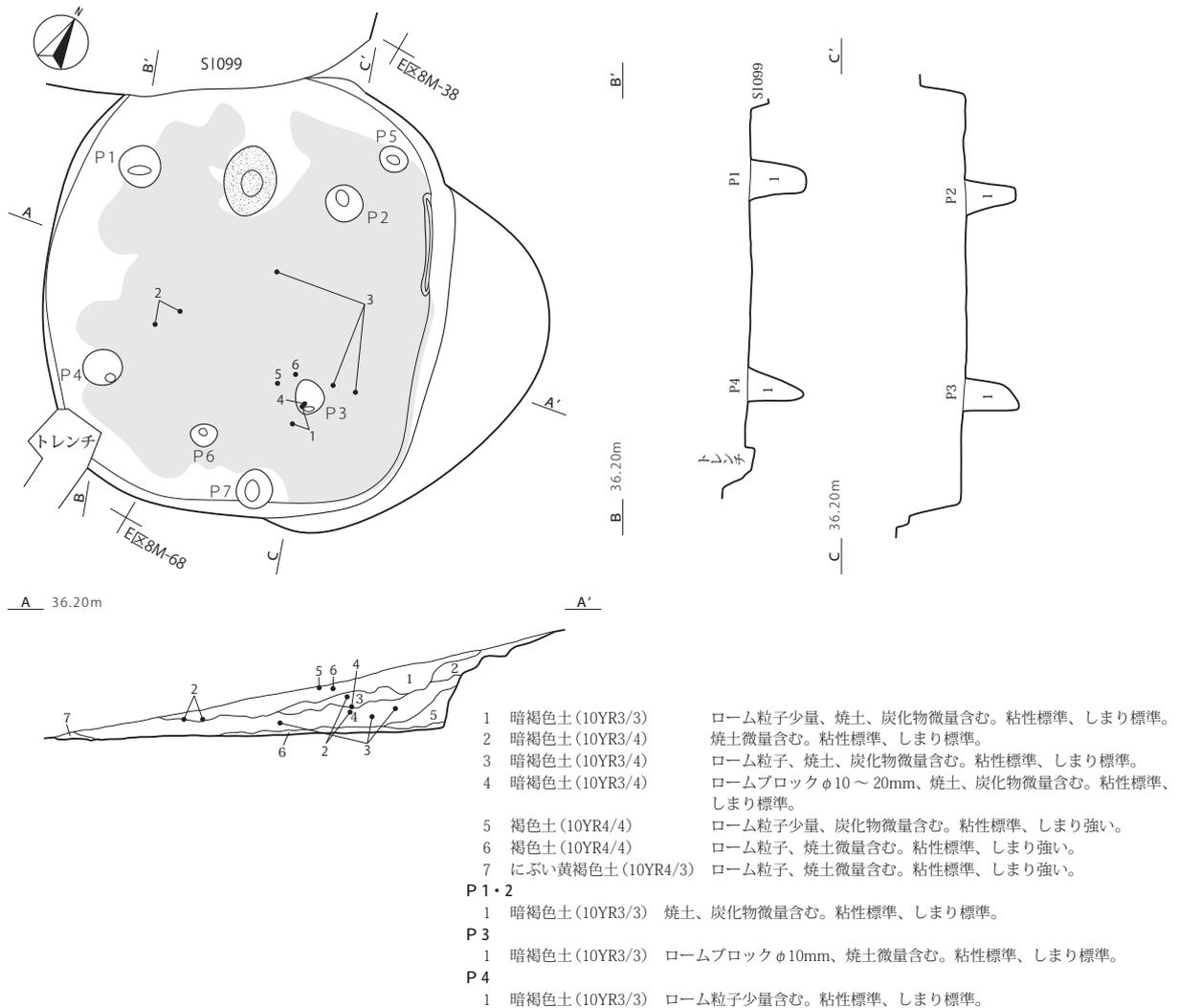
SI100 (第45～47図、第20・21表、図版5・18・20)

**位置：**E区8M-47グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複：**SI099に切られる。  
**規模：**主軸(4.88)m、副軸4.56m、確認面からの深度0.62m。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**N-30°-W。  
**覆土：**7層に分けられ、暗褐色土が主体である。**炉：**竪穴中央北寄りに位置する。長軸0.78m、短軸0.58m、深さ0.19m。**施設：**ピット7基が検出された。主柱穴はP1～4で、柱間は主軸方向2.28m、副軸方向2.24m。P6は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入口施設に伴うと考えられる。周溝は東壁沿いでわずかに検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、床面東側は壁沿いまで、西側は主柱穴の周囲までが硬化している。

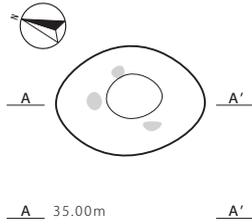
**時期：**出土遺物から弥生時代後期中葉～後葉と考えられる。

**所見：**東壁の上部は崩落によるものか、緩やかに広がっている。炉、主柱穴、周溝が検出された。

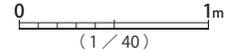
**遺物：**土器6644.1g、土製品4.8g、石器・石製品311.0g、縄文土器272.2gが出土した。1・6は壺、2は鉢、3・4は高坏、5は広口壺、7は土製円盤である。7は赤彩された壺の胴部片を用い、周囲を打ち欠いて円盤状に整形している。



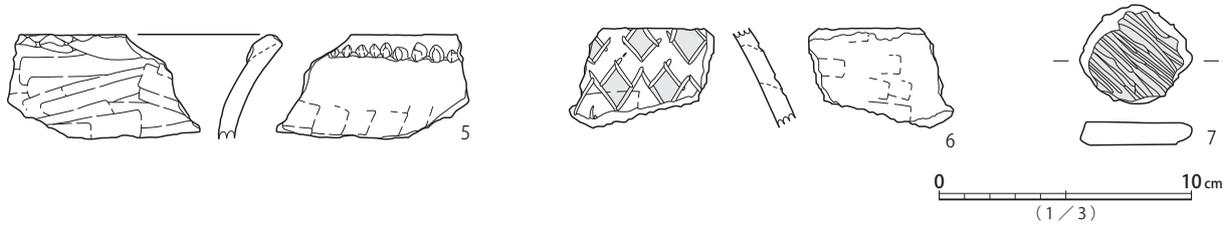
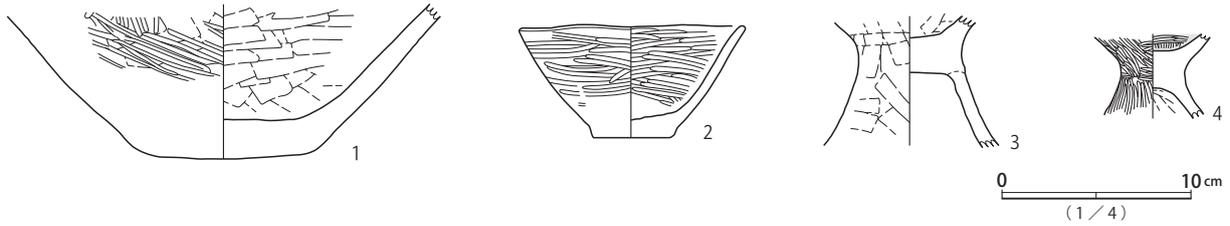
第45図 SI100



- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 焼土、炭化物微量含む。粘性標準、しまり標準。  
 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 焼土少量、炭化物微量含む。粘性標準、しまり標準。



第46図 SI100炉



第47図 SI100出土遺物

第20表 SI100出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器壺	覆土中層	口径：- 底径：9.4 器高：[8.2] 最大径：(22.8)	外面：胴部下半ヘラナデ後ヘラミガキ、底部ナデ、一部磨滅 内面：胴部下半ヘラナデ、底部ナデ	胎土：石英・長石・白色粒・黒色粒 焼成：普通 色調：橙 残存度：胴部下半～底部	
2	弥生土器鉢	覆土中層	口径：11.6 底径：4.1 器高：6.0 最大径：11.9	外面：口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ、底部ナデ 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラミガキ	胎土：金雲母・黒雲母・白色粒 焼成：普通 色調：明黄褐 残存度：ほぼ完存	
3	弥生土器高坏	覆土下層	口径：- 脚径：- 器高：[7.0] 最大径：9.2	外面：器受部～脚部ヘラナデ 内面：器受部ヘラナデ・ナデ、脚部ナデ	胎土：石英・黒色粒・白色粒 焼成：良好 色調：橙 残存度：器受部～脚部	
4	弥生土器高坏	覆土中層	口径：- 脚径：- 器高：[4.5] 最大径：-	外面：坏部下半～脚部ケズリ後ヘラミガキ 内面：坏部下半ヘラミガキ、赤彩、脚部ヘラナデ	胎土：石英・長石・黒色粒・白色粒 焼成：良好 色調：橙 残存度：坏部下半～脚部	
5	弥生土器広口壺	覆土上層	口径：- 底径：- 器高：[4.15] 最大径：-	特徴：内面に輪積み痕1段残す 外面：口唇部上から押圧、口縁部ヘラナデ後ナデ 内面：口縁部ヘラナデ後ナデ、輪積み部ヘラキザミ	胎土：石英・黒色粒・白色粒 焼成：良好 色調：橙 残存度：口縁部の破片	
6	弥生土器壺	覆土上層	口径：- 底径：- 器高：[4.0] 最大径：-	外面：胴部ヘラナデ後沈線区画による菱形文・山形文、菱形文内赤彩 内面：胴部ヘラナデ	胎土：石英・長石・黒色粒・白色粒 焼成：普通 色調：明褐 残存度：胴部の破片	

第21表 SI100出土土製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	重量(g)	備考
7	土製円盤	覆土	長さ：4.45 幅：3.9 厚さ：0.95 孔径：-	18.3	甕の土製円盤 表：ミガキ、赤彩 裏：ナデ

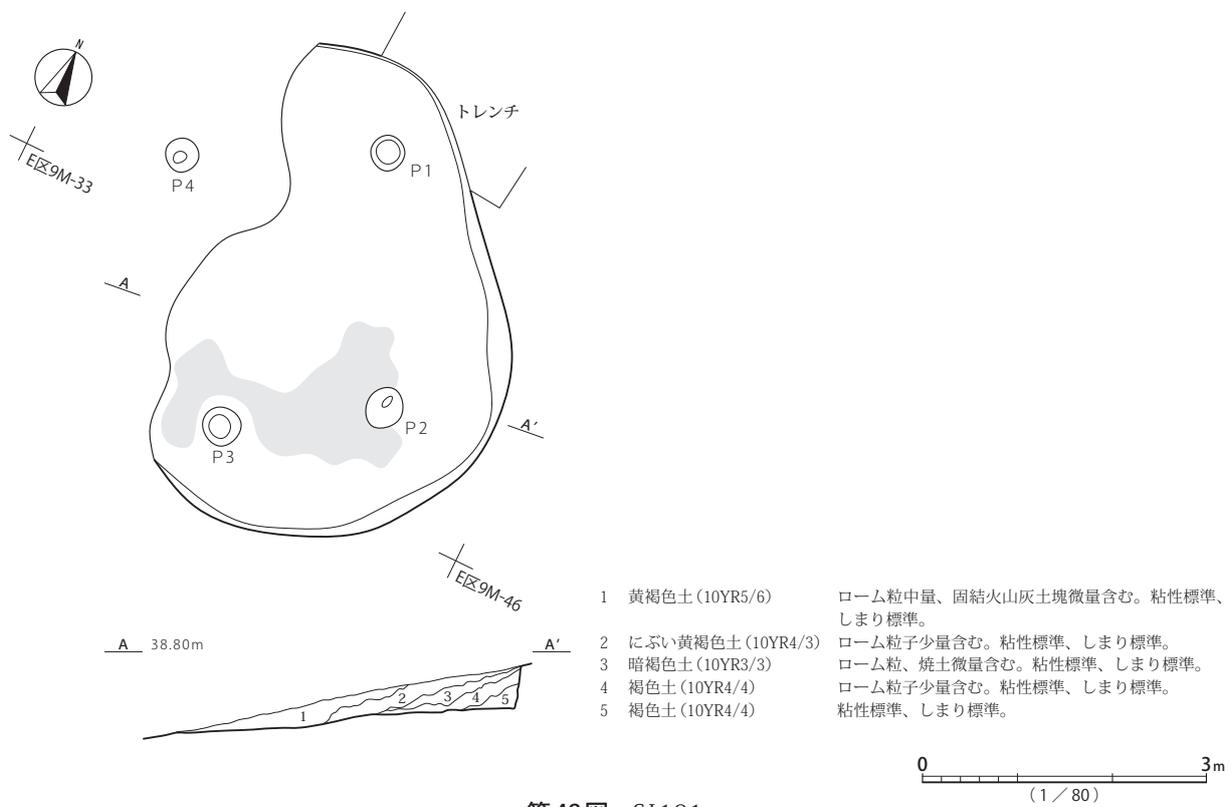
SI101 (第48・49図、第22表、図版5・18)

**位置：**E区9M-34グリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。**重複：**SI102を切る。  
**規模：**主軸5.24m、副軸3.80m、確認面からの深度0.41m。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**N-26°-W。  
**覆土：**5層に分けられる。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピット4基が検出された。主柱穴はP1～4で、柱間は主軸方向2.88m、副軸方向2.24m。周溝は検出されなかった。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、竪穴南側の一部が硬化している。

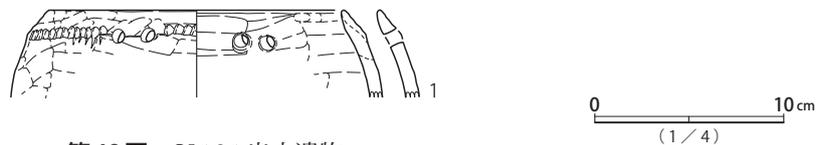
**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、弥生時代終末期と考えられる。

**所見：**主柱穴が検出されたが、炉、周溝は検出されなかった。P4は床面残存範囲外だが、配置から主柱穴とした。

**遺物：**土器186.2g、石器・石製品2.2gが出土した。1は埴である。口縁部に2箇所穿孔がある。



第48図 SI101



第49図 SI101 出土遺物

第22表 SI101 出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 埴	覆土	口 径：(15.4) 底 径： - 器 高： [4.6] 最大径：(21.5)	特徴：口縁部2箇所穿孔 外面：口縁部ヘラナデ、端部ヘラキザミ 内面：口縁部ナデ・指頭圧痕、ヘラナデ	胎 土：金雲母・石英・黒色 粒・赤色粒・白色粒・ 海綿骨針 焼 成：普通 色 調：橙 残存度：口縁部1/4	

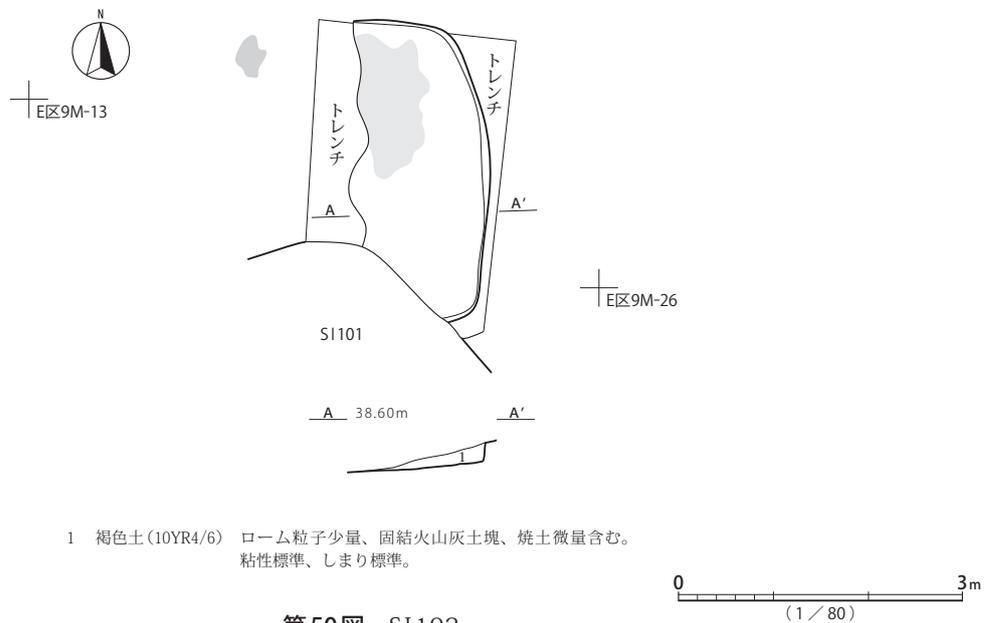
SI102 (第50図、図版5)

**位置：**E区9M-15グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複：**SI101に切られる。**規模：**長軸1m、短軸1m、確認面からの深度0.22m。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**不明。**覆土：**褐色土が主体の単層である。**炉：**検出されなかった。**施設：**周溝は検出されなかった。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、北壁沿いから中央にかけて硬化している。

**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期と考えられる。

**所見：**竪穴の西側は斜面による流失により消滅している。炉、支柱穴、周溝は検出されなかった。遺構残存範囲の外であるが、西側で被熱・焼土化した範囲を検出した。平面的な位置から炉址の可能性はある。全容が明らかではないが、壁面はほぼ垂直で立ち上がり、床面が水平に広がることから竪穴建物と判断した。

**遺物：**土器3.6gが出土したが、小破片のため図示しなかった。



第50図 SI102

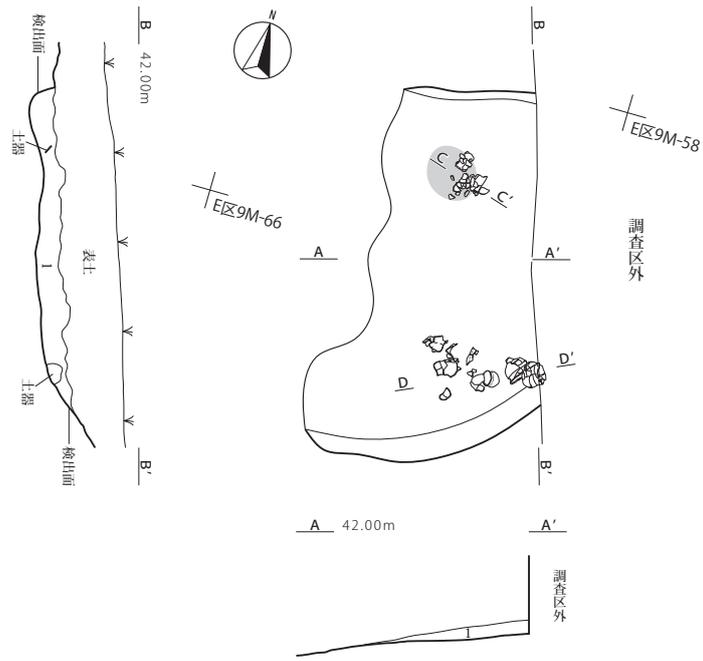
SI103 (第51～53図、第23表、図版5・18・19)

**位置：**E区9M-57グリッドを中心とする台地の北西向き緩斜面に位置する。**重複：**遺構の重複はない。東側は調査区外へ延びる。**規模：**長軸(3.96)m、短軸(2.48)m、確認面からの深度0.29m。**形態：**不定形。**主軸方位：**不明。**覆土：**暗褐色土の単層である。**炉：**検出されなかった。**施設：**周溝は検出されなかった。床面は掘り方を持たずソフトローム層を直接使用している。明確な硬化面は確認されなかった。

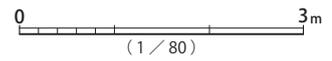
**時期：**出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

**所見：**炉、支柱穴、周溝は検出されなかった。床面の一部が被熱・焼土化しており、平面位置から炉址とも考えられる。覆土下層から甕5個体(1～5)がまとまって出土している。

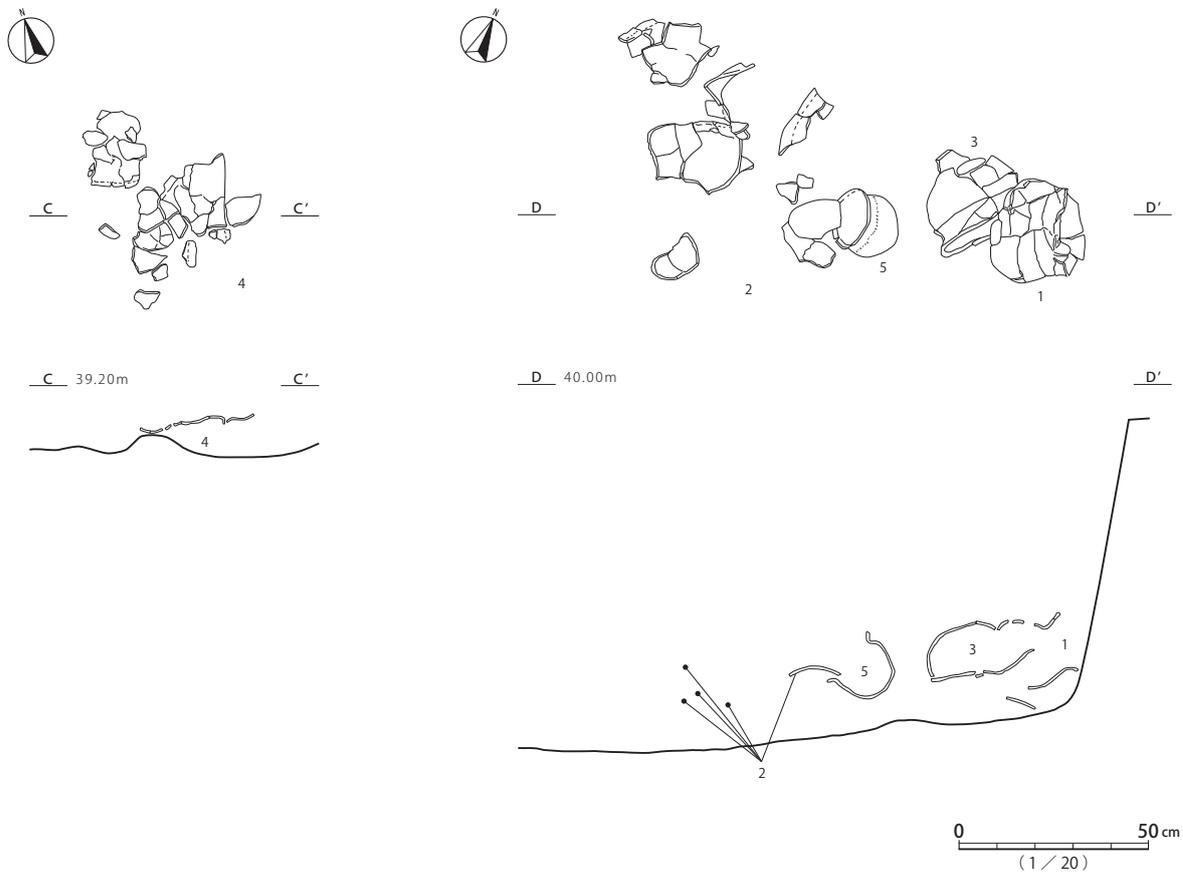
**遺物：**土器5993.2g、縄文土器13.3gが出土した。1～5は甕である。いずれも頸部に段を残す。5は外面が赤彩される。



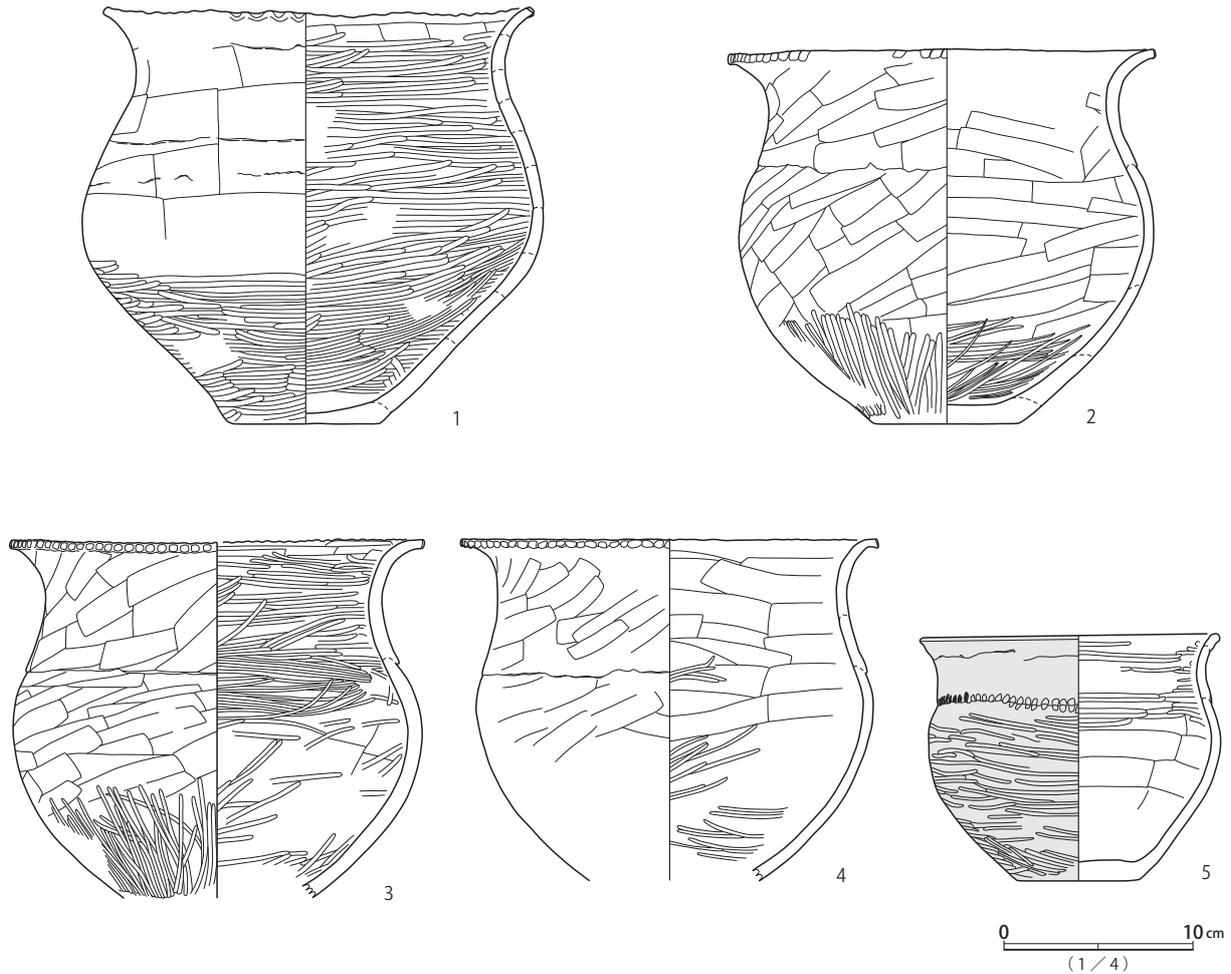
1 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ1~5mm少量、焼土φ1~3mm、炭化物φ1~5mm微量含む。  
粘性標準、しまりやや強い。



第51図 SI103



第52図 SI103遺物出土状況



第53図 SI103出土遺物

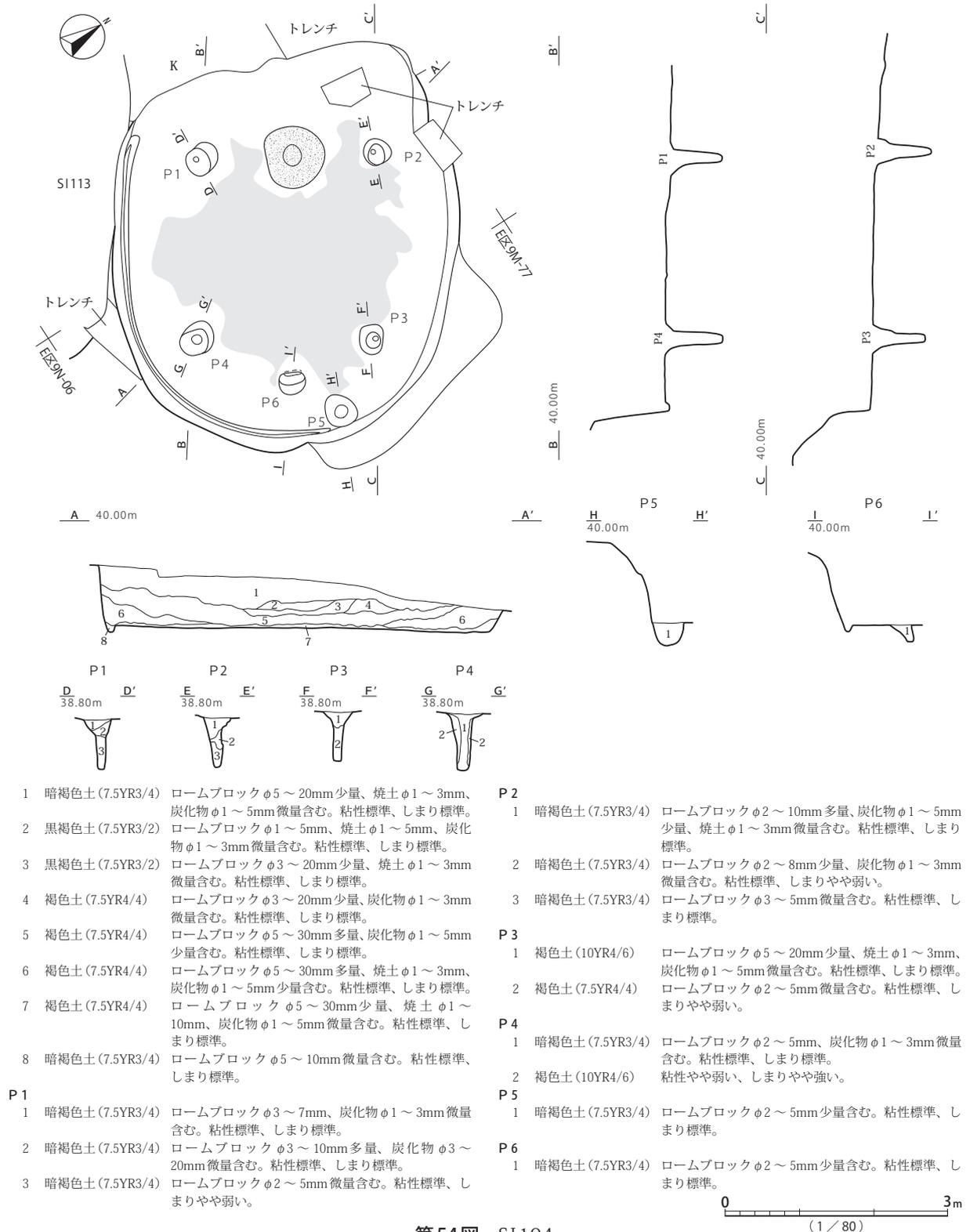
第23表 SI103出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	覆土下層	口径：22.3 底径：7.9 器高：22.1 最大径：24.3	外面：口唇部上からの押圧、口縁部～胴部上半ヘラナデ、胴部下半ヘラミガキ、底部ヘラナデ 内面：口縁部ヘラナデ、胴部～底部ヘラミガキ	胎土：金雲母・黒雲母・石英・長石・黒色粒・白色粒 焼成：良好 色調：橙 残存度：ほぼ完存	
2	弥生土器 甕	覆土下層	口径：22.2 底径：7.8 器高：19.9 最大径：22.5	外面：口唇部外からの押圧、口縁部～胴部上半ヘラナデ、胴部下半ヘラミガキ、底部ナデ 内面：口縁部コロナデ、胴部上半ヘラナデ、胴部下半～底部ヘラミガキ	胎土：石英・長石・黒色粒・白色粒 焼成：良好 色調：橙 残存度：ほぼ完存	
3	弥生土器 甕	覆土下層	口径：(21.5) 底径：- 器高：[19.0] 最大径：(21.8)	外面：工具による口唇部上からの押圧、口縁部～胴部上半ヘラナデ、胴部下半ヘラミガキ 内面：口唇部ヘラナデ、口縁部～胴部ヘラナデ後ヘラミガキ	胎土：長石・白色粒 焼成：良好 色調：橙 残存度：口縁部～底部	
4	弥生土器 甕	覆土下層	口径：21.8 底径：- 器高：[18.1] 最大径：20.9	特徴：輪積み痕1段残す 外面：口唇部外からの押圧、胴部上半ヘラナデ、胴部下半磨耗のため判別不明 内面：口縁部～胴部上半ヘラナデ、胴部下半ヘラミガキ	胎土：石英・長石・白色粒 焼成：良好 色調：橙 残存度：口縁部～胴部	
5	弥生土器 甕	覆土下層	口径：15.4 底径：6.4 器高：13.1 最大径：15.8	特徴：輪積み痕1段残す 外面：口縁部ヘラミガキ、赤彩、輪積み部縄文キザミ、赤彩、胴部ヘラミガキ、赤彩、底部ナデ、赤彩 内面：口縁部～肩部ヘラミガキ、胴部上半ヘラナデ、胴部下半～底部磨耗のため判別不明	胎土：黒雲母・石英・長石・白色粒 焼成：良好 色調：明赤褐 残存度：ほぼ完存	

SI104 (第54～56図、第24・25表、図版6・19・20)

**位置：**E区9M-86グリッドを中心とする台地の北西向き緩斜面に位置する。**重複：**SI113に切られる。**規模：**主軸5.56m、副軸4.68m、確認面からの深度0.52m。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**N-57°-W。**覆土：**8層に分けられ、褐色土が主体である。**炉：**竪穴中央北西寄りに位置する。長軸0.84m、短軸0.78mで浅く窪む。**施設：**ピット6基が検出された。主柱穴はP1～4で、柱間は主軸

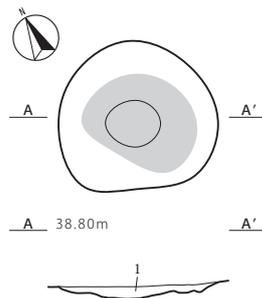


方向2.48 m、副軸方向2.36 m。P 6は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入口施設に伴うと考えられる。周溝は南壁沿いから東壁沿いにかけて検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の周囲から床面南側にかけて硬化している。

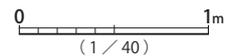
**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、弥生時代終末期と考えられる。

**所見：**東壁の上部は崩落によるものか、緩やかに広がっている。炉、周溝、支柱穴が検出された。床面はほぼ残存している。

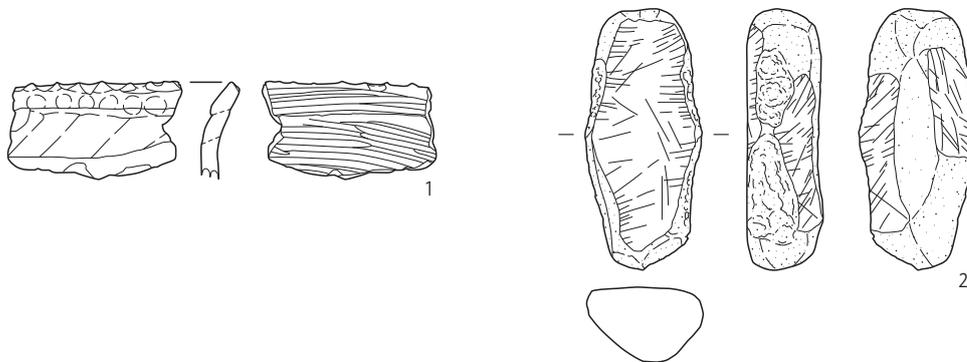
**遺物：**土器14370.9g、土製品30.0g、石製品247.2g、縄文土器223.8gが出土した。1は広口壺とした。2は磨石である。表面および側面に磨痕がみられる。



1 暗褐色土(7.5YR3/4) 焼土φ2~15mm多量含む。粘性標準、しまり標準。



第55図 SI104炉



第56図 SI104出土遺物

第24表 SI104出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 広口壺	覆土下層	口径： - 底径： - 器高： [3.9] 最大径： -	外面：口唇外からの押圧、口縁部ナデ・指頭圧痕、ヘラナデ・ナデ 内面：口唇部ナデ、口縁部ヘラミガキ	胎土：黒雲母・石英・長石・白色粒 焼成：普通 色調：橙 残存度：口縁部の破片	

第25表 SI104出土石製品観察表

単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量(g)	備考
2	磨石		覆土下層	10.4	4.6	3.0	226.9	磨：表、右、左各1面

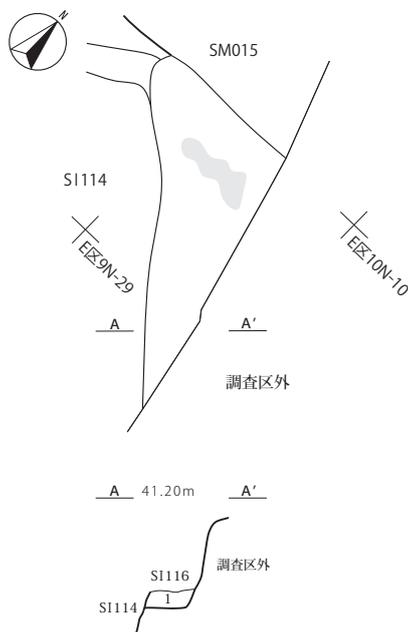
SI105 (第57・58図、第26表、図版6・19)

**位置：**E区9N-19グリッドを中心とする台地の北西向き緩斜面に位置する。**重複：**SI114・SI116に切られる。東側は調査区外へ延びる。**規模：**長軸3.76m、短軸1.48m、確認面からの深度0.18m。**形態：**不明。**主軸方位：**不明。**覆土：**単層である。**炉：**検出されなかった。**施設：**周溝は検出されなかった。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、ごく一部が硬化している。

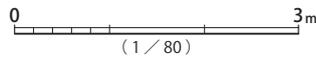
**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期中葉～後葉と考えられる。

**所見：**炉、支柱穴、周溝は検出されなかった。わずかな範囲の検出にとどまるが、周囲には竪穴建物が密集し、平坦な底面を持つことから竪穴建物と判断した。

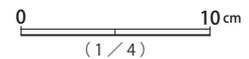
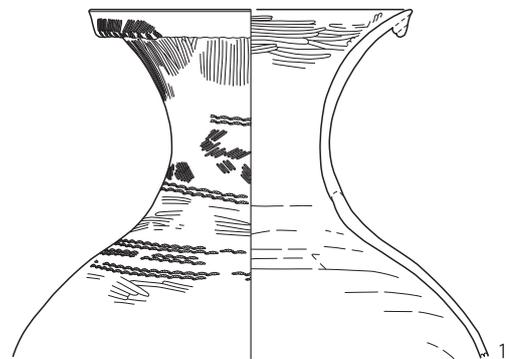
**遺物：**土器1289.8gが出土した。1は壺である。頸部から肩部にかけて2段のS字状結節が5条施されている。



1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ロームブロックφ5～50mm少量、焼土、炭化物微量含む。粘性弱い、しまり強い。



第57図 SI105



第58図 SI105出土遺物

第26表 SI105出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器壺	覆土下層	口径：(16.8) 底径：- 器高：[18.5] 最大径：-	特徴：折返し口縁 外面：口縁部単節縄文(LR)、端部縄文原体によるキザミ、頸部ヘラミガキ縦位、結節文(S2段)・単節羽状縄文(LR・RL)・結節文(S2段)、ヘラミガキ横位、胴部上半結節文(S6段)、ヘラミガキ 内面：口縁部ヘラミガキ、頸部ナデ、胴部上半ヘラナデ	胎土：黒色粒・白色粒 焼成：良好 色調：橙 残存度：口縁部～胴部上半	

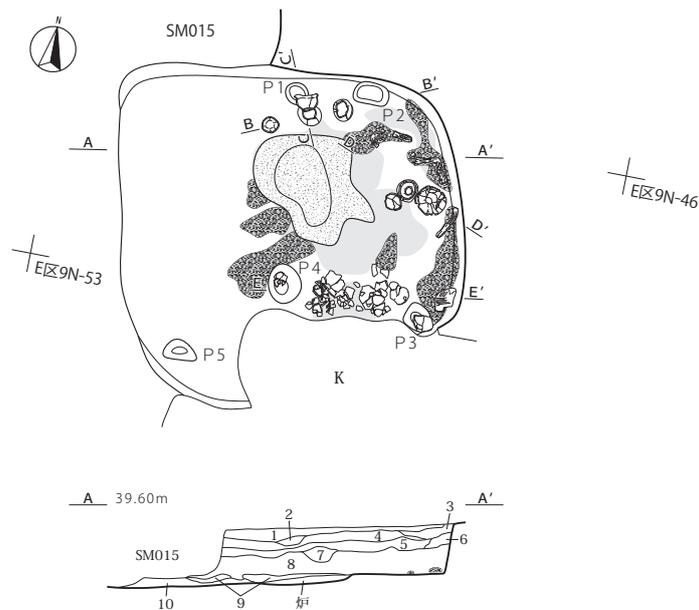
SI106 (第59～64図、第27表、図版6・19・20)

**位置：**E区9N-44グリッドを中心とする台地の北西向き緩斜面に位置する。**重複：**SI107を切り、SM015に切られる。南側の一部は攪乱される。**規模：**主軸(3.68)m、副軸(3.68)m、確認面からの深度0.51m。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**N-11°-W。**覆土：**10層に分けられ、暗褐色土が主体である。**炉：**竪穴中央やや北寄りに位置する。長軸1.50m、短軸1.06mで浅く窪む。**施設：**ピット5基が検出された。周溝は検出されなかった。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、床面東半分が硬化している。

**時期：**出土遺物から弥生時代後期中葉～後葉と考えられる。

**所見：**炉が検出されたが、支柱穴、周溝は検出されなかった。床面直上では炭化材が散在しており、床面は一部被熱・焼土化している。これらのことから焼却・焼失した竪穴建物と考えられる。炉の北西側では甕(7・8)、鉢(9)など残存率の比較的良好な土器が出土している。

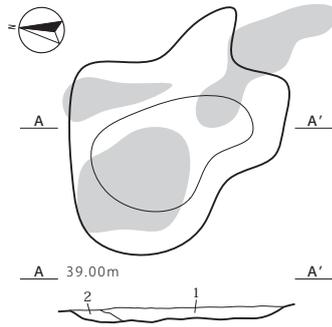
**遺物：**土器12189.5g、石器・石製品0.9g、縄文土器91.2gが出土した。1～6は壺、7・8は甕、9は鉢である。壺のうち5・6を除き外面に赤彩が施されている。甕は2点とも頸部に段を残す。



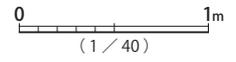
- 1 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ10～20mm多量、ローム粒子φ1mm、焼土φ1mm中量、固結火山灰土塊φ5mm少量含む。粘性標準、しまり強い。
- 2 赤褐色土(2.5YR4/8) ローム粒子φ1mm微量含む。粘性弱い、しまり非常に強い。
- 3 暗褐色土(7.5YR3/4) ロームブロックφ10～20mm多量、焼土φ5mm、炭化物φ1mm微量含む。粘性標準、しまり強い。
- 4 黒褐色土(10YR2/3) ロームブロックφ10～20mm中量、ローム粒子φ1mm少量、焼土φ1mm、炭化物φ1mm微量含む。粘性標準、しまり標準。
- 5 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ10～20mm中量、ローム粒子φ1mm、焼土φ1mm微量含む。粘性標準、しまり標準。
- 6 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ5mm多量、炭化物φ1mm微量含む。粘性標準、しまり標準。
- 7 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒子φ1mm中量、焼土φ1mm微量含む。粘性標準、しまり標準。
- 8 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ10～50mm、ローム粒子φ1mm多量、焼土φ1mm少量含む。粘性標準、しまり標準。
- 9 黒褐色土(10YR2/2) 焼土φ1～5mm、炭化物多量含む。粘性弱い、しまり弱い。
- 10 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ10～20mm多量含む。粘性標準、しまり標準。

0 3m  
(1/80)

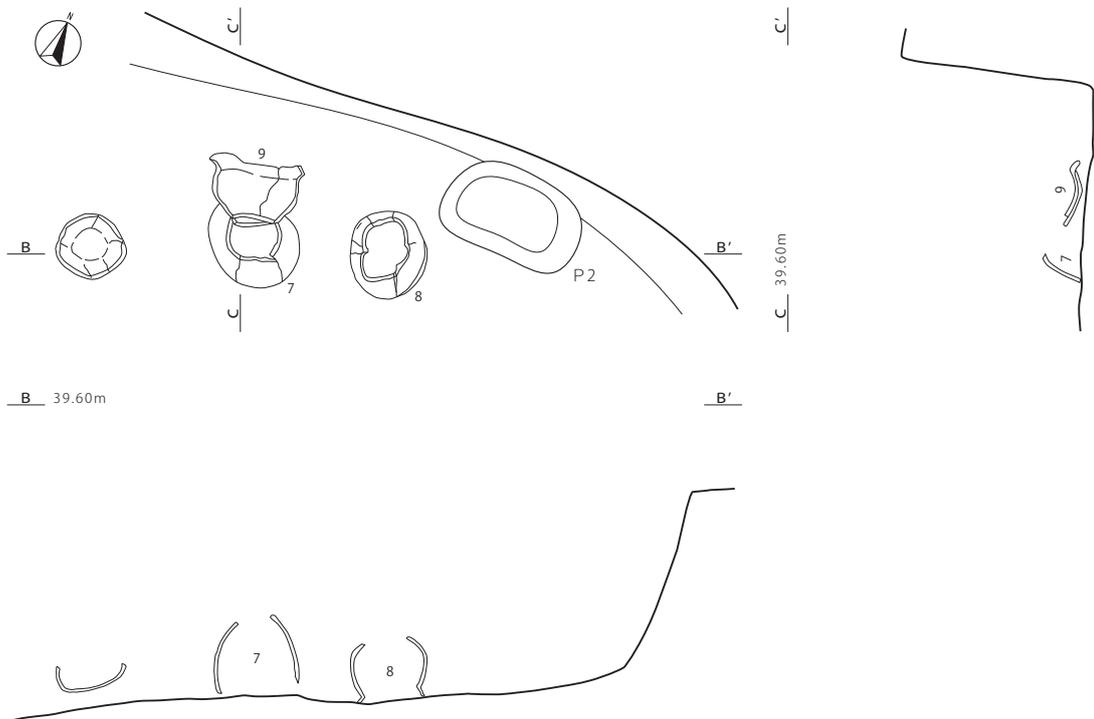
第59図 SI106



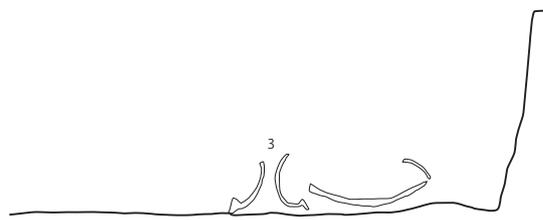
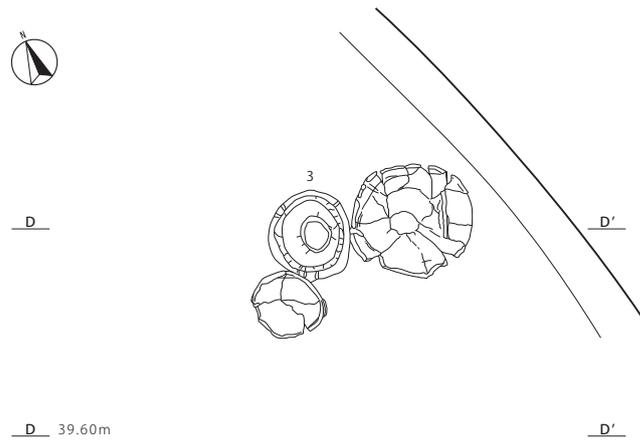
- 1 赤褐色土(2.5YR4/8) 炭化物多量含む。粘性弱い、しまり標準。
- 2 暗褐色土(7.5YR3/4) 焼土φ1mm多量含む。粘性標準、しまり標準。



第60図 SI106炉

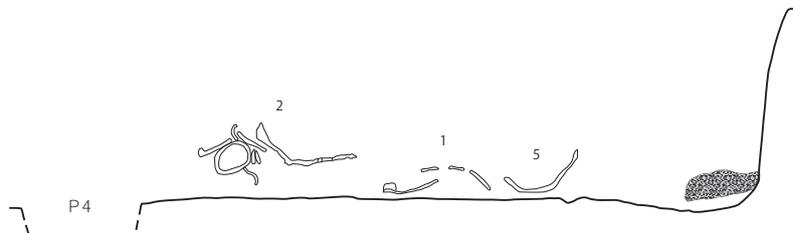
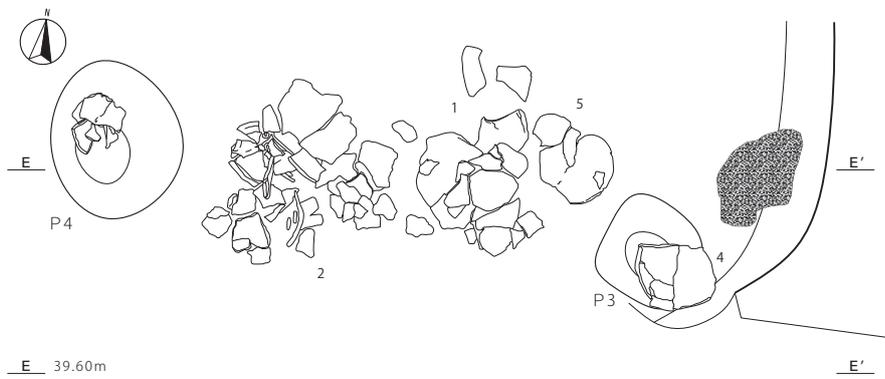


第61図 SI106遺物出土状況(1)



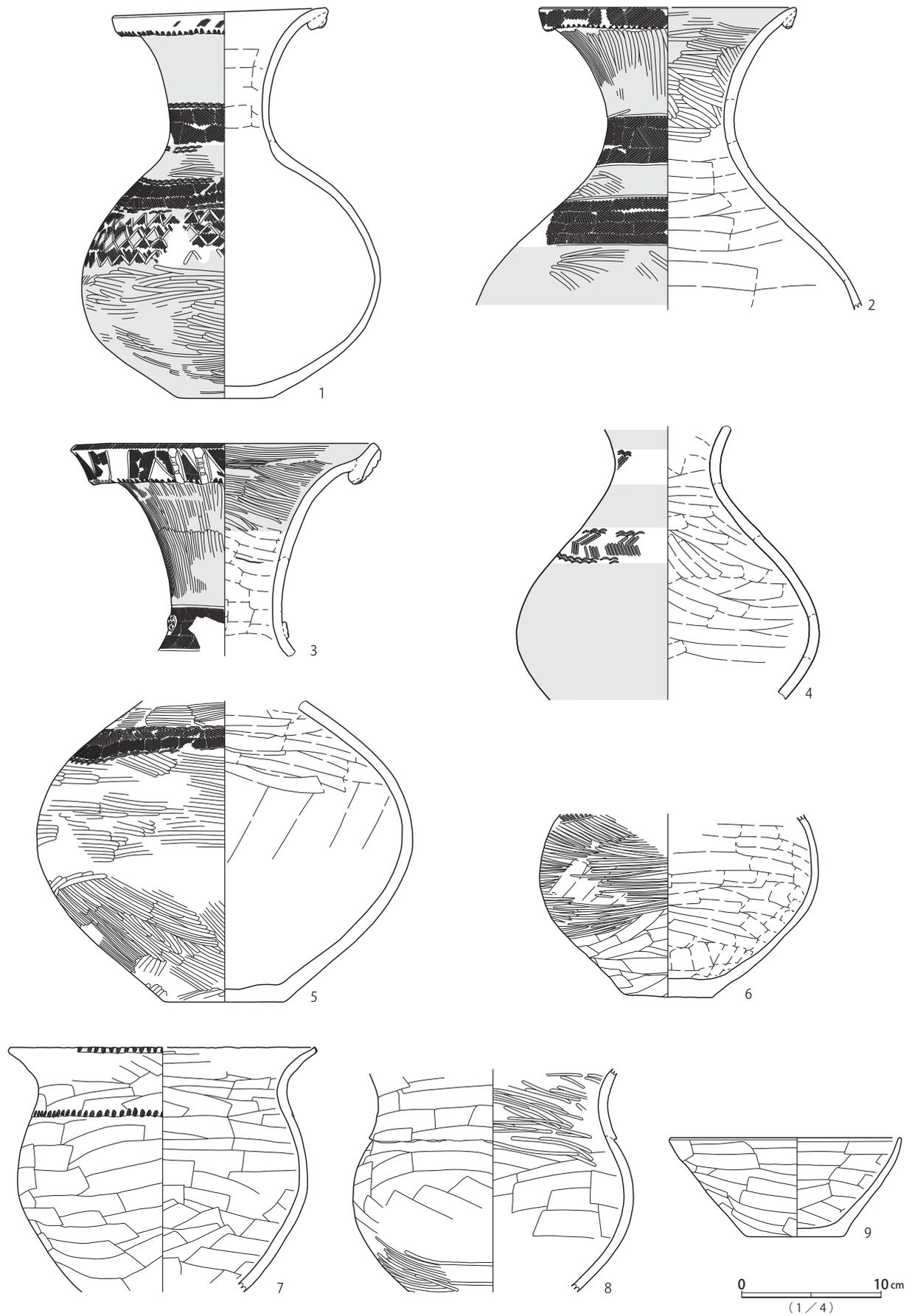
0 50 cm  
(1/20)

第62図 S1106遺物出土状況(2)



0 50 cm  
(1/20)

第63図 S1106遺物出土状況(3)



第64图 SI106出土遺物

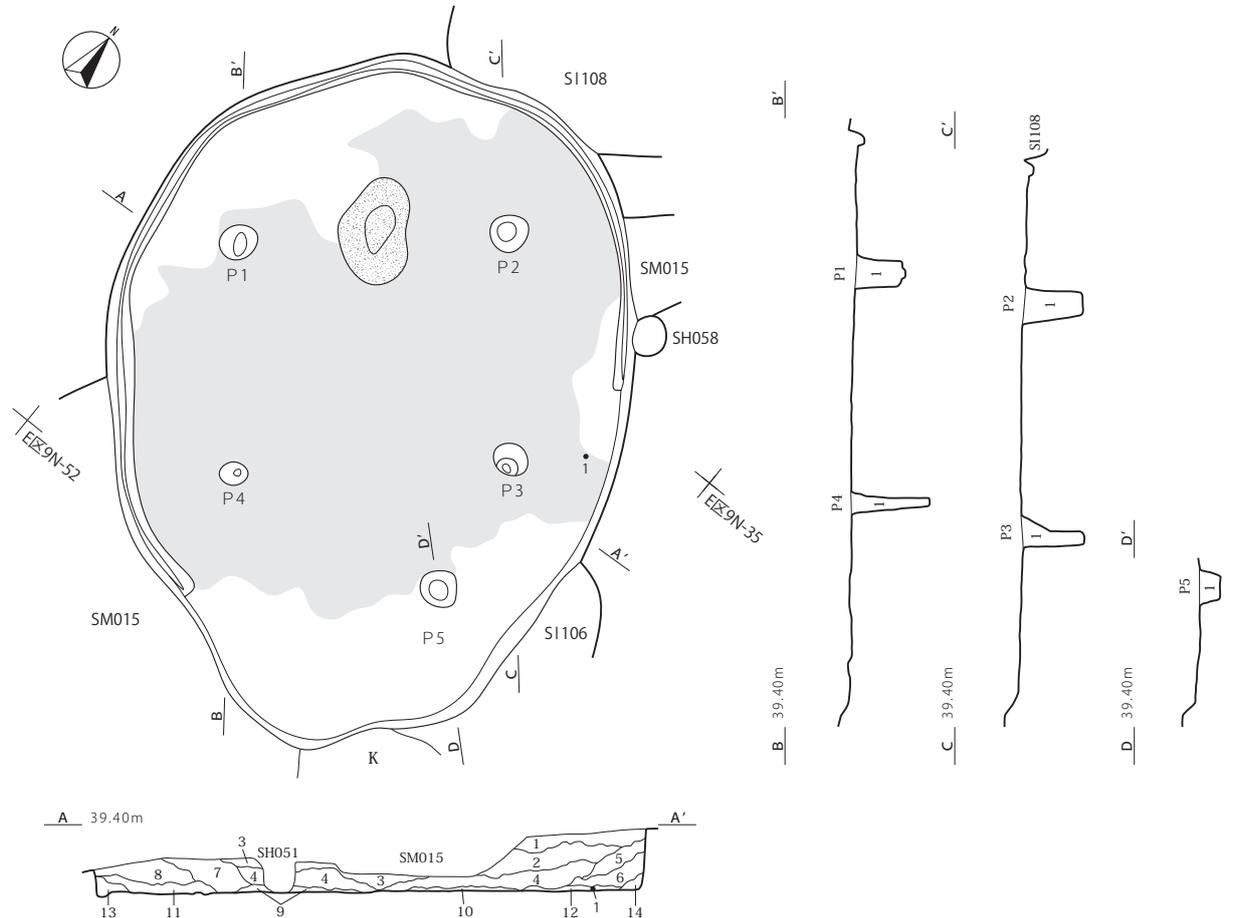
第27表 SI106出土土器観察表

単位：cm

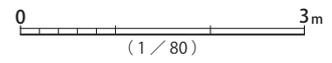
番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器壺	床面	口径：15.1 底径：6.8 器高：28.1 最大径：21.3	特徴：折返し口縁 外面：口縁部単節縄文(LR)、端部縄文原体によるキザミ、頸部上半磨耗のため判別不能、赤彩、頸部下半結節縄(S2段)・単節羽状縄文(RL・LR)・結節縄(S2段)、ヘラミガキ、胴部上半結節縄(S2段)・単節羽状縄文(LR・RL)後沈線による山形文・結節縄(S2段)、赤彩、胴部下半ヘラミガキ、赤彩、底部ナデ 内面：口縁部磨耗のため判別不能、頸部ヘラナデ、肩部～底部磨耗のため判別不能	胎土：石英・長石・黒色粒・白色粒・橙色粒 焼成：良好 色調：橙 残存度：ほぼ完存	
2	弥生土器壺	床面	口径：(18.0) 底径：- 器高：[21.4] 最大径：(27.4)	特徴：折返し口縁 外面：折返し部単節縄文(LR)、端部縄文原体によるキザミ、頸部ヘラミガキ縦位、赤彩、沈線横位4段で3区画、区画内単節羽状縄文(LR・RL・LR)、ヘラミガキ、赤彩、単節羽状縄文(LR・RL・LR・RL)、胴部上半ヘラミガキ 内面：口縁部ヘラミガキ横位、赤彩、頸部～胴部上半ヘラナデ	胎土：石英・長石・黒色粒・白色粒 焼成：良好 色調：橙 残存度：口縁部～胴部上半	
3	弥生土器壺	床面	口径：21.2 底径：- 器高：(15.3) 最大径：22.0	特徴：複合口縁 外面：口唇部単節縄文(LR)、口縁部単節羽状縄文(RL・LR)を施文後沈船で山形文と平行四辺形を区画・キザミのある棒状貼付文、端部縄文キザミ、頸部ヘラミガキ、赤彩、沈線横位2段・区画内単節羽状縄文(LR・RL)・6箇所刺突のある円形貼付文 内面：口縁部ヘラミガキ、赤彩、頸部ヘラナデ	胎土：石英・長石・黒色粒・白色粒 焼成：良好 色調：明赤褐 残存度：口縁部～頸部ほぼ完存	
4	弥生土器壺	床面	口径：- 底径：- 器高：[19.7] 最大径：(21.6)	外面：頸部ヘラミガキ、赤彩、単節縄文(LR)、一部磨耗のため判別不明、赤彩、胴部上半結節文(S2段)・単節羽状縄文(LR・RL)・結節縄(S2段)、胴部下半磨耗のため判別不明、赤彩 内面：口縁部～胴部ヘラナデ	胎土：石英・長石・黒色粒・白色粒 焼成：良好 色調：明赤褐 残存度：口縁部～胴部上半	
5	弥生土器壺	床面	口径：- 底径：8.5 器高：[21.6] 最大径：(26.8)	外面：肩部ヘラミガキ、結節文(S2段)・単節羽状縄文(RL・LR)・結節文(S2段)、胴部ヘラミガキ、底部ナデ 内面：肩部～胴部ヘラナデ、底部ナデ	胎土：石英・長石・黒色粒・赤色粒・白色粒・橙色粒 焼成：良好 色調：橙 残存度：肩部～底部	
6	弥生土器壺	床面	口径：- 底径：6.2 器高：[13.1] 最大径：(19.9)	外面：肩部単節縄文(LR)・沈線、胴部上半ヘラミガキ、ヘラナデ、胴部下半ヘラケズリ、底部ヘラケズリ 内面：肩部～底部ヘラナデ	胎土：石英・長石・黒色粒・白色粒・橙色粒 焼成：良好 色調：明赤褐 残存度：肩部～底部	
7	弥生土器甗	床面	口径：(21.8) 底径：- 器高：[17.6] 最大径：(22.0)	特徴：輪積み痕1段残す 外面：口唇部縄文原体によるキザミ、口縁部～頸部ヘラナデ、輪積み部キザミ、胴部ヘラナデ 内面：口縁部～胴部ヘラナデ	胎土：石英・長石・黒色粒・白色粒 焼成：良好 色調：橙 残存度：口縁部～胴部1/2	
8	弥生土器甗	床面	口径：17.2 底径：- 器高：- 最大径：20.0	外面：胴部上半ヘラナデ、胴部下半ヘラミガキ 内面：胴部上半ヘラミガキ、胴部下半ヘラナデ	胎土：石英・黒色粒・白色粒 焼成：良好 色調：橙 残存度：頸部～胴部	
9	弥生土器鉢	床面	口径：16.4 底径：6.9 器高：7.1 最大径：16.6	外面：口縁部～胴上半ヘラナデ、胴部下半～底部ヘラケズリ 内面：口縁部～底部ヘラナデ	胎土：石英・黒色粒・橙色粒 焼成：普通 色調：橙 残存度：ほぼ完存	

SI107 (第65～67図、第28表、図版7・20)

**位置：**E区9N-33グリッドを中心とする台地の北西向き斜面に位置する。**重複：**SI106に切られ、SI108を切る。**規模：**主軸7.46m、副軸5.60m、確認面からの深度0.58m。**形態：**隅丸方形。**主軸方位：**N-39°-W。**覆土：**14層に分けられる。**炉：**中央やや北寄りに位置する。長軸1.14m、短軸0.77mで浅く窪む。**施設：**ピット5基が検出された。主柱穴はP1～4で、柱間は主軸方向2.50m、



- |   |   |
|---|---|
| <p>1 暗褐色土 (10YR3/4)    ロームブロックφ1～30mm中量、焼土、炭化物微量含む。粘性なし、しまり強い。</p> <p>2 暗褐色土 (10YR3/4)    ロームブロックφ1～20mm中量、焼土少量、炭化物微量含む。粘性なし、しまり標準。</p> <p>3 暗褐色土 (10YR3/4)    ロームブロックφ1～10mm多量、焼土ブロックφ1～10mm、炭化物少量含む。粘性なし、しまり標準。</p> <p>4 暗褐色土 (7.5YR3/4)    ロームブロックφ1～10mm多量、焼土微量含む。粘性弱い、しまり強い。</p> <p>5 暗褐色土 (10YR3/4)    ロームブロックφ1～40mm多量、固結火山灰土塊、焼土微量含む。粘性弱い、しまり強い。</p> <p>6 暗褐色土 (10YR3/3)    ロームブロックφ1～10mm多量、焼土微量含む。粘性弱い、しまり標準。</p> <p>7 暗赤褐色土 (5YR3/2)    ロームブロックφ1～10mm多量、固結火山灰土塊微量含む。粘性弱い、しまり標準。</p> <p>8 暗褐色土 (10YR3/4)    ローム粒子中量、固結火山灰土塊少量、焼土微量含む。粘性弱い、しまり標準。</p> <p>9 暗褐色土 (10YR3/4)    ロームブロックφ1～10mm、炭化物少量含む。粘性なし、しまり標準。</p> <p>10 暗褐色土 (10YR3/4)    ロームブロックφ1～10mm、焼土少量含む。粘性なし、しまり標準。</p> <p>11 黒褐色土 (7.5YR3/2)    ロームブロックφ1～10mm多量含む。粘性なし、しまり標準。</p> | <p>12 暗赤褐色土 (5YR3/6)    焼土多量、炭化物微量含む。粘性なし、しまり強い。</p> <p>13 暗褐色土 (10YR3/4)    ローム粒子多量含む。粘性なし、しまり標準。</p> <p>14 暗赤褐色土 (5YR3/2)    ロームブロックφ1～10mm多量、固結火山灰土塊、焼土微量含む。粘性なし、しまり標準。</p> <p><b>P1</b></p> <p>1 暗褐色土 (10YR3/4)    ロームブロックφ1～10mm中量、固結火山灰土塊、焼土微量含む。粘性弱い、しまり標準。</p> <p><b>P2</b></p> <p>1 暗褐色土 (10YR3/4)    ロームブロックφ1～10mm少量、固結火山灰土塊、焼土、炭化物微量含む。粘性標準、しまり標準。</p> <p><b>P3</b></p> <p>1 暗褐色土 (10YR3/4)    ロームブロックφ1～10mm中量、固結火山灰土塊、焼土微量含む。粘性標準、しまり標準。</p> <p><b>P4</b></p> <p>1 暗褐色土 (10YR3/4)    ロームブロックφ1～10mm、固結火山灰土塊少量含む。粘性なし、しまり強い。</p> <p><b>P5</b></p> <p>1 暗赤褐色土 (5YR3/2)    ロームブロックφ1～20mm中量、焼土少量、炭化物微量含む。粘性なし、しまり標準。</p> |
|---|---|



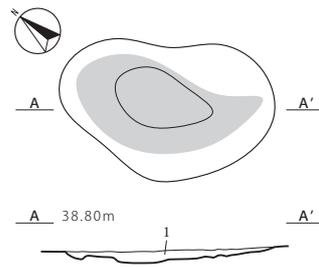
第65図 SI107

副軸方向2.84 m。P 5は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入口施設に伴うと考えられる。周溝は南壁および東壁の一部を除いて検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の周囲から出入口にかけて硬化している。

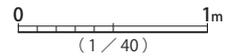
**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期前葉～中葉と考えられる。

**所見：**炉、支柱穴、周溝が検出された。床面は完存しており、床面直上からは鉢もしくは高坏（1）が出土している。

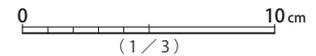
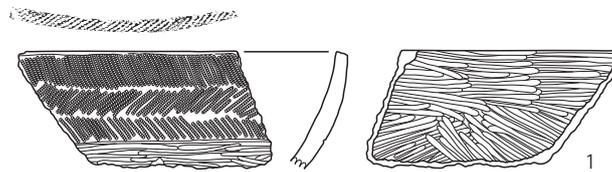
**遺物：**土器1481.3g、石器・石製品4.1g、縄文土器59.6gが出土した。1は鉢もしくは高坏である。口縁部の羽状縄文は沈線により区画される。内外面ともに赤彩はみられない。



1 暗赤褐色土(5YR3/2) ロームブロックφ1～5mm中量、固結火山灰土塊、焼土φ1～5mm少量含む。粘性なし、しまり強い。



第66図 SI107炉



第67図 SI107出土遺物

第28表 SI107出土土器観察表

				単位：cm		
番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 鉢・高坏	覆土下層	口 径： - 底 径： - 器 高： [4.7] 最大径： -	外面：口唇部単節羽状縄文(LR)、口縁部単節羽状縄文(RL・LR・RL)、体部上半沈線、ヘラミガキ 内面：口縁部～体部上半ヘラミガキ	胎 土：黒雲母・石英・白色粒・橙色粒 焼 成：良好 色 調：明赤褐 残存度：口縁部～体部上半の破片	

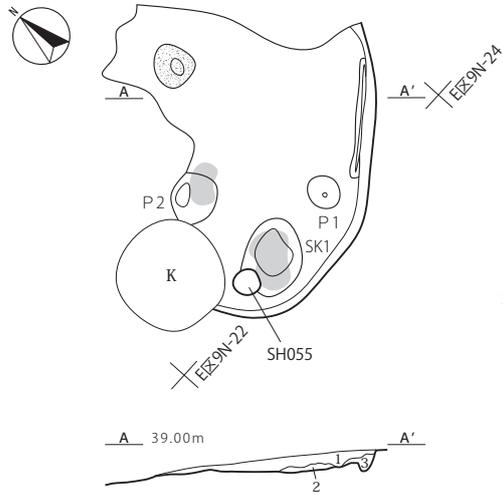
SI108 (第68～70図、図版7)

**位置：**E区9 N-13グリッドを中心とする台地の北西向き斜面に位置する。**重複：**SI107・SI113に切られる。**規模：**長軸(3.30) m、短軸2.92 m、確認面からの深度0.18 m。**形態：**隅丸方形と推測される。**主軸方位：**不明。**覆土：**3層に分けられる。**炉：**床面北側に位置する。長軸0.48 m、短軸0.43 mで浅く窪む。**施設：**ピット2基、土坑1基が検出された。SK1は長軸0.84 m、短軸0.63 m、深さ0.37 mである。覆土中に焼土を少量含んでいる。周溝は南西壁沿いで検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

時期：出土遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期以前と考えられる。

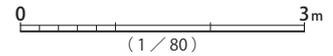
所見：炉、周溝が検出されたが、支柱穴は検出されなかった。

遺物：土器144.2gが出土したが、小破片のため図示していない。

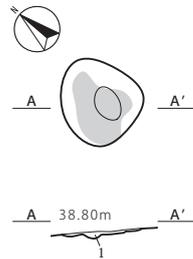


SI108

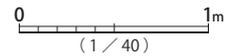
- |   |                |   |
|---|----------------|---|
| 1 | 黒褐色土(7.5YR3/2) | ロームブロックφ1~20mm中量、固結火山灰土塊、炭化物少量、焼土微量含む。粘性なし、しまり標準。 |
| 2 | 暗赤褐色土(5YR3/2)  | ロームブロックφ1~20mm多量、固結火山灰土塊少量含む。粘性弱い、しまり強い。          |
| 3 | 黒褐色土(7.5YR3/2) | ロームブロックφ1~20mm中量含む。粘性なし、しまり強い。                    |



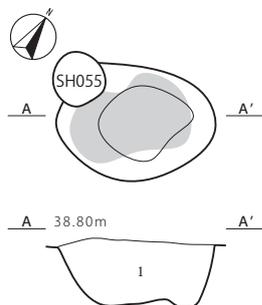
第68図 SI108



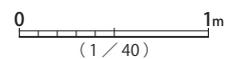
- |   |               |                                    |
|---|---------------|------------------------------------|
| 1 | 暗赤褐色土(5YR3/2) | ロームブロックφ1~5mm中量、焼土少量含む。粘性なし、しまり標準。 |
|---|---------------|------------------------------------|



第69図 SI108 炉



- |   |                |  |
|---|----------------|--|
| 1 | 暗褐色土(7.5YR3/4) | 焼土粒子多量、ロームブロックφ1~10mm中量、焼土ブロックφ30~75mm少量含む。粘性なし、しまり強い。 |
|---|----------------|--|



第70図 SI108SK1

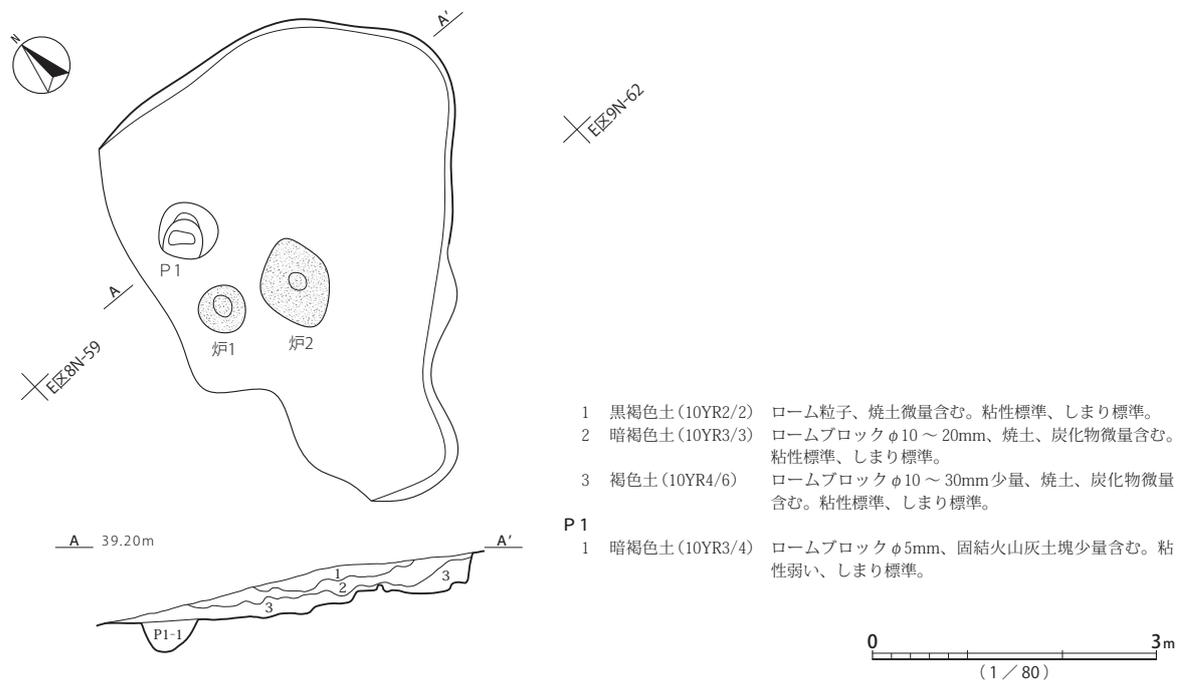
SI109 (第71・72図、図版7)

**位置：**E区9N-50グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複：**SI110を切る。  
**規模：**長軸(4.96)m、短軸(3.80)m、確認面からの深度0.40m。**形態：**不定形。**主軸方位：**不明。  
**覆土：**3層に分けられる。**炉：**2基が検出された。炉1は長軸0.50m、短軸0.50m。炉2は長軸0.80m、短軸0.72m。どちらも浅く窪む。**施設：**ピット1基が検出された。周溝は検出されなかった。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

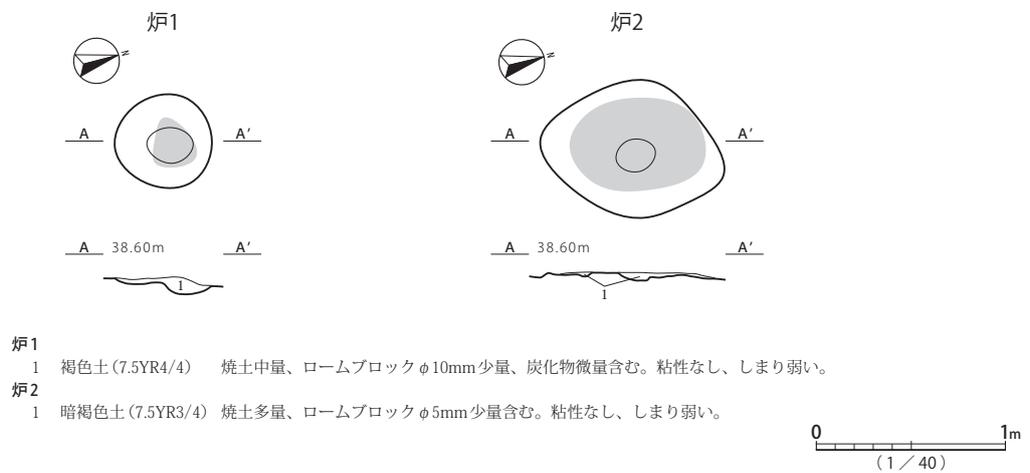
**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期～終末期と考えられる。

**所見：**平面形が不定形であるが、これは斜面の地すべりの影響からと考えられる。2基の炉のいずれか一方はSI110に伴う可能性もある。

**遺物：**土器1664.4g、縄文土器26.8gが出土したが、小破片のため図示していない。



第71図 SI109



第72図 SI109炉1・2

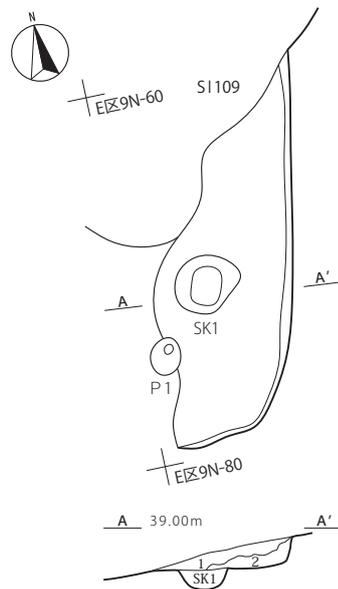
SI110 (第73・74図、図版7)

**位置**：E区9N-70グリッドを中心とする台地の西向き斜面に位置する。**重複**：SI109に切られる。  
**規模**：長軸(4.24)m、短軸(1.48)m、確認面からの深度0.32m。**形態**：隅丸方形と推測される。**主軸方位**：不明。**覆土**：2層に分けられ、暗褐色土が主体である。**炉**：検出されなかった。**施設**：ピット1基、土坑1基が検出された。SK1は長軸0.68m、短軸0.60m、深さ0.28mである。周溝は検出されなかった。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

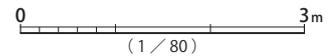
**時期**：出土遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期～終末期と考えられる。

**所見**：炉、支柱穴、周溝は検出されなかった。SI109の炉1・2のいずれかは本遺構に伴う可能性がある。

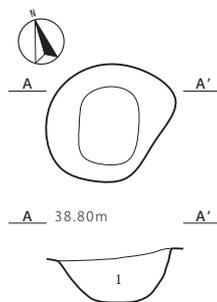
**遺物**：土器321.7gが出土したが、小破片のため図示していない。



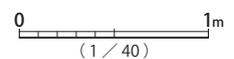
- 1 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ1～10mm、炭化物少量、焼土微量含む。粘性弱い、しまり標準。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ1～20mm中量、炭化物微量含む。粘性弱い、しまり標準。



第73図 SI110



- 1 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ1～20mm中量、固結火山灰土塊少量、炭化物微量含む。粘性弱い、しまり強い。



第74図 SI110SK1

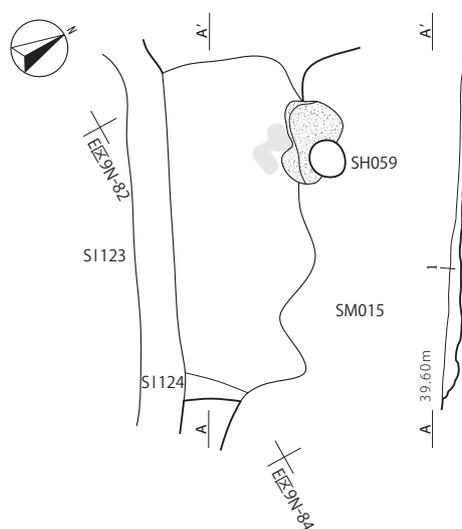
SI111 (第75・76図、図版8)

**位置：**E区9N-72グリッドを中心とする台地の南西向き斜面に位置する。**重複：**SI124・SM015に切られる。**規模：**長軸(3.64)m、短軸(1.88)m、確認面からの深度0.11m。**形態：**不明。**主軸方位：**不明。**覆土：**暗褐色土の単層である。**炉：**床面西側に位置する。長軸0.86m、短軸0.62mで浅く窪む。**施設：**周溝は検出されなかった。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の南側のごく一部が硬化している。

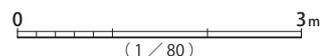
**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期～終末期と考えられる。

**所見：**炉が検出されたが、支柱穴、周溝は検出されなかった。

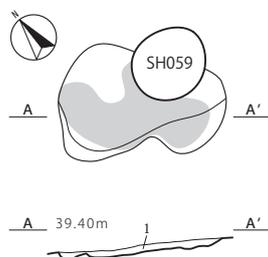
**遺物：**土器175.1gが出土したが、小破片のため図示していない。



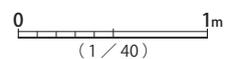
- 1 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ1～10mm中量、焼土微量含む。  
粘性弱い、しまり標準。



第75図 SI111



- 1 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ1～5mm、焼土少量、炭化物微量含む。粘性なし、しまり標準。



第76図 SI111炉

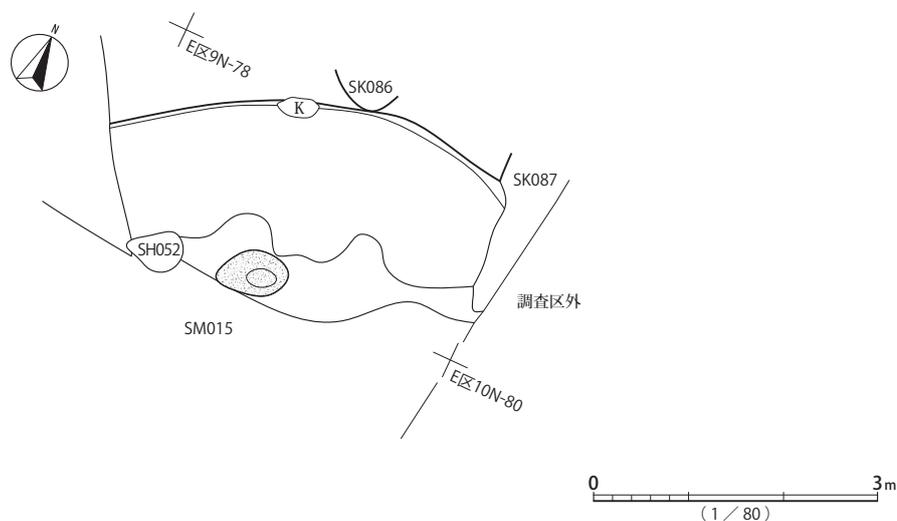
SI112 (第77・78図、図版8)

**位置**：E区9N-78グリッドを中心とする台地の南向き緩斜面に位置する。**重複**：SM015・SK087に切られる。西側は攪乱される。**規模**：長軸(4.12)m、短軸(2.04)m、確認面からの深度0.13m。**形態**：隅丸方形と推測される。**主軸方位**：不明。**覆土**：単層である。**炉**：北壁寄りに位置する。長軸0.76m、短軸0.48m、深さ0.24m。柱穴状の掘り込みを持つ。**施設**：周溝は検出されなかった。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

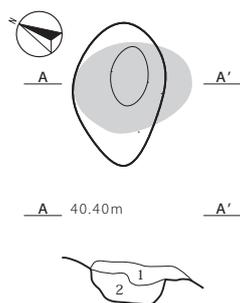
**時期**：出土遺物が少なく断定はできないが、弥生時代後期～終末期と考えられる。

**所見**：炉が検出されたが、支柱穴、周溝は検出されなかった。

**遺物**：土器336.8gが出土したが、小破片のため図示していない。



第77図 SI112



- 1 黒褐色土(10YR2/3) 焼土φ1～10mm多量、ローム粒子φ1mm中量含む。  
粘性標準、しまり標準。
- 2 暗褐色土(7.5YR3/4) ロームブロックφ30mm中量、焼土φ10mm微量含む。  
粘性標準、しまり標準。



第78図 SI112炉

## 2. 溝

### SD010 (第79図、図版8)

**位置：**E区9N-49～69グリッドに位置する。**重複：**SD011を切る。東側は調査区外へ延びる。

**規模：**全長(5.04)m、幅1.32m、確認面からの深度0.32m。**長軸方位：**N-59°-E。**形態：**L字状に伸びる。底面はほぼ平坦である。高低差は0.22mで西側が低い。**覆土：**にぶい黄褐色土の単層である。

**時期：**重複関係から弥生時代と考えられる。

**所見：**調査区外に伸びるため、部分的な検出範囲の形状から溝とした。水性堆積は認められない。

**遺物：**遺物は出土しなかった。

### SD011 (第79図、図版8)

**位置：**E区9N-49～59グリッドに位置する。**重複：**SI114・SD010に切られる。東側は調査区外へ延びる。

**規模：**全長(3.96)m、幅(0.72)m、確認面からの深度0.32m。**長軸方位：**N-58°-E。

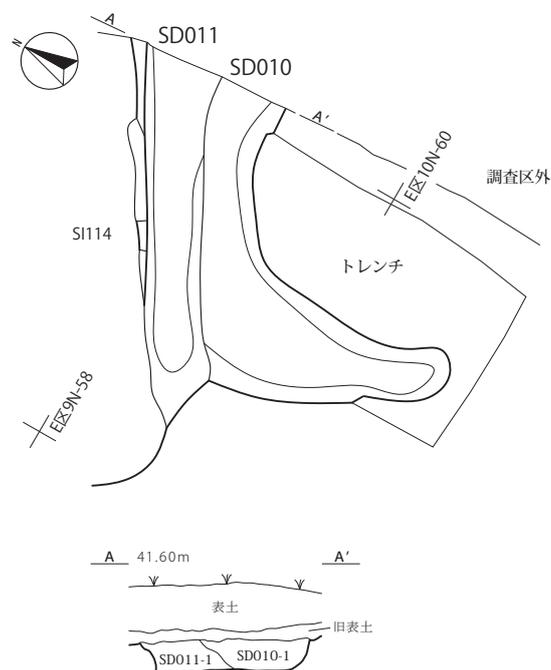
**形態：**北東-南西方向に直線的に伸びる。底面はほぼ平坦である。高低差は0.24mで西側が低い。

**覆土：**褐色土の単層である。

**時期：**重複関係から弥生時代と考えられる。

**所見：**調査区外に伸びるため、部分的な検出範囲の形状から溝とした。水性堆積は認められない。

**遺物：**土器332.1g、縄文土器15.2gが出土したが、小破片のため図示していない。

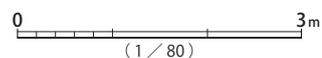


#### SD010

- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ロームブロックφ5～20mm少量、固結火山灰土塊、焼土微量含む。粘性標準、しまり標準。

#### SD011

- 1 褐色土(10YR4/6) ロームブロックφ5～20mm少量、炭化物微量含む。粘性標準、しまり標準。



第79図 SD010・SD011

### 3. 土 坑

#### SK074 (第80図、図版8)

**位置：**E区9K-60グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。東側は調査区外へ延びる。**規模：**長軸(4.98)m、短軸(1.92)m、確認面からの深度0.77m。**長軸方位：**N-12°-W。**形態：**不定形。底面には凹凸があり、北側の壁面はほぼ垂直に立ち上がり、南側は緩やかに立ち上がる。**覆土：**3層に分けられ、暗褐色土が主体である。

**時期：**覆土から弥生時代と考えられる。

**遺物：**土器11.4g、縄文土器28.7gが出土したが、小破片のため図示していない。

#### SK075 (第80図、図版8)

**位置：**E区8K-68グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.28m、短軸1.14m、確認面からの深度0.42m。**長軸方位：**N-3°-E。**形態：**円形。断面形は底面の平坦面がわずかな皿状である。**覆土：**3層に分けられる。

**時期：**覆土から弥生時代と考えられる。

**遺物：**遺物は出土しなかった。

#### SK076 (第80図、図版8)

**位置：**E区8L-39グリッドを中心に位置する。**重複：**SD009aに切られる。**規模：**長軸1.72m、短軸1.28m、確認面からの深度0.48m。**長軸方位：**N-78°-W。**形態：**長方形。底面はほぼ平坦で断面形は逆台形となる。**覆土：**5層に分けられる。

**時期：**重複関係から弥生時代と考えられる。

**遺物：**遺物は出土しなかった。

#### SK077 (第80図、図版8)

**位置：**E区8L-37グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.16m、短軸0.72m、確認面からの深度0.29m。**長軸方位：**N-86°-E。**形態：**楕円形。底面にはわずかに凹凸があり、壁面は緩やかに立ち上がる。**覆土：**2層に分けられる。

**時期：**覆土から弥生時代と考えられる。

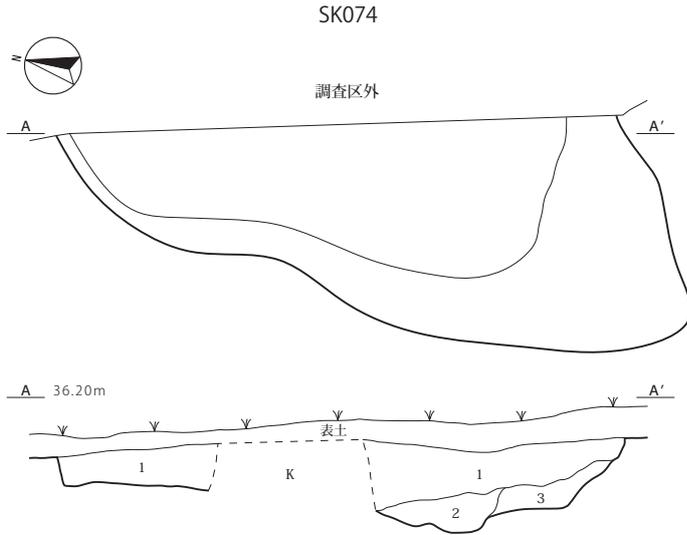
**遺物：**土器41.6gが出土したが、小破片のため図示していない。

#### SK078 (第81・82図、第29表、図版9・20)

**位置：**E区8L-75グリッドを中心に位置する。**重複：**SD009cに切られる。**規模：**長軸3.68m、短軸3.16m、確認面からの深度1.26m。**長軸方位：**N-49°-E。**形態：**方形。下位は円形の土坑状で、壁面に段差を持つ。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。**覆土：**7層に分けられる。

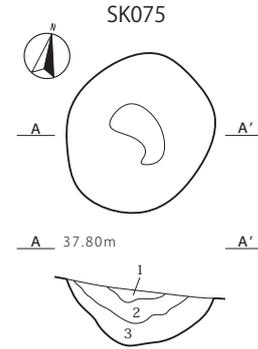
**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、弥生時代と考えられる。

**遺物：**土器2168.5g、石器・石製品9.9g、縄文土器196.0gが出土した。1は鉢もしくは高坏の口縁部であろうか。3箇所穿孔がある。



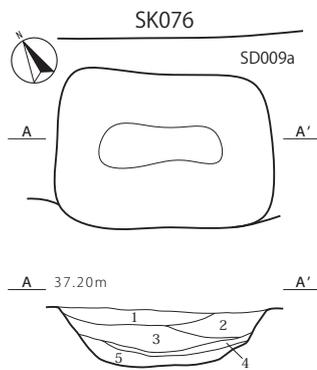
**SK074**

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 固結火山灰土塊、焼土φ1mm 微量含む。粘性標準、しまり標準。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) ロームブロック、焼土φ1mm 微量含む。粘性標準、しまり標準。
- 3 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロックφ1mm 微量含む。粘性標準、しまり標準。



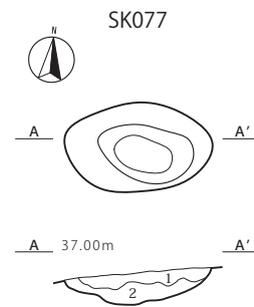
**SK075**

- 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 焼土、固結火山灰土塊微量含む。粘性やや弱い、しまりやや弱い。
- 2 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ロームブロックφ10～20mm 微量含む。粘性標準、しまり標準。
- 3 黄褐色土 (10YR5/6) ロームブロックφ5～10mm、焼土微量含む。粘性標準、しまり標準。



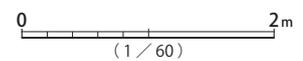
**SK076**

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロックφ1mm 少量含む。粘性標準、しまりなし。
- 2 褐色土 (10YR4/4) ロームブロックφ5mm 少量含む。粘性なし、しまりなし。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) ロームブロックφ5～20mm 少量含む。粘性なし、しまりなし。
- 4 黒褐色土 (10YR2/3) ロームブロックφ1～5mm、焼土φ1～5mm 少量含む。粘性なし、しまりなし。
- 5 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロックφ1～5mm 少量含む。粘性なし、しまりなし。

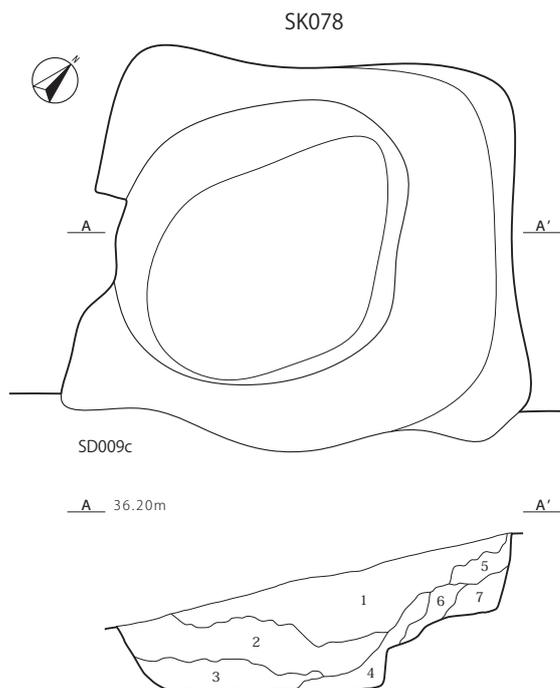


**SK077**

- 1 褐色土 (10YR4/4) ローム粒子、焼土微量含む。粘性標準、しまり強い。
- 2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ロームブロックφ5～20mm 少量含む。粘性標準、しまり強い。

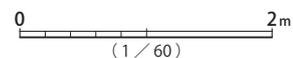


第80図 SK074～SK077

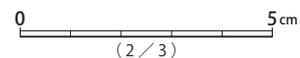
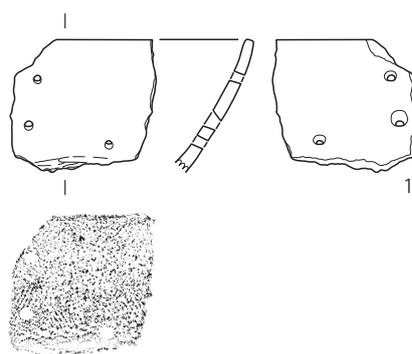


SK078

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 固結火山灰土塊φ1mm少量、ロームブロックφ1～5mm、焼土ブロックφ1mm微量含む。粘性標準、しまりなし。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ1～10mm少量、固結火山灰土塊φ1mm微量含む。粘性標準、しまりなし。
- 3 褐色土(10YR4/4) ロームブロックφ5mm微量含む。粘性標準、しまりなし。
- 4 褐色土(10YR4/6) 固結火山灰土塊φ1mm微量含む。粘性標準、しまりなし。
- 5 暗褐色土(10YR3/3) 焼土ブロックφ1mm微量含む。粘性標準、しまりなし。
- 6 暗褐色土(10YR3/4) 焼土ブロックφ1mm、炭化物φ1mm微量含む。粘性標準、しまりなし。
- 7 褐色土(10YR4/6) ロームブロックφ1～5mm少量含む。粘性標準、しまりなし。



第81図 SK078



第82図 SK078出土遺物

第29表 SK078出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 鉢・高坏	覆土	口 径： - 底 径： - 器 高： [5.3] 最大径： -	特徴：3箇所の穿孔 外面：口縁部ナデ後縄文施文、ヘラミガキ 内面：口唇部～口縁部ナデ	胎 土：長石・黒色粒・橙色粒 焼 成：良好 色 調：橙 残存度：口縁部の破片	

SK079 (第83図、図版9)

**位置：**E区9L-71グリッドを中心に位置する。**重複：**SI095を切る。**規模：**長軸2.36m、短軸2.34m、確認面からの深度0.30m。**長軸方位：**N-40°-W。**形態：**楕円形。底面はほぼ平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。**覆土：**2層に分けられ、にぶい黄褐色土である。

**時期：**覆土から弥生時代と考えられる。

**遺物：**土器57.3gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK080 (第83図、図版9)

**位置：**E区9M-03グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸2.16m、短軸1.12m、確認面からの深度0.44m。**長軸方位：**N-70°-W。**形態：**楕円形。底面には凹凸があり、東側はテラス状となる。壁面は緩やかに立ち上がる。**覆土：**2層に分けられる。

**時期：**覆土から弥生時代と考えられる。

**遺物：**土器40.6g、縄文土器9.3gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK081 (第83図、図版9)

**位置：**E区8M-38グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.80m、短軸0.64m、確認面からの深度0.27m。**長軸方位：**N-60°-W。**形態：**長楕円形。底面はほぼ平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。**覆土：**2層に分けられる。

**時期：**覆土から弥生時代と考えられる。

**遺物：**土器101.6gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK082 (第83図、図版9)

**位置：**E区9M-36グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.00m、短軸0.90m、確認面からの深度0.38m。**長軸方位：**N-49°-E。**形態：**円形。底面はほぼ平坦で壁面はきつく立ち上がる。**覆土：**3層に分けられる。

**時期：**覆土から弥生時代と考えられる。

**遺物：**土器21.1gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK083 (第83図、図版9)

**位置：**E区9M-51グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.24m、短軸1.04m、確認面からの深度0.40m。**長軸方位：**N-S。**形態：**隅丸長方形。底面はほぼ平坦で壁面はきつく立ち上がる。**覆土：**2層に分けられ、暗褐色土である。

**時期：**覆土から弥生時代と考えられる。

**遺物：**土器38.9gが出土したが、小破片のため図示していない。

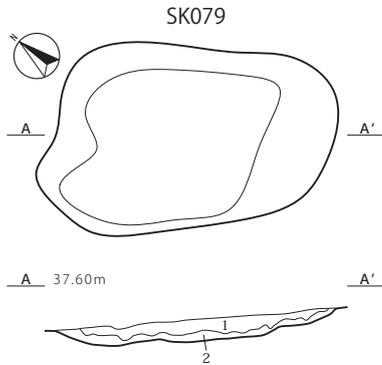
SK084 (第83図、図版9)

**位置：**E区9M-92グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.20m、短

軸0.80m、確認面からの深度0.12m。長軸方位：N-27°-E。形態：楕円形。底面はほぼ平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。覆土：暗褐色土の単層である。

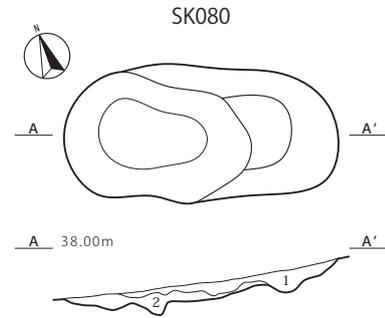
時期：覆土から弥生時代と考えられる。

遺物：土器45.5g、貝片24.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



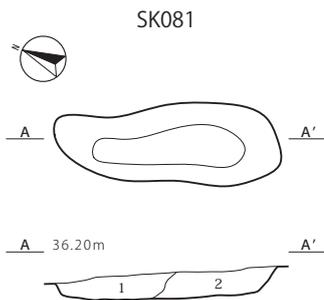
SK079

- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 固結火山灰土塊、焼土微量含む。粘性標準、しまり標準。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ロームブロックφ20～50mm少量、固結火山灰土塊微量含む。粘性標準、しまり弱い。



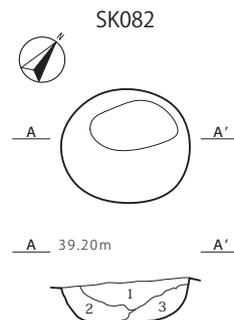
SK080

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒子中量、焼土微量含む。粘性標準、しまり標準。
- 2 褐色土(10YR4/4) ローム粒子、焼土微量含む。粘性標準、しまり標準。



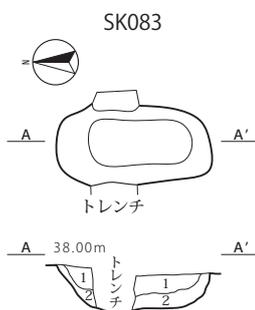
SK081

- 1 褐灰色土(10YR4/1) ローム粒子中量、ロームブロックφ5～10mm微量含む。粘性標準、しまり標準。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) ローム粒子中量、ロームブロックφ5～10mm少量含む。粘性標準、しまり標準。



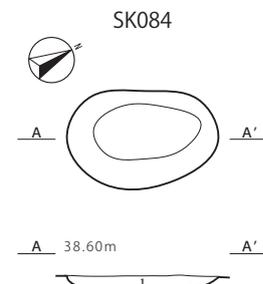
SK082

- 1 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒子、固結火山灰土塊、焼土微量含む。粘性標準、しまり標準。
- 2 褐色土(10YR4/4) 固結火山灰土塊微量含む。粘性標準、しまり標準。
- 3 褐色土(10YR4/6) ローム粒子微量含む。粘性標準、しまり標準。



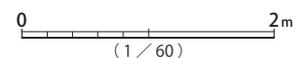
SK083

- 1 暗褐色土(10YR3/4) 粘性標準、しまり弱い。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 粘性標準、しまり標準。



SK084

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 貝殻φ10～20mm中量含む。粘性標準、しまりやや弱い。



第83図 SK079～SK084

#### 4. 性格不明遺構

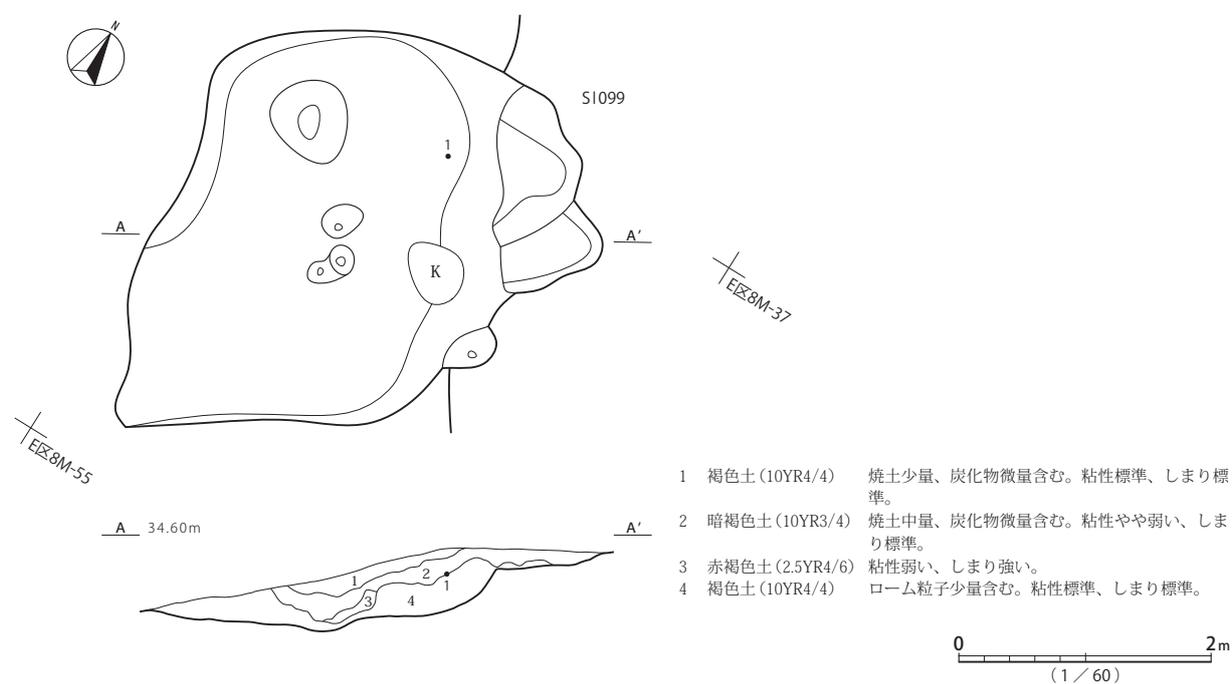
SZ001 (第84・85図、第30表、図版9・20)

**位置：**E区8M-35グリッドを中心に位置する。**重複：**SI099に切られる。**規模：**長軸(3.86)m、短軸(3.15)m、確認面からの深度0.58m。**長軸方位：**N-32°-W。**形態：**不定形。西側は平坦な底面を持ち、東側にかけて階段状に緩やかに立ち上がる。**覆土：**4層に分けられる。

**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、弥生時代と考えられる。

**所見：**覆土中に焼土を中量含む、また焼土層(3層)を持つ遺構である。調査当初は竪穴建物と考えていたが、階段状の壁面からは竪穴建物とは考えがたく、また覆土の状況から性格不明遺構とした。

**遺物：**土器362.5g、石器・石製品0.8g、縄文土器228.8gが出土した。1は小型壺である。



第84図 SZ001



第85図 SZ001 出土遺物

第30表 SZ001 出土土器観察表

単位: cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 小型壺	覆土上層	口径: - 底径: (4.3) 器高: [6.4] 最大径: (9.6)	外面: 胴部へラミガキ、指頭圧痕、底部へラナデ 内面: 胴部～底部へラナデ	胎土: 黒雲母・石英・白色粒・橙色粒 焼成: 良好 色調: にぶい褐 残存度: 口縁部～底部	内面にスス付着

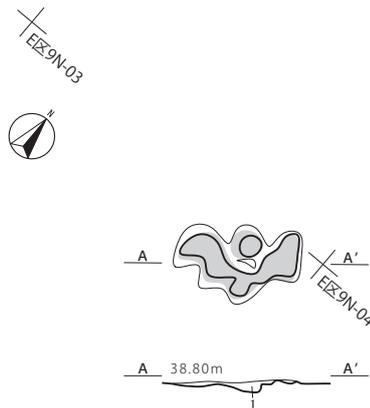
SZ002 (第86図)

**位置：**E区9N-03グリッドを中心に位置する。**重複：**SI113を切る。**規模：**長軸(0.68)m、短軸(0.40)m、確認面からの深度0.07m。**長軸方位：**N-40°-W。**形態：**不定形。わずかに凹凸がある。**覆土：**単層である。

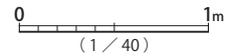
**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、弥生時代と考えられる。

**所見：**被熱・焼土化した範囲を確認した。削平された竪穴建物の炉址の可能性もある。

**遺物：**遺物は出土しなかった。



1 褐色土(7.5YR4/6) 焼土φ5～10mm少量含む。粘性やや弱い、しまりやや強い。



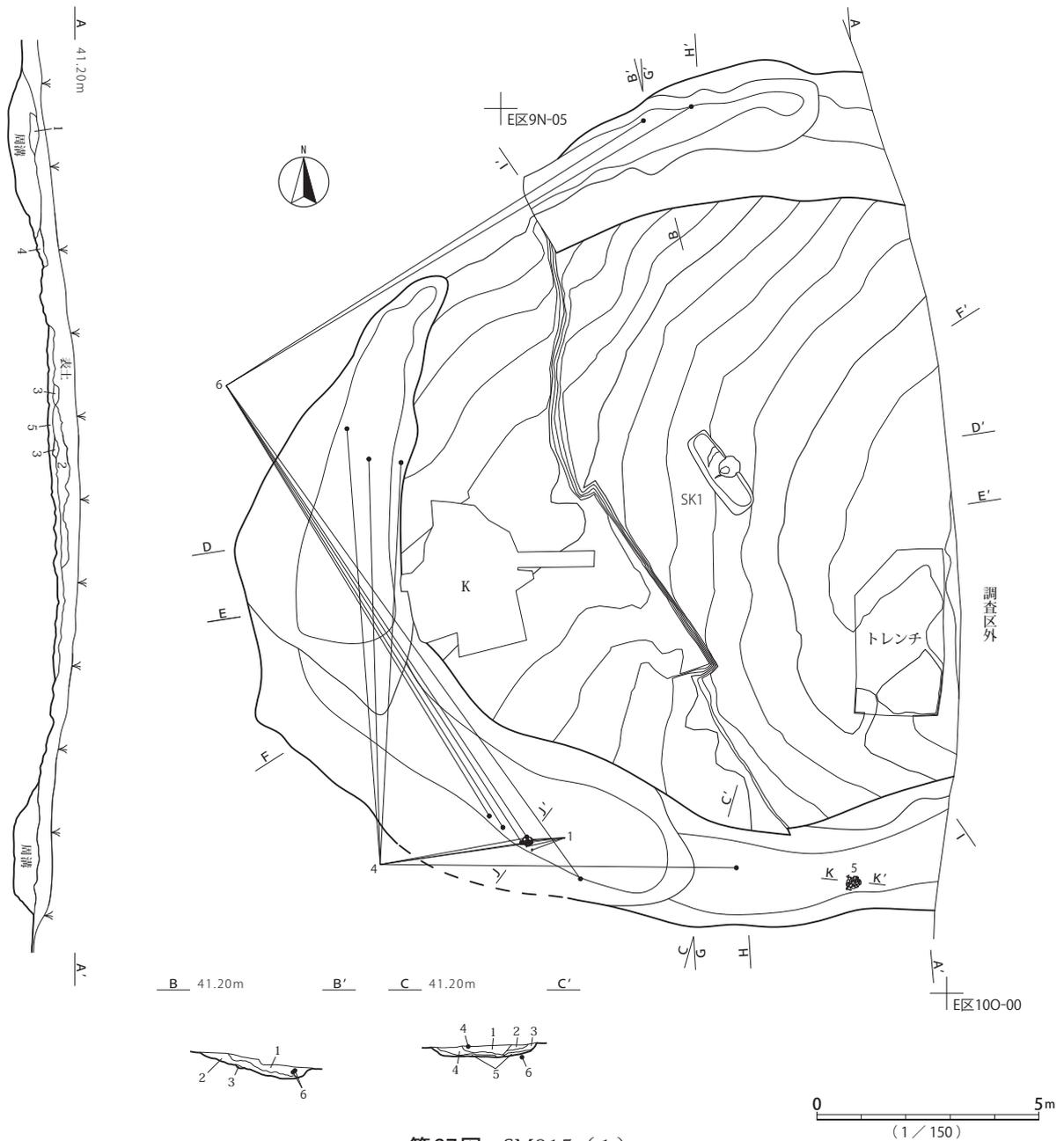
第86図 SZ002

## 第2節 古墳時代

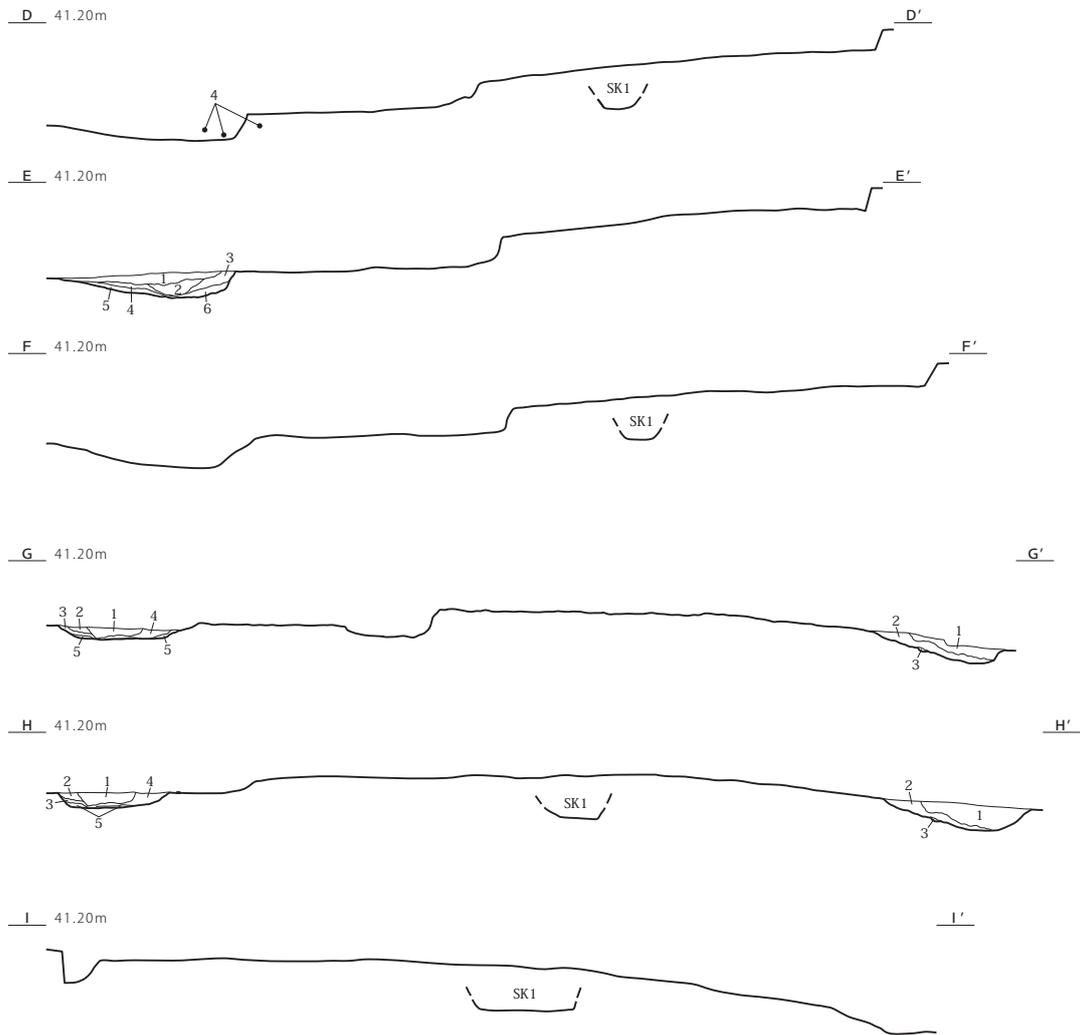
### 1. 古墳

SM015 (第87～91図、第31・32表、図版10・11・21・23)

1基の埋葬施設を持つ円墳である。盛土がわずかに残存する。**位置**：E区9Nグリッドを中心とする台地の縁辺に位置する。東側約30mに海保大塚がある。**重複**：SI106・SI111・SI112・SI114・SI117・SI119・SI120a・SI120b・SI122を切る。**規模**：墳丘径は長軸14.25m、短軸(12.75)m。周溝を含めた外径は長軸19.65m、短軸(15.90)m。旧地表面からの高さ約0.23m。**墳丘**：台地の頂部から斜面に至る縁辺の旧地表面に構築されている。**周溝**：後世の削平により北西の一部を欠損するが、本



第87図 SM015 (1)



**A-A'**

- |   |                   |                                       |
|---|-------------------|---------------------------------------|
| 1 | 暗褐色土 (10YR3/3)    | 焼土微量含む。粘性弱い、しまりやや弱い。                  |
| 2 | にぶい黄褐色土 (10YR5/4) | ロームブロックφ5～40mm少量、焼土微量含む。粘性標準、しまりやや強い。 |
| 3 | にぶい黄褐色土 (10YR4/3) | ロームブロックφ5～30mm少量含む。粘性標準、しまりやや強い。      |
| 4 | 灰黄褐色土 (10YR4/2)   | ローム粒子少量含む。粘性標準、しまりやや弱い。               |
| 5 | 黒褐色土 (10YR3/2)    | ローム粒子少量、焼土微量含む。粘性やや強い、しまりやや強い。        |

**B-B', C-C', G-G', H-H'**

- |   |                 |   |
|---|-----------------|---|
| 1 | 黒褐色土 (10YR3/2)  | ロームブロックφ1～10mm多量、固結火山灰土塊φ50mm微量含む。粘性標準、しまり標準。 |
| 2 | 黒褐色土 (10YR2/3)  | ロームブロックφ1～5mm多量、焼土φ1mm少量含む。粘性標準、しまり標準。        |
| 3 | 暗褐色土 (7.5YR3/4) | ロームブロックφ1～5mm中量、焼土φ1mm微量含む。粘性弱い、しまり標準。        |
| 4 | 黒褐色土 (10YR2/3)  | ロームブロックφ1～3mm中量、焼土φ1mm少量含む。粘性標準、しまり標準。        |
| 5 | 暗褐色土 (10YR3/4)  | 4層ブロックφ1～10mm中量含む。粘性標準、しまり標準。                 |

**E-E'**

- |   |                 |   |
|---|-----------------|---|
| 1 | 黒褐色土 (10YR2/2)  | ロームブロックφ1～5mm中量、固結火山灰土塊φ5mm中量、焼土φ1mm微量含む。粘性標準、しまり標準。  |
| 2 | 暗褐色土 (10YR3/4)  | ロームブロックφ1～10mm中量、固結火山灰土塊φ5mm、赤色粒子φ3mm微量含む。粘性標準、しまり標準。 |
| 3 | 黒褐色土 (10YR2/3)  | ロームブロックφ1～5mm中量、焼土φ1mm少量、固結火山灰土塊φ5mm微量含む。粘性標準、しまり標準。  |
| 4 | 暗褐色土 (10YR3/4)  | ロームブロックφ1～5mm少量、焼土φ1mm微量含む。粘性標準、しまり標準。                |
| 5 | 暗褐色土 (7.5YR3/4) | 4層ブロックφ5mm少量、焼土φ1mm微量含む。粘性弱い、しまり標準。                   |
| 6 | 暗褐色土 (10YR3/4)  | ロームブロックφ1～5mm多量、4層ブロックφ5mm、焼土φ1～3mm微量含む。粘性標準、しまり標準。   |



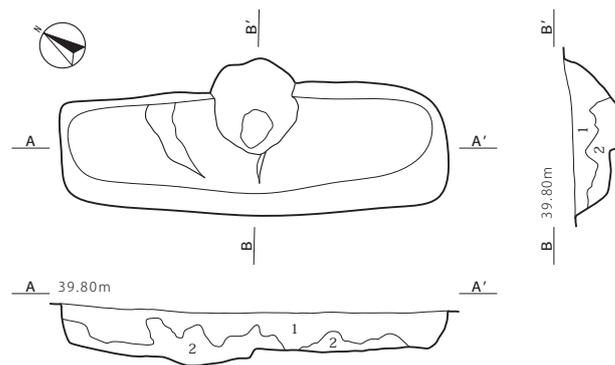
第88図 SM015 (2)

来は全周していたと考えられる。幅0.18～0.37m、確認面からの深度0.30～0.75m。断面形は皿状である。**埋葬施設**：墳頂部で1基（SK1）が検出された。規模は長軸2.04m、短軸0.84m、深度（0.28）m。主軸方位はN-37°-W。覆土は2層に区分され、どちらもロームブロックの含有が顕著である。遺物は出土しなかった。

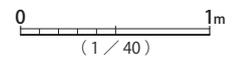
**時期**：出土遺物から古墳時代中期3段階（5世紀中葉）と考えられる。

**所見**：旧地表面の上にわずかな盛土が残存している。墳丘下で検出されたSI114覆土の最上層にも堆積していることから、SI114の埋没後に本古墳が築かれたことがわかる。周溝内から甕（6）が破片の散在した状態で出土している。このほか坏（1）、甕（4・5）なども周溝内からの出土であり、いずれも残存度の良好な個体である。

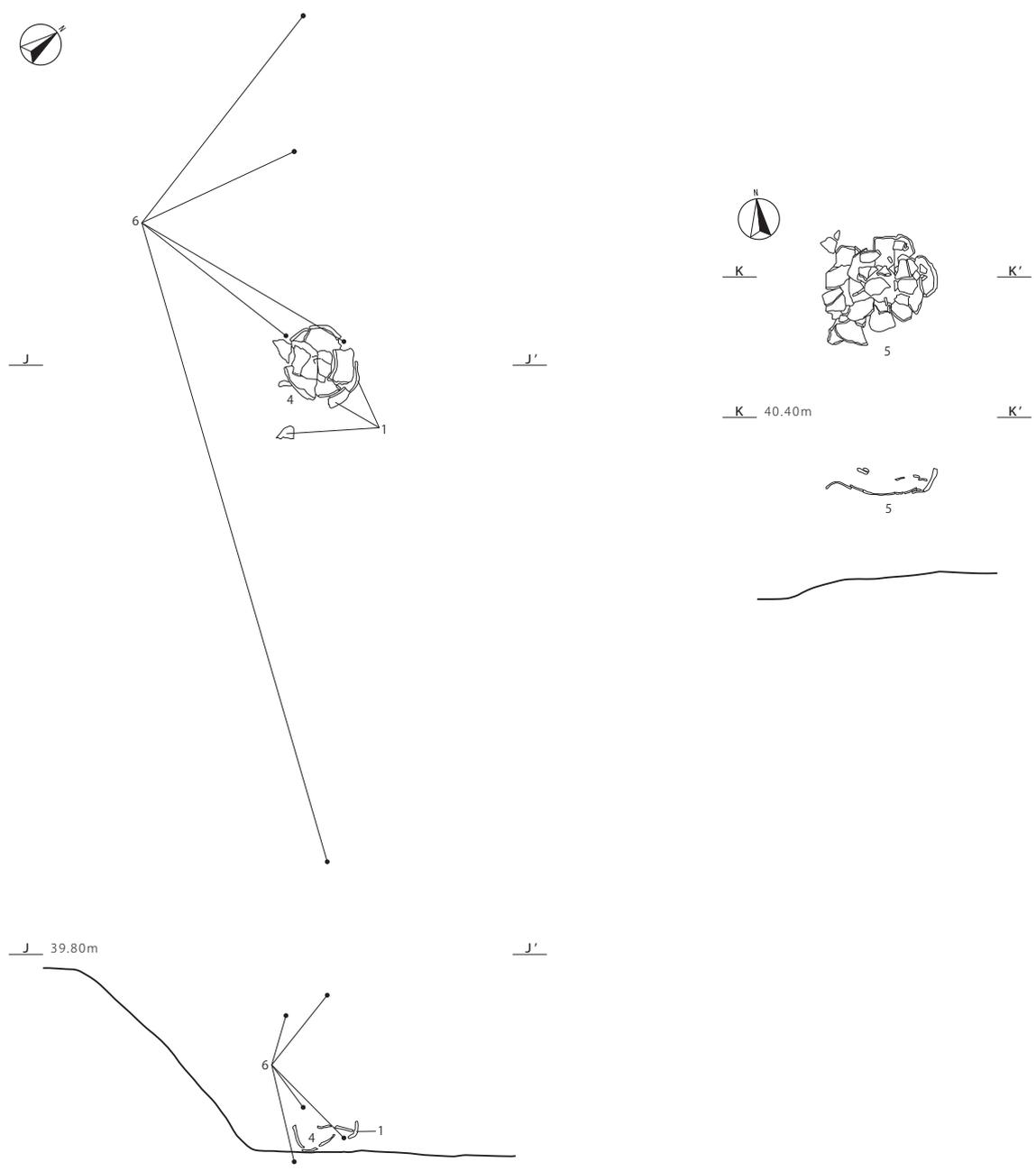
**遺物**：土器12900.6g、須恵器434.8g、土製品202.2g、石器・石製品23.2g、縄文土器626.5gが出土した。1は坏、2は高坏、3は広口壺、4・5は甕である。6は須恵器甕である。7は土錘である。1は内外面がともに赤彩される。体部はヘラケズリ整形となっている。5は体部外面ほぼ全面にヘラケズリ調整が施される。6は口縁端部が水平で、口縁部下位の段は明瞭である。体部の櫛描波状文は区画されていない。



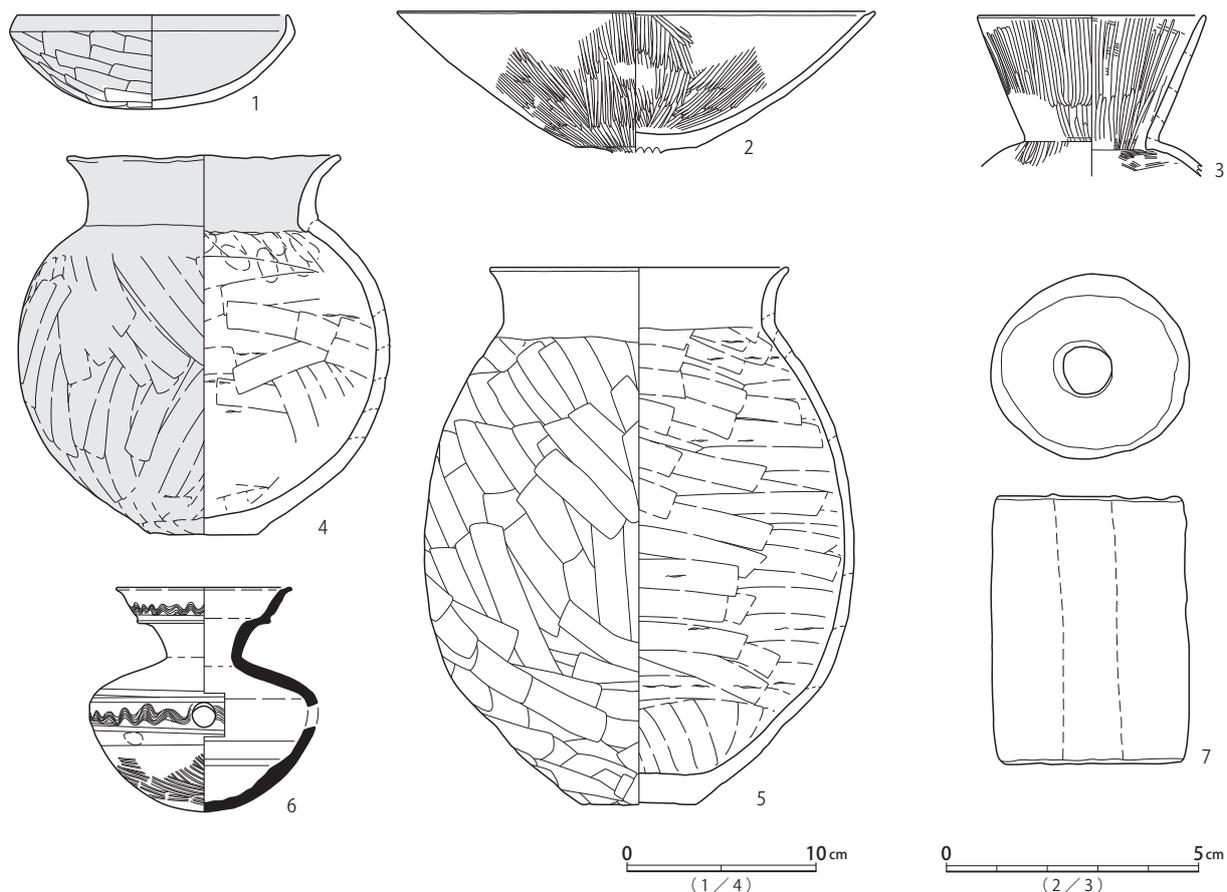
- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ロームブロックφ10～50mm中量含む。粘性標準、しまり標準。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ロームブロックφ30～50mm極多量、炭化物φ3mm微量含む。粘性標準、しまり標準。



第89図 SM015SK1



第90图 SM015 遺物出土状況



第91図 SM015出土遺物

第31表 SM015出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 坏	覆土下層	口径：14.2 底径：- 器高：5.0 最大径：15.0	外面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ、赤彩 内面：口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ、赤彩	胎土：長石・白色粒 焼成：良好 色調：橙 残存度：ほぼ完存	
2	土師器 高坏	覆土	口径：(25.0) 脚径：- 器高：[7.5] 最大径：(25.2)	外面：口縁部～頸部ヨコナデ、坏部ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラミガキ	胎土：石英・長石・橙色粒 焼成：良好 色調：橙 残存度：口縁部～坏部	
3	土師器 広口壺	覆土上層	口径：(11.8) 底径：- 器高：[8.6] 最大径：(12.0)	外面：口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ後ヘラミガキ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ後ヘラミガキ	胎土：長石・白色粒 焼成：良好 色調：橙 残存度：口縁部～頸部	内面スス付着
4	土師器 甕	覆土下層	口径：(14.4) 底径：5.6 器高：20.1 最大径：19.6	外面：口縁部ヨコナデ・剥落、赤彩、胴部～底部ヘラナデ、赤彩 内面：口縁部ヨコナデ・剥落、赤彩、胴部～底部ヘラナデ・指頭圧痕	胎土：黒雲母・黒色粒・白色粒 焼成：普通 色調：橙 残存度：口縁部～底部	
5	土師器 甕	覆土上層	口径：(15.6) 底径：6.0 器高：28.5 最大径：(22.6)	外面：口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ	胎土：金雲母・黒雲母・石英・長石・黒色粒・赤色粒・白色粒 焼成：良好 色調：明褐色 残存度：口縁部～底部1/2	
6	須恵器 甕	覆土下層	口径：9.2 底径：- 器高：11.9 最大径：12.0	外面：口縁部ロクロ調整、櫛描波状文6条一単位、胴部櫛描波状文6条一単位、胴部下半平行タタキ。 内面：ロクロ調整	胎土：白色粒 焼成：良好 色調：灰 残存度：ほぼ完存	自然釉付着

第32表 SM015出土土製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	重量(g)	備考
7	土錘	覆土上層	長さ：3.9 厚さ：5.35 孔径：1.2 最大径：3.9	89.9	円柱形

## 2. 竪穴建物

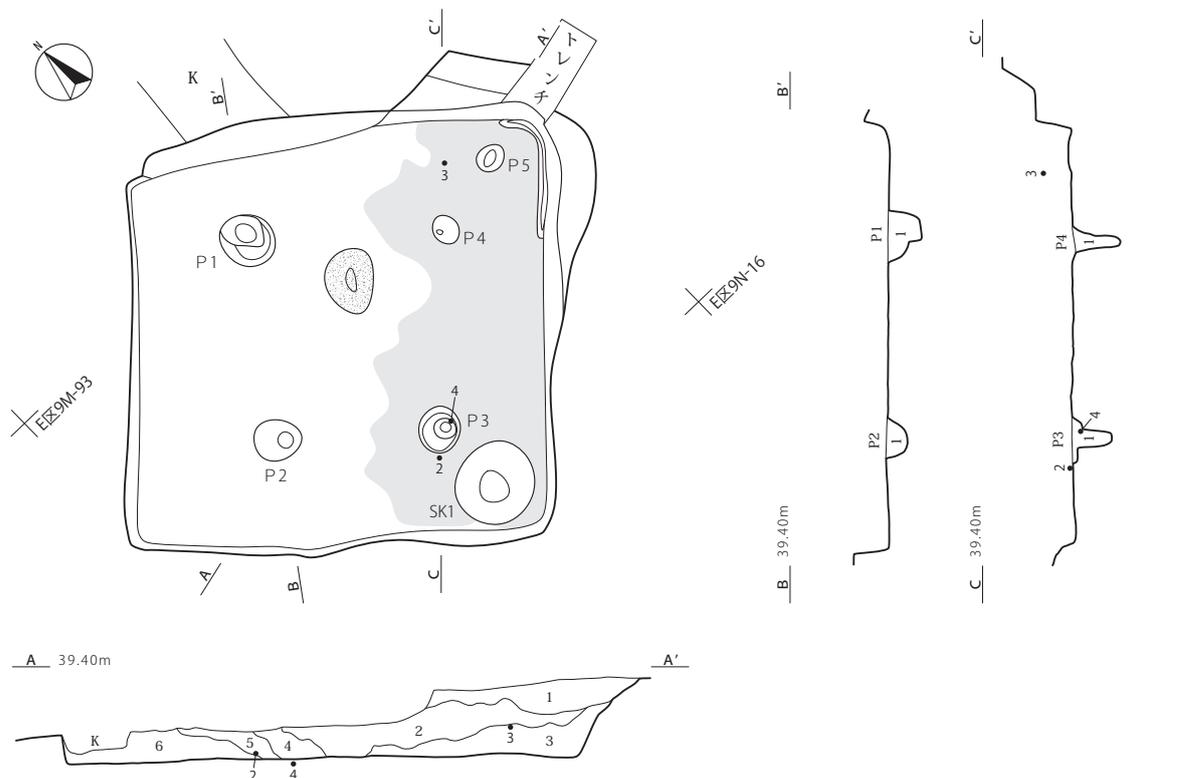
SI113 (第92～95図、第33表、図版12・21)

**位置：**E区9M-94グリッドを中心とする台地の北西向き斜面に位置する。**重複：**SI104・SI108を切る。**規模：**主軸4.72m、副軸4.56m、確認面からの深度0.84m。**形態：**方形。**主軸方位：**N-44°-W。**覆土：**6層に分けられる。**炉：**竪穴中央やや北東寄りに位置する。長軸0.68m、短軸0.52mで浅く窪む。**施設：**ピット5基が検出された。支柱穴はP1～4で、柱間は主軸方向2.12m、副軸方向2.12m。土坑1基が検出された。SK1は長軸0.68m、短軸0.52m、深さ0.08mである。周溝は東側隅部で検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、床面東側が硬化している。

**時期：**出土遺物から古墳時代前期と考えられる。

**所見：**北東および南東壁の上部は崩落によるものか、やや広がっている。炉、支柱穴、周溝が検出された。床面は完存している。支柱穴P3内から器台(4)が出土している。

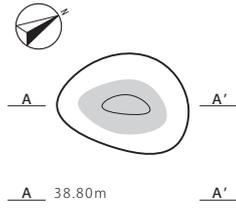
**遺物：**土器3512.0g、石器・石製品86.8g、縄文土器234.9gが出土した。1・2は埴、3は小型壺、4は器台である。



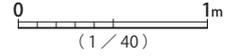
- |                    |   |
|--------------------|---|
| 1 黒褐色土(10YR2/2)    | ローム粒子、固結火山灰土塊、焼土、炭化物微量含む。粘性標準、しまり標準。        |
| 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) | ロームブロックφ5～20mm、ローム粒子、焼土、炭化物微量含む。粘性標準、しまり標準。 |
| 3 褐色土(10YR4/6)     | ロームブロックφ5～20mm、焼土微量含む。粘性標準、しまり標準。           |
| 4 褐色土(10YR4/4)     | ロームブロックφ5～30mm少量、焼土微量含む。粘性標準、しまり強い。         |
| 5 褐色土(10YR4/4)     | ロームブロックφ5mm、焼土微量含む。粘性標準、しまり標準。              |
| 6 暗褐色土(10YR3/4)    | ロームブロックφ5～30mm少量、焼土微量含む。粘性標準、しまり標準。         |
| <b>P1</b>          |   |
| 1 暗褐色土(10YR3/4)    | ロームブロックφ5～10mm少量含む。粘性標準、しまりやや弱い。            |
| <b>P2・3</b>        |   |
| 1 暗褐色土(7.5YR3/4)   | ロームブロックφ3～10mm少量含む。粘性標準、しまりやや弱い。            |
| <b>P4</b>          |   |
| 1 褐色土(7.5YR4/4)    | ロームブロックφ1～5mm微量含む。粘性標準、しまりやや弱い。             |

0 3m  
(1/80)

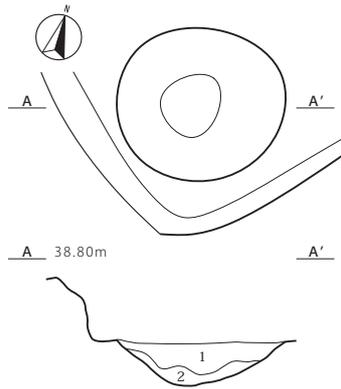
第92図 SI113



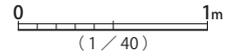
1 暗褐色土(7.5YR3/4) 焼土ブロックφ1～8mm少量含む。粘性標準、しまりやや強い。



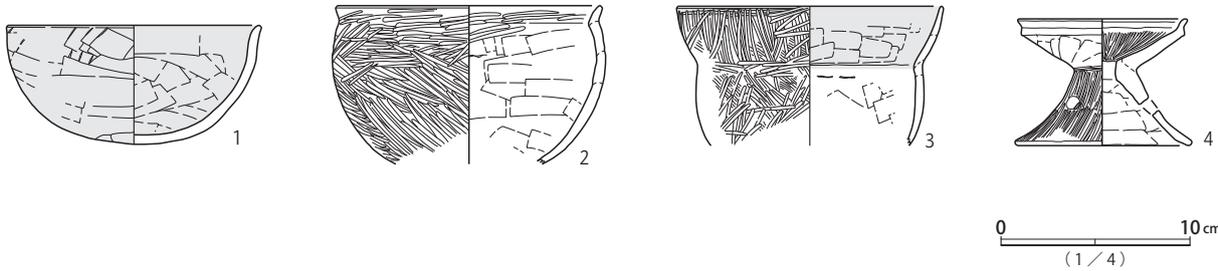
第93図 SI113炉



1 褐色土(10YR4/6) ロームブロックφ10～20mm少量、焼土微量含む。粘性標準、しまりやや強い。  
2 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ10～40mm少量含む。粘性標準、しまりやや弱い。



第94図 SI113SK1



第95図 SI113出土遺物

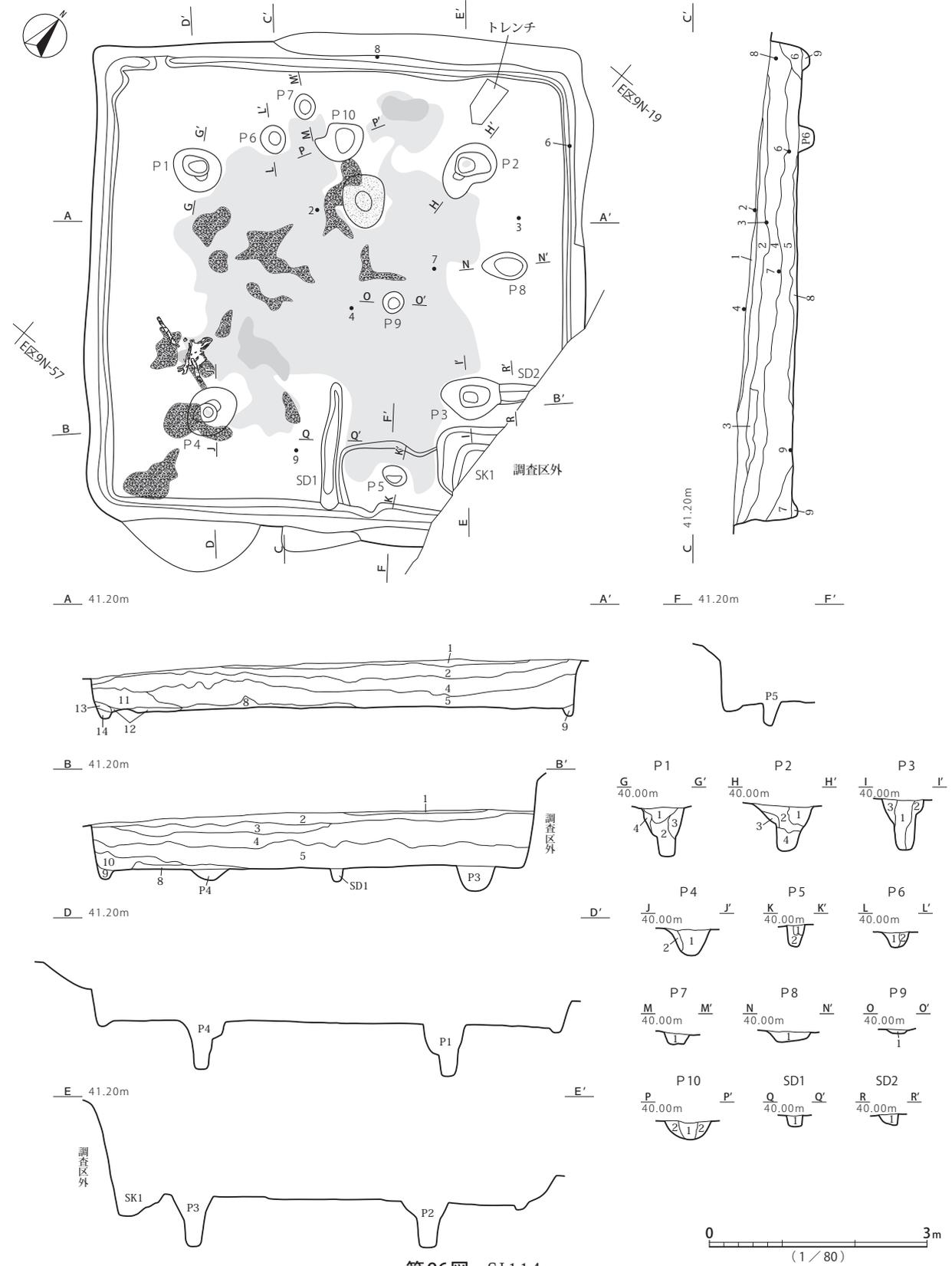
第33表 SI113出土土器観察表

単位：cm

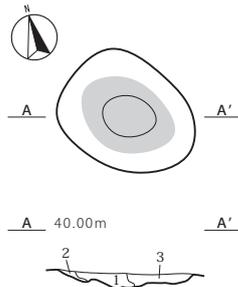
番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 埴	覆土上層	口 径： 13.2 底 径： - 器 高： 6.3 最大径： -	外面：口縁部～体部ヘラナデ後ナデ、赤彩、 底部ヘラケズリ 内面：口縁部～底部ヘラナデ後ナデ、赤彩	胎 土：白色粒 焼 成：良好 色 調：橙 残存度：口縁部～底部	底部スス附着
2	土師器 埴	覆土下層	口 径：(13.8) 底 径： - 器 高： [8.4] 最大径：(14.4)	外面：口縁部ナデ・ヘラミガキ、胴部ケズ リ後ヘラミガキ 内面：口縁部ナデ・ヘラミガキ、胴部ヘラ ナデ・ナデ	胎 土：石英・黒色粒・橙色粒 焼 成：普通 色 調：橙 残存度：口縁部～胴部1/2	
3	土師器 小型壺	覆土上層	口 径：(13.8) 底 径： - 器 高： [7.4] 最大径： -	外面：口唇部ナデ、赤彩、口縁部～胴部ハ ケメ後ヘラミガキ 内面：口縁部ヘラナデ・ヨコナデ、赤彩、 胴部ヘラナデ・ナデ	胎 土：黒色粒・赤色粒・白色 粒 焼 成：普通 色 調：明赤褐 残存度：口縁部～胴部上半の破片	
4	弥生土器 器台	覆土下層	口 径：(8.8) 脚 径： 9.1 器 高： 7.7 最大径： 9.3	特徴：脚部に円形透かし穴3箇所 外面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラナデ、脚 部ヘラミガキ縦位、裾部ヨコナデ 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラミガキ、 接合部ヨコナデ、脚部～裾部ヘラナデ	胎 土：白色粒・橙色粒 焼 成：良好 色 調：明赤褐 残存度：口縁部～裾部	

SI114 (第96～99図、第34～36表、図版12・21・23)

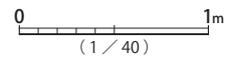
位置：E区9N-38グリッドを中心とする台地の北西向き緩斜面に位置する。重複：SI105・SI115・SI116・SI117・SI118・SD011を切り、SM015に切られる。規模：主軸6.96m、副軸6.96m、



第96図 SI114



- 1 黒褐色土(7.5YR3/1) 炭化物φ5～10mm少量、焼土φ3～5mm微量含む。粘性標準、しまり弱い。
- 2 黒褐色土(7.5YR3/2) 焼土、炭化物φ2～3mm微量含む。粘性標準、しまりやや弱い。
- 3 褐色土(7.5YR4/3) 焼土φ2～3mm少量、炭化物φ10mm微量含む。粘性標準、しまりやや弱い。



第97図 SI114炉

SI114

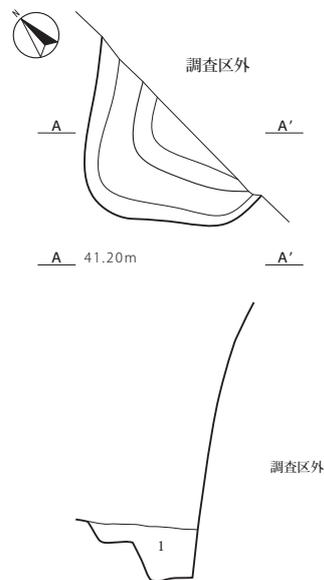
- |             |                  |   |
|-------------|------------------|---|
| 1           | にぶい黄褐色土(10YR4/3) | 黒褐色土ブロックφ30～40mm少量含む。粘性標準、しまり標準。              |
| 2           | 黒褐色土(10YR3/1)    | ロームブロックφ5～10mm微量含む。粘性標準、しまりやや弱い。              |
| 3           | 黄褐色土(10YR5/6)    | ロームブロックφ5～10mm微量含む。粘性標準、しまり標準。                |
| 4           | にぶい黄褐色土(10YR4/3) | ロームブロックφ10～40mm中量含む。粘性標準、しまり弱い。               |
| 5           | にぶい黄褐色土(10YR5/3) | ロームブロックφ10～70mm多量含む。粘性標準、しまり弱い。               |
| 6           | にぶい黄褐色土(10YR4/3) | ロームブロックφ5～15mm微量含む。粘性標準、しまり弱い。                |
| 7           | 灰黄褐色土(10YR4/2)   | ロームブロックφ5～15mm微量含む。粘性標準、しまり弱い。                |
| 8           | にぶい黄褐色土(10YR4/3) | 炭化物φ3～10mm中量、焼土φ5～10mm少量含む。粘性標準、しまり標準。        |
| 9           | にぶい黄褐色土(10YR5/4) | ロームブロックφ2～5mm微量含む。粘性標準、しまり弱い。                 |
| 10          | 灰黄褐色土(10YR4/2)   | ロームブロックφ10～20mm中量含む。粘性標準、しまり弱い。               |
| 11          | 灰黄褐色土(10YR4/2)   | ロームブロックφ5～20mm中量含む。粘性標準、しまり弱い。                |
| 12          | にぶい黄褐色土(10YR5/4) | 粘性標準、しまり標準。                                   |
| 13          | にぶい黄褐色土(10YR5/3) | ロームブロックφ20mm微量含む。粘性標準、しまり弱い。                  |
| 14          | にぶい黄褐色土(10YR4/3) | 粘性標準、しまり弱い。                                   |
| <b>P 1</b>  |                  |   |
| 1           | にぶい黄褐色土(10YR4/3) | ロームブロックφ2～30mm、炭化物φ3～10mm中量含む。粘性標準、しまり弱い。     |
| 2           | 暗褐色土(10YR3/3)    | ロームブロックφ5～10mm少量含む。粘性標準、しまり弱い。                |
| 3           | にぶい黄褐色土(10YR4/3) | ロームブロックφ10～30mm中量含む。粘性標準、しまりやや弱い。             |
| 4           | にぶい黄褐色土(10YR4/3) | ロームブロックφ20～30mm多量含む。粘性標準、しまりやや弱い。             |
| <b>P 2</b>  |                  |   |
| 1           | にぶい黄褐色土(10YR4/3) | ロームブロックφ5～40mm中量含む。粘性標準、しまり標準。                |
| 2           | 暗褐色土(10YR3/3)    | ロームブロックφ5～10mm中量、焼土φ5mm微量含む。粘性標準、しまり弱い。       |
| 3           | 暗褐色土(10YR3/3)    | 粘性標準、しまり弱い。                                   |
| 4           | にぶい黄褐色土(10YR4/3) | ロームブロックφ10～30mm中量含む。粘性標準、しまりやや弱い。             |
| <b>P 3</b>  |                  |   |
| 1           | 暗褐色土(10YR3/3)    | ロームブロックφ5～20mm少量含む。粘性標準、しまり弱い。                |
| 2           | 暗褐色土(10YR3/3)    | ロームブロックφ10～30mm多量含む。粘性標準、しまり標準。               |
| 3           | にぶい黄褐色土(10YR4/3) | ロームブロックφ30～50mm多量含む。粘性標準、しまり弱い。               |
| <b>P 4</b>  |                  |   |
| 1           | 暗褐色土(10YR3/3)    | ロームブロックφ10～20mm中量含む。粘性標準、しまり弱い。               |
| 2           | にぶい黄褐色土(10YR4/3) | ロームブロックφ10～30mm多量、炭化物φ10～20mm少量含む。粘性標準、しまり弱い。 |
| <b>P 5</b>  |                  |   |
| 1           | にぶい黄褐色土(10YR5/4) | ロームブロックφ10～20mm少量含む。粘性標準、しまり標準。               |
| 2           | にぶい黄褐色土(10YR4/3) | 粘性標準、しまり弱い。                                   |
| <b>P 6</b>  |                  |   |
| 1           | 暗褐色土(10YR3/3)    | ロームブロックφ5～10mm少量含む。粘性標準、しまり弱い。                |
| 2           | にぶい黄褐色土(10YR5/3) | ロームブロックφ10～20mm多量含む。粘性標準、しまり標準。               |
| <b>P 7</b>  |                  |   |
| 1           | 灰黄褐色土(10YR4/2)   | ロームブロックφ5～20mm、焼土φ3～20mm中量含む。粘性標準、しまり弱い。      |
| <b>P 8</b>  |                  |   |
| 1           | にぶい黄褐色土(10YR4/3) | ロームブロックφ2～5mm少量、焼土φ10mm微量含む。粘性標準、しまりやや弱い。     |
| <b>P 9</b>  |                  |   |
| 1           | 暗褐色土(10YR3/3)    | 炭化物φ5～10mm中量含む。粘性標準、しまり弱い。                    |
| <b>P 10</b> |                  |   |
| 1           | 暗褐色土(10YR3/3)    | 粘性標準、しまり弱い。                                   |
| 2           | 暗褐色土(10YR3/3)    | 粘性標準、しまり標準。                                   |
| <b>SD1</b>  |                  |   |
| 1           | にぶい黄褐色土(10YR4/3) | ロームブロックφ10～20mm少量含む。粘性標準、しまりやや弱い。             |
| <b>SD2</b>  |                  |   |
| 1           | にぶい黄褐色土(10YR5/4) | ロームブロックφ3～10mm少量含む。粘性標準、しまり弱い。                |

確認面からの深度0.81 m。**形態**：方形。**主軸方位**：N-40°-W。**覆土**：14層に分けられる。**炉**：竪穴中央北西寄りに位置する。長軸0.74 m、短軸0.58 mで浅く窪む。**施設**：ピット10基が検出された。主柱穴はP 1～4で、柱間は主軸方向3.36 m、副軸方向3.60 m。P 5は主軸線上、炉の対面に位置し壁付近で検出されていることから、出入り口施設に伴うと考えられる。土坑1基が検出された。SK1は長軸(0.96) m、短軸(0.92) m、深さ0.32 mである。周溝は壁沿いにおいてほぼ全周する。南東周溝のほぼ中央から間仕切り溝(SD1)が一条延びる。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の周囲から床面南側にかけて硬化している。

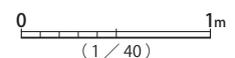
**時期**：出土遺物やSM015との重複関係から古墳時代前期と考えられる。

**所見**：SM015墳丘のほぼ中央に位置している。調査区壁面において確認された旧表土が覆土最上層に堆積していることから、本遺構の埋没もしくは埋め戻しの後にSM015が構築されていると考えられる。床面直上では炭化材が散在しており、床面は一部被熱・焼土化している。これらのことから焼却・焼失した竪穴建物と考えられる。

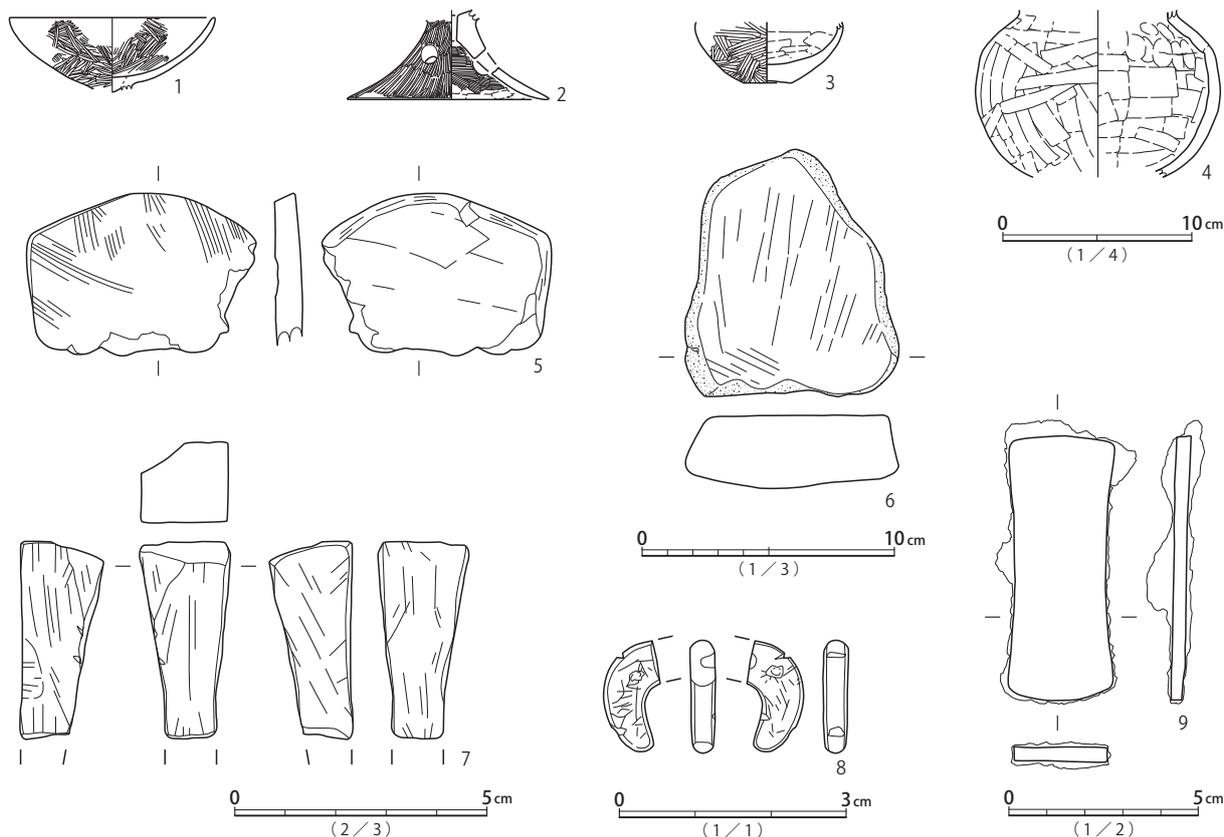
**遺物**：土器13257.9g、土製品90.3g、金属製品37.1g、石器・石製品424.2g、縄文土器551.0gが出土した。1は高坏、2は器台、3は碗、4は壺である。5は甕、6・7は砥石、8は块状耳飾であろうか。9は不明鉄製品としたが鉄素材であろうか。5は甕胴部の破片が転用され、割れ口部分が平滑に摩滅している。



- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) ロームブロックφ3～5mm少量、炭化物φ1～3mm微量含む。粘性標準、しまり弱い。



第98図 SI114SK1



第99図 SI114出土遺物

第34表 SI114出土土器観察表

単位: cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 高坏	覆土下層	口径: (10.6) 脚径: - 器高: [3.9] 最大径: -	外面: 口唇部ナデ、口縁部ナデ後ヘラミガキ、坏部ハケメ後ヘラミガキ 内面: 口縁部~坏部ヘラミガキ	胎土: 赤色粒・白色粒 焼成: 良好 色調: 橙 残存度: 口縁部~坏部	
2	土師器 器台	覆土上層	口径: - 脚径: 10.6 器高: [4.8] 最大径: -	特徴: 脚部下方から3箇所穿孔 外面: 器受部~脚部ヘラミガキ、裾部ナデ 内面: 器受部ヘラミガキ、脚部ナデ、ハケメ、裾部ハケメ後ヘラナデ・ナデ	胎土: 石英・黒色粒・白色粒・海綿骨針 焼成: 良好 色調: 明赤褐 残存度: 器受部~裾部	
3	土師器 碗	覆土上層	口径: - 底径: 2.5 器高: [3.2] 最大径: (7.7)	外面: 体部~底部ヘラミガキ 内面: 体部~底部ヘラナデ	胎土: 金雲母・石英・長石・黒色粒・白色粒・橙色粒 焼成: 良好 色調: オリーブ褐 残存度: 体部~底部	
4	土師器 壺	覆土上層	口径: - 底径: - 器高: [8.8] 最大径: (12.8)	外面: 胴部ヘラナデ 内面: 胴部上半ナデ、胴部下半ヘラナデ、指頭圧痕	胎土: 石英・長石・白色粒 焼成: 普通 色調: オリーブ褐 残存度: 頸部~胴部の破片	
5	土師器 甕	覆土下層	口径: - 底径: - 器高: [3.1] 最大径: -	特徴: 口唇部スリ面 外面: 口縁部ナデ後ハケメ 内面: 口縁部ヘラナデ	胎土: 橙色粒 焼成: 普通 色調: 黄灰 残存度: 口縁部の破片	2次加工

第35表 SI114出土石製品観察表

単位: cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量(g)	備考
6	砥石	砂岩	覆土下層	9.85	8.4	2.9	308.0	磨: 表
7	砥石	砂岩	覆土中層	3.9	1.8	1.6	12.4	砥面: 表、裏、右、左、上各1面
8	玦状耳飾	翡翠	覆土上層	1.5	0.8	0.3	1.0	

第36表 SI114出土金属製品観察表

単位: cm

番号	種別	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量(g)	備考
9	不明鉄製品	床面	7.0	27.5	0.35	37.19	

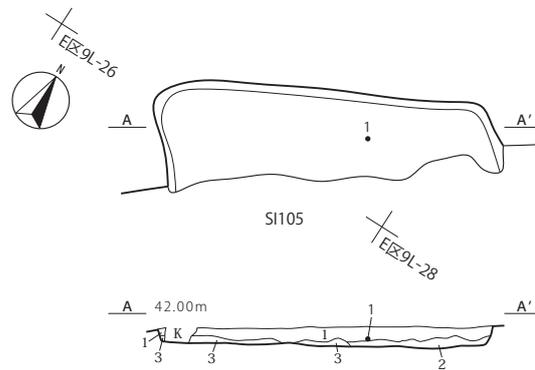
SI115 (第100・101図、第37表、図版12・23)

**位置：**E区9N-17グリッドを中心とする台地の北西向き緩斜面に位置する。**重複：**SI114に切られる。**規模：**長軸(3.68)m、短軸(0.96)m、確認面からの深度0.19m。**形態：**方形と推測される。**主軸方位：**不明。**覆土：**3層に分けられ、暗褐色土が主体である。**炉：**検出されなかった。**施設：**周溝は検出されなかった。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

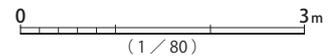
**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、古墳時代前期と考えられる。

**所見：**SM015墳丘のほぼ中央に位置している。SI114との重複により全容が明らかではないが、壁面はほぼ垂直で立ち上がり、底面が水平に広がることから竪穴建物と判断した。

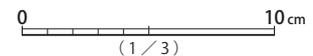
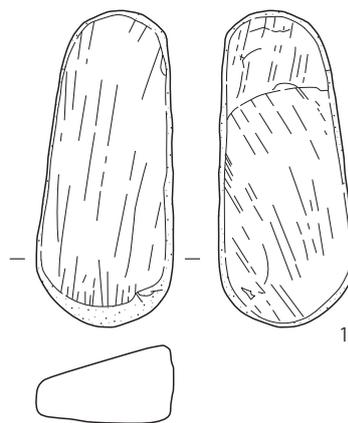
**遺物：**土器84.7g、石器・石製品282.8g、縄文土器14.3gが出土した。1は砥石である。表裏両面が使用され平滑になっている。



- 1 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒子φ1mm多量、ロームブロックφ10mm少量、焼土φ1mm微量含む。粘性弱い、しまり標準。
- 2 暗褐色土(7.5YR3/4) ローム粒子φ1～5mm多量、焼土φ1mm微量含む。粘性標準、しまり標準。
- 3 褐色土(7.5YR4/6) ロームブロックφ10mm多量含む。粘性標準、しまり標準。



第100図 SI115



第101図 SI115出土遺物

第37表 SI115出土石製品観察表

単位: cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量(g)	備考
1	砥石	砂岩	覆土下層	12.6	5.4	3.1	282.0	磨:表、裏各1面

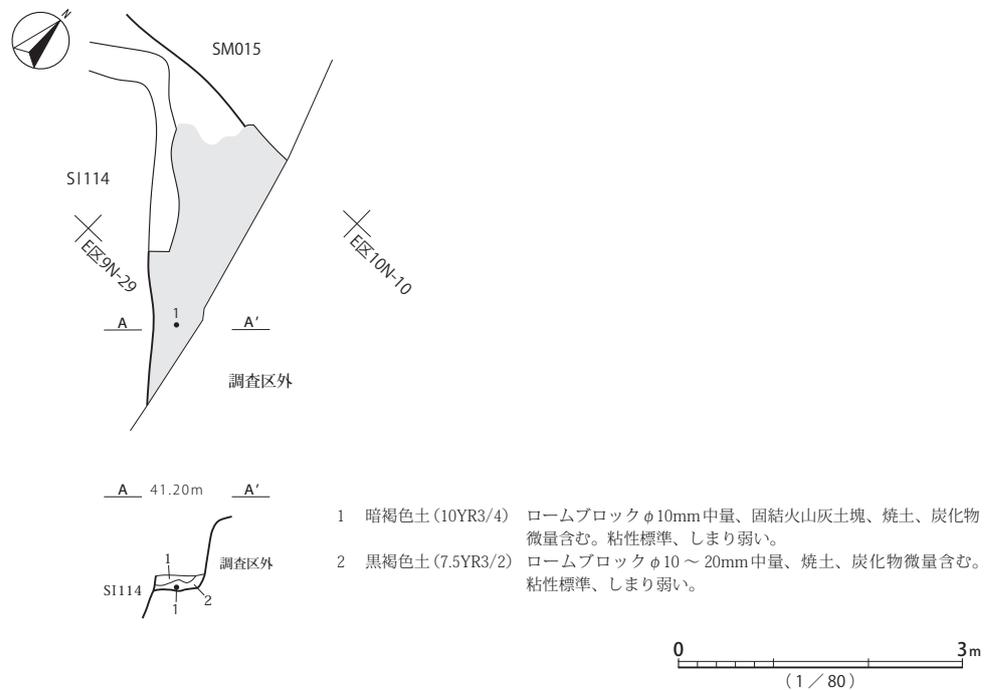
SI116 (第102・103図、第38表、図版12・22)

**位置：**E区9N-19グリッドを中心とする台地の北西向き緩斜面に位置する。**重複：**SI105を切り、SI114に切られる。東側は調査区外へ延びる。**規模：**長軸(3.00)m、短軸(1.44)m、確認面からの深度0.16m。**形態：**不明。**主軸方位：**不明。**覆土：**2層に分けられる。**炉：**検出されなかった。**施設：**周溝は検出されなかった。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、部分的に硬化している。

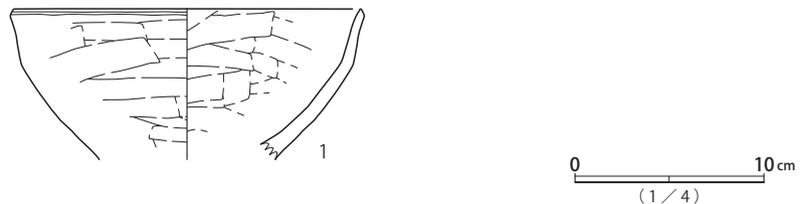
**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、SI114との切り合い関係と合わせて古墳時代前期と考えられる。

**所見：**炉、支柱穴、周溝は検出されなかった。わずかな範囲の検出にとどまるが、周囲には竪穴建物が密集し、平坦な底面を持つことから竪穴建物と判断した。

**遺物：**土器149.0g、縄文土器21.4gが出土した。1は鉢とした。



第102図 SI116



第103図 SI116出土遺物

第38表 SI116出土土器観察表

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器鉢	覆土下層	口径：(18.2) 底径：- 器高：[8.0] 最大径：(18.6)	外面：口縁部～坏部ヘラナデ 内面：口縁部～坏部ヘラナデ	胎土：石英・長石・白色粒 焼成：良好 色調：明黄褐 残存度：口縁部～坏部の破片	

単位：cm

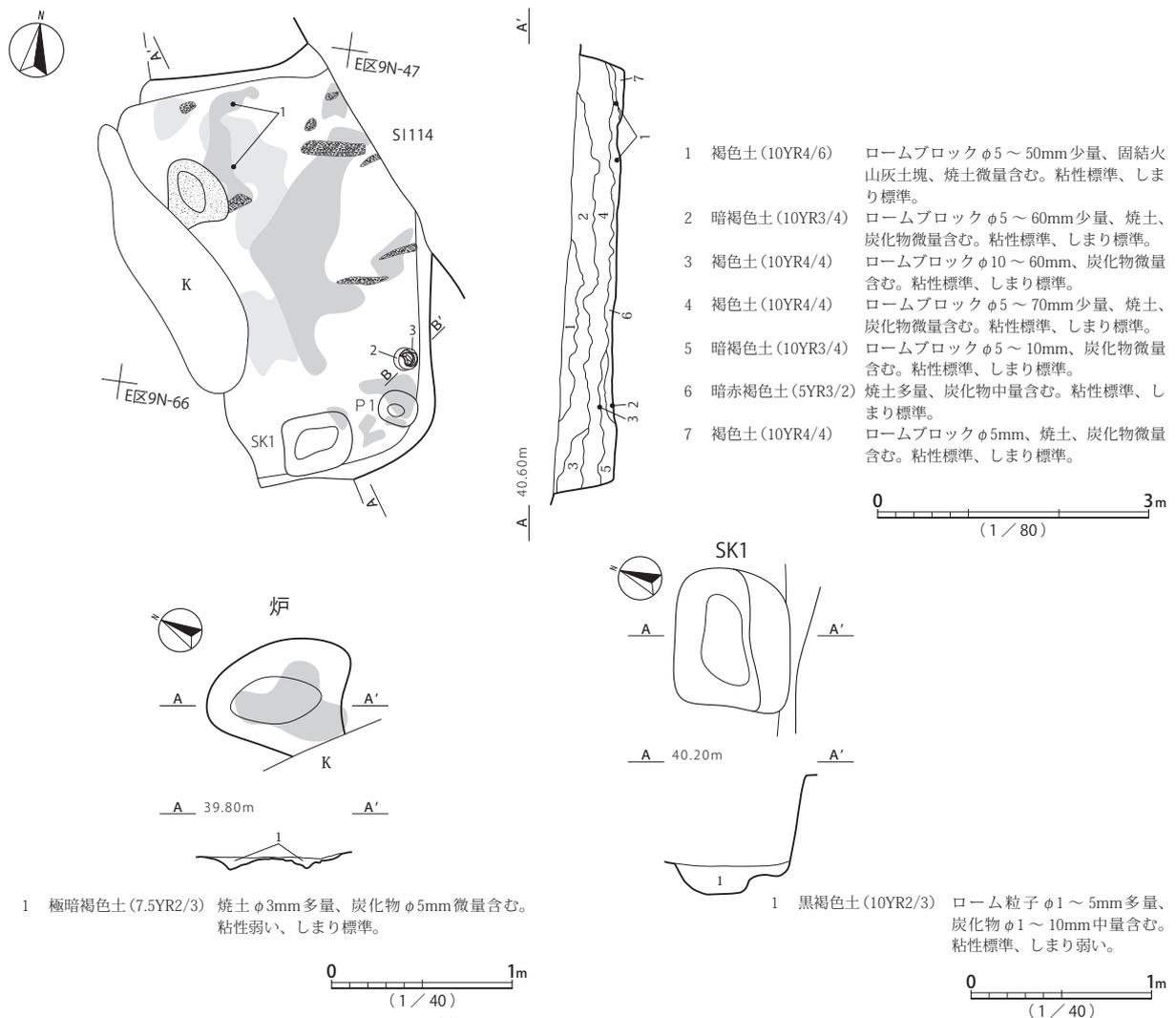
SI117 (第104～106図、第39表、図版13・22)

**位置：**E区9N-46グリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。**重複：**SI118を切り、SI114・SI120a・SI120b・SM015に切られる。**規模：**主軸(4.92)m、副軸(3.40)m、確認面からの深度0.72m。**形態：**方形と推測される。**主軸方位：**N-8°-W。**覆土：**7層に分けられ、褐色土が主体である。**炉：**竪穴中央北寄りに位置する。長軸0.74m、短軸(0.66)mで浅く窪む。**施設：**ピット1基が検出された。土坑1基が検出された。SK1は長軸0.76m、短軸0.64m、深さ0.20mである。周溝は検出されなかった。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、炉の周囲から床面中央にかけて飛び石状に硬化している。

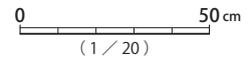
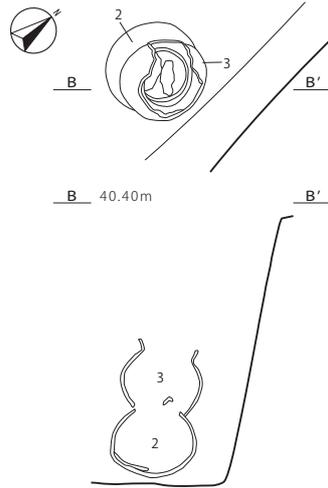
**時期：**出土遺物から古墳時代前期と考えられる。

**所見：**炉が検出されたが、支柱穴、周溝は検出されなかった。床面直上では炭化材が散在しており、床面は一部被熱・焼土化している。これらのことから焼却・焼失した竪穴建物と考えられる。南東側では比較的残存度の高い甕(2・3)が積重ねられた状態で出土している。

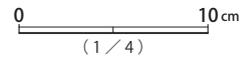
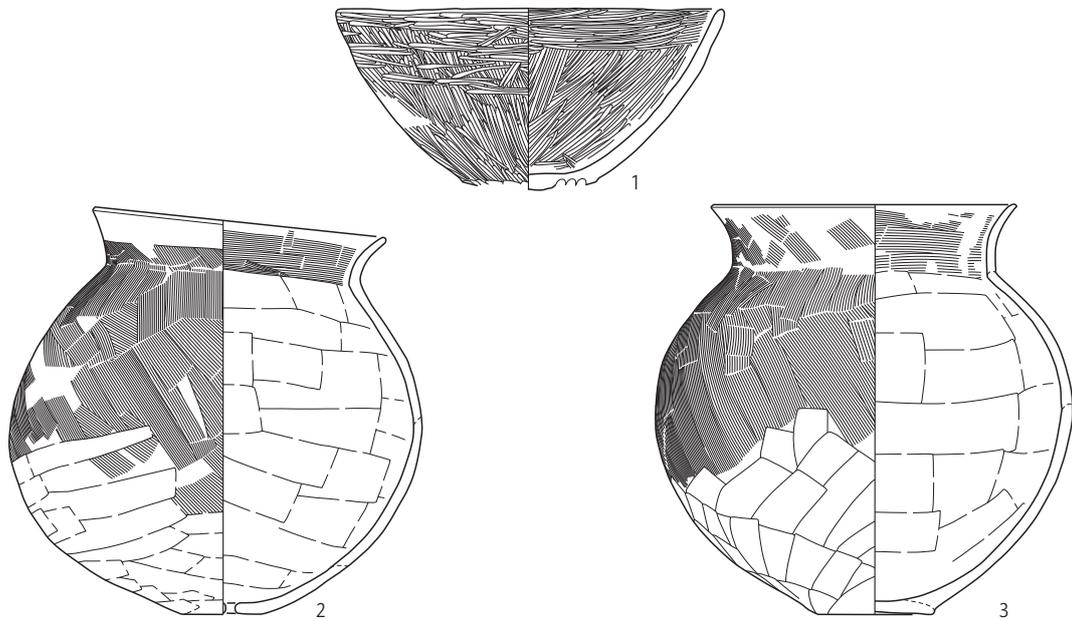
**遺物：**土器4012.1g、縄文土器125.1gが出土した。1は高坏、2・3は甕である。2点の甕はともに胴部上位にハケメが施され、同部下位はヘラナデもしくはヘラケズリが施されている。



第104図 SI117・炉・SK1



第105図 SI117 遺物出土状況



第106図 SI117 出土遺物

第39表 SI117 出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 高坏	覆土下層	口径：(20.1) 脚径：- 器高：[9.6] 最大径：(20.4)	外面：口縁部ナデ後ヘラミガキ、体部ケズリ後ナデ後ヘラミガキ 内面：口縁部～体部ヘラミガキ	胎土：石英・黒色粒・白色粒 焼成：良好 色調：橙 残存度：口縁部～体部	
2	土師器 甕	床面	口径：15.3 底径：4.3 器高：21.6 最大径：21.7	特徴：底部に焼成前穿孔 外面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部上半ハケメ、胴部下半～底部ヘラナデ 内面：口縁部ハケメ、頸部～底部ヘラナデ	胎土：石英・長石・黒色粒・白色粒・橙色粒 焼成：良好 色調：橙 残存度：ほぼ完存	
3	土師器 甕	床面	口径：(15.8) 底径：6.0 器高：21.7 最大径：21.9	外面：口縁部ヨコナデ後ハケメ、胴部上半ハケメ、胴部下半ヘラケズリ、底部ヘラナデ 内面：口縁部ハケメ、胴部～底部ヘラナデ	胎土：石英・長石・黒色粒・白色粒 焼成：良好 色調：橙 残存度：口縁部～底部	

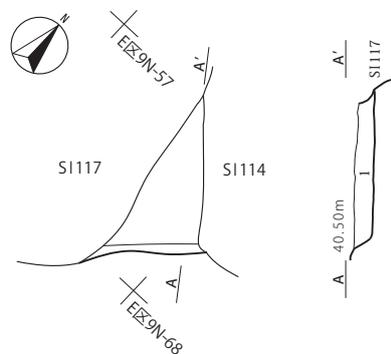
SI118 (第107図、図版13)

**位置：**E区9N-57グリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。**重複：**SI114・SI117に切られる。**規模：**長軸(1.68)m、短軸(1.40)m、確認面からの深度0.21m。**形態：**不明。**主軸方位：**不明。**覆土：**黒褐色土の単層である。**炉：**検出されなかった。**施設：**周溝は検出されなかった。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

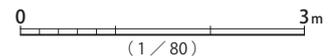
**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、古墳時代前期と考えられる。

**所見：**炉、支柱穴、周溝は検出されなかった。複数の遺構との重複により全容が明らかではないが、壁面がほぼ垂直に立ち上がり、床面が水平に広がることから竪穴建物と判断した。

**遺物：**土器31.7gが出土したが、小破片のため図示していない。



1 黒褐色土(10YR2/3) ローム粒子φ1~10mm多量、焼土φ3mm、炭化物φ1mm微量含む。粘性標準、しまり標準。



第107図 SI118

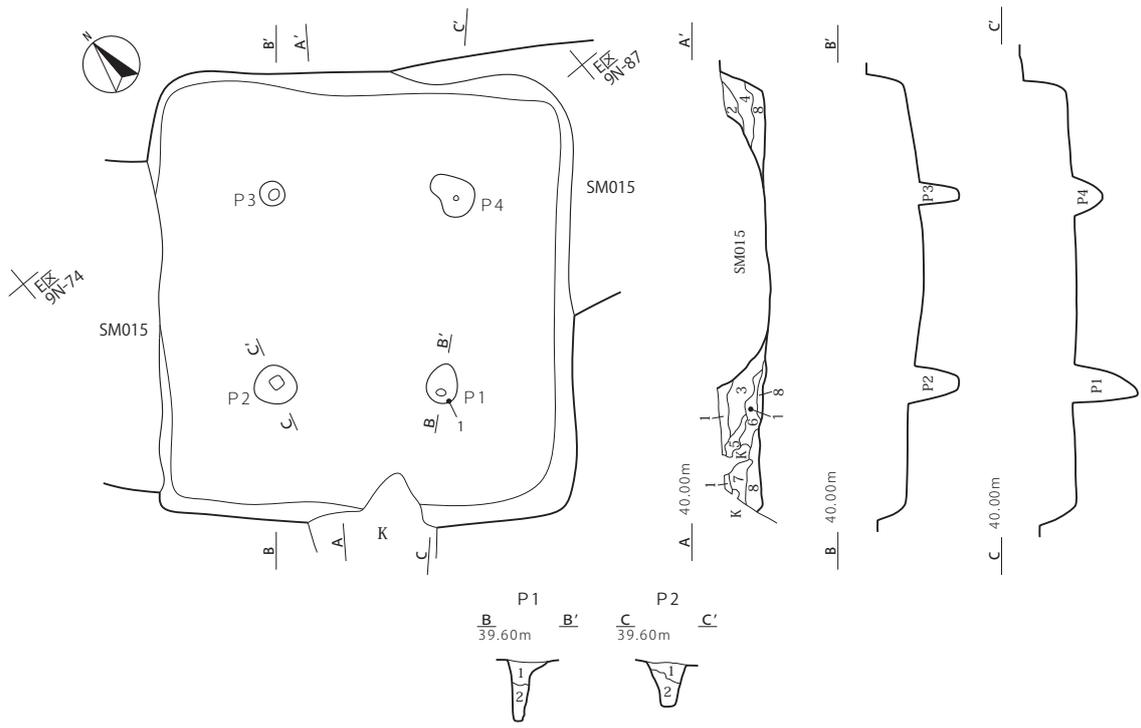
SI119 (第108・109図、第40表、図版13)

**位置：**E区9N-85グリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。**重複：**SI120a・SI120b・SI122を切り、SM015に切られる。**規模：**主軸4.88m、副軸4.56m、確認面からの深度0.44m。**形態：**方形。**主軸方位：**N-40°-E。**覆土：**8層に分けられる。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピット4基が検出された。支柱穴はP1~4で、柱間は主軸方向2.04m、副軸方向1.92m。周溝は検出されなかった。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、古墳時代前期と考えられる。

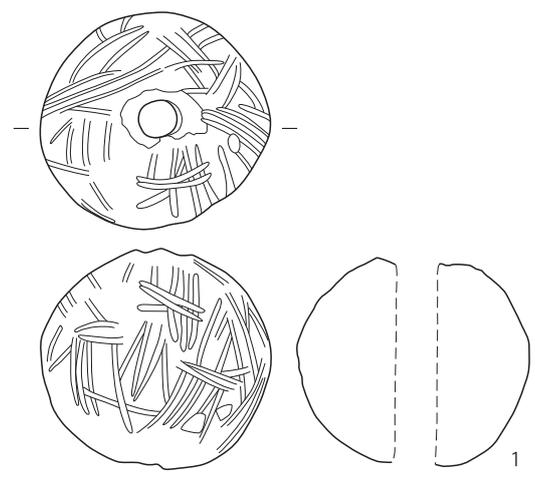
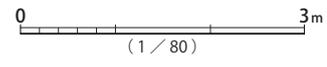
**所見：**支柱穴が検出されたが、炉、周溝は検出されなかった。床面は凹凸が著しく、炉を持たないこととあわせて考えると居住施設以外の用途であった可能性がある。

**遺物：**土器809.1g、土製品74.3g、石器・石製品2.0g、縄文土器55.2gが出土した。1は球状の土錘である。粗いミガキが施されている。



- 1 黒褐色土 (10YR2/3) ロームブロック φ1 ~ 10mm 少量、焼土 φ1 ~ 3mm、炭化物 φ1 ~ 3mm 微量含む。粘性やや弱い、しまりやや強い。
  - 2 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロック φ1 ~ 15mm 少量、焼土 φ2 ~ 3mm、炭化物 φ1 ~ 3mm 微量含む。粘性やや弱い、しまりやや強い。
  - 3 黒褐色土 (10YR2/3) ロームブロック φ1 ~ 15mm 少量、焼土 φ1 ~ 2mm、炭化物 φ2 ~ 5mm 微量含む。粘性標準、しまり標準。
  - 4 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロック φ5 ~ 20mm 少量、焼土 φ1 ~ 2mm、炭化物 φ1 ~ 5mm 微量含む。粘性標準、しまりやや強い。
  - 5 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロック φ5 ~ 20mm 少量含む。粘性標準、しまりやや強い。
  - 6 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロック φ2 ~ 20mm 少量含む。粘性標準、しまり標準。
  - 7 暗褐色土 (7.5YR3/4) ロームブロック φ2 ~ 10mm、焼土 φ1 ~ 2mm、炭化物 φ1 ~ 2mm 微量含む。粘性標準、しまりやや強い。
  - 8 褐色土 (7.5YR4/6) ロームブロック φ10 ~ 30mm 多量含む。粘性標準、しまり標準。
- P1**
- 1 黒褐色土 (10YR2/3) ロームブロック φ5 ~ 10mm 少量、焼土 φ2 ~ 4mm、炭化物 φ2 ~ 4mm 微量含む。粘性標準、しまり標準。
  - 2 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロック φ5 ~ 10mm 多量、炭化物 φ1 ~ 3mm 少量含む。粘性標準、しまり標準。
- P2**
- 1 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロック φ3 ~ 20mm 多量、焼土 φ2 ~ 5mm、炭化物 φ1 ~ 3mm 微量含む。粘性標準、しまり標準。
  - 2 褐色土 (10YR4/6) ロームブロック φ3 ~ 20mm 少量、炭化物 φ1 ~ 2mm 微量含む。粘性標準、しまり標準。

第108図 SI119



第109図 SI119出土遺物

第40表 SI119出土土製品観察表

番号	種別	出土位置	計測値	重量 (g)	備考
1	土錘	覆土下層	長さ: 4.6 厚さ: 4.3 孔径: 0.8	72.9	

単位: cm

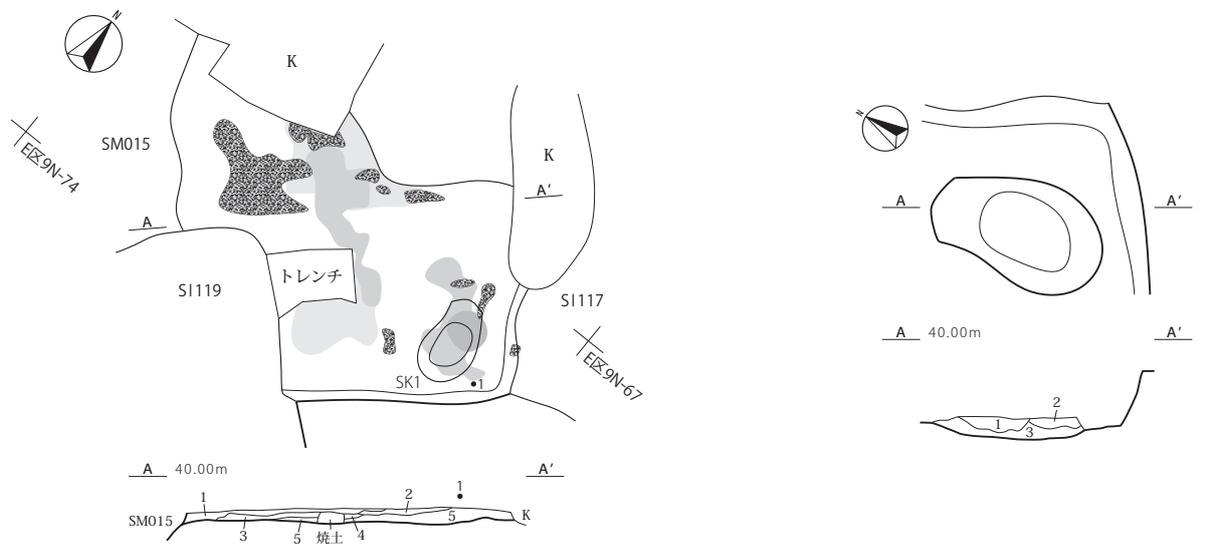
SI120a (第110・111図、第41表、図版13・22)

**位置：**E区9N-65グリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。**重複：**SI117を切り、SI119・SM015に切られる。**規模：**長軸(3.84)m、短軸(3.80)m、確認面からの深度0.34m。**形態：**方形と推測される。**主軸方位：**不明。**覆土：**5層に分けられる。**炉：**検出されなかった。**施設：**土坑1基が検出された。SK1は長軸(0.92)m、短軸(0.56)m、深さ0.19mである。周溝は検出されなかった。床面は掘り方を持たずSI120b覆土を直接使用している。

**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、古墳時代前期と考えられる。

**所見：**炉、支柱穴、周溝は検出されなかった。床面直上では焼土や炭化材が散在しており、床面は一部被熱・焼土化している。これらのことから焼却・焼失した竪穴建物と考えられる。

**遺物：**土器447.3g、縄文土器34.3gが出土した。1は高坏の坏部である。



第110図 SI120a・SK1



第111図 SI120a出土遺物

第41表 SI120a出土土器観察表

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 高坏	覆土上層	口径：10.9 脚径：- 器高：[5.0] 最大径：(11.1)	特徴：坏部炭化物附着 外面：口縁部~坏部 内面：口縁部ヨコナデ、坏部ヘラミガキ	胎土：白色粒 焼成：普通 色調：橙 残存度：坏部ほぼ完存	

単位：cm

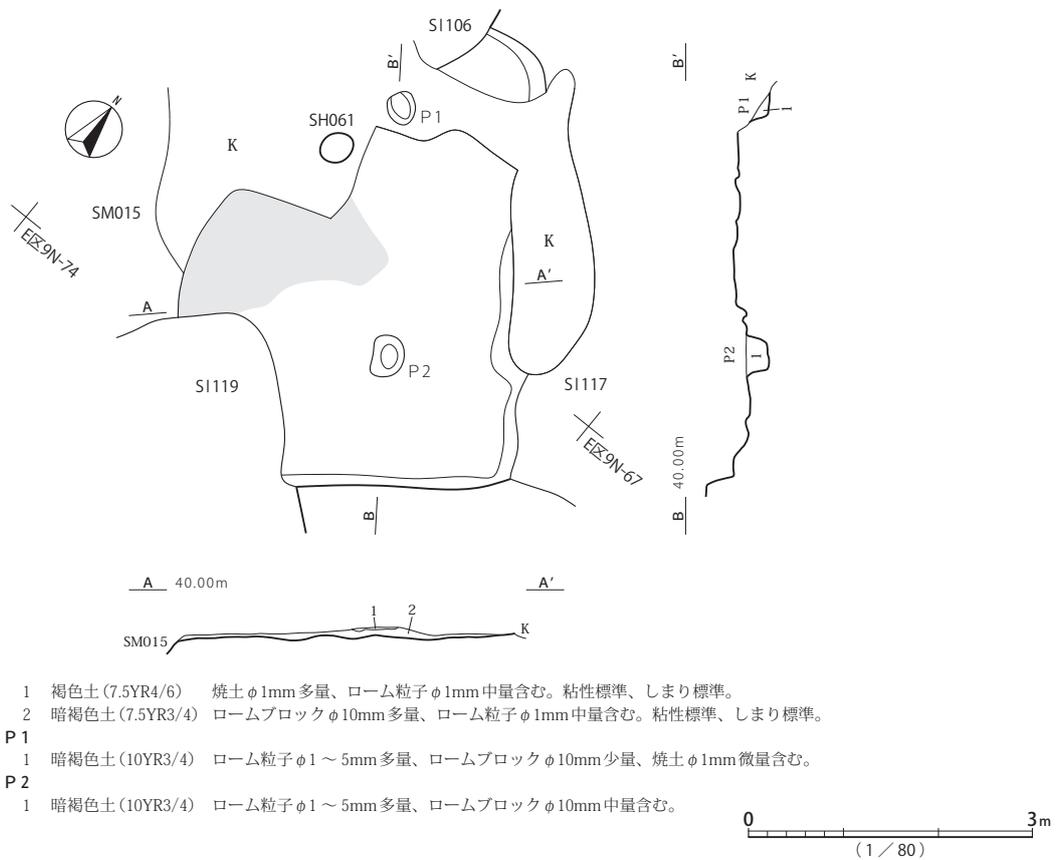
SI120b (第112・113図、第42表、図版14)

**位置：**E区9N-65グリッドを中心とする台地の西向き緩斜面に位置する。**重複：**SI117を切り、SI119・SM015に切られる。**規模：**長軸4.92m、短軸3.84m、確認面からの深度0.32m。**形態：**方形と推測される。**主軸方位：**不明。**覆土：**2層に分けられ、暗褐色土が主体である。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピット2基が検出された。支柱穴はP1・P2で、柱間は長軸方向2.72m。周溝は検出されなかった。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用しており、一部が硬化している。

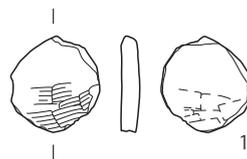
**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、古墳時代前期と考えられる。

**所見：**炉、周溝は検出されなかった。

**遺物：**土器49.3gが出土した。1は甕の胴部片の周囲を打ち欠き円盤状に加工している。



第112図 SI120b



第113図 SI120b出土遺物

第42表 SI120b出土土製品観察表

番号	種別	出土位置	計測値	重量(g)	備考
1	土製円盤	覆土	長さ:3.8 幅:3.5 厚さ:7.0 孔径:-	10.3	甕胴部片を転用

単位:cm

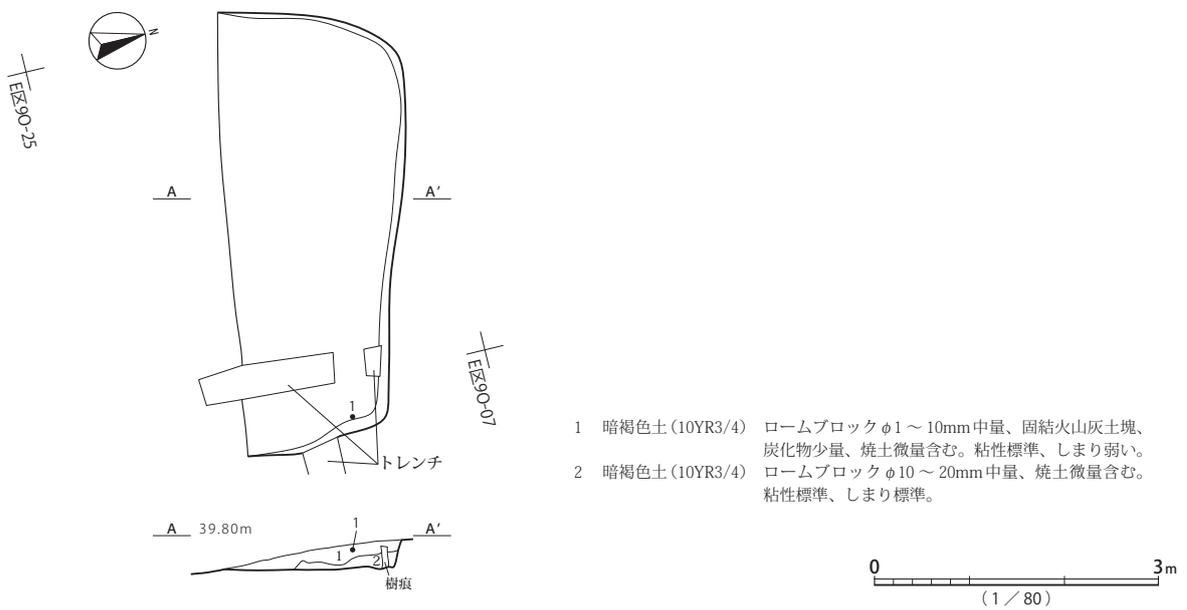
SI121 (第114・115図、第43表、図版14・23)

**位置：**E区9O-05グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI122を切る。  
**規模：**長軸(4.70)m、短軸(1.96)m、確認面からの深度0.25m。**形態：**方形と推測される。**主軸方位：**不明。**覆土：**2層に分けられ、暗褐色土である。**炉：**検出されなかった。**施設：**周溝は検出されなかった。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

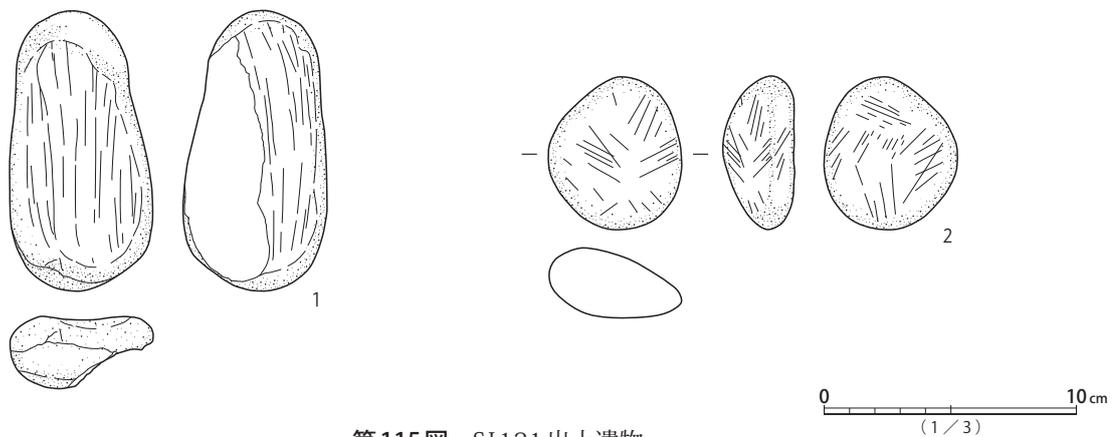
**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、古墳時代前期と考えられる。

**所見：**炉、支柱穴、周溝は検出されなかった。壁面はほぼ垂直で立ち上がり、床面が水平に広がることから竪穴建物と判断した。

**遺物：**土器409.7g、石器・石製品354.8g、縄文土器41.9gが出土した。1・2は磨石である。1は表裏両面に磨痕がみられる。



第114図 SI121



第115図 SI121出土遺物

第43表 SI121出土石製品観察表

単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量(g)	備考
1	磨石	結晶片岩	覆土中層	11.1	5.65	2.8	245.0	磨：表、裏各1面
2	磨石	砂岩	覆土	6.1	5.25	2.85	109.0	磨：表、裏各1面

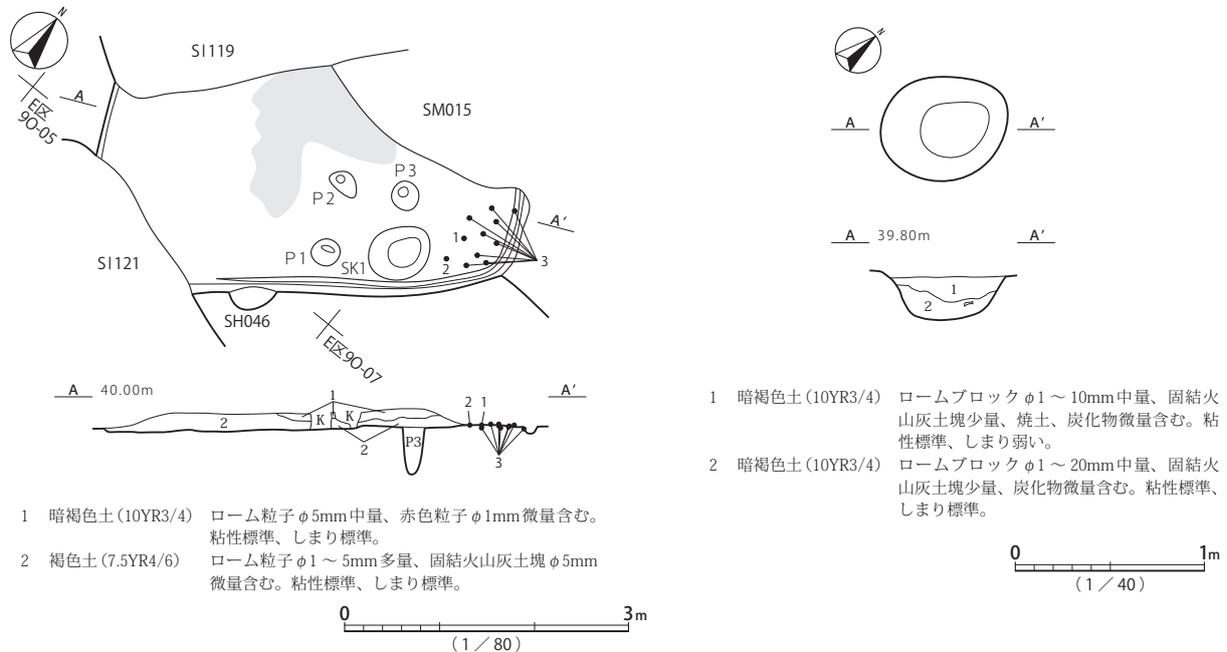
SI122 (第116・117図、第44表、図版14・22)

**位置：**E区9N-96グリッドを中心とする台地の南西向き緩斜面に位置する。**重複：**SI119・SI121・SM015に切られる。**規模：**長軸(4.60)m、短軸(2.46)m、確認面からの深度0.19m。**形態：**方形と推測される。**主軸方位：**不明。**覆土：**2層に分けられ、褐色土が主体である。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピット3基、土坑1基が検出された。SK1は長軸0.76m、短軸0.64m、深さ0.27mである。周溝は東壁から南壁にかけて検出された。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

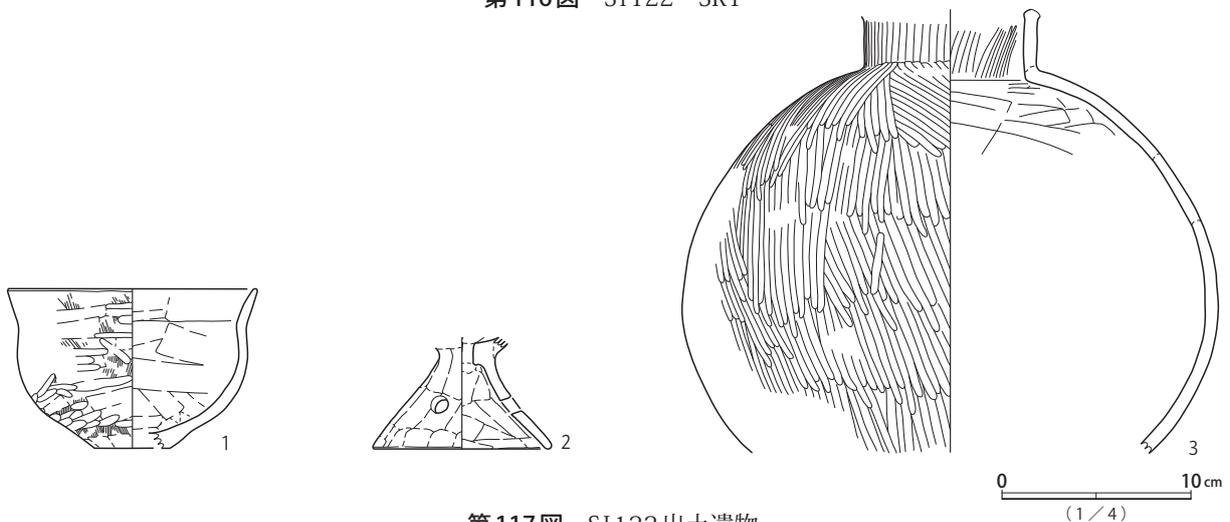
**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、古墳時代前期と考えられる。

**所見：**周溝が検出されたが、炉、支柱穴は検出されなかった。床面直上からは、鉢(1)、器台(2)、壺(3)が出土している。

**遺物：**土器1759.8gが出土した。1は鉢、2は器台、3は壺である。3は外面全面にミガキが緻密に施されている。



第116図 SI122・SK1



第117図 SI122出土遺物

第44表 SI122出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器鉢	覆土下層	口径：(12.0) 底径：(4.0) 器高：8.45 最大径：(12.1)	外面：口縁部～胴部ハケメ後ヘラナデ後ヘラミガキ、底部ヘラナデ 内面：口縁部～底部ヘラナデ	胎土：石英・長石・白色粒・橙色粒 焼成：良好 色調：橙 残存度：口縁部～底部	
2	弥生土器器台	覆土下層	口径：- 脚径：9.2 器高：[6.1] 最大径：9.4	特徴：脚部外面から内面へ穿孔3箇所 外面：器受部～脚部ヘラナデ、裾部ナデ 内面：器受部ヘラナデ・上方から下方へ穿孔、脚部～裾部ヘラナデ	胎土：石英・長石・白色粒・橙色粒 焼成：良好 色調：明赤褐 残存度：脚部～裾部ほぼ完存	
3	弥生土器壺	覆土下層	口径：- 底径：- 器高：[23.5] 最大径：(28.2)	外面：頸部～胴部ヘラミガキ 内面：頸部ヘラミガキ、胴部ヘラナデ	胎土：石英・白色粒 焼成：普通 色調：明赤褐 残存度：頸部～胴部1/2	

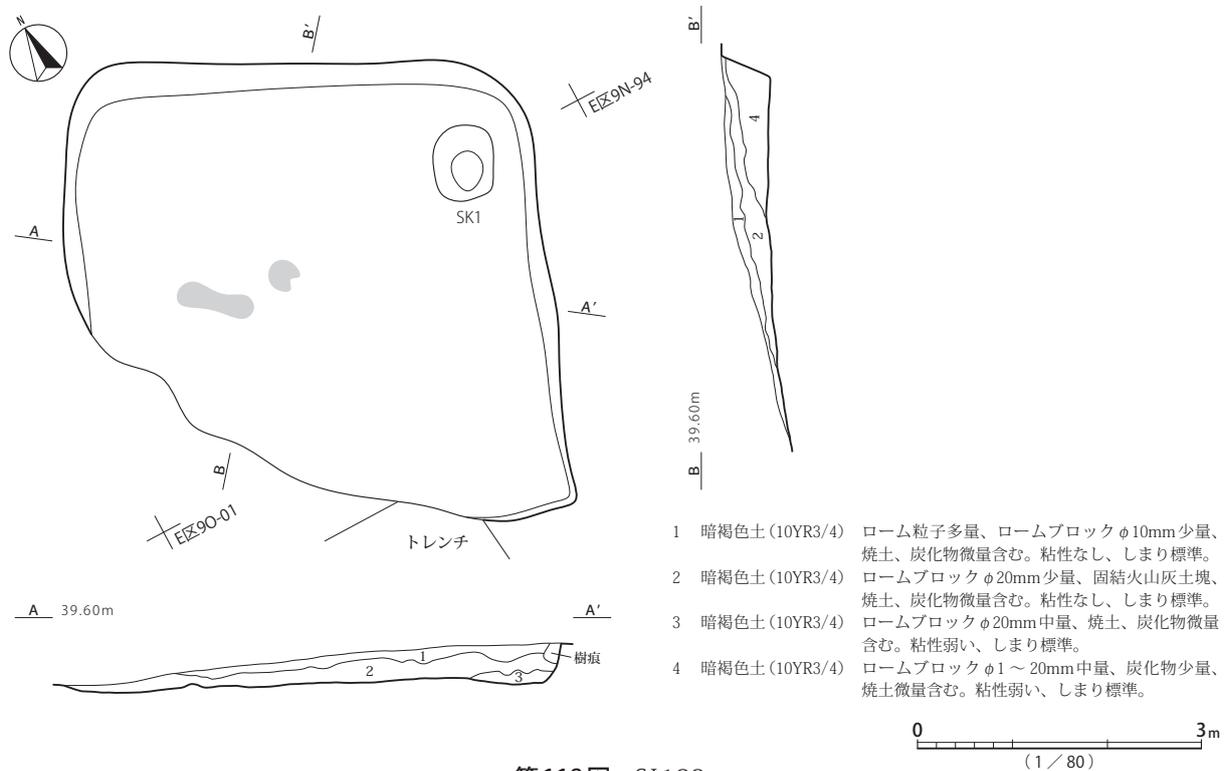
SI123 (第118～120図、第45表、図版14・22)

**位置：**E区9N-92グリッドを中心とする台地の南西向き斜面に位置する。**重複：**SI124・SI125・SI126を切る。**規模：**主軸5.30m、副軸(4.88)m、確認面からの深度0.50m。**形態：**方形。**主軸方位：**N-28°-E。**覆土：**4層に分けられ、暗褐色土が主体である。**炉：**検出されなかった。**施設：**土坑1基が検出された。SK1は長軸0.80m、短軸0.62m、深さ0.21mである。周溝は検出されなかった。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

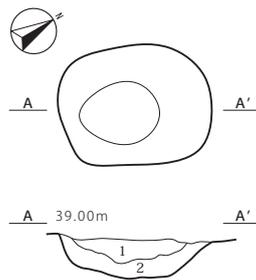
**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、古墳時代前期と考えられる。

**所見：**炉、支柱穴、周溝は検出されなかった。床面が2箇所被熱・焼土化している。これらは炉の可能性も考えられる。

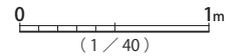
**遺物：**土器2573.6g、石器・石製品26.2g、縄文土器46.5gが出土した。1・2は甕である。どちらもハケメ調整が施されている。



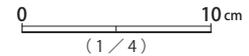
第118図 SI123



- 1 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ1～10mm多量、固結火山灰土塊、炭化物φ1～10mm少量、焼土微量含む。粘性標準、しまり強い。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ1～50mm中量、固結火山灰土塊少量含む。粘性弱い、しまり強い。



第119図 SI123SK1



第120図 SI123出土遺物

第45表 SI123出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 甕	覆土下層	口径： - 底径： (4.9) 器高： [2.3] 最大径： (9.2)	外面：胴部下半ハケメ・ナデ、底部ハケメ 内面：胴部下半～底部ヘラナデ	胎土：石英・長石・白色粒 焼成：良好 色調：明褐 残存度：胴部下半～底部	
2	土師器 甕	覆土上層	口径： (14.2) 底径： - 器高： [3.3] 最大径： -	外面：口唇部ナデ、口縁部ハケメ後ヨコナデ、頸部上半ヘラナデ、頸部下半ハケメ・ナデ 内面：口唇部ナデ・ハケメ、口縁部～頸部ハケメ・ヘラナデ	胎土：長石・白色粒 焼成：良好 色調：橙 残存度：口縁部の破片	

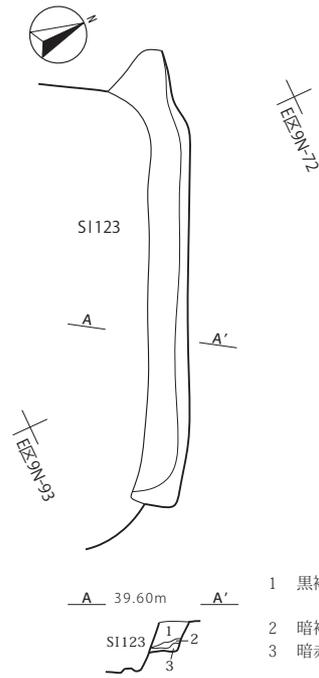
SI124 (第121図、図版14)

**位置：**E区9N-72グリッドを中心とする台地の南西向き斜面に位置する。**重複：**SI111を切り、SI123に切られる。**規模：**長軸4.88m、短軸0.88m、確認面からの深度0.45m。**形態：**方形と推測される。**主軸方位：**不明。**覆土：**3層に分けられる。**炉：**検出されなかった。**施設：**周溝は検出されなかった。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

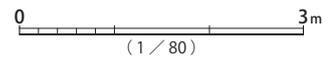
**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、古墳時代前期と考えられる。

**所見：**炉、支柱穴、周溝は検出されなかった。SI123との重複により、全容が明らかではないが、壁面がほぼ垂直に立ち上がっていることから竪穴建物と判断した。

**遺物：**土器45.8gが出土したが、小破片のため図示していない。



- |   |                  |   |
|---|------------------|---|
| 1 | 黒褐色土 (7.5YR3/2)  | ロームブロックφ1～10mm多量、固結火山灰土塊、炭化物少量、焼土微量含む。粘性なし、しまり標準。 |
| 2 | 暗褐色土 (10YR3/4)   | ロームブロックφ1～10mm少量含む。粘性弱い、しまり弱い。                    |
| 3 | 暗赤褐色土 (2.5YR3/4) | ロームブロックφ1～10mm中量、焼土、炭化物微量含む。粘性弱い、しまり標準。           |



第121図 SI124

SI125 (第122～124図、第46表、図版14・15・22)

**位置：**E区9N-93グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI126を切り、SI123に切られる。**規模：**長軸(3.92)m、短軸(2.16)m、確認面からの深度0.20m。**形態：**方形と推測される。**主軸方位：**不明。**覆土：**2層に分けられ、暗褐色土である。**炉：**北壁寄りに位置する。長軸0.48m、短軸0.42mで浅く窪む。**施設：**周溝は検出されなかった。床面は掘り方を持たず北側はハードローム層を直接使用している。

**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、古墳時代前期と考えられる。

**所見：**炉が検出されたが、支柱穴、周溝は検出されなかった。炉の覆土中から甕(2)が、床面からも甕(1)が出土している。

**遺物：**土器586.1gが出土した。1・2は甕である。ともにハケメ調整が施されている。

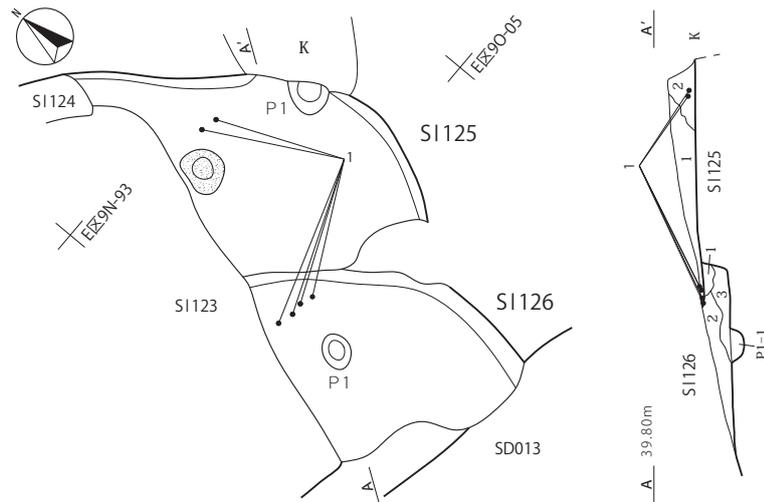
SI126 (第122図、図版15)

**位置：**E区9O-03グリッドを中心とする台地の南向き斜面に位置する。**重複：**SI123・SI125・SD013に切られる。**規模：**長軸(2.88)m、短軸(2.04)m、確認面からの深度0.18m。**形態：**方形と推測される。**主軸方位：**不明。**覆土：**3層に分けられ、暗褐色土が主体である。**炉：**検出されなかった。**施設：**ピット1基が検出された。周溝は検出されなかった。床面は掘り方を持たずハードローム層を直接使用している。

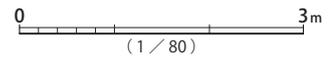
**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、古墳時代前期と考えられる。

**所見：**炉、支柱穴、周溝は検出されなかった。

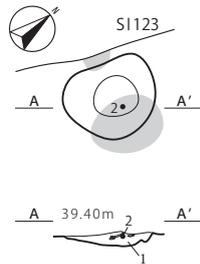
**遺物：**土器551.0gが出土したが、小破片のため図示していない。



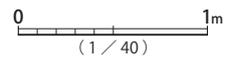
- SI125  
 1 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ1~10mm少量、固結火山灰土塊、炭化物微量含む。粘性なし、しまり強い。  
 2 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ1~30mm中量含む。粘性なし、しまり強い。
- SI126  
 1 黒褐色土(7.5YR3/2) ローム粒子、炭化物少量含む。粘性標準、しまり標準。  
 2 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ1~5mm少量、焼土、炭化物微量含む。粘性弱い、しまり標準。  
 3 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ1~5mm中量、焼土微量含む。粘性弱い、しまり標準。
- P1  
 1 黒褐色土(7.5YR3/2) ロームブロックφ1~20mm中量含む。粘性なし、しまり標準。



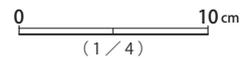
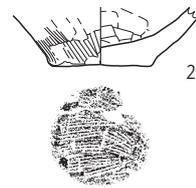
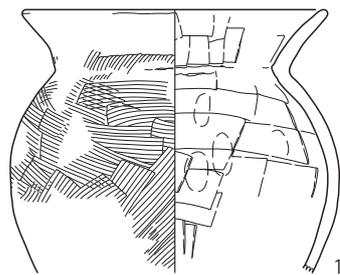
第122図 SI125・SI126



- 1 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ1~5mm中量、固結火山灰微量、焼土少量、炭化物微量含む。粘性なし、しまり標準。



第123図 SI125 炉



第124図 SI125出土遺物

第46表 SI125出土土器観察表

単位: cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	弥生土器 甕	床面	口径: (15.7) 底径: - 器高: [14.0] 最大径: (17.4)	外面: 口唇部指ナデ、口縁部ヨコナデ、胴部上半ハケメ 内面: 口縁部ヘラナデ・ヨコナデ、胴部上半ヘラナデ・指頭圧痕	胎土: 石英・長石・黒色粒・白色粒 焼成: 良好 色調: オリーブ褐色 残存度: 口縁部~胴部上半1/2	
2	弥生土器 甕	炉	口径: - 底径: 5.1 器高: 3.1 最大径: (10.5)	外面: 胴部下半ハケメ後ヘラナデ・指頭圧痕、底部ナデ後ハケメ 内面: 胴部下半~底部ヘラナデ後ヘラケズリ	胎土: 石英・長石・白色粒 焼成: 良好 色調: 橙 残存度: 胴部下半~底部	

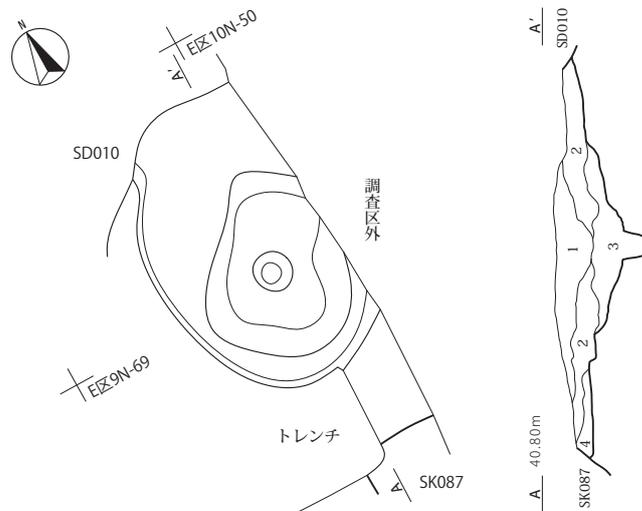
### 3. 土 坑

SK085 (第125・126図、第47表、図版15・23)

**位置：**E区9N-59グリッドを中心に位置する。**重複：**SD010・SK087に切られる。東側は調査区外へ延びる。**規模：**長軸(1.97)m、短軸(1.63)m、確認面からの深度0.58m。**長軸方位：**N-29°-E。**形態：**楕円形と推測される。底面中央に小穴を持ち、階段状に緩やかに立ち上がる。**覆土：**4層に分けられ、暗褐色土が主体である。

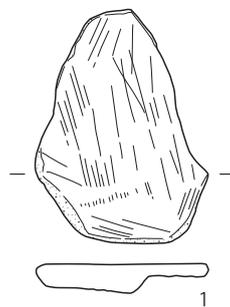
**時期：**覆土から古墳時代と考えられる。

**遺物：**土器176.2g、石器・石製品65.6g、縄文土器74.6gが出土した。1は砥石である。表面が使い込まれ平滑になっている。



- 1 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ1～10mm中量、固結火山灰土塊少量含む。粘性弱い、しまり標準。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロックφ1～20mm中量含む。粘性標準、しまり標準。
- 3 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ1～30mm中量、炭化物少量含む。粘性標準、しまり標準。
- 4 暗褐色土(7.5YR3/4) ロームブロックφ1～20mm多量含む。粘性標準、しまり強い。

第125図 SK085



第126図 SK085出土遺物

第47表 SK085出土石製品観察表

単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量(g)	備考
1	砥石	砂岩	覆土	9.35	6.75	1.2	66.0	磨：表、裏各1面

SK086 (第127図、図版15)

**位置：**E区9N-68グリッドを中心に位置する。**重複：**SD010に切られる。**規模：**長軸1.26m、短軸(0.88)m、確認面からの深度0.14m。**長軸方位：**N-34°-W。**形態：**不整楕円形と推測される。底面はほぼ平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。**覆土：**暗褐色土の単層である。

**時期：**覆土から古墳時代と考えられる。

**遺物：**土器5.1gが出土したが、小破片のため図示していない。

SK087 (第127図、図版15)

**位置：**E区9N-78グリッドを中心に位置する。**重複：**SI112を切り、SM015に切られる。東側は調査区外へ延びる。**規模：**長軸(1.88)m、短軸(0.68)m、確認面からの深度0.47m。**長軸方位：**N-7°-E。**形態：**楕円形と推測される。底面はほぼ平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。**覆土：**2層に分けられ、黒褐色土である。

**時期：**覆土から古墳時代と考えられる。

**遺物：**遺物は出土しなかった。

SK088 (第127図、図版15)

**位置：**E区9O-36グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.12m、短軸0.76m、確認面からの深度0.23m。**長軸方位：**N-58°-W。**形態：**楕円形。底面はほぼ平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。**覆土：**暗褐色土の単層である。

**時期：**覆土から古墳時代と考えられる。

**遺物：**遺物は出土しなかった。

SK089 (第127図、図版15)

**位置：**E区9O-46グリッドに位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.04m、短軸0.64m、確認面からの深度0.24m。**長軸方位：**N-77°-W。**形態：**隅丸長方形。底面にはわずかに凹凸があり、壁面は緩やかに立ち上がる。**覆土：**暗褐色土の単層である。

**時期：**覆土から古墳時代と考えられる。

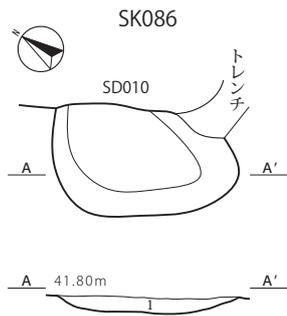
**遺物：**遺物は出土しなかった。

SK090 (第127図、図版15)

**位置：**E区9O-45グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。東西両壁の一部は攪乱され、南側は調査区外へ延びる。**規模：**長軸(2.60)m、短軸(0.96)m、確認面からの深度0.37m。**長軸方位：**N-67°-W。**形態：**長方形と推測される。底面にはわずかに凹凸があり、壁面はきつく立ち上がる。**覆土：**4層に分けられ、暗褐色土が主体である。

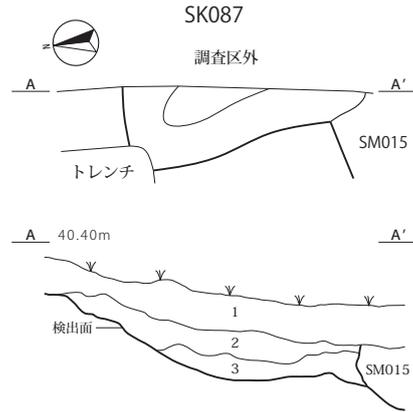
**時期：**覆土から古墳時代と考えられる。

**遺物：**遺物は出土しなかった。



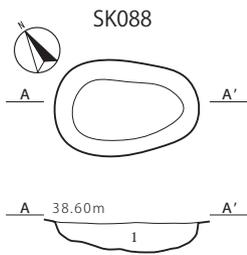
SK086

- 1 暗褐色土(7.5YR3/4) ロームブロックφ1~10mm中量、固結火山灰土塊少量、焼土、炭化物微量含む。粘性なし、しまり標準。



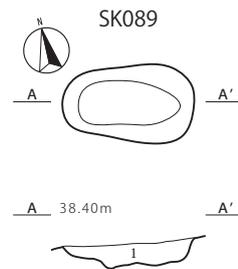
SK087

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒子少量含む。粘性なし、しまり弱い。  
 2 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロックφ1~20mm微量含む。粘性なし、しまり弱い。  
 3 黒褐色土(10YR3/2) ロームブロックφ1~10mm少量、焼土微量含む。粘性なし、しまり標準。



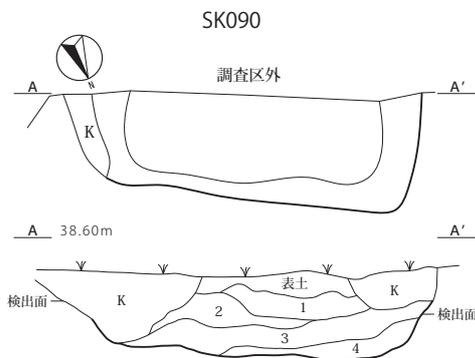
SK088

- 1 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ10~20mm中量含む。粘性標準、しまり標準。



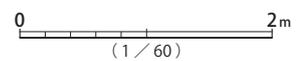
SK089

- 1 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロックφ10mm中量含む。粘性標準、しまり標準。



SK090

- 1 暗褐色土(7.5YR3/4) ローム粒子φ1mm、炭化物φ1~30mm少量、ロームブロックφ10mm、赤色粒子φ1mm微量含む。粘性標準、しまり標準。  
 2 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒子φ1mm多量、ロームブロックφ50mm少量含む。粘性標準、しまり標準。  
 3 暗褐色土(7.5YR3/4) ローム粒子φ1mm多量、ロームブロックφ10mm中量、固結火山灰土塊φ1mm微量含む。粘性標準、しまり標準。  
 4 褐色土(7.5YR4/6) ロームブロックφ10mm、ローム粒子φ1mm多量含む。



第127図 SK086 ~ SK090

## 第3節 奈良・平安時代

### 1. 溝

#### SD009a (第128図、第48表、図版16・24)

**位置：**E区8K-95～9L-54グリッドを中心に位置する。**重複：**SD009cを切る。両端は調査区外へ延びる。**規模：**全長(22.05)m、幅1.65～0.79m、確認面からの深度0.27～0.14m。**長軸方位：**N-61°-E。**形態：**北西-南東方向に直線的に伸びる。底面はほぼ平坦である。高低差は0.13mで北西側が低い。**覆土：**暗褐色土の単層である。

**時期：**重複関係から奈良・平安時代と考えられる。

**所見：**第1地点で確認された溝の延長である。台地の平坦面から痩せ尾根にかけて伸びている。水性堆積は認められない。底面は硬化が著しく、道路として機能していたとも考えられる。

**遺物：**土器256.0g、石器・石製品0.4g、縄文土器9.9gが出土した。1は埴である。

#### SD009b (第129図、図版16)

**位置：**E区8K-59～9L-95グリッドを中心に位置する。**重複：**SD009cと切り合うが新旧関係は不明である。南東側は調査区外へ延びる。**規模：**全長(13.71)m、幅2.59～1.33m、確認面からの深度0.58～0.20m。**長軸方位：**N-54°-W。**形態：**北西-南東方向に直線的に伸びる。底面中央がやや高くなり断面形はW字状となる。東側の底面には土坑状の凹凸が認められる。高低差は0.38mで北西側が低い。**覆土：**暗褐色土の単層である。

**時期：**重複関係から奈良・平安時代と考えられる。

**所見：**SD009cとT字状に接し、SD009aとほぼ並行している。底面は硬化が著しく、道路として機能していたとも考えられる。

**遺物：**土器217.0g、石器・石製品0.2gが出土したが、小破片のため図示していない。

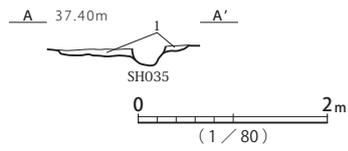
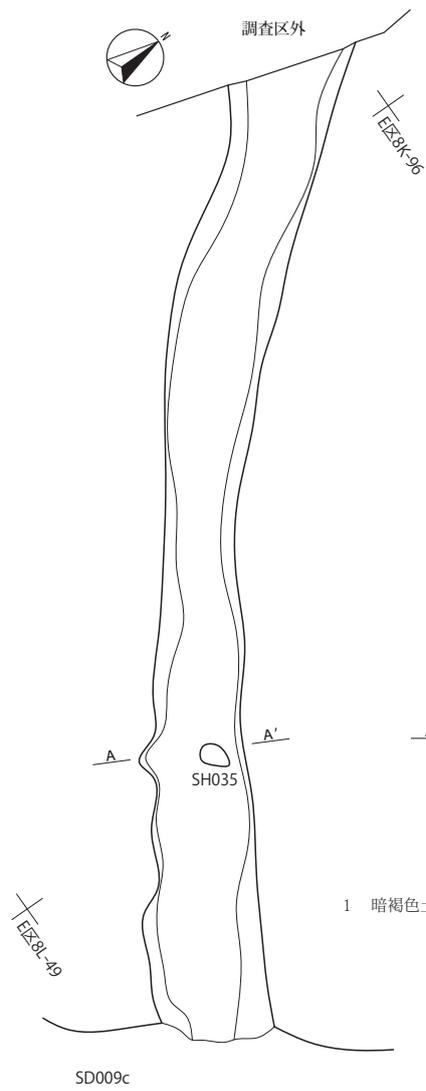
#### SD009c (第130図、図版16)

**位置：**E区9K-82～8M-23グリッドを中心に位置する。**重複：**SD009aに切られ、SD009bと切り合うが新旧関係は不明である。両端は調査区外へ延びる。**規模：**全長(31.62)m、幅4.14～0.91m、確認面からの深度0.54～0.10m。**長軸方位：**N-43°-E。**形態：**北東-南西方向に直線的に伸びる。底面には土坑状の凹凸が認められる。高低差は0.44mで南西側が低い。**覆土：**3層に分けられる。

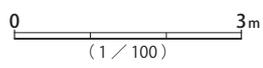
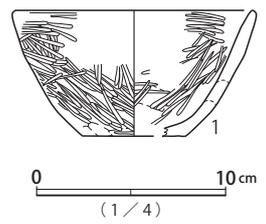
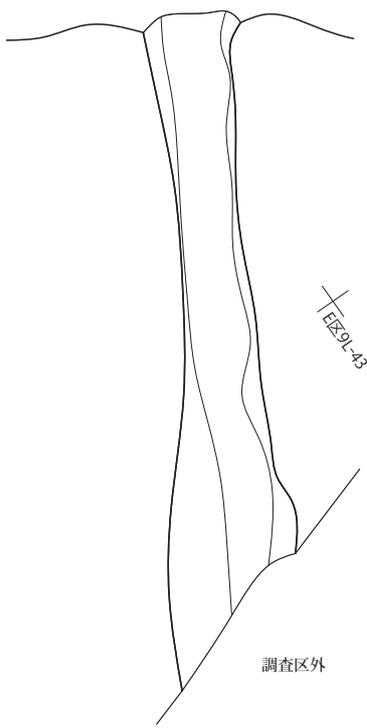
**時期：**重複関係から奈良・平安時代と考えられる。

**所見：**台地の等高線に対してほぼ直行する。水性堆積は認められない。

**遺物：**土器1497.5g、石器・石製品10.4gが出土したが、小破片のため図示していない。



1 暗褐色土(10YR3/3) 固結火山灰土塊、焼土微量含む。  
粘性標準、しまり標準。

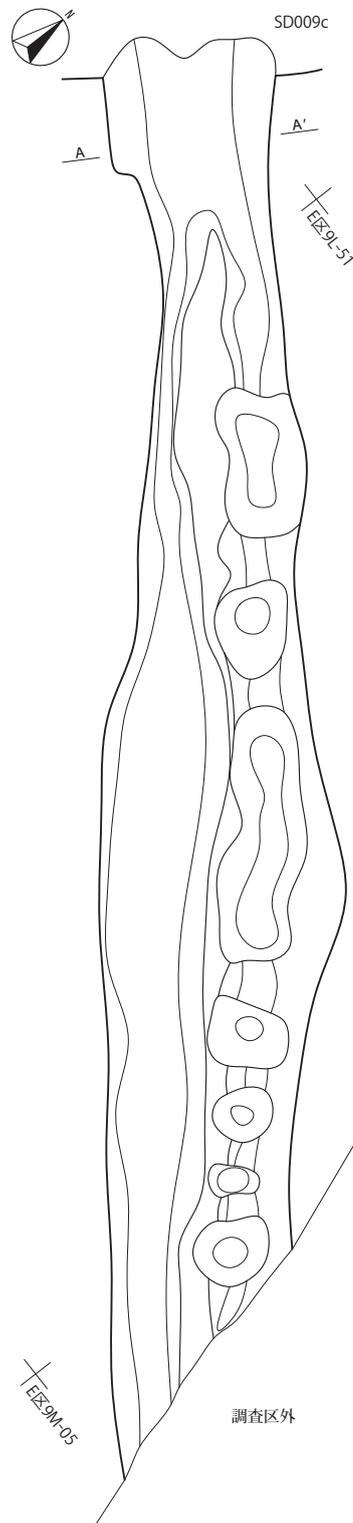


第128図 SD009a・出土遺物

第48表 SD009a出土土器観察表

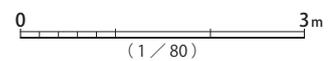
単位：cm

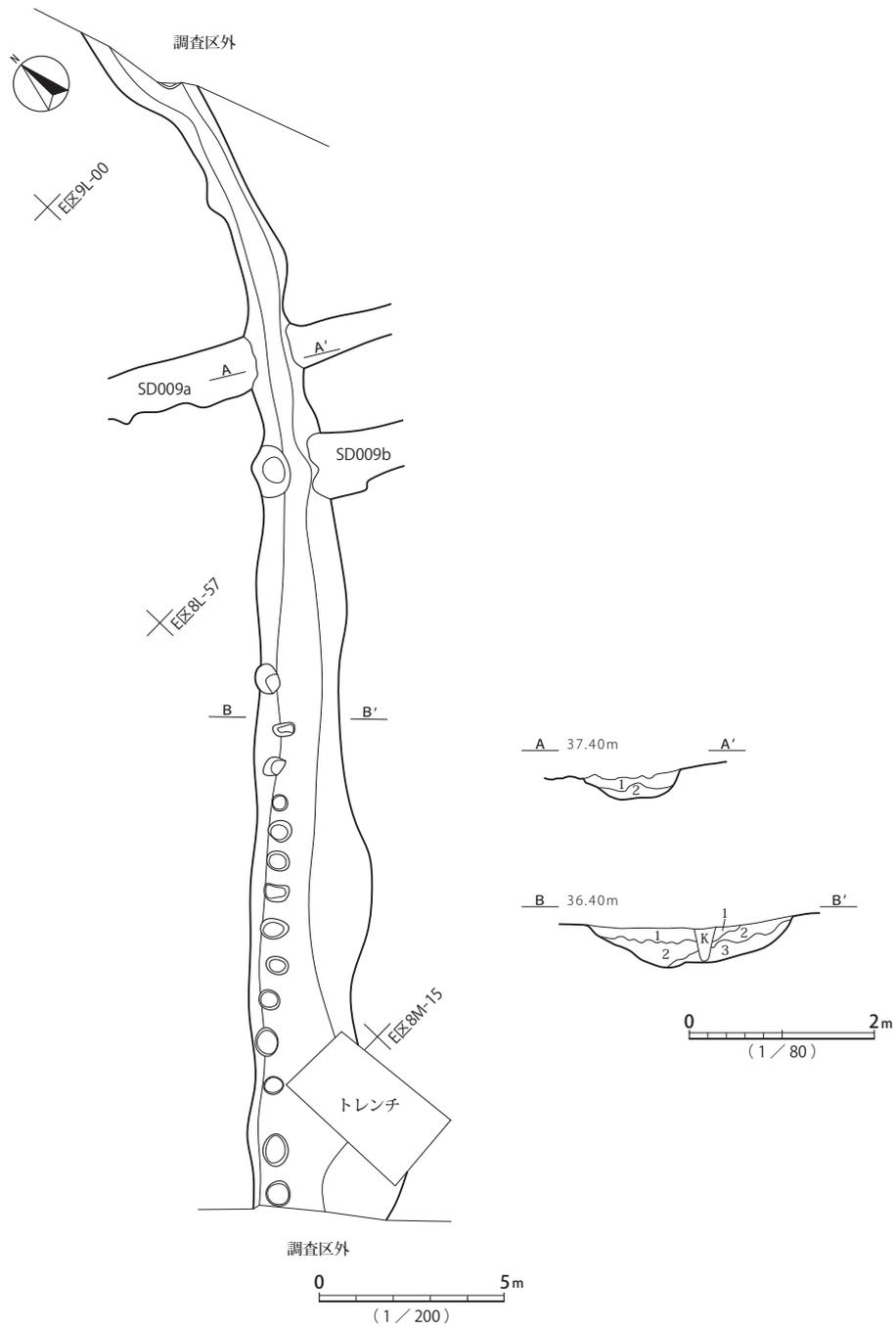
番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	土師器 埴	覆土	口 径：(12.4) 底 径：(5.4) 器 高：6.7 最大径：-	外面：口唇部ナデ、口縁部～体部ヘラナデ 後ヘラミガキ、底部ナデ 内面：口縁部～底部ヘラナデ後ヘラミガキ	胎 土：石英・黒色粒・白色粒 焼 成：良好 色 調：橙 残存度：口縁部～底部1/4	



- 1 暗褐色土(10YR3/4) ローム粒子、固結火山灰土塊微量含む。  
粘性標準、しまり標準。

第129図 SD009b





**A-A'**

- 1 暗赤褐色土 (2.5YR3/3) 固結火山灰土塊、炭化物微量含む。粘性標準、しまり標準。
- 2 褐色土 (10YR4/6) 固結火山灰土塊微量含む。粘性標準、しまり標準。

**B-B'**

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒子少量、固結火山灰土塊、焼土微量含む。粘性標準、しまり標準。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒子少量、ロームブロックφ20～30mm、固結火山灰土塊微量含む。粘性標準、しまり標準。
- 3 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒子、焼土微量含む。粘性標準、しまり標準。

第130図 SD009c

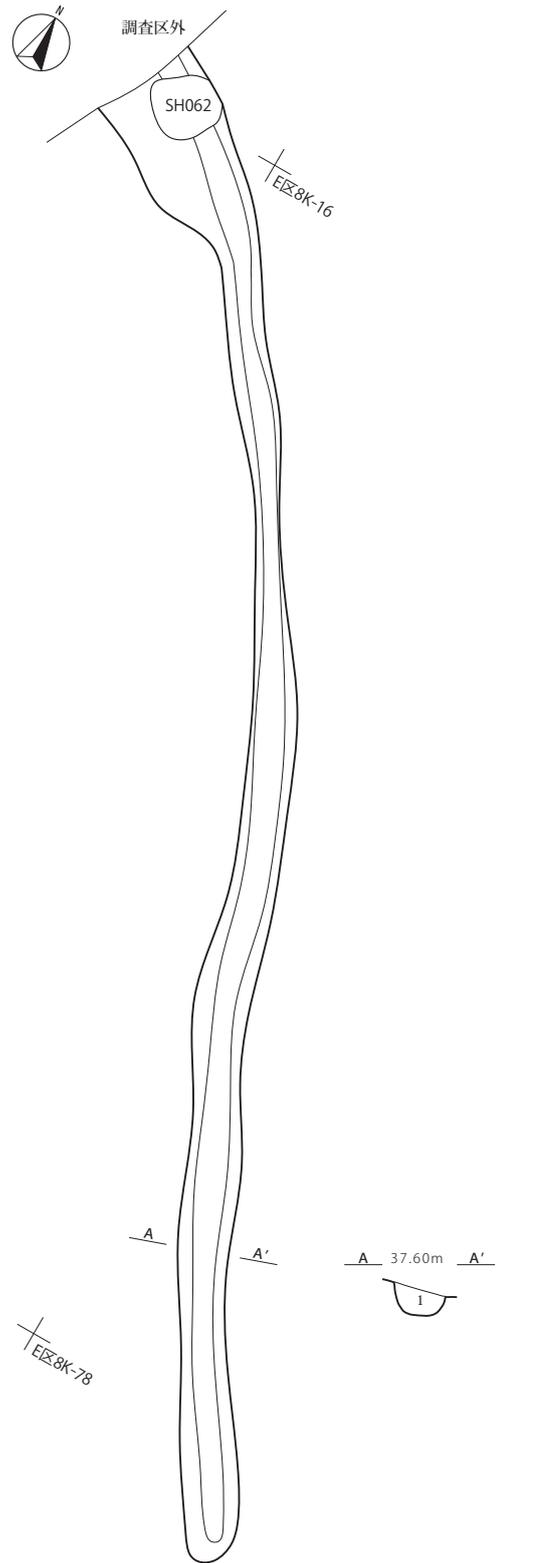
SD012 (第131図、図版16)

**位置：**E区8K-05～8K-79グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。西側は調査区外へ延びる。**規模：**全長(16.11)m、幅1.05～0.25m、確認面からの深度0.48～0.03m。**長軸方位：**N-29°-W。**形態：**北西-南東方向に直線的に伸びる。底面はほぼ平坦である。高低差は0.45mで南側が低い。**覆土：**単層である。

**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、奈良・平安時代と考えられる。

**所見：**台地の等高線に対してほぼ並行する。台地の崩落に伴う地割れの可能性もある。

**遺物：**土器226.1g、石器・石製品4.6g、縄文土器55.2gが出土したが、小破片のため図示していない。



- 1 褐色土(10YR4/6) ロームブロックφ5mm少量、固結火山灰土塊、焼土微量含む。粘性標準、しまり標準。

第131図 SD012

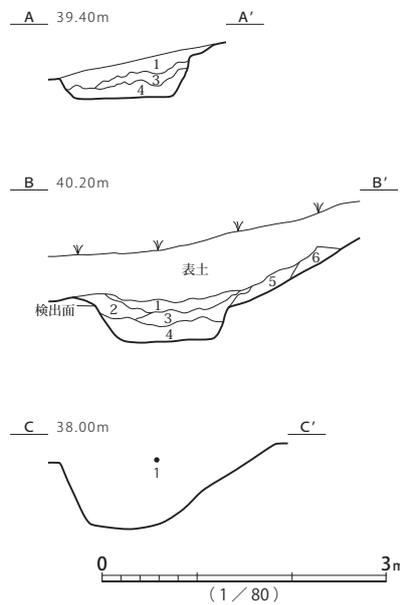
SD013 (第132・133図、第49表、図版16・24)

**位置：**E区80-09～90-38グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。東西両端は調査区外へ延びる。**規模：**全長(18.53)m、幅2.32～1.63m、確認面からの深度0.81～0.25m。**長軸方位：**N-79°-W。**形態：**東西方向に直線的に伸びる。底面はほぼ平坦で壁面はきつく立ち上がり、上方で緩やかになる。高低差は0.56mで西側が低い。**覆土：**6層に分けられる。

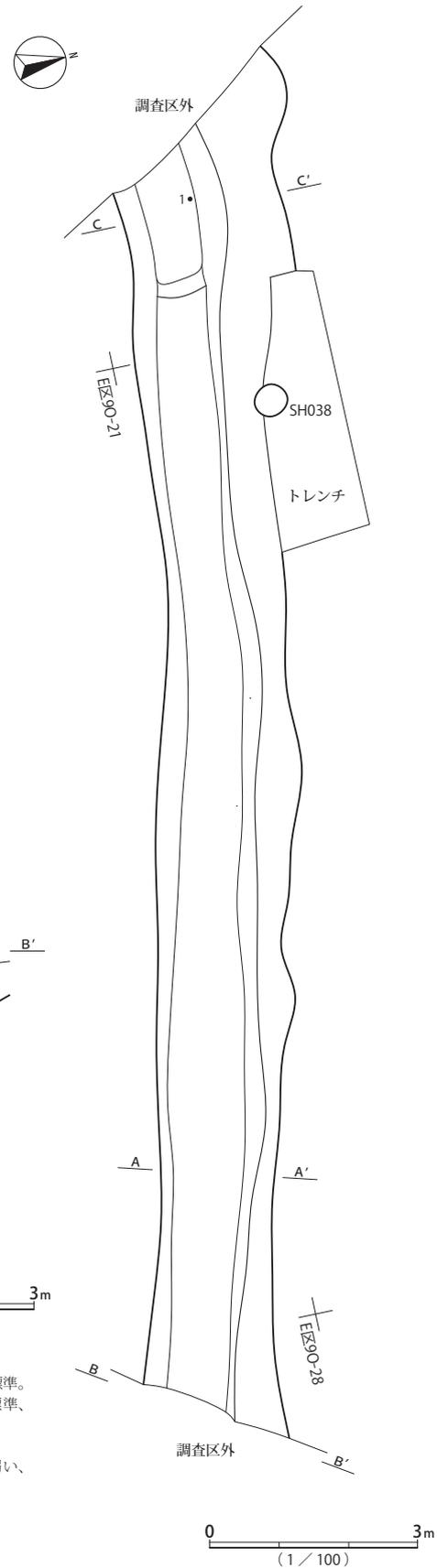
**時期：**出土遺物が少なく断定はできないが、奈良・平安時代と考えられる。

**所見：**台地の平坦面の縁辺から西向き斜面に直線的に伸びる溝である。西側の調査区外へ接する部分では覆土の上層が著しく硬化しており、埋没過程において道路として用いられたことが推測される。

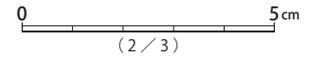
**遺物：**土器1360.0g、石器2.3g、石製品31.1gが出土した。1は石製紡錘車である。全面に細かな擦痕がみられる。



- |                  |  |
|------------------|--|
| 1 黒褐色土(10YR2/2)  | ローム粒子微量含む。粘性標準、しまり標準。                    |
| 2 黒褐色土(7.5YR3/2) | ロームブロックφ5mm少量、ローム粒子少量含む。粘性弱い、しまり標準。      |
| 3 黒褐色土(7.5YR3/2) | ロームブロックφ1～10mm中量、固結火山灰土塊微量含む。粘性標準、しまり標準。 |
| 4 暗褐色土(10YR3/4)  | ロームブロックφ10mm少量含む。粘性標準、しまり標準。             |
| 5 暗赤褐色土(5YR3/2)  | ロームブロックφ1～10mm中量、固結火山灰土塊微量含む。粘性弱い、しまり弱い。 |
| 6 黒褐色土(7.5YR3/2) | ローム粒子微量含む。粘性弱い、しまり弱い。                    |



第132図 SD013



第133図 SD013出土遺物

第49表 SD013出土石製品観察表

単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量(g)	備考
1	紡錘車	滑石	覆土上層	3.85	3.7	1.4	31.1	全面研磨

## 第4節 中世

### 1. 土坑

SK091 (第134図、図版16)

**位置：**E区8 M-04グリッドを中心に位置する。**重複：**遺構の重複はない。**規模：**長軸1.36 m、短軸1.04 m、確認面からの深度0.74 m。**長軸方位：**N-52°-W。**形態：**T字形。底面はほぼ平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。**覆土：**5層に分けられる。

**時期：**覆土から中世と考えられる。

**所見：**南北方向に長軸を持つ土坑部と、東西方向に長軸を持つ溝状の掘り込みからなる。溝状の掘り込みがより深く掘りこまれている。土坑部の覆土中に人骨と思われる骨片や焼土、炭化物を含む。一方で溝状の掘りこみ部には認められない。遺構の壁面や底面には明確な被熱痕はないが、骨片の出土や遺構の形態から火葬遺構と考えられる。

**遺物：**遺物は出土しなかった。



第134図 SK091

## 第5節 時期不明の遺構

本遺跡からは29基のピットが検出されているが、そのほとんどが時期不明である。掘立柱建物や柱穴列などの復元も困難であったため、まとめて第50表に計測位置を示しておく。

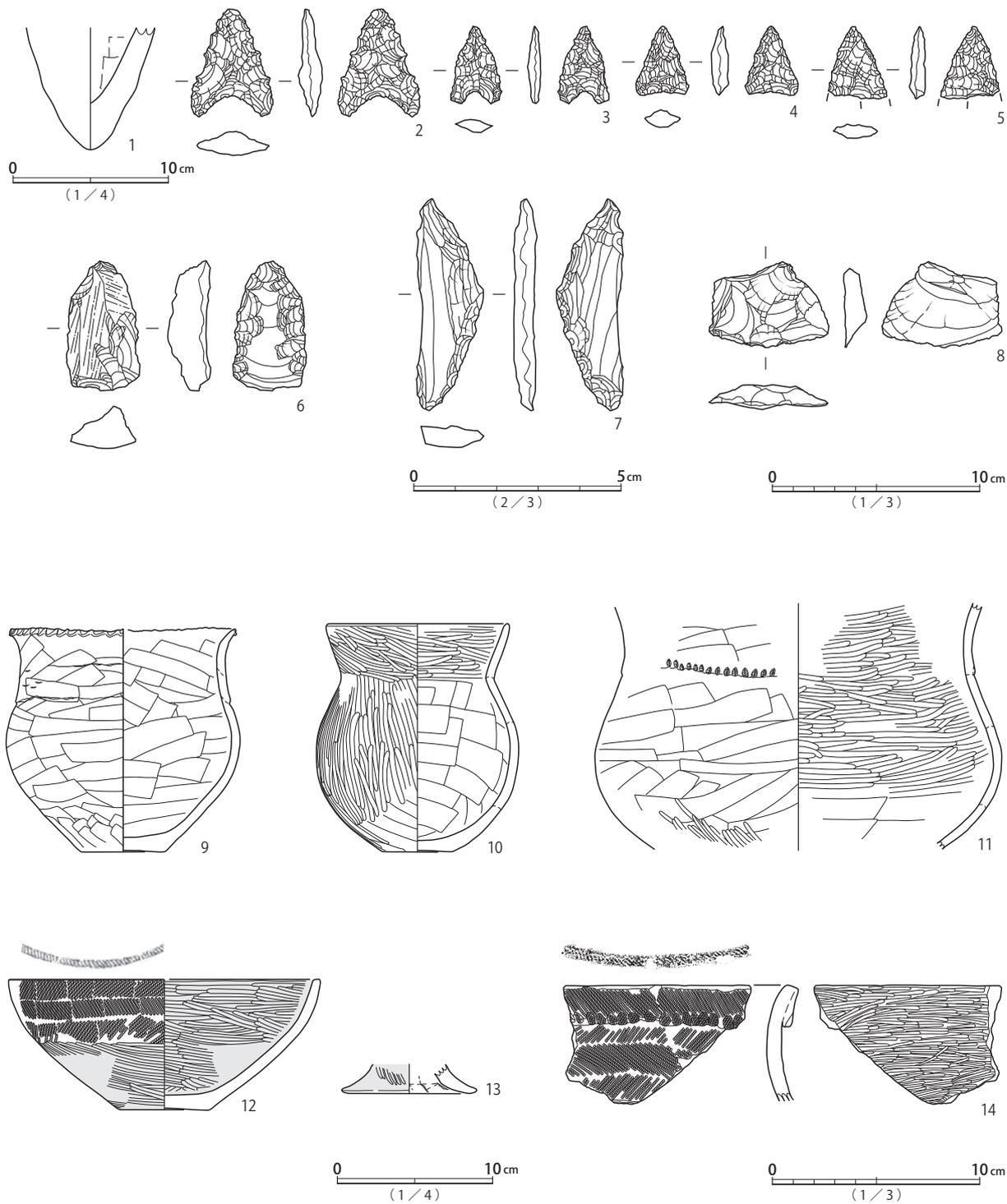
第50表 ピット計測表

単位：m

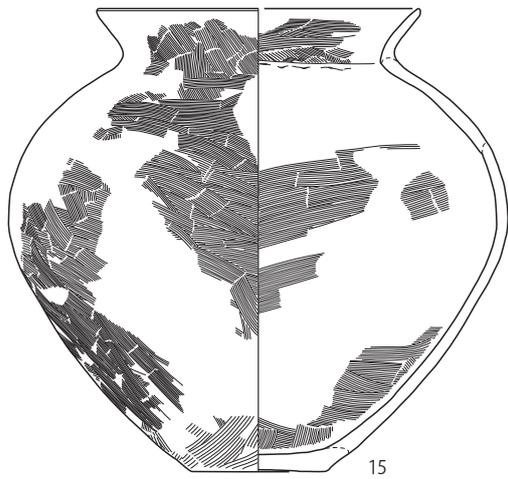
遺構番号	長軸	短軸	深さ
SH035	0.44	0.27	0.14
SH036	0.38	0.33	0.29
SH037	0.44	(0.34)	0.40
SH038	0.48	0.44	0.20
SH039	0.41	(0.29)	0.14
SH040	0.48	(0.41)	0.11
SH041	0.45	0.38	0.18
SH042	0.29	0.26	0.40
SH043	0.74	0.52	0.16
SH044	0.50	0.41	0.22
SH045	0.46	0.28	0.13
SH046	0.69	0.53	0.21
SH047	0.75	0.63	0.24
SH048	0.64	0.45	0.33
SH049	0.49	0.43	0.20
SH050	0.46	0.36	0.39
SH051	0.39	0.34	0.39
SH052	0.60	0.41	0.30
SH053	0.43	0.39	0.16
SH054 (欠番)	—	—	—
SH055	0.29	0.27	0.18
SH056	0.34	0.32	0.16
SH057	0.48	0.45	0.20
SH058	0.43	0.39	0.34
SH059	0.42	0.37	0.33
SH060	0.45	0.43	0.22
SH061	0.37	0.31	0.50
SH062	0.70	0.63	0.52
SH063	0.38	0.34	0.28

第6節 遺構外出土遺物 (第135・136図、第51～53表、図版24・25)

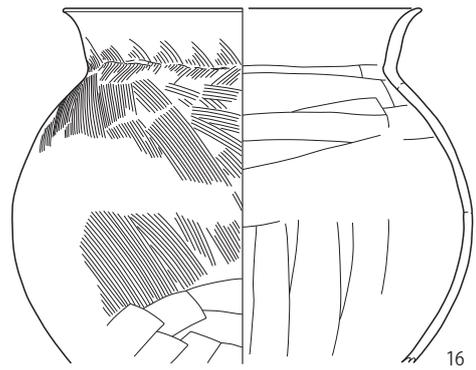
他時代の遺構や表土などから出土した遺物についてここで報告する。1～8は縄文時代、9～14は弥生時代、15～19は古墳時代、20が奈良・平安時代に属すると考えられる。詳細は遺物観察表を参照されたい。



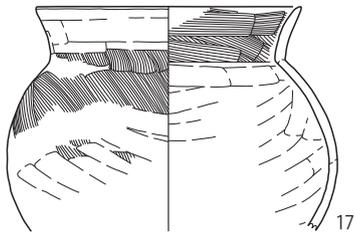
第135図 遺構外出土遺物(1)



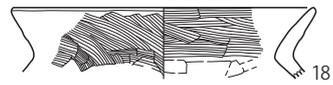
15



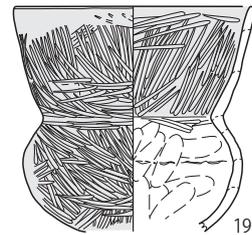
16



17

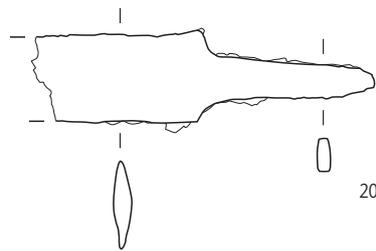


18



19

0 10 cm  
(1/4)



20

0 5 cm  
(2/3)

第136図 遺構外出土遺物(2)

第51表 遺構外出土土器観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	計測値	成形・調整・特徴	胎土・焼成・色調・残存度	備考
1	縄文土器 深鉢	遺構外	口 径： - 底 径： - 器 高： [8.0] 最大径： (8.2)	外面：胴部下半～底部ナデ 内面：胴部下半～底部ヘラナデ後ナデ	胎 土：石英・長石・白色粒 焼 成：良好 色 調：明黄褐 残存度：胴部下半から底部1/2	
9	弥生土器 甕	遺構外	口 径： (14.5) 底 径： 5.4 器 高： [14.4] 最大径： 15.0	特徴：輪積み痕1段残す 外面：口唇部上からの押圧、口縁部～胴部ヘラナデ、底部ナデ 内面：口縁部～胴部ヘラナデ、底部ナデ	胎 土：石英・白色粒 焼 成：良好 色 調：明黄褐 残存度：口縁部～底部	
10	弥生土器 小型 短頸壺	表土	口 径： (11.5) 底 径： 4.4 器 高： 14.7 最大径： 13.0	外面：口縁部～胴部ヘラミガキ、底部ヘラケズリ 内面：口縁部ヘラミガキ、胴部～底部ヘラナデ	胎 土：石英・赤色粒・白色粒 焼 成：普通 色 調：橙 残存度：口縁部～底部	
11	弥生土器 甕	SI104 覆土	口 径： - 底 径： - 器 高： [15.9] 最大径： (26.0)	特徴：輪積み痕1段残す 外面：頸部～胴部上半ヘラナデ、輪積みみ部ハケキザミ、胴部下半ヘラミガキ 内面：頸部～胴部上半ヘラミガキ、胴部下半ヘラナデ	胎 土：石英・長石・白色粒・ 橙色粒 焼 成：良好 色 調：オリーブ褐 残存度：頸部～胴部1/4	
12	弥生土器 鉢	SI104 覆土	口 径： (19.8) 底 径： 5.6 器 高： 8.5 最大径： (20.0)	外面：口唇部単節縄文 (RL)、口縁部単節羽状縄文 (LR・RL・LR)、胴部ヘラミガキ、赤彩、底部ヘラナデ、赤彩 内面：口縁部～底部ヘラミガキ、赤彩	胎 土：石英・長石・黒色粒・ 白色粒 焼 成：良好 色 調：橙 残存度：口縁部～底部	
13	弥生土器 高坏	SD009b 覆土	口 径： - 脚 径： 8.6 器 高： [1.9] 最大径： 8.6	外面：脚部～裾部ナデ・ヘラミガキ、赤彩 内面：脚部～裾部ヘラナデ	胎 土：石英・長石・黒色粒・ 赤色粒・白色粒 焼 成：良好 色 調：橙 残存度：脚部～裾部1/2	
14	弥生土器 広口壺	SI113 覆土	口 径： - 底 径： - 器 高： [5.8] 最大径： -	外面：口唇部単節縄文 (RL)、口縁部単節縄文 (RL)、端部縄文原体によるキザミ、頸部単節羽状縄文 (LR・RL・LR) 内面：口縁部～頸部ヘラミガキ横位	胎 土：石英・黒色粒・白色粒 焼 成：良好 色 調：明赤褐 残存度：口縁部の破片	
15	土師器 甕	SI104 覆土	口 径： (17.0) 底 径： 7.0 器 高： 24.5 最大径： 26.2	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～底部ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部～底部ハケメ	胎 土：石英・長石・黒色粒・ 白色粒 焼 成：良好 色 調：橙 残存度：口縁部～底部	
16	土師器 甕	SI104 覆土	口 径： (18.7) 底 径： - 器 高： [18.8] 最大径： (24.2)	外面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部上半ハケメ、胴部下半ヘラケズリ 内面：口縁部ヨコナデ、頸部～胴部上半ヘラナデ、胴部下半ヘラケズリ	胎 土：金雲母・石英・黒色 粒・白色粒 焼 成：良好 色 調：オリーブ褐 残存度：口縁部～胴部上半1/3	
17	土師器 甕	SI109 覆土	口 径： 14.0 底 径： - 器 高： [11.8] 最大径： (17.9)	外面：口縁部ヘラナデ、頸部ナデ、胴部上半ハケメ、胴部下半ヘラナデ 内面：口縁部ハケメ、頸部ナデ、胴部ヘラナデ	胎 土：石英・白色粒 焼 成：普通 色 調：オリーブ褐 残存度：口縁部～胴部	
18	土師器 甕	SI104 覆土	口 径： (15.6) 底 径： - 器 高： [3.7] 最大径： (16.0)	外面：口縁部ハケメ 内面：口縁部ハケメ、頸部ヘラナデ	胎 土：石英・長石・黒色粒・ 白色粒 焼 成：良好 色 調：オリーブ褐 残存度：口縁部～頸部の破片	
19	土師器 小型壺	遺構外	口 径： (12.4) 底 径： - 器 高： [11.9] 最大径： -	外面：口唇部ナデ、口縁部上半ミガキ後ナデ、赤彩、口縁部下半～胴部ヘラナデ後ヘラミガキ 内面：口縁部～頸部ヘラミガキ、赤彩、胴部ナデ・指頭圧痕	胎 土：石英・長石・黒色粒・ 白色粒 焼 成：良好 色 調：明赤褐 残存度：口縁部から胴部ほぼ完存	

第52表 遺構外出土石製品観察表

単位：cm

番号	種別	石材	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	備考
2	石鏃	黒曜石	覆土上層	2.52	1.94	0.59	1.9	凹基無茎
3	石鏃	黒曜石	遺構外	1.89	1.25	0.31	0.6	凹基無茎、表裏凹圧剥離
4	石鏃	黒曜石	遺構外	1.65	1.24	0.43	0.7	表裏両面ともに押圧剥離による2次加工
5	石鏃	黒曜石	遺構外	1.75	1.41	0.38	0.6	下部折損
6	石鏃	黒曜石	遺構外	3.12	1.03	1.76	4.6	未製品
7	ナイフ形石器	安山岩	遺構外	5.1	1.62	0.53	4.7	
8	剥片	安山岩	覆土上層	4.13	5.7	1.17	25.7	

第53表 遺構外出土金属製品観察表

単位：cm

番号	種別	出土位置	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	備考
20	刀子	攪乱	(6.75)	-	2.7	7.8	

## 第3章 まとめ

### はじめに

海保大塚遺跡はこれまでに、隣接地点である第1地点と本地点(第2地点)、また重要遺跡確認調査として平成29年に実施された海保供養塚群・海保大塚遺跡(第3地点)で調査が行われている。本項ではこの3地点における弥生時代後期から終末期および古墳時代中期の成果をまとめることとする。これにあたり、既報の『海保地区遺跡群I』「第5章総括」に第2・3地点の成果を加味し、海保西竹谷遺跡と海保小谷作遺跡も含めたまとめとする。また『海保地区遺跡群I』において時期決定に誤りのあった、海保小谷作遺跡SI109・SI111・SI123は本稿において訂正している。

### 第1節 弥生時代

小谷作遺跡および大塚遺跡第1～第3地点において、弥生時代後期から終末期にかけての竪穴建物が合計231棟検出された。一方、西竹谷遺跡では検出されていない。時期決定は出土遺物を元に行ったが、多くの竪穴建物は出土遺物が少なく、重複関係や平面形態を判断材料としていることから後期～終末期などのように時期幅が大きくなってしまった。以下では、時期を特定した竪穴建物を列挙している。本来ならば、時期別の変遷図を示すべきだが、詳細な時期が不明な竪穴建物が多いため、第137図では全ての竪穴建物の分布を図示している。本節では、時期を特定した竪穴建物からうかがえる分布傾向を提示するにとどめたい。なお、第3地点はトレンチ調査であり竪穴建物の全容をとらえてはいたためドットにより検出地点を示している。

#### 後期前葉

小谷作遺跡 SI055・SI056・SI070

大塚遺跡 SI024・SI065a・SI083・SI087・SI090

#### 後期前葉～中葉

大塚遺跡 SI018・SI027・SI028・SI042a・SI042b・SI052・SI055・SI059・SI060・SI081・SI107

#### 後期中葉

小谷作遺跡 SI008・SI010・SI031・SI041・SI060・SI063・SI076

大塚遺跡 SI025・SI034・SI037・SI097

#### 後期中葉～後葉

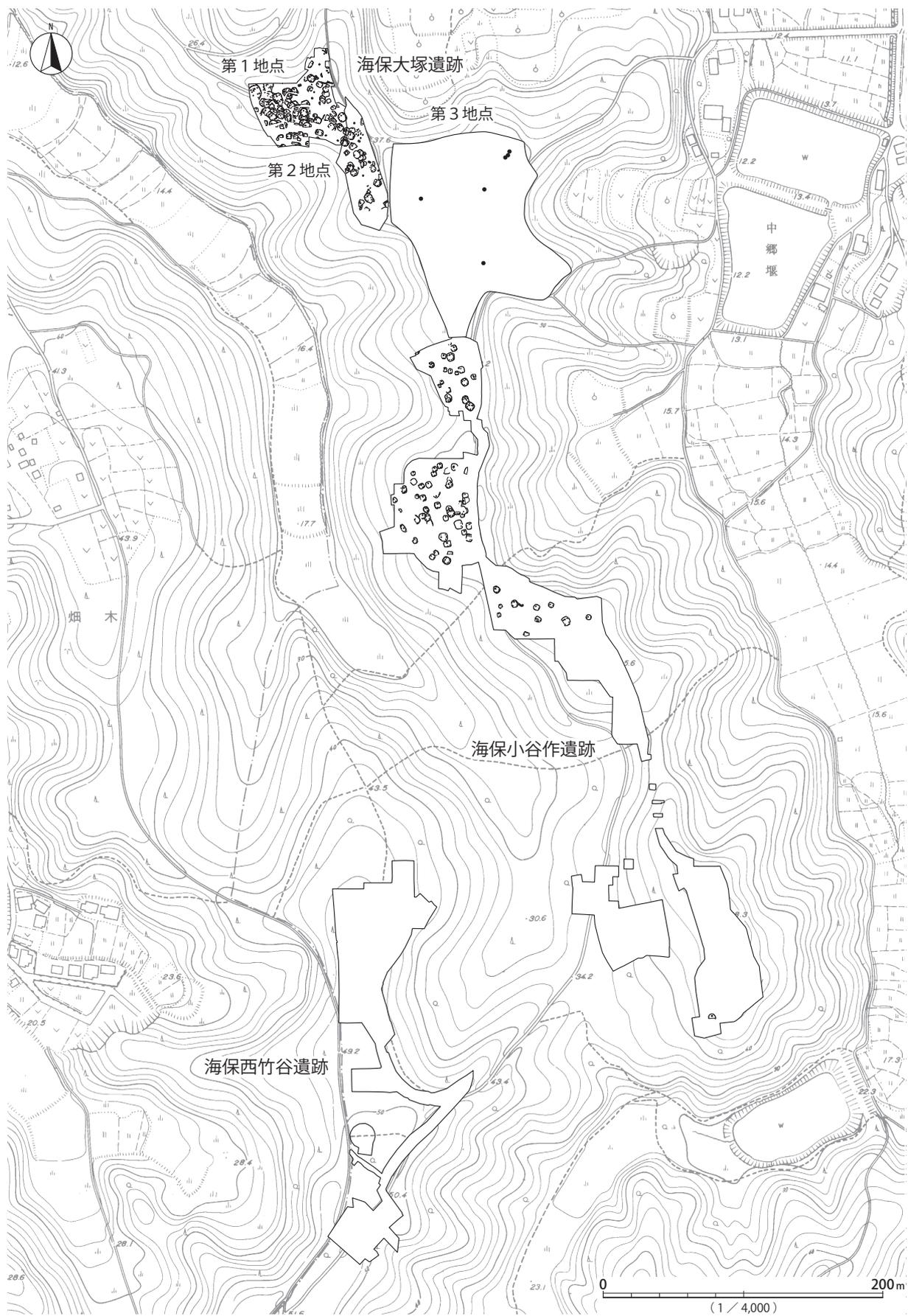
小谷作遺跡 SI005・SI011・SI023・SI024・SI045・SI050・SI052

大塚遺跡 SI010・SI019・SI039・SI045・SI050・SI064・SI067・SI068・SI070・SI071・SI077・  
SI086・SI095・SI098・SI099・SI100・SI106

#### 後期後葉

小谷作遺跡 SI004・SI006・SI051

大塚遺跡 SI005・SI016・SI022・SI032・SI048・SI089



第137図 時期別遺構分布図 (弥生時代)

## 終末期

小谷作遺跡 SI015・SI025・SI044・SI058・SI061・SI062・SI067・SI072・SI078

大塚遺跡 SI007・SI011・SI030・SI075a

後期前葉が集落の開始段階であり、小谷作遺跡・大塚遺跡ともに台地上の平坦面に竪穴建物が構築される。ただし大塚遺跡SI065aは斜面に構築されており、やや例外的な存在となっている。

後期中葉から後葉になると、平坦面に加えて斜面への構築がみられるようになる。特に大塚遺跡SI067・SI068・SI070・SI071・SI086・SI095・SI098・SI099・SI100は比較的傾斜の強い斜面に構築されている。平面形態はSI068・SI070・SI071・SI086・SI095が隅丸方形である。一方、平坦面では小判型が多いことから、立地によって平面形態が異なる竪穴建物が構築されていた可能性が推測される。

終末期では小谷作遺跡・大塚遺跡ともに平坦面に竪穴建物はなく、斜面への変換線上に構築されている。また小谷作遺跡SI078（H区21Rグリッド）は集落から離れた位置で1棟のみ構築されているが、これも傾斜への変換線上に位置している。竪穴建物の構築に際して、平坦面から斜面への変換線上を意図的に選択した可能性が考えられる。

以上のことから、養老川左岸を臨む大地の沿辺に立地する大塚遺跡周辺の占地から集落の展開が始まり、台地の奥、小谷作遺跡へ広がってゆく。後期中葉～後葉が集落の最盛期となり、終末期にかけて低調になっていくという過程が看取される。

海保地区遺跡群の弥生時代における竪穴建物の分布傾向をまとめてみた。調査では墓域は確認されておらず、今後は墓域や水田などの生産域を含めた集落の全貌や周辺の集落遺跡の動向を踏まえた、集団の動向の解明が課題になろう。

## 第2節 古墳時代

3遺跡の合計で、前期の竪穴建物17棟、中期の古墳34基（前期末から中期初頭と推測される海保大塚古墳、前期中葉を上限とする海保三山塚下層古墳の2基を含む）が検出された。

### 1. 土器の変遷

『海保地区遺跡群 I』総括において、設定した段階に第2地点の良好な資料を加えることにした。ただし、既報告で中期4段階とした遺物が本来は0段階に属するとの指摘を受けた。このため、中期4段階を削除し、当該遺物を0段階に加えることとした。

#### 中期0段階（4世紀代）

5世紀代に先行する段階として0段階（4世紀代）を設定する。ただし、4世紀代を一括した段階であり、中期1段階の直前段階を示すものではない。

甕は受け口状で、赤彩の施される（小SI111-8）や、外面全面にハケメ調整を残す（小SM011-4・同5）や、胴下部にヘラケズリを施す（小SM009-1・小SM011-6・小SM012-5・大SI117-2・同3）などがある。

高坏は壙形の坏部に八の字状に大きく開く脚部をもち、内外面にハケメ調整を残す粗雑な造りである。

大型の広口壺(小SM012-4)は折り返し口縁をもち、頸部や胴下部にハケメ調整を残している。

高坏(小SM012-1・小SI131-1)は内実、柱状の脚部である。鉢は口縁部が強く外反し、壙形の胴部で丸底である(小SI111-1・小SI123-4・同5)。このほかに小型の器台(小SM011-1・小SI086-1)、平底鉢(小SM010-1・小SM011-3)などがある。

### 中期1段階(5世紀初頭)

甕はハケメ調整を肩部に残し(小SK023-5)、全面への調整はみられなくなる。また外面全面にヘラナデやヘラケズリを施す(小SI107-15・小SI128-6)が現れる。この段階に特徴的なものとして外面全面にミガキを施す小ぶりの甕(小SK023-6・小SI112-2)がある。

小型の広口壺(小SI085-1・小SI128-3)がこの段階からみられる。

埴(小SI128-2)は口縁高が高く、ソロバン玉状の胴部をもつ。

高坏は脚部が内空になる。坏部との接合部に臍をもつものともたない(小SI107-2)が混在し、臍をもつものでは坏部に稜が認められる(小SI107-3)と認められない(小SI091-4)に細分される。この段階から、坏部の稜が明瞭で口縁部が外反する(小SK023-1・同2)が現れる。

### 中期2段階(5世紀前葉)

甕は前段階同様、外面全面にヘラナデやヘラケズリを施す(小SI122-15・大SM013-3)があり、肩部にハケメ調整を残す(小SI121-8)やハケメ調整の後にヘラミガキを施す(小SI122-16・同18)が混在する。

壺は有段口縁がみられず、折り返し口縁で、内外面にヘラミガキを施す(小SI094-1)や、素口縁で口縁部から肩部にかけてハケメ調整を残す(小SI121-7)がある。

小型の広口壺がこの段階で増加し、大小の二種に大別できる。

埴(小SI099-3)は胴部が球状に発達し、口縁部は前段階に比して開き気味になる。

高坏の形態は前段階と同様のものに加えて、脚部が中膨らみの(小SI102-3・小SI122-5)や、坏底部が水平で脚部との接合部が鋭角になる(小SI102-4・同7)が現れる。接合部の臍はみられなくなるが、坏部の稜の有無はともに存続している。

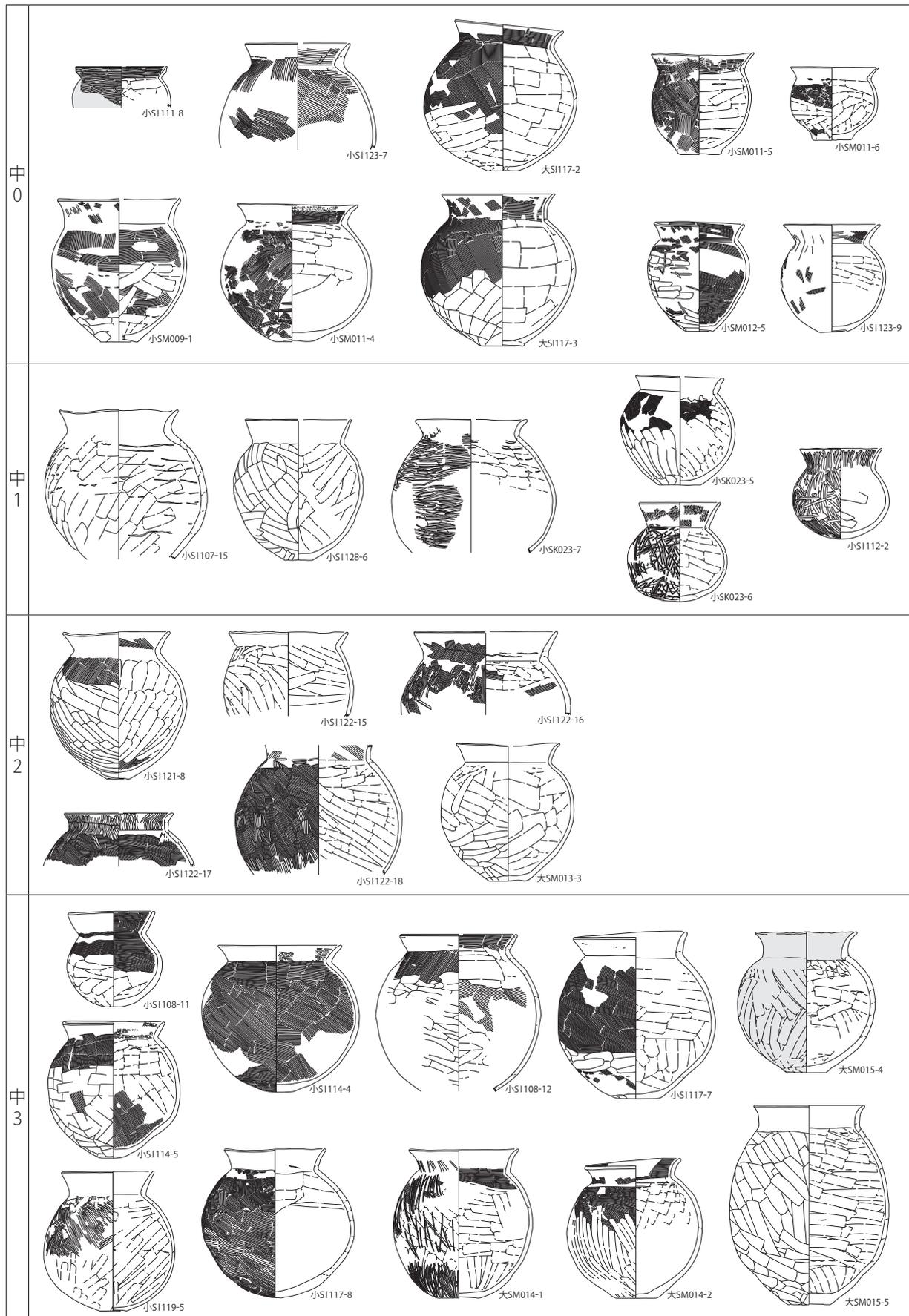
前段階で見られなかった平底鉢(大SM013-1・小SI121-1・小SK029-1)が、再び現れる。

### 中期3段階(5世紀中葉)

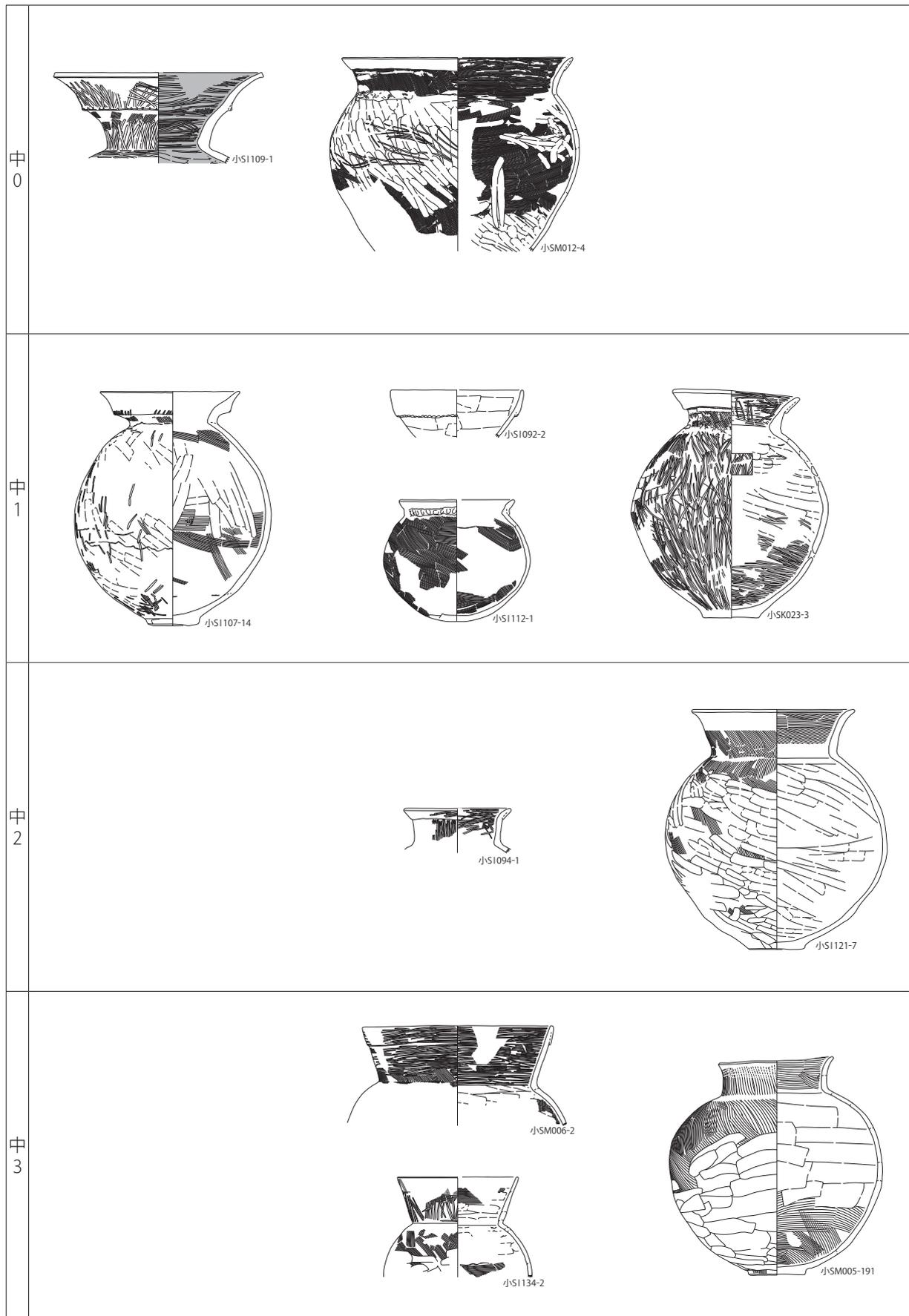
甕は胴部外面全面にハケメ調整を残す球胴、丸底の甕(小SI114-4・小SI117-8)、肩部にハケメ調整を残す(小SI114-5・小SI108-12)、中胴化し、ヘラケズリを施すもの(大SM015-5)などがある。

壺は前段階と同様に、折り返し口縁をもち内外面にミガキが施される(小SM006-2)、素口縁で口縁部から肩部にかけてハケメ調整を残す(小SM005-191)がある。

小型の広口壺も前段階と同様に、大小の二種に大別できる。(大SM007-1)のようなハケメ調整を残すものはわずかである。



第138図 海保地区遺跡群 中期の土器変遷図(甕)



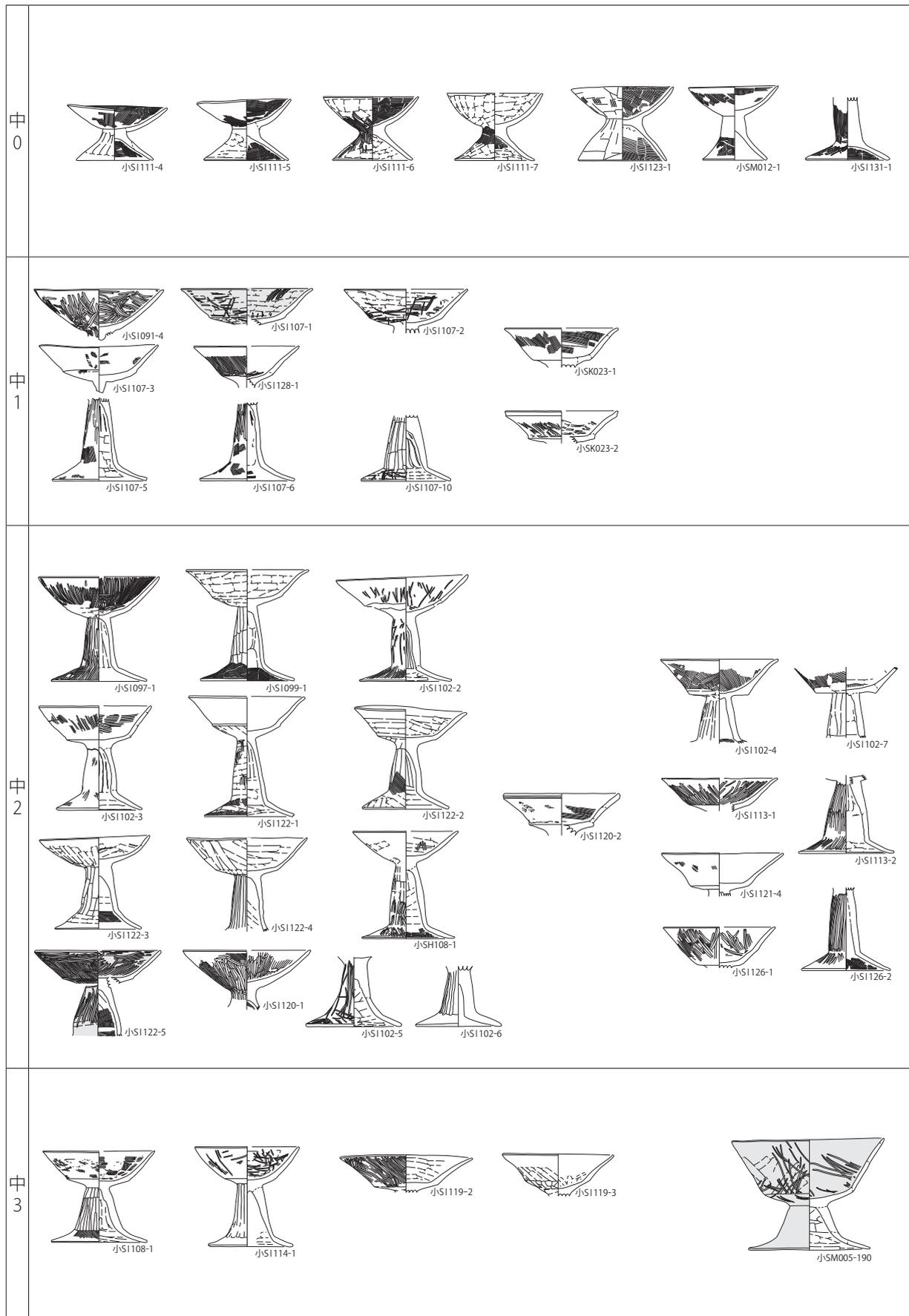
第139図 海保地区遺跡群 中期の土器変遷図(壺・広口壺・甗)



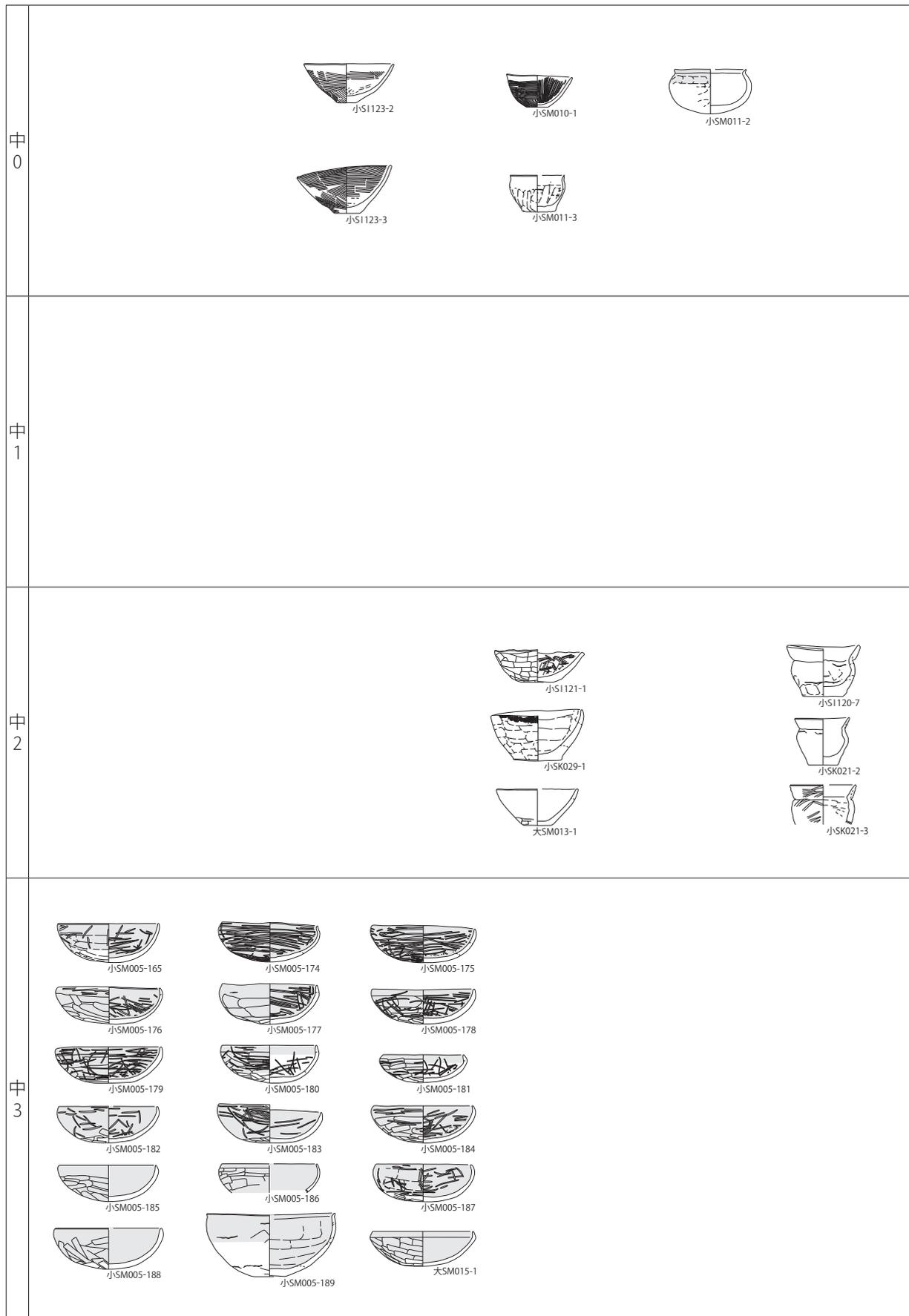
第140図 海保地区遺跡群 中期の土器変遷図(廣口壺)



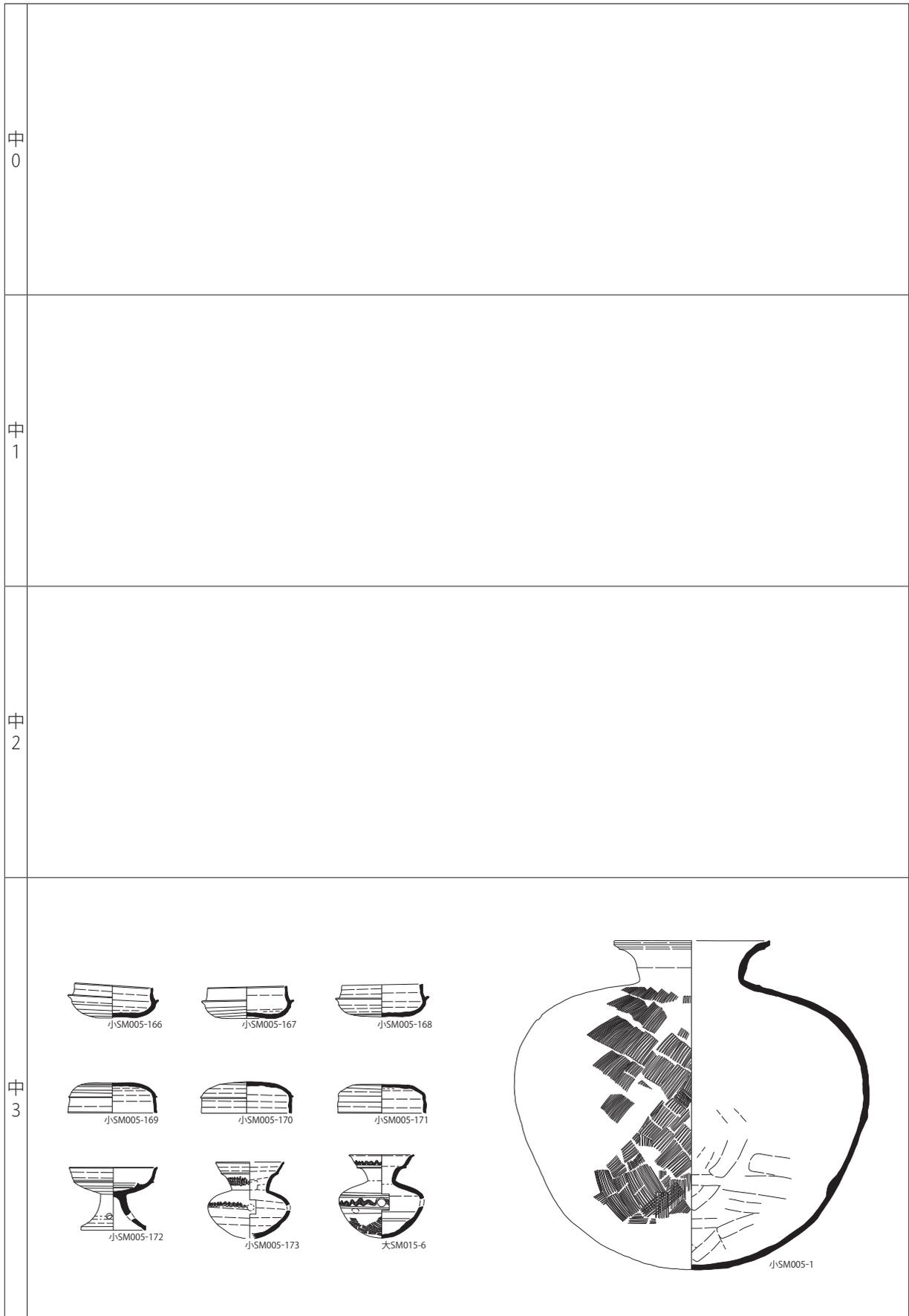
第141図 海保地区遺跡群 中期の土器変遷図(鉢・埴)



第142図 海保地区遺跡群 中期の土器変遷図(高坏)



第143図 海保地区遺跡群 中期の土器変遷図(坏・平底鉢・その他)



第144図 海保地区遺跡群 中期の土器変遷図(須恵器)

埴 (小SI114-3・小SI108-5) は胴部が退化し、口縁部はさらに開いてゆく。

高坏は中膨らみの脚部は消滅し、短脚化していく。また坏部の稜が接合部に接近し、稜を持たないものに近似した形態 (小SI108-1) も存在する。前段階まで見られた脚部へのヘラミガキは施されなくなる。他とは形状が異なる大型のもの (小SM005-190) がある。

坏は本段階のみで確認される。小谷作SM005・大塚SM015からの出土である。1点 (小SM005-189) のみ深い鉢形、平底であるが、そのほかは浅い碗形、丸底である。

須恵器が確認されるのも本段階のみで、坏同様、小谷作SM005・大塚SM015からの出土である。坏身、坏蓋、甕、高坏、甕があり全て陶邑産、TK208型式に比定できる。

特徴的な遺物として高坏 (小SM005-172) が挙げられる。内面に突帯の巡るこの遺物は、類例は少ないが、大阪府泉大津市豊中遺跡や堺市陶邑・STK99地点、同市陶邑・伏尾遺跡などに出土例が認められる。本報告では高坏としたが、共伴して出土した甕 (小SM005-173) を置くのに適した口径、突帯径であり、あるいは器台としての使用も推測される。

## 2. 前期・中期古墳

今回の調査で確認された前期・中期古墳は総数17基である (第54表)。まず、時期別の概要を述べる。

### 4世紀代

小谷作遺跡および大塚遺跡で確認された。いずれも円墳である。4世紀代 (中期0期) の小谷作SM009～SM013、4～5世紀代の小谷作SM007があり、第3地点の2基については上限を採用すると本段階に属することとなる。埋葬施設は、小谷作SM007で木棺直葬 (SK1)、小谷作SM013で墓坑 (SK1) が確認された。ともに副葬品は出土していない。

### 5世紀代

小谷作遺跡では、5世紀中葉 (中期3段階) のSM005 (円墳)・SM006 (方墳)、5世紀代のSM004 (方墳) がある。埋葬施設はSM005で木棺直葬 (SK1・SK3) 2基、周溝内土坑1基、SM006で同一の墓坑 (SK1) から2基の木棺痕跡が確認された。副葬品は、SM005SK1から直刀1点、鉄鏃25点、ガラス小玉140点、SK3から直刀1点、鉄鏃25点がある。周溝底面から陶邑産の須恵器坏身や蓋、高坏、甕など、土師器は坏、鉢、高坏などが、それぞれまとまって出土している。

大塚遺跡では、5世紀前葉 (中期2段階) のSM013、5世紀中葉 (中期3段階) のSM007・SM014、SM015、5世紀代のSM001・SM002・SM005・SM009・SM012があり、円墳であるSM015を除き、いずれも方墳である。そのほとんどは削平が激しく墳丘盛土や埋葬施設は確認されていない。第3地点の2基の築造時期は海保大塚古墳は前期末から中期初頭、海保三山塚下層古墳は前期中葉から中期前葉と推定される。

以上のとおり、前期・中期古墳は西竹谷遺跡では確認されなかった。次に、豊富な副葬品が出土した小谷作SM005と、小谷作SM007についてさらに検討したい。

周辺の主要な中期古墳について「古墳時代中期の房総」『研究紀要27』 (千葉県教育振興財団編2012) 所載の「第3表中期主要古墳一覧」をもとに第54表にまとめた。小谷作SM005と同時期の古墳は『研究紀要27』では、V期 (ON46・TK208) に該当する。「王賜」銘鉄剣の稲荷台1号墳など、いずれも

第54表 海保地区遺跡群 古墳一覧表

単位：m

海保西竹谷遺跡										
古墳名	墳形	墳丘規模	総長 (周溝を含む)	高さ	埋葬施設	副葬品			時期	備考
						直刀	鉄鍬	玉類		
SM001	方墳	(10.41) × 8.12	(13.83) × 14.48	0.30	墓坑(SK1 木棺直葬?) 周溝内土坑(SK2~SK4)				7 C中葉 終末期3段階	
SM002	方墳	9.71 × (6.73)	11.97 × (7.76)	墳丘盛土なし					7 C後葉 終末期4段階	
SM003	前方 後方 墳	27.66	34.87	1.30	墓坑(SK1 木棺直葬?) 木棺直葬(SK2)				後方部 7 C前葉 終末期2段階 前方部 7 C中葉 終末期3段階	
SM004	方墳	20.30 × 18.82	25.58 × 22.58	1.20	横穴式石室 掘り方 (SK3)のみ				7 C中~7 C末	
海保小谷作遺跡										
SM001	方墳	(2.74) × (0.84)	(3.48) × (1.57)	墳丘盛土なし					7 C	
SM002	方墳	11.20 × (5.67)	14.96 × (7.55)	墳丘盛土なし					7 C後葉 終末期4段階	
SM003	方墳	(7.75) × (1.93)	(9.19) × (3.79)	墳丘盛土なし					7 C後葉 終末期4段階	
SM004	方墳	8.96 × (7.59)	10.37 × (9.72)	墳丘盛土なし					5 C	
SM005	円墳	13.52 × 12.32	20.82 × 19.22	0.93	木棺直葬(SK1)	1	25	ガラス小玉140	5 C中 中期3段階	周溝内から須恵器杯・ 蓋・高環・甕、土師器 杯・鉢・高環・甕など
					木棺直葬(SK3)	1	25			
					周溝内土坑(SK2)					
SM006	方墳	16.70 × 15.30	(20.00) × 20.00	0.70 ~ 1.45	木棺直葬(SK1a・b) 2棺埋葬				5 C中 中期3段階	
SM007	円墳	29.94 × 28.68	(43.30) × (40.16)	1.00 ~ 1.40	木棺直葬(SK1)				4 ~ 5 C	
SM008	方墳	(9.72) × 9.23	(11.40) × 14.20	墳丘盛土なし					7 C末~8 C初	
SM009	円墳	12.51 × 12.18	16.34 × 16.34	墳丘盛土なし					4 C 中期0段階	
SM010	円墳	8.13 × 6.72	15.33 × 13.00	墳丘盛土なし					4 C 中期0段階	
SM011	円墳	16.69 × 15.10	23.04 × 22.05	0.26					4 C 中期0段階	周溝内から散在して鉄 鍬が出土
SM012	円墳	8.39 × 7.47	13.87 × 13.55	墳丘盛土なし					4 C 中期0段階	
SM013	方墳	(8.93) × 8.78	11.49 × 11.92	墳丘盛土なし	墓坑(SK1)				4 C 中期0段階	
海保大塚遺跡										
SM001	方墳	(5.37) × (5.34)	(6.48) × (6.81)	墳丘盛土なし					5 C	
SM002	方墳	(4.68) × (3.30)	(6.33) × (3.72)	墳丘盛土なし					5 C	
SM003										周溝のみ確認 調査区 外に墳丘あり
SM004	方墳	7.32 × 6.12	10.32 × 8.64	墳丘盛土なし	木棺直葬(SK1)		2	ガラス小玉90、 切子玉3、管玉1、 勾玉2、霰玉18、 白玉8	7 C中葉 終末期3段階	木棺に伴う鉄釘
SM005	方墳	7.56 × (6.06)	11.46 × (7.20)	墳丘盛土なし					5 C	
SM006	方墳	9.78 × (3.72)	12.18 × (6.90)	墳丘盛土なし					7 C	
SM007	方墳	10.38 × 10.14	12.90 × 13.50	墳丘盛土なし					5 C中 中期3段階	
SM008	方墳	12.24 × 12.12	14.04 × 13.92	墳丘盛土なし	墓坑(SK1 木棺直葬?)	1	55		7 C	
					墓坑(SK2 木棺直葬?)	1				
SM009	方墳	(5.76) × (3.78)	(6.54) × (4.29)	墳丘盛土なし					5 C	
SM010	方墳	11.52 × (7.32)	15.06 × (9.36)	墳丘盛土なし	墓坑(SK1 木棺直葬?)	1	12		7 C末~8 C初	
SM011	円墳	(7.52) × (4.24)	(8.24) × 4.64	墳丘盛土なし	墓坑(SK1 木棺直葬?)	1	10		7 C	
SM012	方墳	10.74 × 9.00	(12.66) × 10.74	墳丘盛土なし					5 C	
SM013	方墳	12.54 × (8.46)	13.74 × (9.90)	墳丘盛土なし					5 C前 中期2段階	
SM014	方墳	9.48 × (7.62)	(11.94) × 11.46	墳丘盛土なし					5 C中 中期3段階	
SM015	円墳	14.25 × (12.75)	19.65 × (15.90)	0.23	墓坑(SK1)				5 C中 中期3段階	
海保大塚 古墳	円墳	約60	約84	不明					前期末~ 中期初	近世に塚に改変
海保三山 塚下層 古墳	円墳	約24	約28	不明					前期中葉~ 中期前半	近世に塚に改変

30m弱の規模で、甲冑や馬具などが副葬されていた。近辺では富士見塚1号墳があり、鏡や胡籙などが出土している。小谷作SM005はこれらの古墳より規模がひとまわり小さく、副葬品に鏡や甲冑、馬具などは伴わない。規模や副葬品の内容から小谷作SM005の被葬者はこれらの古墳よりは下位のクラスといえる。

ただし、小谷作SM005の事例は10m級の古墳であっても、直刀、鉄鏃が副葬され、陶器製の須恵器を伴う祭祀が行われていたことを示している。

小谷作SM007は、丘陵上の最高所に位置し、規模も最も大きい埋葬施設の遺存状態が悪く出土遺物に恵まれなかった。以下に築造時期について可能性を述べておきたい。小谷作遺跡において、最初に築造された中心的な古墳と考えるのなら、西側の斜面に4世紀代の古墳が分布することからそれらと同時期の可能性、もしくは北隣に5世紀中葉の古墳が位置していることから、その前段階として5世紀前葉の二つの可能性が考えられる。5世紀前葉とした場合、東隣の丘陵に位置する海保3号墳とは、時期や規模がほぼ同じになり、海保地区遺跡群の中小古墳の動向を考える上で大変興味深い。時期を特定することはできなかった。いずれにしても、5世紀中葉以前と考えておきたい。

### 3. 古墳と集落の変遷

1で設定した段階をもとに、遺構の分布状況から古墳と集落の展開について検討してみたい(第145図～第148図)。ただし、出土遺物が少なく、段階を明確にすることのできなかった遺構は除外している。

古墳の築造は、中期では小谷作遺跡・大塚遺跡に展開する。集落の形成は、前期は大塚遺跡第2地点から第3地点にかけて、中期では小谷作遺跡のみにみられる。小谷作遺跡の集落は、調査区の北半分、南北に連なる3箇所の平坦面に展開している。遺構の位置を示す際に、グリッドを用いては煩雑となるため、本項に限ってはこの平坦面を北からA(E区10S～13Vグリッド)、B(E区10W～H区12Cグリッド)、C(H区13B～18Fグリッド)と呼称する。

#### 中期0段階(4世紀代) 第145図

小谷作遺跡 SM009～SM013・SI083・SI084・SI086・SI092・SI093・SI103・SI109・SI111・SI123・SI131・SK045

大塚遺跡 海保大塚古墳(上限)・海保三山塚下層古墳(上限)・SI113～SI123

古墳および集落はこの段階から形成される。小谷作遺跡の古墳と集落の位置関係は、古墳が調査区南側、集落が北側と分布範囲が分かれている。

小谷作SM007は4～5世紀代と考えられ、本段階に属する可能性もあり、本段階の古墳はこれを避けた下位の斜面に築造されたといえる。大塚遺跡の2基の古墳は、海保大塚古墳→海保三山塚下層古墳の築造順が指摘されている。

竪穴建物の総数は21棟で、小谷作遺跡では平坦面Aに5棟、平坦面B・Cに1棟ずつ構築される。立地は、西向き斜面への変換線上に沿うように構築されるものが多い。大塚遺跡では丘陵の頂部、第2・第3地点の平坦面に集落が展開している。遺物の出土が少ないため断定はできないが、古墳の築

造に先行して集落が展開したと考えられる。

#### 中期1段階（5世紀初頭） 第146図

小谷作遺跡 SI085・SI091・SI104・SI107・SI112・SI128・SK023

大塚遺跡 海保大塚古墳（下限）・（海保三山塚下層古墳）

竪穴建物の総数は7棟で、平坦面A～Cで展開が継続する。特に平坦面Bの利用が活発となり、1棟から4棟に増加している。立地は西向き斜面以外にも平坦面の最高所を利用し、SI104・SI109が構築される。なお、SI109は、一辺が7.04mで、他の竪穴建物よりも大型である。そのほかに、高坏や広口壺を埋納するSK023が構築されている。

#### 中期2段階（5世紀前葉） 第147図

小谷作遺跡 SI094・SI097・SI099・SI101・SI102・SI113・SI120～SI122・SI125・SI126・SK021・SK029・SH108

大塚遺跡 SM013・海保三山塚下層古墳（下限）

古墳の築造は大塚遺跡SM013と海保三山塚下層古墳（下限）である。

竪穴建物の総数は11棟となり、特に平坦面Bでは5棟から9棟に増加し、集中傾向が認められる。立地は、多くが前段階と同様に、西向き斜面もしくはその変換線上に沿って構築される。平坦面BのSI122は、床面に硬化範囲がみられず、炉も持たないため、住居とは異なった用途が推測される。

#### 中期3段階（5世紀中葉） 第148図

小谷作遺跡 SM005・SM006・SI090・SI095・SI108・SI114・SI117・SI119・SI134

大塚遺跡 SM007・SM014

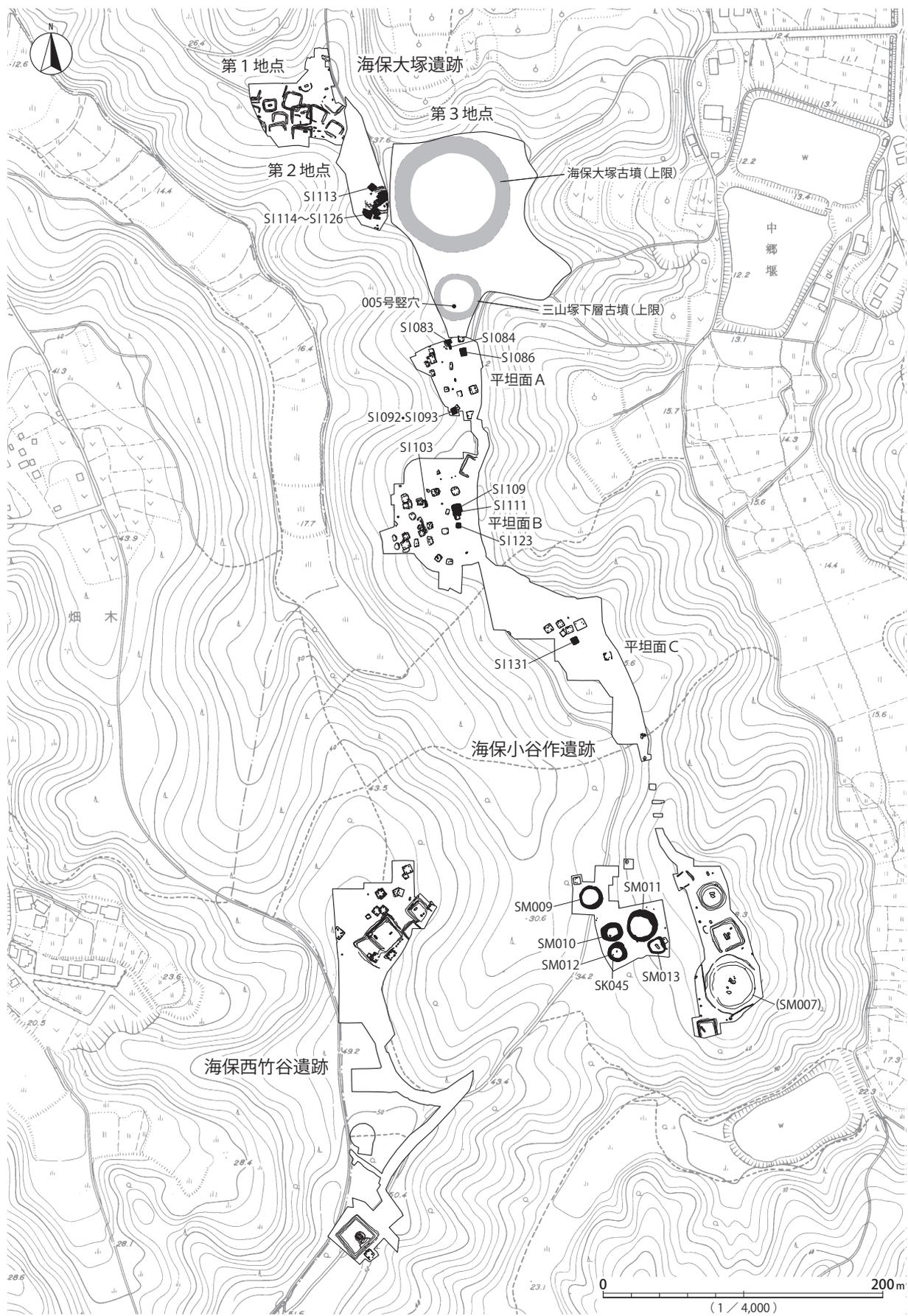
古墳は、小谷作遺跡南側の丘陵頂部に少なくとも2基（SM005・SM006）、大塚遺跡に2基（SM007・SM014）があり、築造のピークとなる段階である。

竪穴建物は総数9棟となり、数は減少するものの、前段階と同様に平坦面Bへの集中が継続する。立地は前段階とほぼ同様の状況を示すが、SI134は平坦面から離れた調査区南半に構築されている。SI108は、前段階のSI122と同様に、床面に硬化範囲がみられず、炉も持たない。

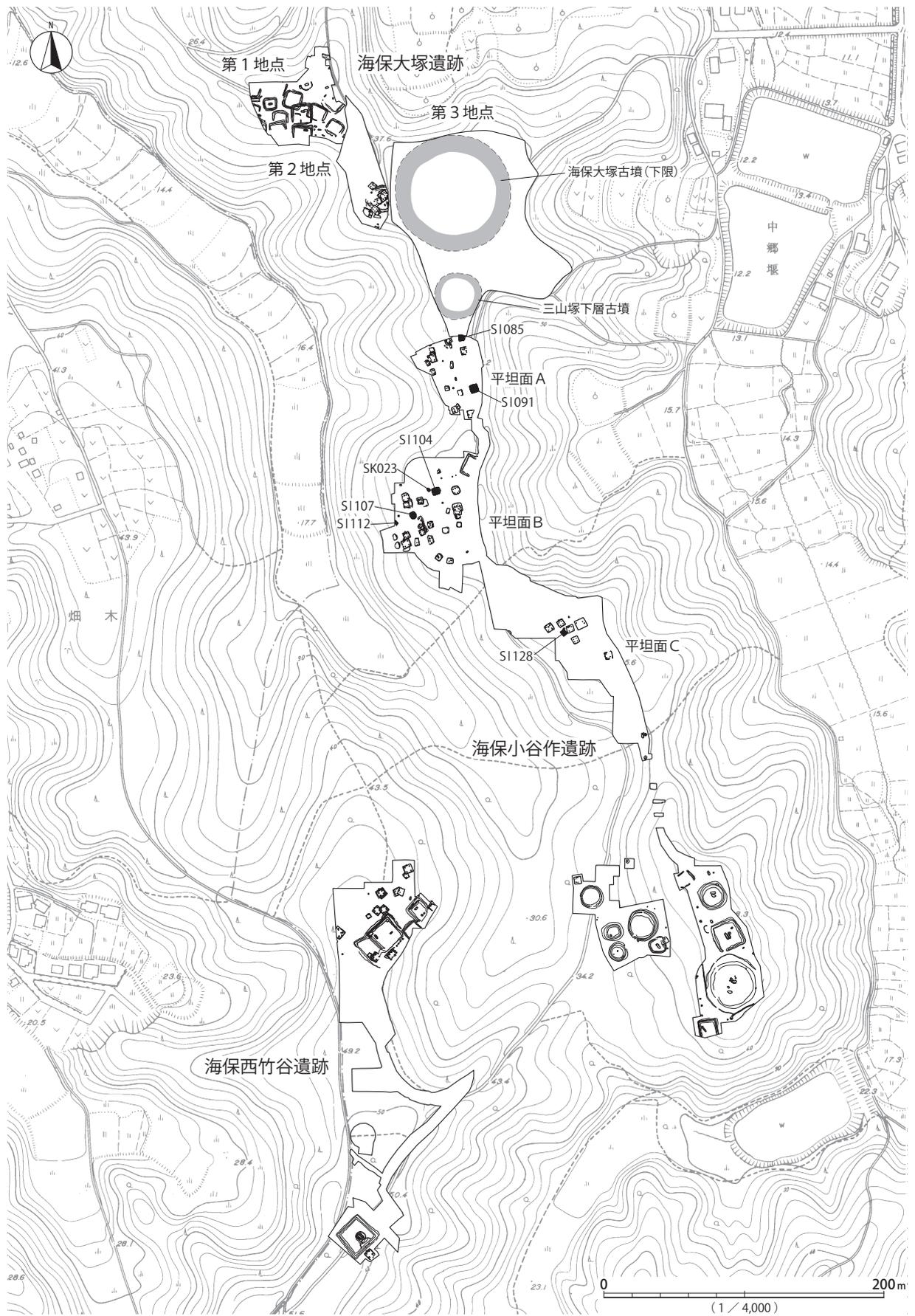
本段階で、古墳、集落の展開は一旦途絶える。後期の遺構は認められず、この台地上で再び遺構や遺物がみられるのは終末期になる。

#### 中期4段階（5世紀後葉）

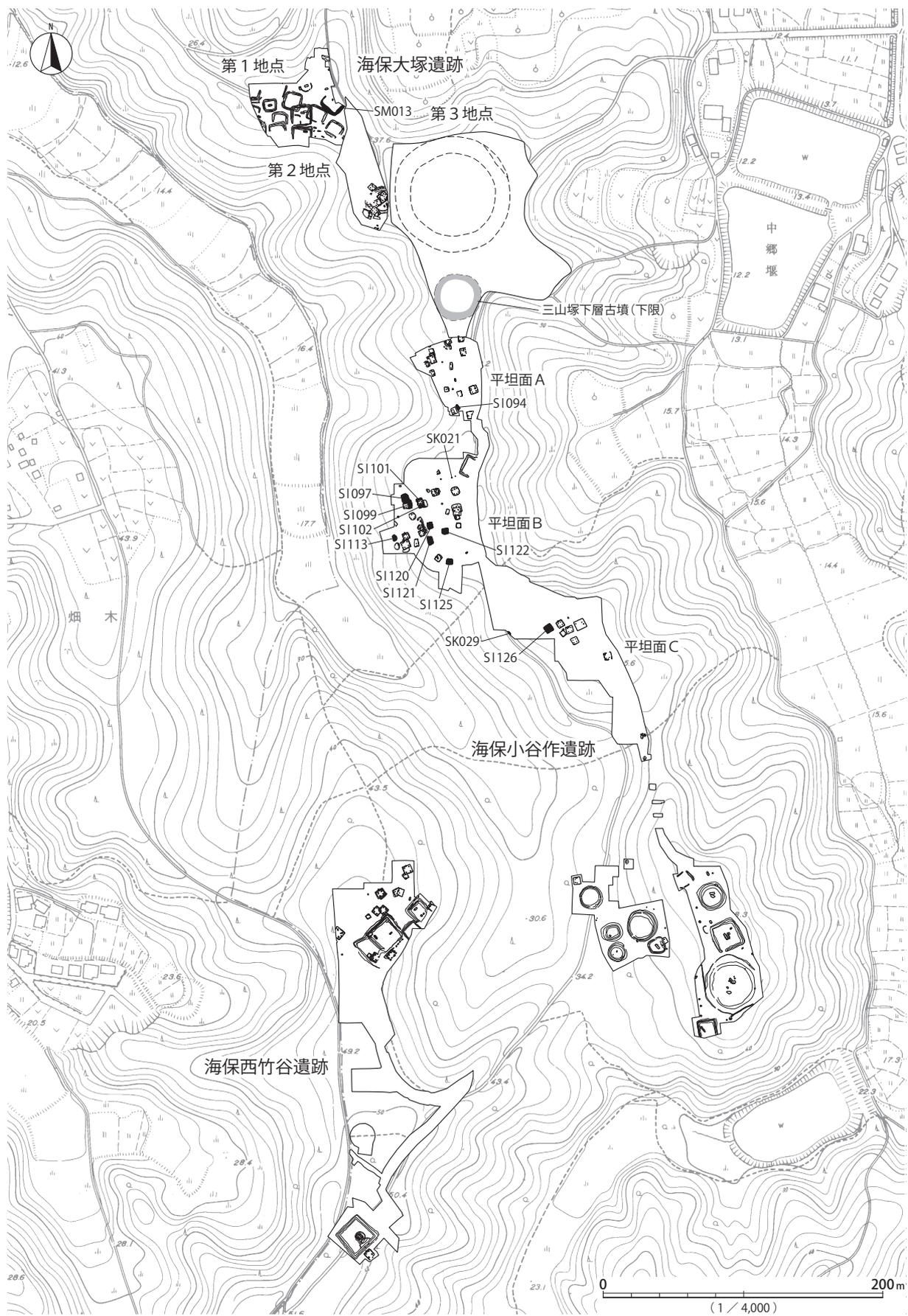
先の報告では本段階を設定していたが、前述のとおり時期決定に誤りが認められ、修正の結果本段階は集落の展開、造墓活動は認められない。



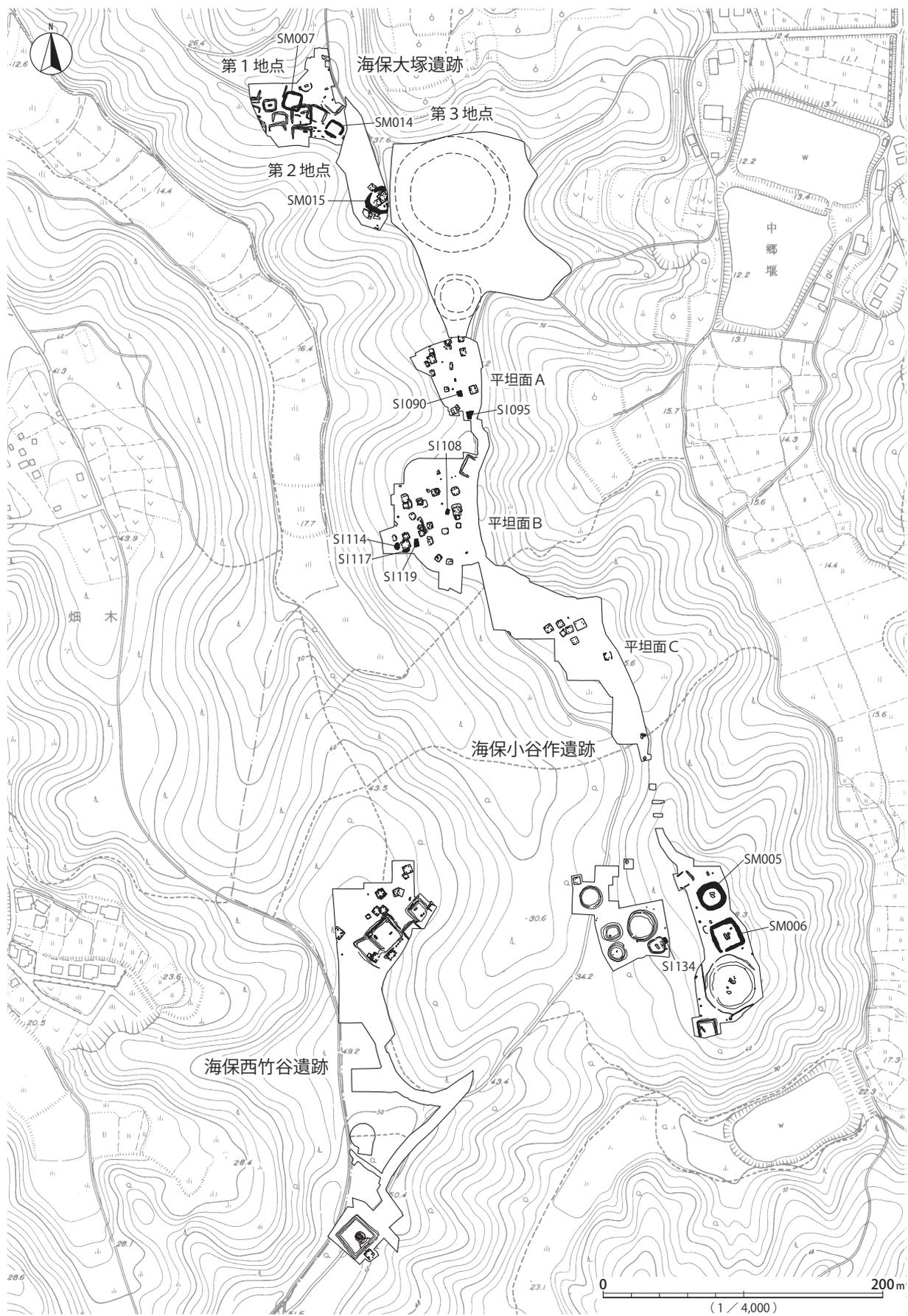
第145図 時期別遺構分布図(古墳時代中期0段階)



第146図 時期別遺構分布図(古墳時代中期1段階)



第147図 時期別遺構分布図(古墳時代中期2段階)



第148図 時期別遺構分布図(古墳時代中期3段階)

## 中期における古墳と集落の動向

ここで中期における古墳と集落の動向について整理しておきたい。

段階ごとの動向をみる限りでは、集落の展開は大塚遺跡の集落が古墳築造に先行して開始され、古墳と集落の消滅は期を一にしている。さらに周辺の状況を確認してみると、西竹谷遺跡の北に位置する畑木小谷遺跡では前期～中期の竪穴建物、畑木向古墳群では後期古墳が確認されている。小谷作遺跡の東隣の丘陵では、中期の古墳群である海保吉谷前古墳群が広がる。遺跡のすべての範囲が調査されていないことを考えると、丘陵単位で、それぞれの古墳群に近接して集落が営まれている可能性がある。小谷作遺跡・大塚遺跡の中期古墳の被葬者は、小谷作遺跡の集落内、特に竪穴建物が集中した平坦面Bの居住者が、まず候補となる。

しかしながら、被葬者との関連を示すであろう規模の突出した大型建物は認められなかった。掘立柱建物や平地式建物も確認できなかったため複数の建物の構成から集落内での階層差を導きだすこともできない。遺物からも被葬者を示すような傑出したものは認められなかった。

SM007に代表される直刀や鉄鎌、陶器産の須恵器を所持した被葬者が、小谷作遺跡の集落長であった可能性が高いと考えられるが、竪穴建物を特定する資料には恵まれなかった。

## 参考文献

- 吉田東伍 1980『大日本地名辞書 坂東』第6巻 増補版 富山房
- 市原市教育委員会 1988『千葉県市原市埋蔵文化財分布地図 北部編』
- 千葉県教育委員会 1994「市原市姉崎古墳群」『千葉県重要古墳群測量調査報告書』千葉県教育委員会
- 近藤義郎編 1994『前方後円墳集成 東北・関東編』山川出版社
- (財)千葉県文化財センター 2000「房総地方における前期古墳の展開—重要遺跡確認調査の成果と課題4—」『研究紀要』21
- (財)千葉県史料研究財団編 2003『千葉県の歴史 資料編 考古2(弥生・古墳時代)』
- (財)千葉県史料研究財団編 2004『千葉県の歴史 資料編 考古4(遺跡・遺構・遺物)』
- 小沢洋 2008『房総古墳文化の研究』六一書房
- (財)千葉県教育振興財団 2012「古墳時代中期の房総—中期的要素の波及とその評価—」『研究紀要』27
- 小沢洋・田中裕 2012「地域の展開9関東沿岸」『古墳時代の考古学2古墳出現と展開の地域相』同成社
- 小沢洋 2013『内裏塚古墳群総括報告書』富津市教育委員会
- 国際文化財株式会社 2014『市原市海保地区遺跡群I 海保西竹谷遺跡・海保小谷作遺跡・海保大塚遺跡』
- 木對和紀・近藤 敏 2017『平成28年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
- 小橋健司 2018『平成29年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会

# 写 真 图 版





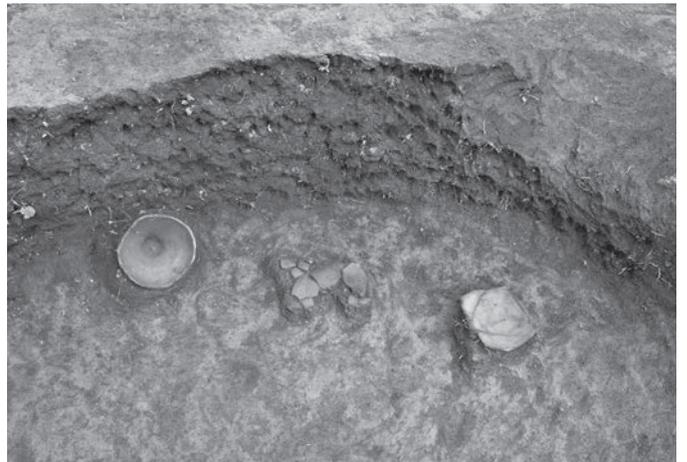
SI064 南から



SI082 北から



SI083 北西から



SI083 遺物出土状況 西から



SI084 西から



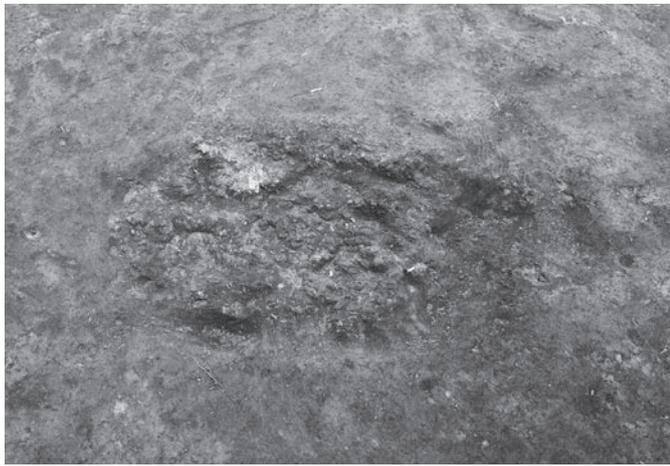
SI085 西から



SI086 西から



SI087 南から



SI087 炉 南から



SI088 北西から



SI088 炉 南西から



SI089 南西から



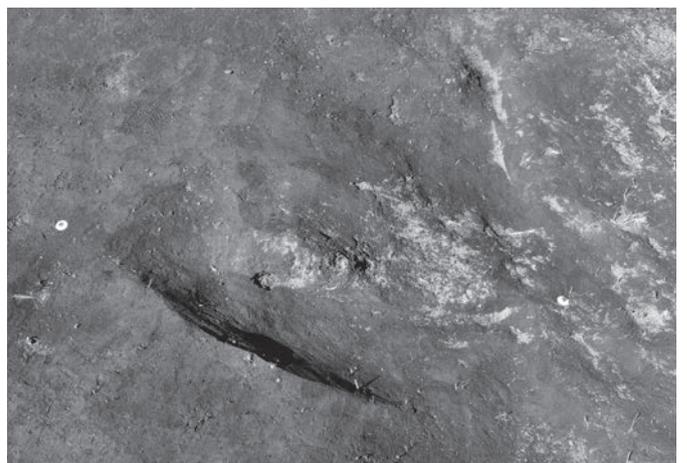
SI089 炉1 東から



SI089 炉2 東から



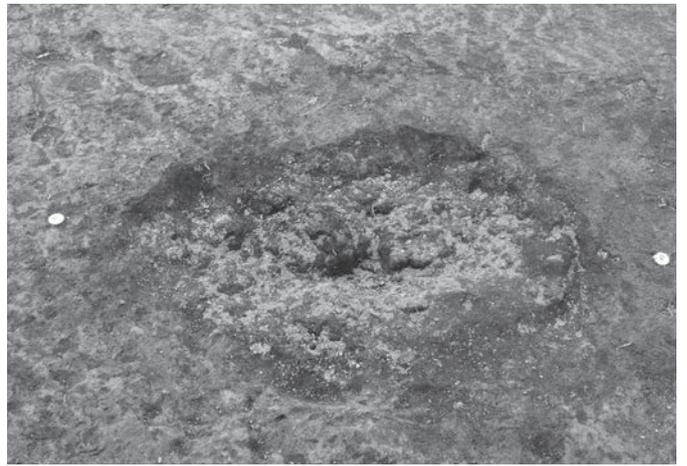
SI089 炉3 西から



SI089 炉4 南から



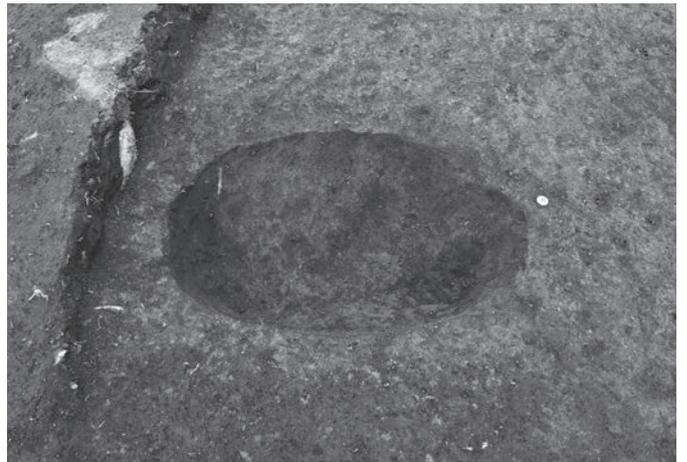
SI090 南西から



SI090 炉 東から



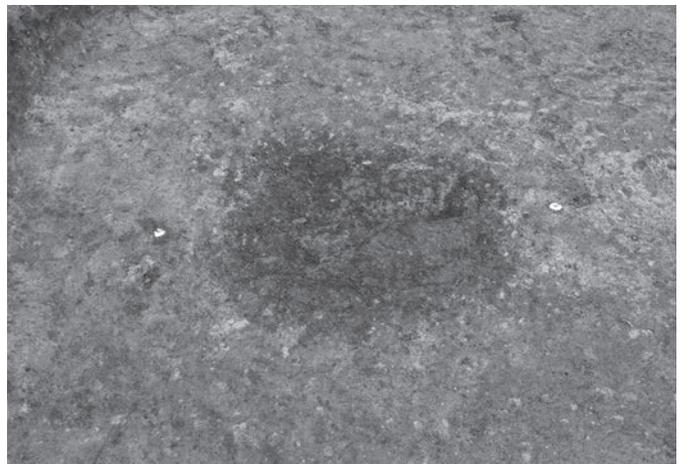
SI091 西から



SI091SK1 南から



SI092 南から



SI092 炉 北西から



SI093 炉 西から



SI094 西から



SI095 西から



SI095 炉 東から



SI095 遺物出土状況 南から



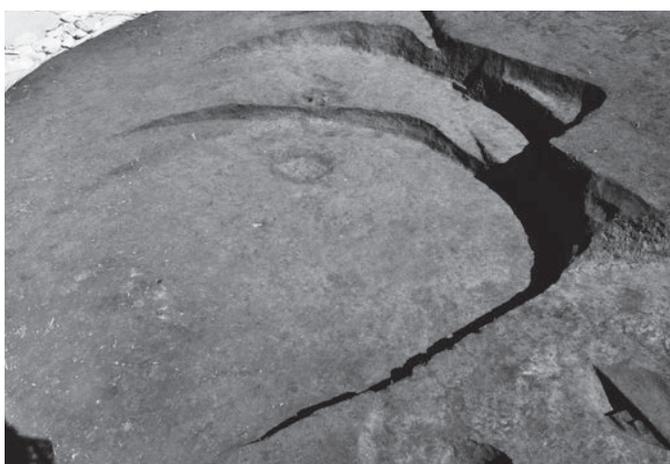
SI096 (左)・SI097 (右) 南から



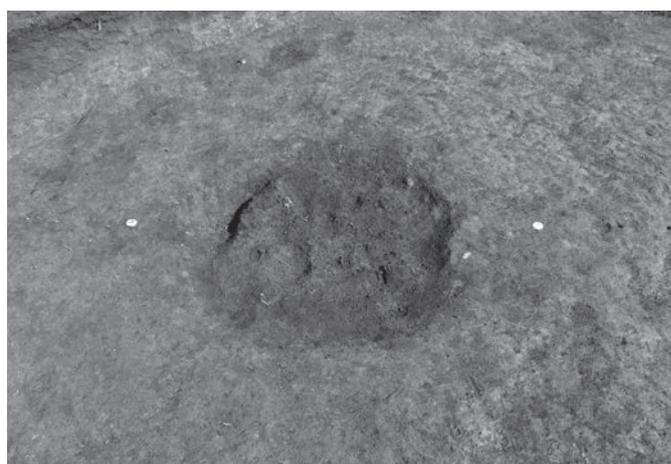
SI098 西から



SI098 炉 西から



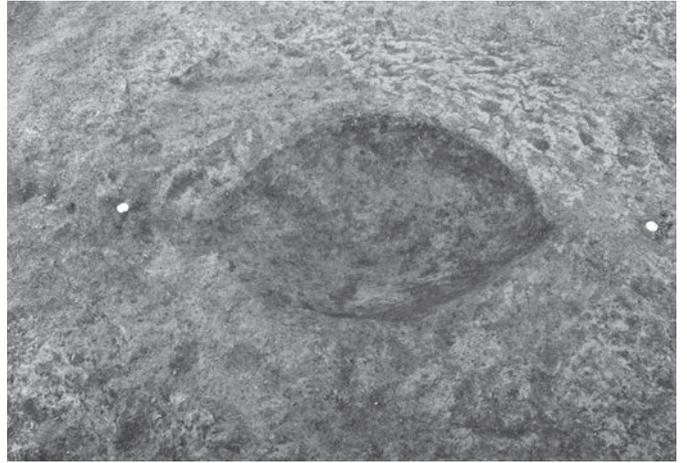
SI099 南から



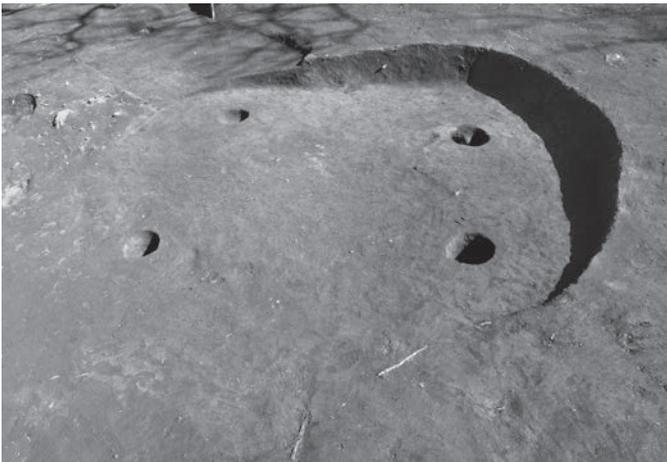
SI099 炉 南西から



SI100 南西から



SI100 炉 西から



SI101 西から



SI102 南から



SI103 西から



SI103 遺物出土状況 1 北西から



SI103 遺物出土状況 2 西から



SI103 遺物出土状況 3 南から



SI104 南東から



SI104 炉 南から



SI105 (SI106b) 南から



SI106 南西から



SI106 遺物出土状況 1 西から



SI106 遺物出土状況 2 南から



SI106 遺物出土状況 3 南から



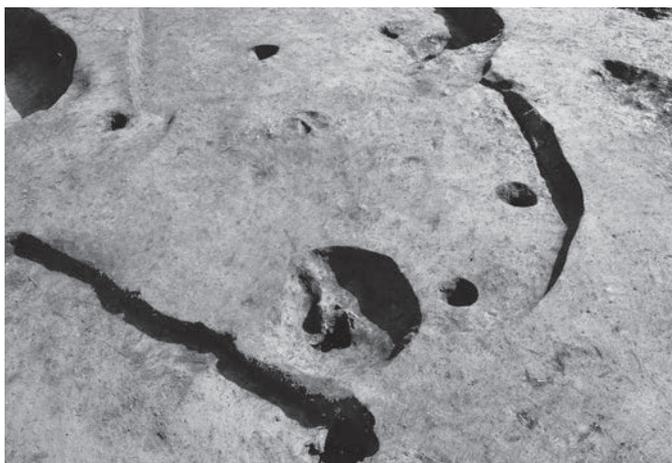
SI106 遺物出土状況 4 西から



SI107 南から



SI107 炉 東から



SI108 南から



SI108 炉 東から



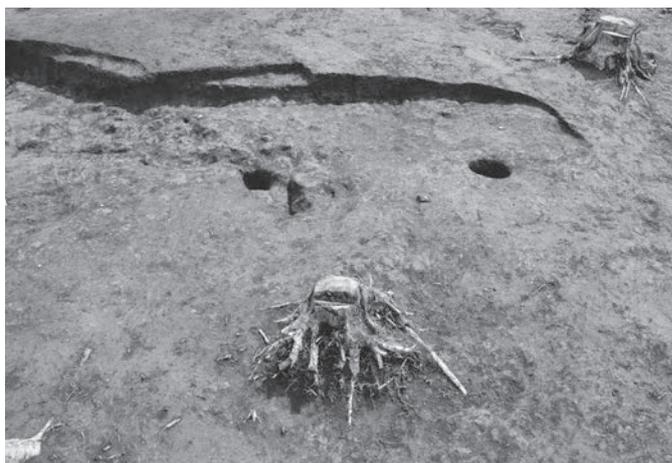
SI109 南から



SI109 炉1 西から



SI109 炉2 西から



SI110 西から



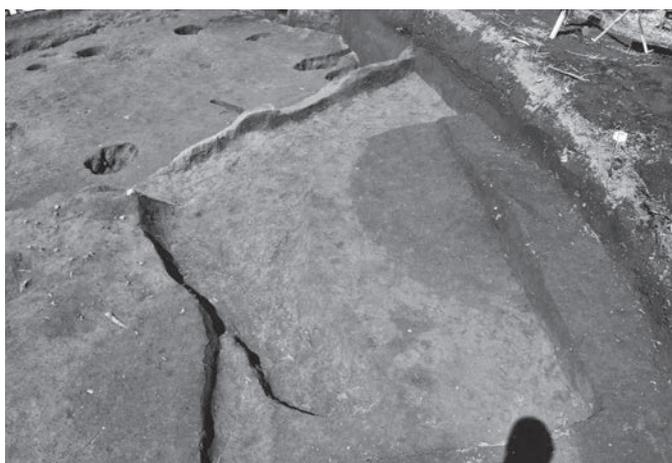
SI111 南から



SI111 炉 北西から



SI112 南から



SD010・SD011 南から



SK074 西から



SK075 南から



SK076 東から



SK077 西から



SK078 南から



SK079 南から



SK080 西から



SK081 南西から



SK082 北から



SK083 西から



SK084 北から



SZ001 南西から



SM015 西から



SM015



SM015 調査区東壁セクション 北西から



SM015 東壁セクション 西から



SM015SK1 西から



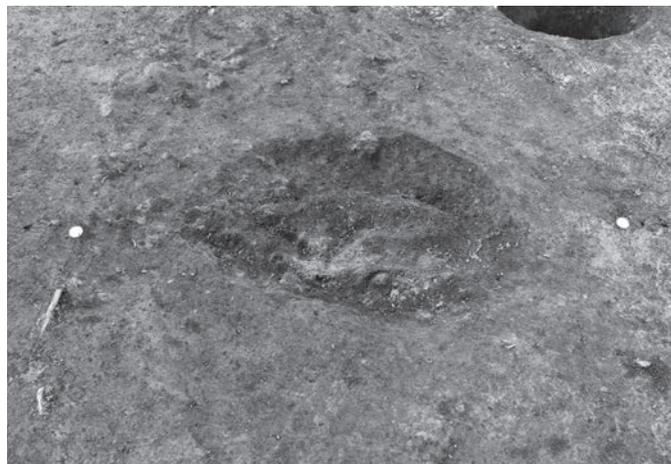
SM015 遺物出土状況 1 北から



SM015 遺物出土状況 2 北から



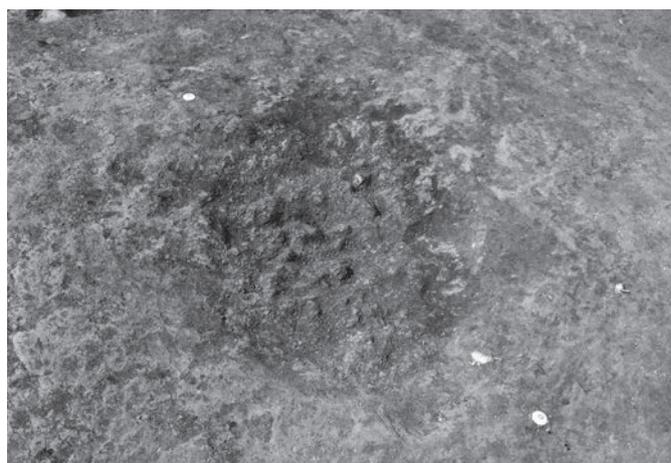
SI113 南西から



SI113 炉 南から



SI114 南東から



SI114 炉 南から



SI114 炭化物・焼土検出状況 南から



SI114 炭化材検出状況 東から



SI115 南から



SI116 南から



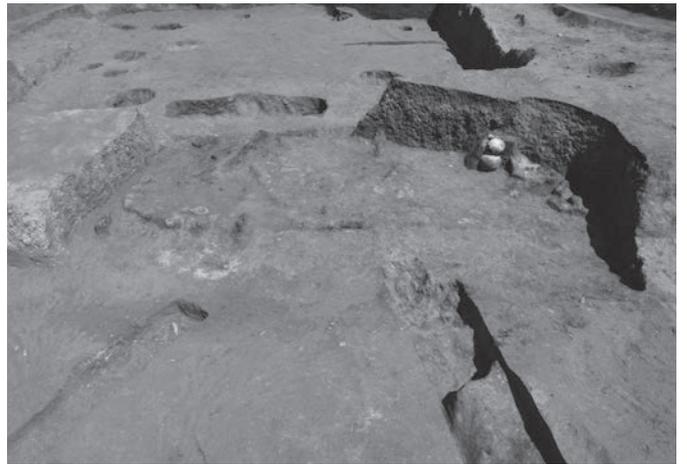
SI117 西から



SI117 炉 西から



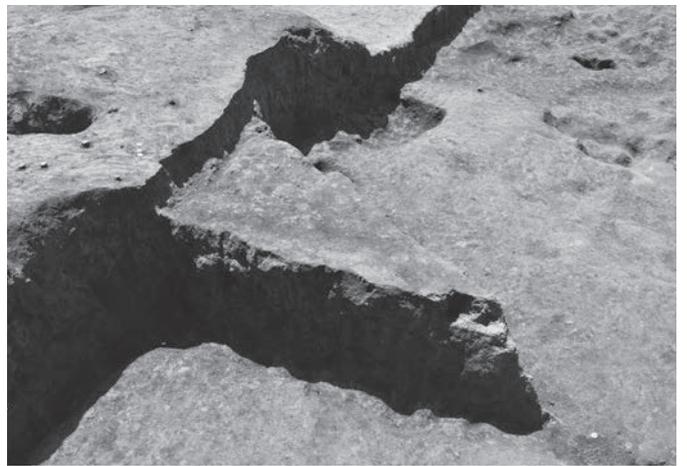
SI117SK1 西から



SI117 焼土・炭化物・遺物出土状況 西から



SI117 遺物出土状況 南西から



SI118 北東から



SI119 南東から



SI120a 西から



SI120b 西から



SI121 南から



SI122 南から



SI122 遺物出土状況 南西から



SI123 南西から



SI123SK1 西から



SI124 西から



SI125 西から



SI125 炉 西から



SI126 西から



SK085 南から



SK086 南から



SK087 北西から



SK088 南から



SK089 南から



SK090 北西から



SD009a・b・c



SD012北側 南から



SD012南側 南から



SD013 西から



SK091 焼土炭化物出土状況 北西から



SI083-1



SI083-2



SI084-1



SI087-1



SI087-2



SI087-3



SI087-4



SI087-5



SI088-1



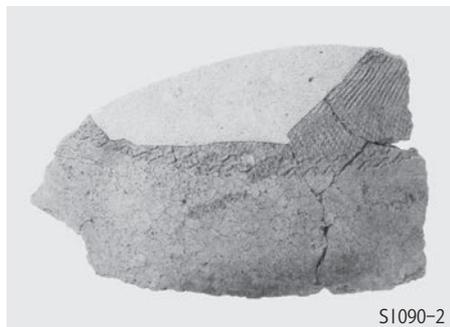
SI088-2



SI089-1



SI090-1



SI090-2



SI090-3



SI091-1



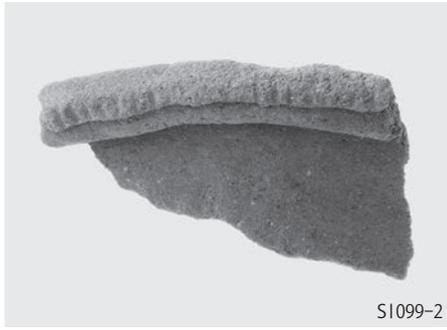
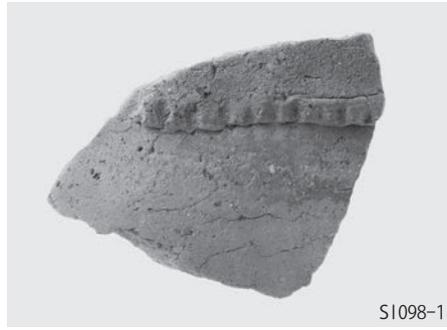
SI092-1



SI092-2



SI093-1







弥生時代出土土器 (4)



弥生時代出土土製品

約1/1



弥生時代出土石器・石製品

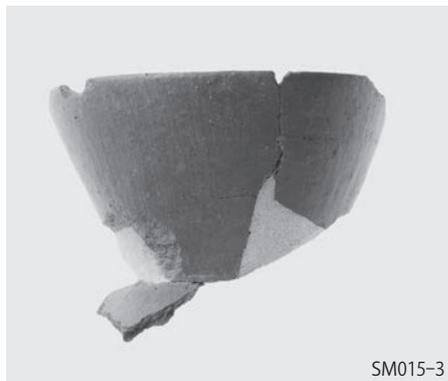
約1/2



SM015-1



SM015-2



SM015-3



SM015-4



SM015-5



SM015-6



SI113-1



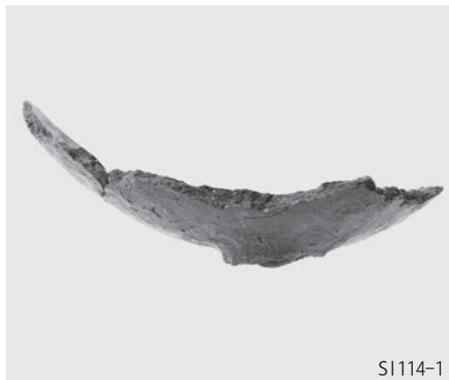
SI113-2



SI113-3



SI113-4



SI114-1



SI114-2



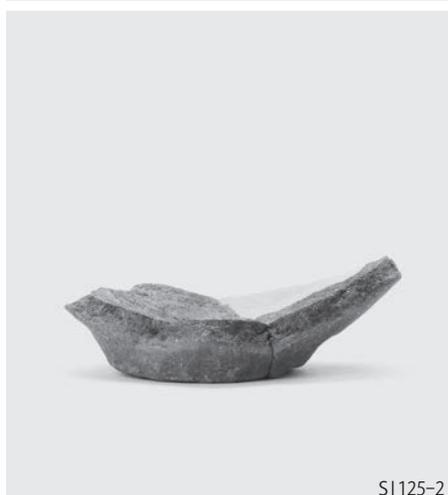
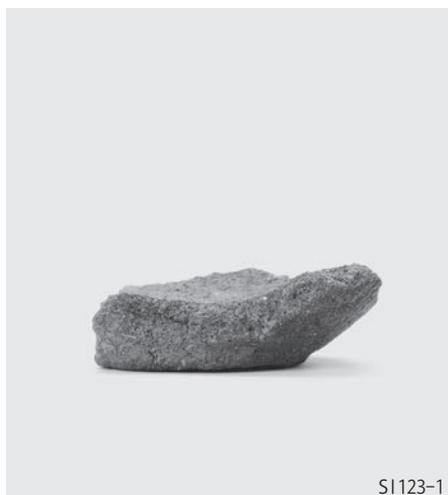
SI114-3

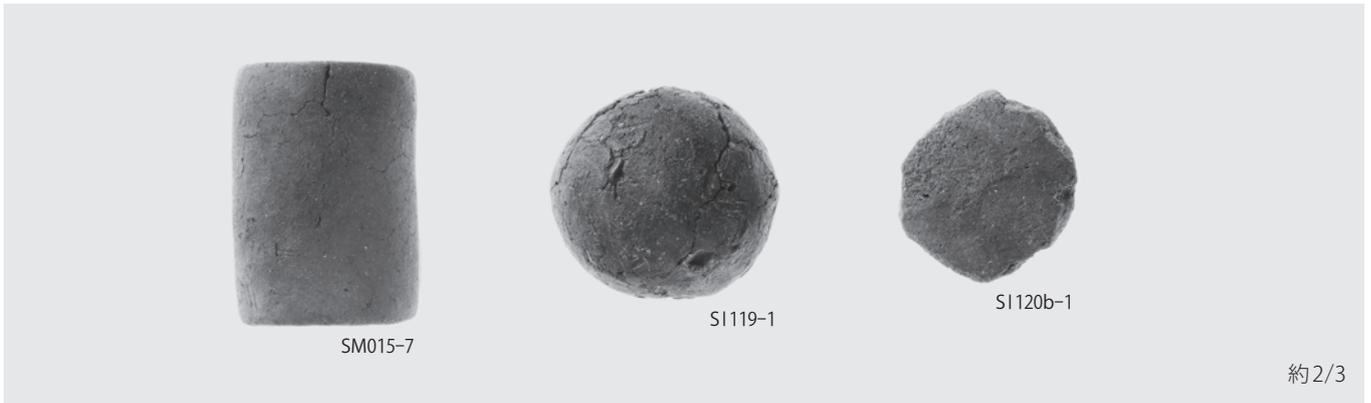


SI114-4

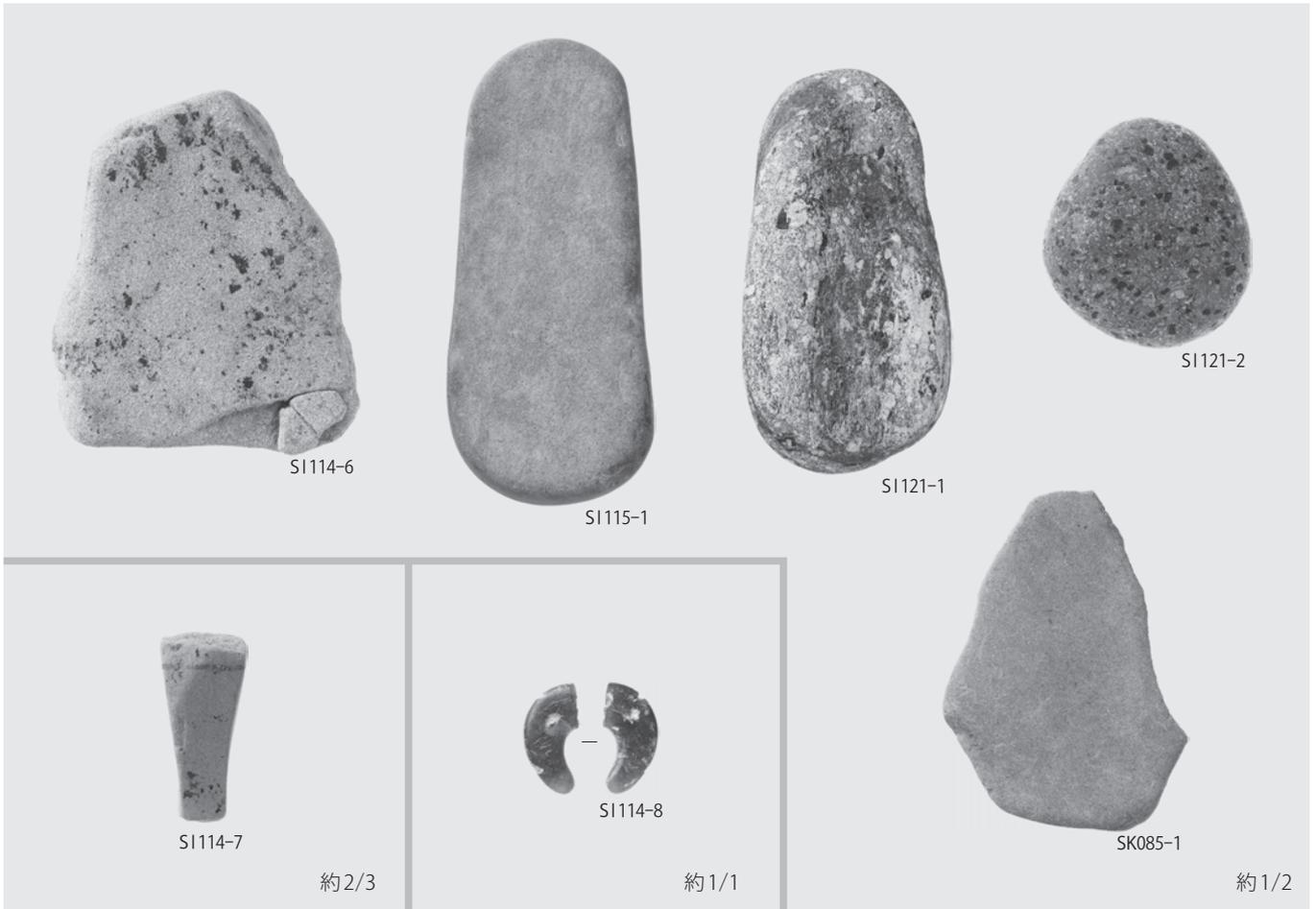


SI114-5





古墳時代出土土製品



古墳時代出土石器・石製品



古墳時代出土金属製品



SD009a-1

奈良・平安時代出土土器



SD013-1

約1/1

奈良・平安時代出土石製品



遺構外-1



遺構外-9



遺構外-10



遺構外-11



遺構外-12



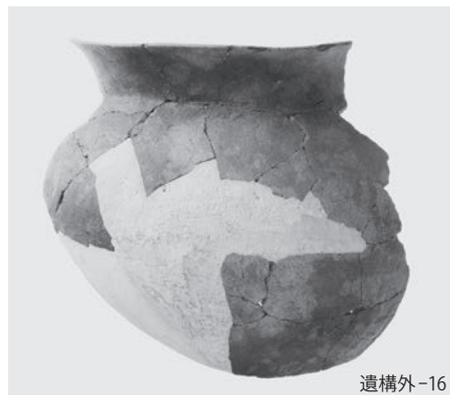
遺構外-13



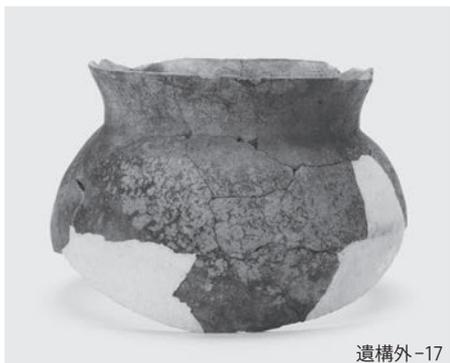
遺構外-14



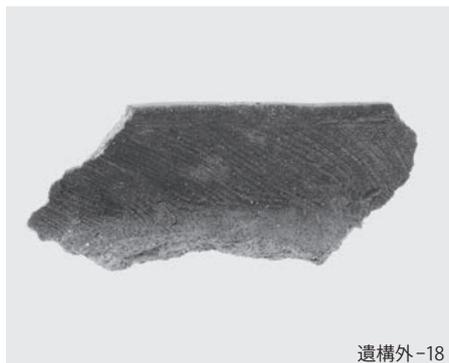
遺構外-15



遺構外-16



遺構外-17

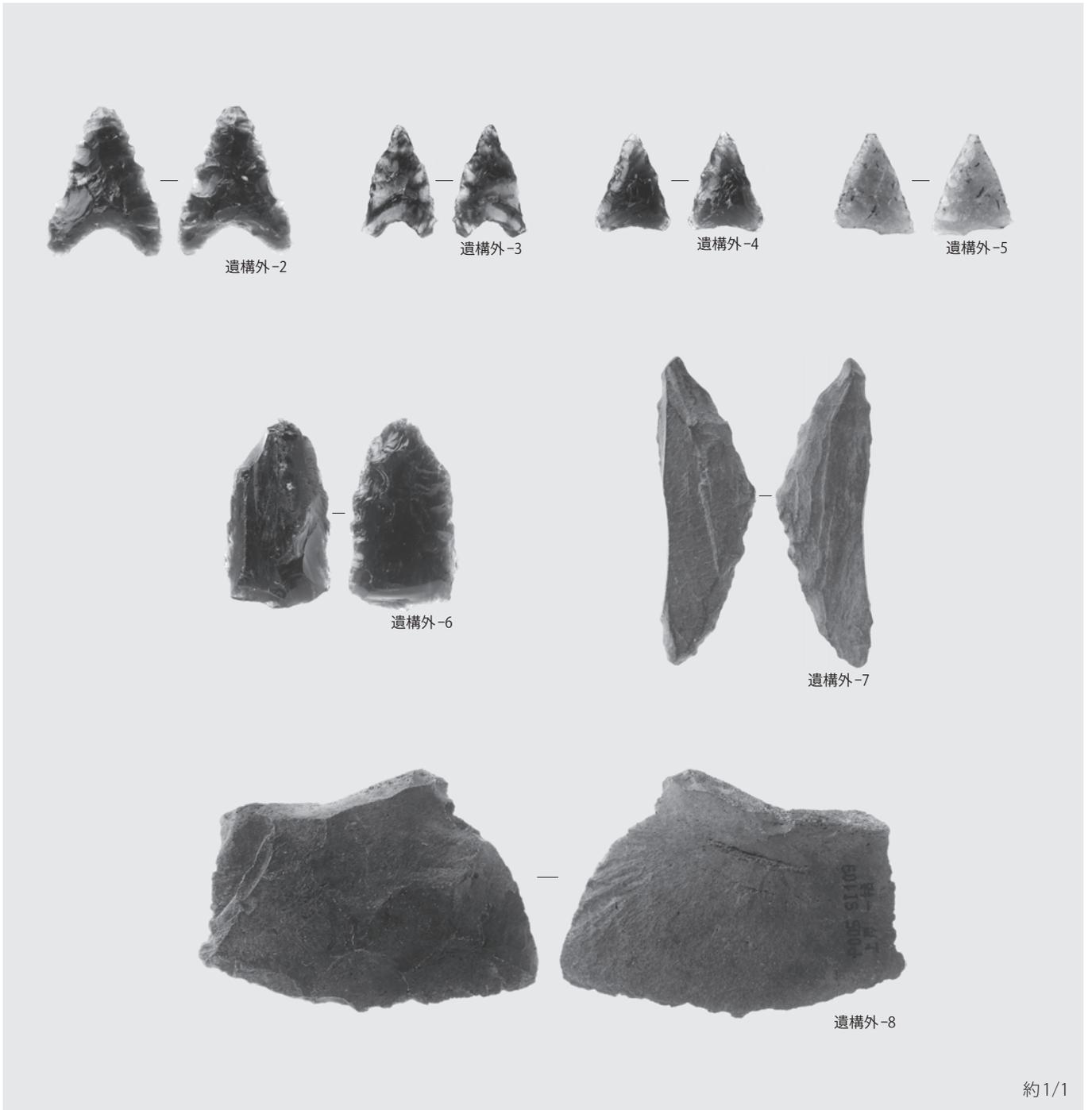


遺構外-18



遺構外-19

遺構外出土土器



約1/1

遺構外出土石器



約1/1

遺構外出土金属製品

# 報告書抄録

ふりがな	いちほらしかいほちくいせきぐんさん							
書名	市原市海保地区遺跡群Ⅲ							
副書名	海保大塚遺跡(第2地点)							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	大山祐喜 北森友梨							
編集機関	国際文化財株式会社							
所在地	〒102-0085 東京都千代田区六番町2番地 TEL 03-6361-2455							
発行年月日	2018年5月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
かいほおつかいせき 海保大塚遺跡	いちほらしかいほあざ 市原市海保字 おおつか 大塚1574他	12219	1083	35° 28' 24"	140° 4' 6"	20170130 ～ 20170508	1,764㎡	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
海保大塚遺跡	包蔵地 集落跡 古墳	弥生時代	竪穴建物	32棟	弥生土器、土製品、石器、 石製品、金属製品	弥生時代後期～終末期の集落、古墳時代中期の古墳が検出された。		
		古墳時代	溝	2条				
			土坑	11基				
			性格不明遺構	2基				
奈良・平安時代	古墳	1基	須恵器、土師器、土製品、 石器、石製品、金属製品					
中世	竪穴建物	14棟	土師器、石製品					
	土坑	6基						
奈良・平安時代	溝	3条						
中世	土坑	1基						
要約	弥生時代～中世の遺構・遺物が認められた。弥生時代では、後期～終末期の竪穴建物、古墳時代では、中期の古墳がある。奈良・平安時代では、海保西竹谷遺跡・海保小谷作遺跡と同様の長大な溝がある。中世では火葬遺構がある。							

## 市原市海保地区遺跡群Ⅲ 海保大塚遺跡(第2地点)

平成30年5月31日発行

編集 国際文化財株式会社

発行 大成建設株式会社

国際文化財株式会社

東京都千代田区六番町2番地

印刷 株式会社松井ピ・テ・オ・印刷

栃木県宇都宮市陽東5-9-21